

Ⅱ 資料編

1. 実施校における取組

1.1 実施校の取組概要

ここでは、つながる食育事業の受託機関である都道府県教育委員会から提出された事業計画書をもとに、実施校における実施体制や連携機関等を整理するとともに、令和元年度「つながる食育事業」における各実施校の取組内容を把握・整理した。

(1) モデル事業の実施体制

① 推進委員会の設置形態

本モデル事業は9つの県教育委員会が実施主体となっており、計 21 校においてモデル事業が実施された。

本モデル事業を実施するにあたっては、関係機関等から構成される推進委員会を設置して取組を進めることとしており、すべての実施校・市町に推進委員会が設置されているほか、8 県では県レベルでも推進体制が構築されている。

また、推進委員会の下部組織としてワーキンググループを設置する実施校もみられた。

図表 1-1 推進委員会等の設置形態

分類	全体	小学校（中・小一貫含む）	中学校（中・小一貫含む）	(校)
県推進委員会（協議会）	18	12	8	
実施校・市町推進委員会	9	4	5	
ワーキンググループ等	9	6	3	

図表 1-2 推進委員会等の設置形態／実施校別

事業実施機関 (モデル事業受託機関)	実施校	校種	県推進委員会 (協議会)	実施校・市町推進委員会	ワーキンググループ等
北海道 教育委員会	帯広市立大空中学校	中	●	●	—
	帯広市立栄小学校	小			—
山形県 教育委員会	山形市立東小学校	小	●	●	—
	山形市立桜田小学校	小			—
	山形市立第三中学校	中			—
福島県 教育委員会	三春町立三春中学校	中	●	○	○
	新地町立新地小学校	小		○	—
石川県 教育委員会	中能登町立中能登中学校	中	●	○	—
	七尾市立七尾東部中学校	中		○	—
長野県 教育委員会	須坂市立東中学校	中	●	—	●
	須坂市立仁礼小学校	小		—	
静岡県 教育委員会	裾野市立東小学校	小	●	—	—
	裾野市立富岡第一小学校	小		—	—

事業実施機 (モデル事業受託機関)	実施校	校 種	県推進委員会 (協議会)	実施校・ 市町推進委員会	ワーキンググループ等
三重県 教育委員会	三重県立松阪あゆみ 特別支援学校	小 中	●	—	—
	三重県立聾学校	小 中		—	—
奈良県 教育委員会	橿原市立 畝傍東小学校	小	●	—	●
	橿原市立橿原中学校	中		—	
山口県 教育委員会	宇部市立 上宇部小学校	小	●	—	●
	宇部市立琴芝小学校	小		—	
	宇部市立船木小学校	小		—	
	宇部市立新川小学校	小		—	

凡例 ○：設置している ●：合同で設置している —：設置していない

② 推進委員会等の構成メンバー

県の推進委員会（協議会）の体制をみると、「県 教育委員会」「県 関係部局職員」「有識者（大学関係者等）」は9県のうち8県において構成メンバーとなっている。

そのほか、「市町 教育委員会」「PTA関係者、地域・保護者代表」については、それぞれ9県のうち7県において、メンバーとして参画している。

図表 1-3 構成メンバー／県推進委員会（協議会）

構成メンバーの分類		北海道	福島県	石川県	長野県	静岡県	三重県	奈良県	山口県
県	教育委員会	○	○	○	○	○	○	○	○
	関係部局職員	○	○	○	○	○	○	○	○
市町	教育委員会	○	○	○	○	○	—	○	○
実施校	校長	○	○	○	○	○	○	—	○
	栄養教諭	○	○	○	○	○	○	—	○
	養護教諭	○	○	—	○	○	—	—	—
	担当教諭等	—	—	—	○	○	—	—	○
有識者 (大学関係者等)		○	○	○	○	○	○	○	○
PTA関係者、 地域・保護者代表		○	○	○	○	○	○	—	○
生産者・関係団体		—	○	○	○	○	○	○	—
民間企業		—	○	—	—	○	○	—	—

※「実施校 校長」「実施校 栄養教諭」「実施校 養護教諭」には、県内・市町内の代表を含む。

凡例 ○：構成メンバーとして参画している —：構成メンバーとして参画していない

※山形県では具体的な構成メンバーの記載がなかったため掲載していない

実施校・市町の推進委員会の体制をみると、「市町 教育委員会」「実施校 校長」「実施校 栄養教諭」「生産者・関係団体」はすべての実施校・市町で構成メンバーとなっている。

そのほか、「県 関係部局職員」「実施校 教頭」「実施校 養護教諭」「実施校 担当教諭等」については、それぞれ6実施校・市町のうち（北海道、山形県は中学校・小学校合同のため都道府県で1校とする）5実施校・市町において、構成メンバーとして参画している。

図表 1-4 構成メンバー／実施校・市町推進委員会

構成メンバーの分類		北海道	山形県	福島県		石川県	
		中・小 合同	中・小 合同	三春 中学校	新地 小学校	中能登 中学校	七尾東部 中学校
県	教育委員会	—	○	—	—	○	○
	関係部局職員	—	○	○	○	○	○
市町	教育委員会	○	○	○	○	○	○
実施校	校長	○	○	○	○	○	○
	教頭	○	—	○	○	○	○
	栄養教諭	○	○	○	○	○	○
	養護教諭	○	—	○	○	○	○
	担当教諭等	○	—	○	○	○	○
有識者（大学関係者等）		○	—	○	○	○	○
PTA関係者、 地域・保護者代表		—	○	—	—	○	○
生産者・関係団体		○	○	○	○	○	○
食育指導者、 食生活改善推進員		○	○	○	○	—	—
民間企業		—	—	—	○	—	—

※「実施校 校長」「実施校 養護教諭」には連携校、協力校等を含む。

凡例 ○：構成メンバーとして参画している —：構成メンバーとして参画していない

③ 連携機関と連携内容

取組を進める上で連携を図るとされている機関について整理すると、外部の組織・機関としては、「大学等の高等教育機関」や「食育関係団体（専門家や給食会等含む）」との連携が多く挙げられている。そのほか、「生産者・関係団体（ＪＡ等）」「幼稚園、小・中学校等」との連携を挙げるところもみられる。

図表 1-5 連携機関の構成

連携機関の分類		北海道	山形県	福島県	石川県	長野県	静岡県	三重県	奈良県	山口県
県	関係部局職員	—	—	○	○	○	○	—	—	—
市町	教育委員会	—	—	—	—	○	—	—	—	○
	関係部局職員	—	○	—	—	○	—	—	—	○
大学等の高等教育機関		○	—	○	○	○	—	—	○	○
民間企業・民間団体		—	—	○	—	—	—	○	○	—
医療関係者・医師会		—	—	○	—	—	—	—	—	—
ＰＴＡ等		—	○	○	○	—	○	—	—	—
食育関係団体（専門家や給食会等含む）		—	○	○	○	—	—	○	○	○
生産者・関係団体（ＪＡ等）		—	○	○	○	○	○	—	—	—
幼稚園、小・中学校等		—	○	○	○	○	—	○	—	—
地域団体		—	—	—	—	○	—	○	—	—
ＦＭ局、ケーブルテレビ局		—	—	—	—	—	—	○	—	—

凡例 ○：構成メンバーとして参画している —：構成メンバーとして参画していない

各連携機関との間で予定されている連携内容をみると、「大学等の高等教育機関」についてはデータの評価・分析や助言・指導のほか、講演会等で協力を得ている例が多い。また、「食育関係団体（専門家や給食会等含む）」については、各種イベントの指導・助言やレシピの開発等で協力を得ている例が多い。

図表 1-6 連携内容

連携機関の分類		主な連携内容
県	関係部局職員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報提供・指導助言 ○ 医師会との連携サポート ○ 関係機関の周知
市町	教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先進事例の紹介 ○ 情報提供、調査協力 ○ 講演会の実施
	関係部局職員	<ul style="list-style-type: none"> ○ イベント・教室の支援・開催 ○ 家庭への啓発活動
大学等の高等教育機関		<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のアンケート、検査・計測 ○ データ集計、評価・分析、助言・指導 ○ 講師の派遣 ○ 講演会の実施 ○ 指導教材作成
民間企業・民間団体		<ul style="list-style-type: none"> ○ 集計・分析 ○ 体験活動、授業
医療関係者・医師会		<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会の講師派遣 ○ 健康の指導・助言
PTA等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 親子体験活動等のイベント実施の連携 ○ イベントの企画、開催 ○ 家庭と連携した推進、取組
食育関係団体 (専門家や給食会等含む)		<ul style="list-style-type: none"> ○ イベントの指導・助言等 ○ 食に関する指導・検討 ○ 試食会 ○ レシピの開発
生産者・関係団体 (JA等)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流学习、体験活動の指導 ○ 地元生産者との連携
幼稚園、小・中学校等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 県・市町の取組における連携協力 ○ 研究会での情報提供、授業公開 ○ 教職員研修
地域団体		<ul style="list-style-type: none"> ○ 講座の講師、講習会 ○ 運営協力
FM局、ケーブルテレビ局		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域への発信

(2) モデル事業の取組内容

各実施校では、モデル事業の取組として、栄養教諭を中心に、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等と連携しながら、教科等における食に関する指導の充実を図るとともに、実践的な食育や保護者を巻き込む取組等を実施することが計画されている。

ここでは、各実施校において計画されている食育に関する取組について、事業計画書の記載から特徴的な取組を整理し、類型化した。

すべての実施校で、「生徒自身が食事を作る機会の設定」「体験教室や体験活動の実施」といった子供自身が実際に体験を通じて学びを得る取組を重視していることが分かる。また、保護者に対しては、「保護者に対する啓発・情報提供」として、学校からさまざまな情報発信を進めている様子がうかがえる。さらに、学校内においては、「教職員の意識向上の取組」「食育推進体制の構築」等、教職員が食育の取組の重要性を認識し、学校全体として連携して進めようとしていることがうかがえる。

図表 1-7 実施校の主な取組内容(事業計画書より抜粋)

実施校		主な取組の内容
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ● 帯広市立大空中学校 ● 帯広市立栄小学校 	[児童生徒] <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種データを記載した個人シートの発行と個別相談指導 ○ 体育の時間や休み時間等の体力づくりの取組との連携 ○ 「食育プログラム」を活用した全校での共通の取組（一単位時間、短時間での指導） ○ 地域の生産者等、食に携わる職業の方の授業づくりへの参画 ○ 中学校区内における食育に関する授業及び給食指導交流
		[保護者] <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭・地域と連携し、「早寝・早起き・朝ごはん」国民運動の趣旨を生かした取組 ○ 食育レシピ集の作成、家庭への配布 ○ 料理教室の開催（保護者対象：2回） ○ 「朝食」をテーマにした食育講演会の開催（学校・家庭・地域対象） ○ 地場産物を活用した学校給食及び給食指導に係る情報提供 ○ 給食週間における保護者向けパネルの作成・展示
		[教職員] <ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭と学級担任のＴ・Ｔによる「朝食の大切さ」を題材とした新学習指導要領に対応する授業の研究 ○ 地域の生産者や調理人等のゲストティーチャーの協力による「食料基地としての帯広の魅力」を伝え、食への関心を高める体験型授業の研究 ○ 先進校における食育の取組視察 ○ 先進校における校内の食育推進体制及び家庭と連携・協働した取組に関わる視察 ○ 家庭との連携を重視した食に関する指導の研究授業公開と研究協議の実施 ○ 中学校栄養教諭の校区内栄養教諭未配置小学校への派遣 ○ 実施校における公開研究授業（対象：実施校がある管内の栄養教諭等）
		[栄養教諭] <ul style="list-style-type: none"> ○ 「帯広らしい食育プログラム」等の指導資料の作成と検証 ○ 「食育プログラム」の作成、指導資料及び教材の作成 ○ 学級担任が行う給食指導の資料及び掲示資料等の作成 ○ モデル市の栄養教諭（５名）による学習指導案、教材等の検討

実施校		主な取組の内容
山形県	<ul style="list-style-type: none"> ● 山形市立東小学校 ● 山形市立桜田小学校 ● 山形市立第三中学校 	<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「生活リズムカード」等を活用し、自らの生活習慣の課題に気づき、望ましい生活習慣の定着 ○ 生産者と連携した栽培活動や地元生産者等との交流給食の実施 ○ 市主催の肥満教室での医師やスポーツ指導者等と連携、栄養指導及び個別指導の実施
		<p>[児童生徒・保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭が連携し作成した「食育だより」を市立全小中学校の児童生徒へ配布 ○ 親子で考える朝食レシピコンテストを実施し、結果をもとにリーフレットを児童生徒へ配布
		<p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ P T Aと連携した親子料理教室や親子食育体験活動等を実施
		<p>[教職員等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育講演会を市全体の事業として行い、食育への理解を促進
		<p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 給食センター等と連携しながら学校給食を生きた教材として活用し、地場産物や郷土料理の紹介や給食メニューへの反映等も含めた取組の実施 ○ 栄養教諭が作成した「食育だより」を市立全小中学校の児童生徒へ配布 ○ 市教職員向けポータルサイト「つながる食育」を立ち上げ、食に関する指導の指導案やワークシート等の情報提供 ○ 市主催の肥満教室における栄養指導のほか、さまざまな場面での個別指導 ○ 給食の時間や児童生徒会活動等を通して、学級担任等と連携した衛生的な行動も含めた食事マナー指導 ○ 各学年の発達段階に応じた食に関する指導 ○ 他校への栄養教諭派遣事業として市内を3ブロックに分け、市内3名の栄養教諭が要請に応じ栄養指導を実施 ○ 栄養教諭が自作した教材や資料、掲示物、指導案等を栄養教諭間で共有化し、担当校への指導に活用 ○ 栄養教諭間の研修や給食センターの栄養士との会議を定期的に行い、学校給食における食育の成果や課題について情報共有
福島県	新地町立新地小学校	<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「さわやかだ」を意識した食育講演会や食育講座の実施 ○ 各種コンテストへの参加を推進（ふくしまっ子ごはんコンテスト、我が家のおすすめ料理コンテスト、町十七字のふれあいコンテスト：食育部門） ○ 苦手な野菜でも、興味・関心を持つ児童増加 ○ 苦手な食べ物でも食べようとする児童増加 ○ 地元で水揚げされる魚に、興味・関心を持つ児童増加 ○ だしのよさの体験 ○ B D H Q事後指導 ○ 肥満傾向児出現率を改善 ○ 生活リズムの改善、「早寝・早起き・朝ごはん」の実践者の向上

実施校		主な取組の内容
		<p>[児童生徒・保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学教授等の小児肥満や食育の専門家を講師に呼び、毎年1回、児童（4年生以上）及び全学年保護者（希望者）を対象に食育講演会の実施 ○ 食の楽しさや食育で学んだことを実践につなげるための「親子でつくるさわやかだレシピ集」の配布 ○ 食育だよりとして「食育しんち」を全児童（保護者）に毎月配布
		<p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高学年児童による家庭での味噌汁作り体験「さわやかだ」型食生活のメリット等を町食育だより等での周知 ○ 6月、11月に「朝食をしっかりと食べようキャンペーン」を実施し、「朝食の大切さ」「朝食向け時短レシピ（特に簡単にできる具たくさん味噌汁等）」を保護者に周知 ○ 学校給食おすすめメニューレシピ集・食育パンフレットの配布
		<p>[教職員等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各委員会活動による「すこやか放送」を行い、強化週間の取組 ○ 生活習慣病予防検診を小学4年生と中学1年生で実施し、「食と生活」調査等との関連性から健康な身体づくりのデータ化
		<p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育講座や食育講演会に参加できなかった保護者のためのデジタルコンテンツの作成と公開 ○ 県内の全栄養教諭対象の「つながる食育推進研修会」を開催 ○ 栄養教諭派遣事業の活用促進 ○ 「食育推進優秀校表彰」への応募の啓発
石川 県	● 中能登町立 中能登 中学校	<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食に関するアンケート・調査、体組成計、発育測定、教育相談の実施・分析 ○ 共有された健康課題を踏まえた食生活上の課題と変容を踏まえた食育指導の展開 ○ 健康指導と食育相談の実施による食と健康の関連の意識化
		<p>[教職員等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 給食を介した食に関する指導
		<p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「食育」にかかる別葉の作成・活用と各教科等における補完・関連指導の実施評価 ○ 健康課題をもとにした食生活上の課題と変容を踏まえた食育指導の展開 ○ 県内の全栄養教諭対象の「つながる食育推進研修会」の開催 ○ 栄養教諭派遣事業の活用促進 ○ 「食育推進優秀校表彰」への応募の啓発 ○ 栄養教諭配置校を中心とした地域における栄養教諭の有効活用 ○ 「食育」の成果と課題の経年変化の把握 ○ 本事業の県下への発信による食育推進プログラムの開発・普及
		<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会活動や、調べ学習を通して、生徒による給食で使用する食材の地元生産者に電話インタビュー等を実施

実施校		主な取組の内容
	● 七尾市立 七尾東部 中学校	[児童生徒・保護者] ○ 骨密度測定を実施し、カルシウム摂取と骨密度の関係を数値化したものを家庭へ発信
		[保護者] ○ 実施校の全生徒対象に「簡易カルシウム自己チェック表」を用いた調査を実施して得られた結果と体格の関係を保護者と共有 ○ 地場産物や郷土料理を活用した給食献立や学校での学習内容について家庭地域へ情報発信
		[教職員等] ○ 食に関する指導全体計画、年間計画に基づいた指導について、栄養教諭の参画方法と回数を確認 ○ 給食指導の際に活用できる指導資料を栄養教諭が専門性を生かして作成し、学級担任による指導の充実 ○ 教材や指導案等に関して業務負担を軽減しつつ食に関する指導の充実に図り、全校体制で取り組むための食に関する指導の諸計画について内容等を検討
		[栄養教諭] ○ 県内各地の地場産物及び郷土料理を取りまとめ ○ 栄養教諭連携会議・指導力向上研修会によって経験年数が短い栄養教諭と各地域のリーダーとなる栄養教諭による協議や演習実施
長野県	須坂市立 仁礼小学校	[児童生徒] ○ 各教科と連携した食育授業の実施
		[児童生徒・保護者] ○ 親子でクッキング「3年生の親子で朝食づくり」（市健康づくり課と連携）の実施
		[教職員] ○ 他校に比べ栄養教諭と連携した食育機会が少ない学校を実施校に選定、重点的に事業を展開し、教職員の意識改革 ○ 新規採用者のモデル事業の一部として「実地研修」への参加
		[栄養教諭] ○ 親子給食、栄養教諭講話・試食会及び食育講演会等の実施 ○ 小・中9年間を通し発達発達段階を見据えた継続的な指導に向け、市の取組のプロセスや効果、また栄養教諭の関わり方の検証 ○ 事業報告を県内市町村教育委員会や食育関係機関への周知、栄養教諭・学校栄養職員の研究協議会等での発表 ○ 経験の浅い栄養教諭と地域の栄養教諭が協働しながら事業への取組
	須坂市立 東中学校	[児童生徒] ○ 自己データの見える化による指導へ活用 ○ 生活習慣の見える化
		[児童生徒・保護者] ○ 食育講演会「脳の働きと食」 講演会前後の意識変化調査の実施
		[教職員等] ○ 他校に比べ栄養教諭と連携した食育機会が少ない学校を実施校に選定し、重点的に事業を展開による教職員の意識改革 ○ 新規採用者のモデル事業の一部として「実地研修」への参加

実施校		主な取組の内容
		<p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科と連携した食育授業の実施 ○ 小・中９年間を通し発達段階を見据えた継続的な指導に向け、市の取組のプロセスや効果、また栄養教諭の関わり方の検証 ○ 事業報告を県内市町村教育委員会や食育関係機関への周知、栄養教諭・学校栄養職員の研究協議会等での発表 ○ 経験の浅い栄養教諭と地域の栄養教諭が協働しながら事業への取組
静岡県	<ul style="list-style-type: none"> ● 裾野市立東小学校 ● 裾野市立富岡第一小学校 	<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校において、静岡茶を教材とした教科横断的な学習の実施
		<p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭向けに静岡茶入り水筒の準備に併せて、お茶の効能等を啓発したお便り等の配布 ○ 子供が学んだことを家庭で実践し共食の機会となるようＰＴＡを対象としたお茶の淹れ方教室等の実施
		<p>[教職員等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産者等による簡単に飲める地域のお茶の提供、出前講座及び校外活動の受け入れ等の協力体制の整備 ○ 計画に調整が必要になった場合は、その理由等を振り返り、次年度の計画を作成する際の活用 ○ 全教職員で評価できるように学校評価を活用することで、食育の指導の全校体制の達成状況の判断
		<p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年数回実施される指導部で食に関する計画の運営状況、今後の予定を確認し、指導部員がそれぞれの学年で確実に実施するよう伝達 ○ 静岡茶入り水筒を持参させ、学校でいつでもお茶を愛飲できる環境の整備 ○ 栄養教諭が計画的に各教科・領域（体育科・家庭科等）においての食に関する指導、またその学習効果についての児童及び教職員による評価 ○ ＰＤＣＡサイクルに基づく、より具体性のある計画の整備 ○ 各実践校の食に関する指導の計画から、静岡茶をツールに展開可能な食に関する指導内容の情報収集 ○ 指導内容について、栄養教諭間で共有できる情報、実践の整理、市の栄養士会等の場で議題の提示、実践に向けて検討 ○ 実践内容について児童や学級担任の感想等から振り返り、次年度も継続して実践できるよう内容の修正 ○ 次年度の食に関する指導の全体計画に位置付けられるように検討 ○ 実施校間で、ゆっくりよく噛んで食べるや日本型食生活等、統一的な教材の検討、また給食だよりの作成 ○ 各評価指標は、栄養教諭間で検討した内容の実践、今後の指導を継続することの評価

実施校		主な取組の内容
三重県	三重県立 松阪あゆみ 特別支援学校	<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 栽培や調理等の体験活動の充実 ○ 給食調理員と交流の実施、調理員の思いや注意していること等の認知 ○ 食に携わる地域の関係者を招いて講演会等による地域の産物への興味の向上 ○ 高等部生徒を対象に食事マナー講習会を実施し、食への興味関心の向上 <p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者対象の講演会の実施 <p>[教職員等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育に関する校内研修会の実施による、全教職員が学校全体の食育についての熟知、主体的に食育を推進しようとする意識の向上 ○ 教職員向けの講習会の実施による、教職員一人ひとりの食育に関する知識の向上、食の視点を意識した授業の実施率を向上 <p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員対象の講演会及び研修会の実施 ○ 栄養教諭間で食育の取組等を交流、取組の交流の機会の増加
	三重県立聾学校	<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中高生を対象に社会人としての食事マナーの講演会の開催 ○ はろ～デーの取組（よくかむ給食献立） ○ 高等部卒業学年を対象にテーブルマナー研修会の開催 ○ 食肉業者による小学部対象に講演会の開催 ○ 給食時間に人気キャラクター「キョエちゃん」や津餃子のキャラクター「つつみん」の招待 <p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者対象の給食試食会の開催 ○ 保護者対象の手話研修会の機会をとらえ、外部講師を招き食に関する講演会の実施 <p>[教職員等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育に関する研修会の実施による教職員の意識の向上 <p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部講師を招いた講座等による栄養教諭と教職員の連携向上 ○ 給食の人気のメニューの料理教室の開催 ○ 栄養教諭間で食育の取組等を交流。また取組の交流の機会の増加
奈良県	<ul style="list-style-type: none"> ● 橿原市立畝傍東小学校 ● 橿原市立橿原中学校 	<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝食欠食率を減少 ○ 減塩の取組推進 <p>[教職員等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校給食における地場産物活用率の増加の取組

実施校		主な取組の内容
		<p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭が専門性を活かし、教科等横断的な視点に立った食育の実施 ○ 栄養教諭が市教育委員会と協力による親子料理教室や学校給食試食会、教育講演会の実施 ○ 栄養教諭が教職員や保護者・地域との連携・調整の要となり、全校体制の食育の一層推進 ○ 経験の浅い栄養教諭の指導力の向上やコーディネーターとしての役割を果たすための経験豊富な栄養教諭による支援 ○ モデル地域の栄養教諭等が連携会議の開催、全小・中学校に「食に関する指導資料」や「食育クリアファイル」を作成・配布 ○ 県内の栄養教諭等対象のグループワーク等を取り入れた研修会の開催
山口県	● 宇部市立上宇部小学校	<p>[児童生徒]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「へら塩」に関する現状と正しい知識を知り、望ましい食習慣の検討 ○ 個別指導の充実
	● 宇部市立琴芝小学校	<p>[保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭で「へら塩」を推進
	● 宇部市立船木小学校	<p>[教職員等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 担任が行う給食指導 ○ 校内食育推進委員会の充実 ○ 食に関する指導研修会（授業検討会）
	● 宇部市立新川小学校	<p>[栄養教諭]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 先進地視察 ○ 地域との連携 ○ 学校運営協議会への参画 ○ 宇部市栄養教諭連絡協議会（ワーキンググループ）の充実

図表 1-8 取組内容の類型化

		教科等における食に関する指導の充実	食育や食生活に係る各種調査等の実施	体験教室や体験活動の実施	レシピの開発、コンテストへの参加促進	専門家等による個別指導等の実施	地場産品活用等学校給食の工夫	伝統食等食文化の継承	他校と連携した実習や活動	食育に関する講演会や講座の開催	保護者に対する啓発・情報提供	学校と家庭の連携による取組	親子参加の教室やイベントの実施	家庭や地域等に対する啓発活動	児童会・生徒会活動の取組	児童生徒自身が食事を作る機会の設定	PTAの取組	教職員の意識向上の取組	食育推進体制の構築	実践プログラム等の開発
北海道	帯広市立 大空中学校	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
	帯広市立栄小学校																			
山形県	山形市立東小学校																			
	山形市立 桜田小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	山形市立 第三中学校																			
福島県	三春町立 三春中学校	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○
	新地町立 新地小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—
石川県	中能登町立 中能登中学校	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
	七尾市立 七尾東部中学校																			
長野県	須坂市立東中学校	○	○	○	—	○	—	○	○	—	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—
	須坂市立 仁礼小学校																			
静岡県	裾野市立東小学校	○	○	○	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—
	裾野市立 富岡第一小学校																			
三重県	三重県立 松阪あゆみ特別 支援学校	—	○	○	—	—	—	—	○	○	○	○	—	—	—	○	—	○	○	—
	三重県立鸛学校	—	○	○	—	—	—	—	—	○	○	—	—	○	—	○	—	○	○	—
奈良県	橿原市立 畝傍東小学校	○	○	○	○	—	○	—	—	○	○	○	○	○	—	○	—	○	○	—
	橿原市立 橿原中学校																			
山口県	宇部市立 上宇部小学校																			
	宇部市立 琴芝小学校	○	○	○	—	—	○	○	—	○	○	○	○	○	—	○	—	○	○	—
	宇部市立 船木小学校																			
	宇部市立 新川小学校																			

凡例 ○：取組を実施している —：取組を実施していない

1.2 実施校の取組一覧

ここでは、各教育委員会から提出された事業計画書及び成果報告書の内容を踏まえて、それぞれの取組を整理している。

(1) 北海道帯広市立栄小学校

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>(1) 朝食は摂取できているが、食事のバランスの悪さや食への正しい理解等に課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「朝食をほとんど毎日食べている」と回答した児童は全体で約 90%であるが、5・6年生は 80%台で、学年が上がるに従って摂取率が低くなっている。 ● 「一日や一週間の栄養のバランスを考えて食事やおやつをとっている」と回答した児童は全体で約 64%、学年による差がみられる。 <p>(2) 地場産物への興味・関心及び理解が十分でない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 十勝・帯広の地場産物 10 品のうち、児童が正しく回答できたものは、全体で 4.3 品と低い状況。 <p>(3) 給食の時間における学級担任による指導は、意識の差がみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食事のマナー、食品や栄養の働き、郷土食や伝統食に関すること等。
取組の目標	<p>児童が食に関する知識と食を選択する力を習得し、栄養や食事のとり方等について、正しい知識に基づいて自ら判断し、健全な食生活を実践していくことができる資質・能力の育成を目指す取組を実施し、その取組成果の検証及び普及・啓発を行う。</p>
評価指標	<p>① 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：事前 64%→事後 74%）</p> <p>② ゆっくりよくかんで食べる（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：事前 78%→事後 81%）</p> <p>③ 伝統的な食文化や行事食について関心がある（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：事前 61%→事後 67%）</p> <p>④ 朝食を毎日食べる（「ほとんど毎日」：事前 91%→事後 89%）</p> <p>⑤ 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる（「ほとんど毎日」：事前 69%→事後 68%）</p> <p>⑥ 主食、主菜、副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上ある（「ほとんど毎日」：事前 61%→事後 63%）</p>
取組の内容	<p>(1) 児童が栄養や食事のとり方について、自ら判断し、実践していく能力を身に付ける取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学級担任と栄養教諭のT・Tによる新学習指導要領に対応する授業の研究 ● 児童向け通信の発行 <p>(2) 家庭への働きかけを充実させ、児童の食生活の改善を図る取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食育レシピ集の作成、家庭への配布 ● 親子料理教室の開催 ● 食育講演会の開催 ● 学校給食週間における保護者向けパネル展示 ● 保護者向け通信の発行
効果	<p>○ 食育レシピを作成し各家庭へ配付したことは、バランスのよい朝食摂取に目的を絞り、冬休み前に配付したことにより、家庭での実践につながった。</p> <p>○ 親子料理教室は、人気シェフの考案した「朝食メニュー」への関心が高く、参加率も高かった。短時間で栄養バランスのよい朝食を作る体験をすることで、家庭での実践意欲につながった。調理の過程で、シェフから十勝・帯広産の地場産物のよさを伝えてもらいながら、実際に調理をすることによって、地場産物のよさを親子で実感してもらえた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食育講演会は、さまざまな立場の人から児童の食生活に関わる話を聞き、「なぜ朝食を食べることが重要なのか」を専門的な見地から、成長期の「食」の重要性について理解を深めてもらうことができた。 ○ 学校給食週間における保護者向けパネル展示は、見やすい掲示物の工夫により、給食への理解とともに、給食を作る人や生産者等へ感謝する気持ちにつながることができた。 ○ 保護者向け通信の発行は、小学生の食生活が家庭環境と大きく影響することから、児童だけではなく、家庭への啓発を意識した取組となった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が理解したことを日常生活の中で実践するという行動につなげる次のアプローチを考える必要がある。 ○ インターネット上には数多くのレシピサイトやアプリがあるため、紙媒体でのレシピ集配付の方法は、アプローチの方法の再考が必要である。

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育推進体制は、教育委員会内に「学校食育推進会議」とその附属機関である「食育推進部会」を設置し、教職員等を対象とした指導資料の作成や講演会の企画・運営等の取組を進めているが、各学校における資料の活用状況や保護者や地域等への広がり等、取組成果の検証は進んでいない。 ○ 食育の中心的な役割を担う栄養教諭の配置は進んでいるものの、学級担任や養護教諭との連携等、学校における組織的な指導にまでは至っていない。 <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道内の栄養教諭（政令指定都市を除く）の配置状況は、任用換え及び新規採用により、99.1%まで進んでいるが、栄養教諭の専門性を生かした食に関する指導状況は、担当する学校数や学校間の移動距離等に差があることや、栄養教諭の役割が十分理解されていない市町村がみられること等から、学校によって指導回数に差が生じている。
取組の目標	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育プログラムに基づいて、栄養教諭・養護教諭・学級担任が連携し、全校体制で、給食の正しい食べ方や健康と食事に関する指導を共通理解して実施し、児童の食に関する知識や意識及び食習慣の状況等の成果を評価する。 <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が栄養や食事のとり方等について、正しい知識に基づいて自ら判断し、健全な食生活を実践していくことができる資質や能力を育成するため、栄養教諭の専門性を生かした効果的な食に関する指導の関わり方について研究し、指導力向上を図る。
評価指標	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <p>【食に関する指導／給食の時間における食に関する指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 56%→事後 85%） <p>【食に関する指導／教科等における食に関する指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養教諭が計画どおりに授業参画できている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 60%→事後 89%） ② 教科等の目標に準じ授業を行い、評価基準により評価できている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 48%→事後 60%） ③ 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 48%→事後 66%） <p>【食に関する指導／個別的な相談指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医等が連携を図り、指導ができている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 56%→事後 74%） <p>【連携・調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教職員同士の連携体制が構築され、食に関する指導が行われている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 56%→事後 96%） ② 栄養教諭を中心として、家庭や地域、生産者等と連携を図った指導ができている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 63%→事後 88%）
取組の内容	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <p>(1) 全校体制で行う食に関する環境づくりの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校長による事業取組内容、校内の食育推進体制等について資料配付、説明 ● 「食育プログラム」の作成、指導資料及び教材の作成 ● 学級担任が行う給食指導の資料及び掲示資料等の作成 ● 先進校における校内の食育推進体制及び家庭と連携・協働した取組に関わる視察 ● 家庭との連携を重視した食に関する指導の研究授業公開と研究協議の実施 ● 地域の生産者等食に携わる職業の方の授業づくりへの参画

	<p><栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修></p> <p>(1) 栄養教諭研修会</p> <p>(2) 公開授業研究会の開催</p>
効果	<p><栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究会は、学級担任と連携し、食に関する学習状況を共有しながら、授業づくりを行うことができ、それぞれの立場で共通の視点を持って児童の指導にあたることができた。 ○ 校内の食育推進体制を整備し、校長からの通信の発行や職員会議等を通じて共通理解を図る取組は、教職員の食育への意識を変容させ、連携・協力体制が確立、食に関する指導の充実につながっている。 <p><栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修会は、1日日程で、小・中学校2本の授業公開、調理場における学校給食の試食及び自校研究会における他職種との研究協議、指導主事による指導助言等を実施したことにより、学習指導要領の改訂に伴う「総合的な学習の時間」における食に関する指導のあり方やT・Tの授業における栄養教諭の専門性を生かした関わり方、発達の段階に応じた指導のあり方、ゲストティーチャーの活用の仕方、小中連携のあり方等について、栄養教諭の理解を深めるとともに、今後の各学校における教育実践への反映や意欲につなげることができた。
今後の課題	<p><栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科等の時間に行う食に関する指導は、教科固有の目標や内容が混在しないよう、教科の目標を明確にし、その過程に食育の視点を位置付けて指導していく必要がある。

(2) 北海道帯広市立大空中学校

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>(1) 朝食は摂取できているが、食事のバランスの悪さや孤食等望ましい食習慣の形成に課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「朝食をほとんど毎日食べている」と回答した生徒は全体の約 90%、2、3年生で「ほとんど食べない」と回答した生徒は4%である。 ● 「ほとんど毎日、家族と一緒に朝食を食べている」と回答した生徒は全体の約 55%、「週に2、3回」「ほとんどない」と回答した生徒は全体の36%と孤食の傾向がみられる。 <p>(2) 地場産物や地域の産業への興味・関心があまりみられず、理解が十分でない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「農業体験をしたことがない」と回答した生徒、「十勝・帯広の生産物を知らない」と回答した生徒はそれぞれ全体の約 18%である。 <p>(3) スマホの長時間使用等、生活習慣の確立において自己管理能力に個人差がみられる。</p>
取組の目標	<p>生徒が食に関する知識と食を選択する力を習得し、栄養や食事のとり方等について、正しい知識に基づいて自ら判断し、健全な食生活を実践していくことができる資質・能力の育成を目指す取組を実施し、その取組成果の検証及び普及・啓発を行う。</p>
評価指標	<p>① 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：事前 61%→事後 55%）</p> <p>② ゆっくりよくかんで食べる（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：事前 70%→事後 75%）</p> <p>③ 伝統的な食文化や行事食について関心がある（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：事前 63%→事後 66%）</p> <p>④ 朝食を毎日食べる（「ほとんど毎日」：事前 92%→事後 91%）</p> <p>⑤ 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる（「ほとんど毎日」：事前 55%→事後 55%）</p> <p>⑥ 主食、主菜、副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上ある（「ほとんど毎日」：事前 58%→事後 57%）</p>
取組の内容	<p>(1) 生徒が栄養や食事のとり方について、自ら判断し、実践していく能力を身に付ける取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学級担任と栄養教諭のT・Tによる新学習指導要領に対応する授業の研究 ● ゲストティーチャーが参画した授業の実施 ● 関係機関等と連携した体験型授業の研究（教科等：総合的な学習の時間「大空学」） ● 朝食調理実習の実施（技術・家庭科「朝ごはんを作ろう」） <p>(2) 家庭への働きかけを充実させ、生徒の食生活の改善を図る取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食育レシピ集の作成、家庭への配布 ● 食育講演会の開催 ● 学校給食週間における保護者向けパネル展示 <p>(3) 個別相談指導の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「飛翔ノート」を活用した個別相談指導
効果	<p>○ 食育レシピを作成し各家庭へ配付したことは、バランスのよい朝食摂取に目的を絞り、冬休み前に配付したことにより、家庭での実践につながった。</p> <p>○ 朝食調理実習の実施は、朝食を欠食する生徒は少ないものの、食事のバランスや質について課題がみられていたため、食生活が乱れがちな冬休み前の12月に栄養バランスのよい朝食を作る体験をすることで、家庭での実践意欲につながった。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食育講演会は、さまざまな立場の人から生徒の食生活に関わる話を聞き、「なぜ朝食を食べることが重要なのか」を専門的な見地から、成長期の「食」の重要性について理解を深めてもらうことができた。 ○ 学校給食週間における保護者向けパネル展示は、見やすい掲示物の工夫により、給食への理解とともに、給食を作る人や生産者等へ感謝する気持ちにつながることができた。 ○ 「飛翔ノート」を活用する等既存の取組を工夫した個別相談指導は、生徒や学級担任の負担感を増すことなく、食生活を振り返り実践につなげることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒自身が理解したことを日常生活の中で実践につなげたり、家庭へ伝達するという行動につなげる次のアプローチを考えていく必要がある。 ○ インターネット上には数多くのレシピサイトやアプリがあるため、紙媒体でのレシピ集配付の方法は、アプローチの方法の再考が必要である。

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育推進体制は、教育委員会内に「学校食育推進会議」とその付属機関である「食育推進部会」を設置し、教職員等を対象とした指導資料の作成や講演会の企画・運営等の取組を進めているが、各学校における資料の活用状況や保護者や地域等への広がり等、取組成果の検証は進んでいない。 ○ 食育の中心的な役割を担う栄養教諭の配置は進んでいるものの、学級担任や養護教諭との連携等、学校における組織的な指導にまでは至っていない。 <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 道内の栄養教諭（政令指定都市を除く）の配置状況は、任用換え及び新規採用により、99.1%まで進んでいるが、栄養教諭の専門性を生かした食に関する指導状況は、担当する学校数や学校間の移動距離等に差があることや、栄養教諭の役割が十分理解されていない市町村がみられること等から、学校によって指導回数に差が生じている。
取組の目標	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育プログラムに基づいて、栄養教諭・養護教諭・学級担任が連携し、全校体制で、給食の正しい食べ方や健康と食事に関する指導を共通理解して実施し、生徒の食に関する知識や意識及び食習慣の状況等の成果を評価する。 <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が栄養や食事のとり方等について、正しい知識に基づいて自ら判断し、健全な食生活を実践していくことができる資質や能力の育成するため、栄養教諭の専門性を生かした効果的な食に関する指導の関わり方について研究し、指導力向上を図る。
評価指標	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <p>【食に関する指導／給食の時間における食に関する指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 37%→事後 72%） <p>【食に関する指導／教科等における食に関する指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養教諭が計画どおりに授業参画できている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 38%→事後 86%） ② 教科等の目標に準じ授業を行い、評価規準により評価できている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 32%→事後 62%） ③ 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 31%→事後 72%） <p>【食に関する指導／個別的な相談指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医等が連携を図り、指導ができている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 50%→事後 86%） <p>【連携・調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教職員同士の連携体制が構築され、食に関する指導が行われている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 50%→事後 71%） ② 栄養教諭を中心として、家庭や地域、生産者等と連携を図った指導ができている（「できている」「概ねできている」の合計値：事前 51%→事後 76%）

取組の内容	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <p>(1) 全校体制で行う食に関する環境づくりの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校長による事業の取組内容、食育推進体制等を周知し共通理解を図る資料提供及び説明 ● 「食育プログラム」の作成、指導資料及び教材の作成 ● 学級担任が行う給食指導の資料及び掲示資料等の作成 ● 先進校における校内の食育推進体制及び家庭と連携・協働した取組に関わる視察 ● 家庭との連携を重視した食に関する指導の研究授業公開と研究協議の実施 ● 地域の生産者等食に携わる職業の方の授業づくりへの参画 <p>(2) 中学校区における小中連携の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活習慣の見直しからのアプローチ <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <p>(1) 栄養教諭研修会</p> <p>(2) 公開授業研究会の開催</p>
効果	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究会は、学級担任と連携し、食に関する学習状況を共有しながら、授業づくりを行うことができ、それぞれの立場で共通の視点を持って生徒の指導にあたることができた。 ○ 体験型授業は、直接、生産者と顔を合わせてコミュニケーションを図ったこと、野菜が栽培されている現地に出向き、周りの環境や畑の広さ、作物の生育状況等を実際に目で見たこと、収穫体験をしたこと等から、単なる知識や情報の習得ではなく、体験に裏付けられた理解によって、総合的な学びを得ることができた。また、栄養教諭がさまざまな関係機関と連携を図り、学級担任や教科担任と協働して学習指導計画を検討することができた。 ○ 小中連携の取組は、小学生の実態を把握でき、中学校に入学してからの指導に生かすことができる。また小学生のうちに、同じ中学校区の児童と多く関わることで、中1ギャップの解消につながる。 ○ 校内の食育推進体制を整備し、校長からの通信の発行や職員会議等を通じて共通理解を図る取組は、教職員の食育への意識を変容させ、連携・協力体制が確立、食に関する指導の充実につながっている。 <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1日の日程で、小・中学校2本の授業公開、調理場における学校給食の試食及び自校研究会における他職種との研究協議、指導主事による指導助言等を実施したことにより、学習指導要領の改訂に伴う「総合的な学習の時間」における食に関する指導のあり方やT・Tの授業における栄養教諭の専門性を生かした関わり方、発達の段階に応じた指導のあり方、ゲストティーチャーの活用の仕方、小中連携のあり方等について、栄養教諭の理解を深めるとともに、今後の各学校における教育実践への反映や意欲につなげることができた。
今後の課題	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科等の時間に行う食に関する指導は、食に関する指導と教科固有の目標や内容が混在しないよう、教科の目標を明確にし、その過程に食育の視点を位置付けて指導していく必要がある。 ○ 小中連携の取組は、栄養教諭の配置校や学級数によって、中学校区ごとの食に関する指導が困難な場合もあり、「帯広らしい食育プログラム」を活用し、全市の児童生徒に等しく食に関する指導を実践し、継続することが必要である。

(3) 山形県山形市

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>○ これまでの食育の取組</p> <p>平成 28 年度から栄養教諭が配置されており、食に関する指導の全体計画に基づいて、栄養教諭が学級担任等と連携し、学級活動や給食の時間等において食に関する指導を行ってきた。また、市の事業として実施している健康教室（肥満対策事業）等における栄養指導等、市全体としても食育の推進を図ってきた。</p> <p>○ 学校の課題</p> <p>【山形市立東小学校】</p> <p>朝食内容が十分ではないことや偏食がみられる等の課題があり、食に対する興味関心も低い傾向があるため、食生活習慣の改善や体験活動を通して食への興味関心を高める必要がある。</p> <p>【山形市立桜田小学校】</p> <p>食事をする時の姿勢等の食事マナーが身に付いていない児童が多く、朝食内容の偏りもみられる等の課題があるため、栄養バランスを考えた食事を意識させるとともに、食事マナーの定着を図る必要がある。</p> <p>【山形市立第三中学校】</p> <p>朝食内容が主食のみ等の偏りがみられる等の課題があるため、栄養バランスを考えた食事を意識させる必要がある。また、食に関する興味関心も低いいため、教職員と連携した食に関する指導を行っていく必要がある。</p>
取組の目標	<p>① 家庭と連携した取組を行い、望ましい食生活の習慣を身に付けた児童生徒の育成を目指す。</p> <p>② 児童生徒の個別の健康課題に応じた相談や指導を行い、家庭と共通理解を図りながら改善につなげる。</p> <p>③ 学級担任と連携して食事マナーの改善に取り組み、人間関係形成能力の育成を目指す。</p>
評価指標	<p>① 栄養バランスを考えて食事やおやつをとる（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：事前 67.4%→事後 72.7%）</p> <p>② 食事マナーに気を付けている（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：事前 86.6%→事後 89.2%）</p> <p>③ 朝食を毎日食べる（事前 92.4%→事後 91.9%）</p> <p>④ 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる（「ほとんど毎日」：事前 65.7%→事後 64.1%）</p> <p>⑤ 朝食をとることは大切と回答する児童生徒の割合（目標値：90.0% 実績値：93.0%）（H30 85.0%→R1 93.0%）</p>
取組の内容	<p>【山形市立小・中学校全体】</p> <p>(1) 「食育だより」の発行</p> <p>(2) 「親子で考える朝食レシピコンテスト」の実施、食育リーフレットの発行</p> <p>(3) 健康教室（肥満指導教室）の実施</p> <p>(4) 食育をテーマにした講演会の実施</p> <p>【山形市立東小学校】</p> <p>(1) 生活リズムの改善（朝食の充実）の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「自分で味噌汁を作ってみよう！」 ● 「自分で朝食を作ろう！」 ● 「保護者への啓発」 ● 「親子クッキング」 ● 「元気いっぱい充電カードの活用」 <p>(2) 体験活動で学びを深める（地域の力をいいただいて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 畑見学（1 年）・きゅうりの収穫活動 ● 田植え・稲刈り・親子行事（味噌作り）

	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な学習「知りたい！伝えたい！わたしたちの馬見ヶ崎川」 ● 「お魚の学習会」 ● 講話「いのちのつながり」 ● 栄養教諭による掲示等の食育活動 ● 児童委員会（もりパクランチ委員会）による食育活動 ● 養護教諭と栄養教諭による個別相談指導 <p>【山形市立桜田小学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「さくらの日」（親子で作るお弁当の日）の実施（年4回） (2) P T Aと連携した食の体験活動「学年親子行事」の実施 (3) P T A母親委員会「サロンさくらだ」の実施 (4) J A「ランチョンマット」を活用した食事マナー体験の実施 (5) 「地産地消 山形市の野菜たっぷり給食 お話会」の実施 (6) 「パストラボ山形ワイヴァンズ応援給食」の実施 (7) 減塩教育「出汁をあじわおう」の実施 (8) 「心を育む学校給食週間」の実施 (9) 生活リズム改善「からだ・いきいきカード」の実施 <p>【山形市立第三中学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 給食時間の指導の実施 (2) 教科等における食に関する指導の実施 (3) 「我が家のおすすめ朝食レシピ」の実施 (4) 「食」をテーマにした講演会の開催 (5) ニーズに応じた食育講話の実施 (6) 給食試食会の実施
効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食育便りの発行及び実施校におけるさまざまな取組を通して、栄養バランスのとれた食事をする児童生徒の割合が 67.4%から 72.7%になり改善がみられた。 ○ 食育便り等での栄養教諭の周知活動を通して、健康課題のある児童生徒への個別指導件数の値が平均 10 件から平均 18 件に増加し、きめ細やかな指導による健康課題の改善が期待できる。 ○ 食事マナー調査や食育便りでの指導を通して、食事マナーに気を付けている児童生徒の割合が 86.6%から 89.2%になり改善がみられた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝食リーフレット作成や実践校での生活リズム調査等の実践を行ったところ、朝食を毎日食べると回答した児童生徒の割合がほとんど変化しておらず、食習慣の形成は継続した指導が子供たちの行動化につなげるものと考え、今後とも食育便りの発行を継続するとともに、実践校においても朝食の大切さについて継続的な指導を行う必要がある。

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <p>① 健康のために食事は大切と回答する児童生徒の割合が県平均より低く、給食や食に対する興味関心も低い。</p> <p>② 生産者との関わりが薄く、地場産物や郷土料理等食文化に対する理解も低い。</p> <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <p>① 栄養教諭の配置が平成 28 年度より開始されて 3 年目となるが、市全体における栄養教諭についての周知が不十分である。</p> <p>② 設置校においては栄養教諭の役割が確立しつつあるが、市全体としての栄養教諭の役割についてまだ検討段階である。</p>																											
取組の目標	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <p>① 食に関する指導を教科等横断的に進め、食事の重要性等について理解を深める。</p> <p>② 学校給食を教材として活用し、P T A と連携した活動を通し、児童生徒の食への興味関心を深める。</p> <p>③ 地場産物や伝統的な食文化への興味関心を高め、感謝の心を育む。</p> <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <p>① 栄養教諭間及び関係機関との連携を強化し、市全体の食育に関する意識の向上を図る。</p>																											
評価指標	<p>① 健康課題のある児童生徒への個別指導件数（目標値：15 件 実績値：18 件）</p> <table><tr><td>個別指導件数</td><td>平成30年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>総数（栄養教諭 3 名合計数）</td><td>31件</td><td>56件</td></tr><tr><td>平均件数</td><td>10.3件</td><td>18.6件</td></tr></table> <p>② 栄養教諭がT・T等で関わる関連教科の数（目標値：3 教科）</p> <table><tr><td>関連教科数</td><td>平成 30 年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>平均教科数</td><td>平均 2.3 教科</td><td>平均 5.3 教科</td></tr></table> <p>③ 栄養教諭派遣事業の依頼件数（栄養教諭一人あたり）（目標値：平均 7 件）</p> <table><tr><td>派遣依頼件数</td><td>平成 30 年度</td><td>令和元年度</td></tr><tr><td>平均件数</td><td>26.6 件</td><td>37.0 件</td></tr></table> <p>④ 栄養教諭と連携した市の事業数（目標値：4 件）</p> <table><tr><td></td><td>市の事業との連携</td></tr><tr><td>平成 30 年度</td><td>健康教室、栄養教諭派遣事業 計 2 件</td></tr><tr><td>令和元年度</td><td>健康教室、栄養教諭派遣事業、食育便り発行、ポータルサイト事業 計 4 件</td></tr></table>	個別指導件数	平成30年度	令和元年度	総数（栄養教諭 3 名合計数）	31件	56件	平均件数	10.3件	18.6件	関連教科数	平成 30 年度	令和元年度	平均教科数	平均 2.3 教科	平均 5.3 教科	派遣依頼件数	平成 30 年度	令和元年度	平均件数	26.6 件	37.0 件		市の事業との連携	平成 30 年度	健康教室、栄養教諭派遣事業 計 2 件	令和元年度	健康教室、栄養教諭派遣事業、食育便り発行、ポータルサイト事業 計 4 件
個別指導件数	平成30年度	令和元年度																										
総数（栄養教諭 3 名合計数）	31件	56件																										
平均件数	10.3件	18.6件																										
関連教科数	平成 30 年度	令和元年度																										
平均教科数	平均 2.3 教科	平均 5.3 教科																										
派遣依頼件数	平成 30 年度	令和元年度																										
平均件数	26.6 件	37.0 件																										
	市の事業との連携																											
平成 30 年度	健康教室、栄養教諭派遣事業 計 2 件																											
令和元年度	健康教室、栄養教諭派遣事業、食育便り発行、ポータルサイト事業 計 4 件																											

取組の内容	<p>【山形市立小・中学校全体】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「親子で考える朝食レシピコンテスト」の実施、食育リーフレットの発行 (2) 健康教室（肥満指導教室）の実施 (3) 栄養教諭派遣事業の実施 (4) 市教職員ポータルサイト「つながる食育」の立ち上げ <p>【山形市立東小学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活リズムの改善（朝食の充実）の取組 <ul style="list-style-type: none"> ● 「自分で味噌汁を作ってみよう！」 ● 「自分で朝食を作ろう！」 ● 「保護者への啓発」 ● 「親子クッキング」 ● 「元気いっぱい充電カードの活用」 (2) 体験活動で学びを深める(地域の力をいただいて) <ul style="list-style-type: none"> ● 畑見学（１年）・きゅうりの収穫活動 ● 田植え・稲刈り・親子行事（味噌作り） ● 総合的な学習「知りたい！伝えたい！わたしたちの馬見ヶ崎川」 ● 「お魚の学習会」 ● 講話「いのちのつながり」 ● 栄養教諭による掲示等の食育活動 (3) 児童委員会（もりパクランチ委員会）による食育活動 (4) 養護教諭と栄養教諭による個別相談指導 <p>【山形市立桜田小学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「教職員用食育通信」の発行 (2) 「さくらの日」（親子で作るお弁当の日）の実施（年４回） (3) P T Aと連携した食の体験活動「学年親子行事」の実施 (4) P T A母親委員会「サロンさくらだ」の実施 (5) J A「ランチョンマット」を活用した食事マナー体験の実施 (6) 「地産地消 山形市の野菜たっぷり給食 お話会」の実施 (7) 「パストラボ山形ワイヴァンズ応援給食」の実施 (8) 減塩教育「出汁をあじわおう」の実施 (9) 「心を育む学校給食週間」の実施 (10)生活リズム改善「からだ・いきいきカード」の実施 <p>【山形市立第三中学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 給食時間の指導の実施 (2) 教科等における食に関する指導の実施 (3) 「我が家のおすすめ朝食レシピ」の実施 (4) 「食」をテーマにした講演会の開催 (5) 給食センター栄養士との交流の実施 (6) 図書給食の実施 (7) ニーズに応じた食育講話の実施 (8) 親子もちつきの実施 (9) 給食試食会の実施
-------	--

効果	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 親子体験活動や生産者との交流活動等実践校におけるさまざまな活動を通して、朝食をとることの大切さがわかると回答した児童の割合が 85% から 93% になり、改善がみられた。 ○ 指導計画に基づく実践校での活動を通して、栄養教諭が関わる関連教科数が平均 2.3 教科から平均 5.3 教科に増加し、食に興味関心を持つ児童生徒が増えることが期待できる。 <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育便り等での栄養教諭の周知活動を通して、栄養教諭派遣事業の依頼件数が平均26.6件から平均37.0件に増加し、市内全体での栄養教諭の活用に対する体制づくりが整いつつある。 ○ 栄養教諭と連携した市の事業件数は、2件から4件に増加することで、例年以上に栄養教諭間の連携が深まったことにより、若手栄養教諭が先輩から学んだことを生かしながら自校の実践につなげることができた。
今後の課題	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践校において総合的な学習の時間等を活用しながらさまざまな実践を行ったところ、伝統的な食文化や行事食に興味があると回答した児童生徒の割合がほとんど変化しておらず、この取組及び仮説について再検討が必要と考える。今後は、食育便りやポータルサイトを用いた指導資料等で山形の食文化の啓発を進めていく必要がある。 <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 親子での体験活動等のさまざまな実践を行ったところ、一緒に生活する人と一緒にほとんど毎日朝食を食べると回答した児童生徒の割合が、65.7% から 64.1% へ減少し、同じく一緒に生活する人と一緒にほとんど毎日夕食を食べると回答した児童生徒の割合が 81.2% から 79.7% に減少している。今後、さまざまな機会をとらえ共食の効果等を啓発していく必要がある。

(4) 福島県三春町立三春中学校

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>「スーパー食育スクール」「つながる食育推進事業」、震災後の原発事故による生活習慣の変化や地域の実態から、次のようなことが課題として挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食に関する知識の乏しさや女子生徒に多い痩身願望 ・ 運動量の多い時期とそうでない時期と肥満・痩身傾向児の出現率の大きな幅 ・ 男子生徒にみられる体力・運動能力向上面の課題 ・ 学校での食に関する指導の汎用的能力としての定着による自己管理能力 ・ 高度肥満等、家庭での食習慣の改善が必要な生徒への個別の支援 <p>生徒自身の食に関する自己理解を具体的データに基づき促進し、課題解決のため、教育課程での食育・健康・相談が系統性、関連性を持って設定されていること、健康管理や栄養管理の正しい知識を身に付け、適切な食事量とエネルギー消費量のバランスを理解し、自己管理できる生徒を育成すること等の実践が必要である。</p>
取組の目標	<p>生徒自身の食に関する自己理解を具体的データに基づき促進し、課題解決のため、教育課程での食育・健康・相談が系統性、関連性を持って設定されていること、健康管理や栄養管理の正しい知識を身に付け、適切な食事量とエネルギー消費量のバランスを理解し、自己管理できる生徒の育成を目指した。</p>
評価指標	<ol style="list-style-type: none"> ① 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：7月 76.6%→12月 73.6%） ② 朝食を毎日食べる（「ほとんど毎日」：7月 90.6%→12月 92.0%） ③ 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる（「ほとんど毎日」：7月 58.0%→12月 60.6%） ④ 一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる（「ほとんど毎日」：7月 84.7%→12月 80.0%） ⑤ 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが1日2回以上ある（「ほとんど毎日」：7月 50.2%→12月 56.2%）
取組の内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) 食に関するアンケート・調査、体組成計、発育測定、教育相談の実施・分析 <ul style="list-style-type: none"> ● 発育測定、体組成計検査（年2回）、朝食週間、食習慣調査、家庭における食習慣アンケート、活動量調査、食・健康に関する教育相談の実施 (2) 共有された健康課題を踏まえた食生活上の課題と変容を踏まえた食育指導の展開 <ul style="list-style-type: none"> ● 生活リズムと朝食、共食、食事摂取基準目安量、バランスのよい食事、食事と運動・スポーツ、食生活上の自己理解「トリセツ」「自分手帳」 (3) 健康指導と食育相談の実施による食と健康の関連を意識させる取組 <ul style="list-style-type: none"> ● 教育相談時の食・健康相談の実施並びに事後指導、朝食摂取、肥満・痩身傾向の改善並びに適正体重の維持
効果	<p>○ 「トリセツ」が実践力につながった</p> <p>3年生の総合的な学習の時間には、食事調査や体組成計の結果を活用し、自分の生活を振り返り、2年間の食のまとめと、今後の食を考えるための「トリセツ」を作り、家族に伝える活動を行ったことで、学校での学びを家庭につなげることができた。今年度は「トリセツ」を自分が食事を作る側になった時に食事をどう作っていけば、健康な生活が送れるのかを行動化に向け宣言させ、実践力につなげることができた。</p> <p>○ 朝食の摂取率が向上した</p> <p>食育コーディネーターによる朝食欠食者への個別指導を実施し、生徒の生活実態に合った朝食摂取のあり方をアドバイスしたことにより、毎日朝食を食べる生徒が1.4ptの改善がみられた。</p> <p>○ 新体力テストの総合判定A判定の増加</p> <p>平成30年度より男女ともにA判定が増えてきている。特に男子のA判定が2倍</p>

	<p>近く増加した。これまでの体育時の運動量確保の取組への共通理解と実践や平成30年度から地元高校体育科の生徒による体力テストの能力発揮のポイントアドバイス・支援等の効果が出てきたものと思われる。</p>
今後の課題	<p>○ 肥満傾向児の出現率の増加</p> <p>1年生男子を除く学年で、肥満傾向児の出現率が増加した。とくに2年生男女において9月より約2倍の増加がみられた。活動量が減る冬場においては、これまで標準の判定であった生徒が、軽度肥満に移行したり、軽度肥満の生徒が、中等度、高度肥満に移行する傾向もみられることから、冬場の活動量の確保や個別の相談指導、家庭との協力・連携を深める必要がある。</p>

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発については、4年間の食育事業の結果、次のようなことが課題として挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食に関する知識の乏しさや女子生徒に多い痩身願望 ・ 運動量の多い時期とそうでない時期と肥満、痩身傾向児の出現率の大きな幅 ・ 男子生徒にみられる体力・運動能力向上面の課題 ・ 関連性、系統性を持って展開される教育課程を貫く食育カリキュラム・マネジメント ・ 学校での食育指導の汎用的能力としての定着による自己管理能力 <p>教育課程の中に食育・健康・相談が関連性、系統性を持って設定されること、健康管理や栄養管理の正しい知識を身に付け、適切な食事量とエネルギー消費量のバランスを理解し、自己管理できる生徒を育成すること等の実践が必要である。</p> <p>栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修については、県内の栄養教諭全員を対象に本事業に特化した研修会を開催し、本事業を通して得られた成果や指導のポイント等を実施校の栄養教諭から具体的に報告をし、それらをもとに食の指導についての協議をすることで、所属校での実践や栄養教諭自身の指導力の向上につながる研修会を実施する。</p> <p>また、本県では学校栄養職員の任用替えにより栄養教諭を採用しているため、栄養教諭と学校栄養職員との連携や協力も重要であると考えている。学校栄養職員と栄養教諭とが連携し、相互の関わりを強化することにより、栄養教諭の採用につながることを期待できる。</p> <p>さらに課題として次のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連性、系統性を持って展開される教育課程を貫く食育カリキュラム・マネジメント ・ 学校での食に関する指導の汎用的能力として定着することによる食に関する自己管理能力 <p>課題解決のためには、自校の食育推進上の課題を明確に把握するための実態把握の内容と方法について栄養教諭が明確に自覚し、カリキュラム・マネジメントの観点から、教育課程の中での系統性、関連性を持たせた指導を意図することが必要である。</p> <p>学校の組織の一員としての自覚を持ち、教育課程の共同実践者として、食育にあたっていくことで、食に関する繰り返しと積み重ねの指導を展開しながら、自校の教育目標等の実現を目指していくという体制づくりを推進していかなければならない。</p>
取組の目標	<p>栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発については、教育課程全体を貫く「食に関する指導」の系統性・関連性の明確化、食に関する健康課題の実態把握・分析による健全な食生活の実現、食生活上の課題と変容を把握させ望ましい食生活を実現させる食に関する指導の展開、保健体育科を中心とした身体運動プログラムによる食と運動のバランスの保持、「つながる食育事業」の経年的検証による成果と課題の明確化等がある。</p> <p>栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修については、栄養教諭の更なる資質の向上や栄養教諭間の連携強化を目指す。</p> <p>また、次のような目標が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活上の課題と変容を把握させ望ましい食生活を実現させる食に関する指導の展開 2. 栄養教諭配置校を中心とした地域における栄養教諭の有効活用 3. 健康指導と食育相談を系統的に設定し、食と健康の関連を意識させる取組 4. 「つながる食育事業」の経年的検証による成果と課題の明確化 5. 本事業の県下への発信による食育推進プログラムの開発・普及
評価指標	-

取組の内容	<p>＜栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発＞</p> <p>(1) 「食育」にかかる別葉の作成・活用と各教科等における「食育」の補完・関連指導の実施評価</p> <p>(2) 健康課題をもとにした食生活上の課題と変容を踏まえた食育指導の展開</p> <p>(3) 生徒・地域の実態等を踏まえた給食を介した食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食育講演会 親子料理教室 給食試食会 <p>＜栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修＞</p> <p>(1) 健康課題を踏まえた食生活上の課題と変容を踏まえた食育指導の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活リズムと朝食、共食、食事摂取基準目安量、バランスのよい食事、食事と運動・スポーツ、食生活上の自己理解「トリセツ」「自分手帳」 <p>(2) 栄養教諭配置校を中心とした地域における栄養教諭の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食育推進実行委員会での食育の重要性の啓発、隣接中学校との給食委員会講師派遣、各種食育講座への栄養教諭派遣、町内小学校食育・給食指導との連携指導 <p>(3) 「食育」の成果と課題の経年変化の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同一学年追跡調査による指導の成果と課題の明確化とその普及・啓発（発育測定、体組成計、食に関するアンケート・調査） <p>(4) 本事業の県下への発信による食育推進プログラムの開発・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公開授業・食育講演会の実施による食育に関する啓発、食育リーフレットの作成・配付
効果	<p>○ 全教育活動における食育推進のスタートラインにたつ</p> <p>各教科において食育と関連する内容について実践・抽出を行い、次年度の教育課程に活用できるように整理した。これにより計画的、継続的で全教育活動を貫いた食育を行うことが可能となり、また、授業と関連付け、学校給食を教材として活用し、学習で得た知識を食事という体験を通して具体的に確認したり、深めたりすることができ、学習効果を高めることにつながった。</p>
今後の課題	<p>○ 家庭と「つながる食育」の更なる工夫が必要である</p> <p>多くの保護者に給食試食会や親子料理教室に参加してもらうために、学校行事等に日程を設定したが、予定人数に満たなかった。魅力ある食の行事のあり方や周知連絡方法について検討していかなければならない。</p> <p>今の学びを自らの未来につなげるために、今後も家庭や地域と連携した取組を継続していく必要がある。</p>

(5) 福島県新地町立新地小学校

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>実施校栄養教諭は、震災後、食生活・生活リズムの乱れ等から生じた食を含む生活習慣の低下を改善するため、担任や養護教諭と連携しながら「さわやかだ」を基盤とした食に関する指導を実施している。</p> <p>震災後 8.6%まで激減した学校給食での地場産物活用率を回復するため、実施校栄養教諭が中心となって給食献立に地場産物を積極的な導入、地場産物の安心・安全の周知、検査結果の積極的な公開に取り組み、地場産物活用率の向上に取り組んできた。</p>
取組の目標	<p>「さわやかだ」型食生活を基盤に和食を中心とした食育事業を更に充実させることで、野菜や魚の嗜好性の向上による栄養バランスの更なる改善、増加傾向にある児童1日あたりの塩分摂取量を減らすための減塩意識の向上を目指す。肥満傾向児出現率については、個別の健康・肥満指導「すくすく教室」の充実により児童一人ひとりの肥満度の減少を目指す。児童の生活リズムの改善については、「健康活動すこやか」の充実による就寝時刻の改善（睡眠時間の確保）、メディアとの接触時間の減少、運動習慣の定着を目指す。これらの取組については、学校、家庭、地域が連携協力しながら取り組んでいく。</p>
評価指標	<p><共通指標></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 朝食を毎日食べている（「ほとんど毎日」：6月 92.0%→12月 92.9%） ② 家族と一緒に「朝食」を食べている（「ほとんど毎日」：6月 77.1%→12月 78.6%） ③ 家族と一緒に「夕食」を食べている（「ほとんど毎日」：6月 90.4%→12月 91.2%） ④ 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：6月 87.2%→12月 82.4%） ⑤ 食事マナーに気を付けている（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：6月 94.1%→12月 91.2%） ⑥ 伝統的な食文化や行事食について関心がある「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：6月 85.6%→12月 84.6%） ⑦ 食事のとき、衛生的な行動をとる（「はい」「どちらかといえばはい」の合計値：6月 96.8%→12月 96.1%） <p><独自指標></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 肥満傾向児出現率（H30 12.1%→R1 11.0%） ② さわやかだの嗜好性の改善（嗜好性が向上 → さわやかだ型食事全般・さ（魚）・わ（和食）平均 0.23pt ↑）（嗜好性が低下 → や（野菜）・か（海藻）・だ（だし・大豆製品）平均 1.23pt ↓） ③ 児童対象BDHQ調査（簡易型自記式食事歴法質問票）結果の経年比較から総食物繊維摂取量が有意に増加し、脂肪エネルギー比率が有意に低下（総食物繊維摂取量：H30 10.6 ±3.4→R1 12.7±3.4）（脂肪エネルギー比率：H30 31.4±5.0→R1 29.6±5.0） ④ 減塩意識の変容（児童1日あたりの塩分摂取量：11.8g（H30年度より+0.6g））（保護者の減塩を意識した食事の頻度：「ほぼ毎日・週4～5日」63.0%）（6月 56.2%→12月 63.0% +6.8pt） ⑤ 平日、何時頃寝ているか（「午後10時まで」：6月 75.1%→12月 74.3%（-0.8pt））（「午後11時以降」：6月 4.4%→12月 6.6%（+2.2pt）） ⑥ 平日、家でどれくらいテレビやゲーム、スマホをしているか（「2時間未満」：6月 65.9%→12月 69.2%（+3.3pt））（「3時間以上」：6月 19.2%→12月 14.2%（-5.0pt））
取組の内容	<p>(1) 「さわやかだ」で始まる健康的な食材とそれらを使った食育講座・食に関する指導（調理体験を含む）等の充実及び学校・家庭・関係機関との連携を通</p>

	<p>して、児童の好き嫌いをなくし、全国平均を上回る肥満傾向児出現率や栄養バランスの偏り等の健康課題の解決を図る。</p> <p>(2) 「健康指導すこやか」(全学年対象)の実施により、健康の3要素である食事・運動・睡眠について児童一人ひとりにめあてを持たせて取り組ませることで、生活リズムの乱れの要因となっているメディアの接触時間の増加、就寝時刻の深夜化に伴う睡眠時間の減少、運動不足等を解消し、「早寝・早起き」の定着を図る。</p> <p>(3) 養護教諭や家庭との連携で実施する個別の健康・肥満指導「すくすく教室」の充実により、肥満度 20%以上の児童の肥満度減少を促すことで、肥満傾向児出現率の低下を目指す。実施の際は、養護教諭や担任、保護者との連携・協力をしながら、食習慣・生活習慣の改善を支援していく。</p> <p>(4) 新地小学校を卒業した現中学校1学年と平成28年度に4学年時の小児生活習慣病予防検診データの追跡及び経年比較を行い、小・中連携しながら「さわやかだ」を基盤に取り組んできた食育事業の成果と課題を把握する。</p>
効果	<p>○ 肥満傾向児出現率の低下：H30 12.1%→R1 11.0%</p> <p>震災から9年間を掛けてようやく震災前のレベルまで回復することができた。これも栄養教諭を中心に「さわやかだ」を基盤とした食育講座や食育講演会、食に関する指導の充実、養護教諭と連携しながら学校全体で個別の健康・肥満指導「すくすく教室」や「健康活動すこやか」の推進に継続的に取り組んできた成果の現れと考えられる。</p> <p>○ さわやかだの嗜好性の改善：さわやかだ型食事全般・さ(魚)・わ(和食)に関する嗜好性が向上</p> <p>「さわやかだ」を基盤とした食育講座や食育講演会、食に関する指導の充実により、さわやかだ食材を使った食事の提供頻度が増加している。特に「さわやかだ」が気軽に実践できる「味噌汁」の提供頻度で「ほぼ毎日・週3～4日」と回答した保護者の割合が 88.9% (+12.1pt) と大きく伸び、5学年食育講座「さわやかだ！我が家のオリジナル味噌汁レシピ」での取組や保護者等への周知活動等の効果の現れと考えられる。</p>
今後の課題	<p>○ 肥満傾向児出現率の更なる低下</p> <p>全国平均(約 9.0%)と比較すると依然として高く、まだまだ改善の余地がある。今後も全国平均を下回ることを目標に、「さわやかだ」を基盤に取り組んできた食育講座や食に関する指導、養護教諭と連携してきた健康・肥満指導等について、保護者や地域との連携を強化しながら継続的に推進していくことが必要である。</p> <p>○ 保護者の減塩意識の向上による児童の塩分摂取量の減少</p> <p>児童の1日あたりの塩分摂取量は 11.9g と全国平均を大きく上回っており、減塩意識の向上による塩分摂取量の減少が喫緊の課題である。また、東京家政学院大学教授 原光彦先生からは、塩分の過剰摂取は生活習慣病の要因になるだけでなく、濃い味付けが摂食中枢を刺激しカロリーの過剰摂取＝過食傾向につながるなどの指摘を受けている。生活習慣病予防及び肥満傾向出現率の減少のためにも、保護者の減塩意識の向上による食習慣の改善が重要である。</p> <p>○ 児童の「就寝時刻(睡眠時間の確保)・運動習慣の定着」の改善</p> <p>「就寝時刻が午後 10 時まで」の児童の割合が、6月・12月比較で-0.8pt、「午後 11 時以降」の児童の割合が+2.2pt と就寝時刻が遅くなり、十分な睡眠時間が確保できていない児童が増えている。「平日、1日 60 分以上体を動かしている日」については「ほぼ毎日・週4～5日」と回答した児童の割合は6月 73.9%→12月 67.6%と-6.3pt も減少している。「平日、子供が家庭で体を動かすこと」を「意識して実践している」保護者の割合も6月 37.0%、12月 29.6%、-7.4pt と減少傾向にある。</p> <p>児童のメディアの接触時間は、「健康活動すこやか」のほかに町内小中学校でアウトメディア週間に取り組んだことが改善につながっていることから、「健康</p>

	活動すこやか」の充実を図るととも、アウトメディア週間に合わせて「運動遊び強化週間」「早寝早起き週間」等設け、保護者の協力をいただきながら町内小中学校全体で取り組んでいく必要がある。
--	--

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発については、「さわやかだ」の嗜好改善、肥満傾向児出現率の改善及び生活リズムの改善「早寝・早起き・朝ごはん」の実践力の向上を目指す。</p> <p>栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修については、県内の栄養教諭全員を対象に本事業に特化した研修会を開催し、本事業を通して得られた成果や指導のポイント等を実施校の栄養教諭から具体的に報告をし、それらをもとに食の指導についての協議をすることで、所属校での実践や栄養教諭自身の指導力の向上につながる研修会を実施する。</p> <p>また、本県では学校栄養職員の任用替えにより栄養教諭を採用しているため、栄養教諭と学校栄養職員との連携や協力も重要であると考えている。学校栄養職員と栄養教諭とが連携し、相互の関わりを強化することにより、栄養教諭の採用につながることを期待できる。</p>
取組の目標	<p>栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発については、「さわやかだの食事がすきか」で「きれい」の割合が 1.6%だが 0%を目指す。「和食でのだしの大切さ」を理解し、減塩意識を高める。減塩するために汁物の基本がだしであることを知らない児童が 3%いるので、0%を目指す。</p> <p>また、健康の大事なポイントである「栄養バランスのよい食事の大切さ」を知らない児童が 1.6%なので、学校給食の時間や食育により 0%を目指す。自分の適当な量を知り、栄養バランスのよい食事をとることの大切さを理解させる。また健康な身体づくりに重要な運動・睡眠の大切さも継続的な指導により、家庭での栄養バランスのよい食事の摂取頻度を含む「食の実践力」の向上につなげていく。</p> <p>栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修については、栄養教諭の更なる資質の向上や栄養教諭間の連携強化を目指す。</p>
評価指標	<p>① さわやかだ食材を使った食事（「嫌い」（児童）：H30 1.6%）</p> <p>② さわやかだ食材の中のだし・大豆製品（「嫌い」（児童）：H30 3.0%）</p> <p>③ 平日、1日 60 分以上体を動かす日（「ほぼ毎日・週4～5日」：6月 73.9%→12月 67.6%（-6.3pt））</p>
取組の内容	<p>(1) 「さわやかだ」食材を意識した食に関する指導の実践を充実させることで、「さわやかだ」食材に関する嗜好性の改善を図り、栄養バランスのよい食事をとることの大切さを理解させていく。</p> <p>(2) 「健康活動すこやか」での実践を通して、学校・家庭が連携しながら健康な身体づくりに大切な運動・睡眠の大切さ、メディアとの適切な付き合い方について考えさせ、年間を通して継続的な取組を実施することで、生活リズムの改善を図る。</p> <p>(3) BDHQ調査（簡易型自記式食事歴法質問票）結果を活用して、児童の1日あたり塩分摂取量や総食物繊維量、脂肪エネルギー比率等の栄養摂取状況を把握し、客観的なデータに基づき、各種の指導へ反映させていく。特に塩分摂取量については、平成 30 年度から増加傾向にあることが分かっているため、6月に実施するBDHQ調査結果の比較も活用しながら、町食育広報等で保護者に周知し、減塩意識の向上を目指す。</p>

効果	<p>○ 「さわやかだ」を基盤とした食育事業の推進による野菜の摂取量の増加及び脂肪類摂取の減少</p> <p>平成 30 年度と令和元年度の BDHQ 調査結果の一元配置分析から、総食物繊維の摂取量が有意に増え、脂肪エネルギー比率が有意に減少していることが分かった。平成 28 年度から「さわやかだ」を基盤に食育事業を推進してきたことが、野菜類の摂取量の増加と脂肪類の摂取量の減少につながり、児童や保護者の食習慣や栄養バランスが改善していると考ええる。</p> <p>○ 町食育広報「食育しんち」での周知による減塩意識の向上</p> <p>BDHQ 調査（簡易型自記式食事歴法質問票）結果による客観的な数値による現状把握、町食育広報「食育しんち」のよる減塩特集の実施により、減塩を意識した食事を提供する保護者の割合が6月と比較して12月には+6.9pt 増加し、全体で6割を超えた。減塩のために工夫した点についても「だしの活用」「具たくさん」「野菜を多めに摂取する」といった項目に取り組む保護者が増え、減塩の呼びかけや「だ（だし・大豆製品）」のよさについて、町食育広報での周知してきた内容が浸透してきた現れと考える。</p>
今後の課題	<p>○ 個別の肥満・健康指導の充実</p> <p>個別の健康・肥満指導「すくすく教室」において、保護者の協力が得られる児童と得られない児童では肥満度の変容に 7.0pt の差がみられ、すくすく教室指導8項目の達成率が8割以上の児童と達成率が8割未満の児童では 13.5pt の差がみられた。保護者の協力の有無、達成状況の違いが肥満度の変容に大きく影響するため、養護教諭のほかに担任や管理職を巻き込みながら保護者との連携の充実、指導8項目の達成状況の向上を目指し、きめ細やかなサポート体制の構築により個別指導の充実を促進していく必要がある。</p>

(6) 石川県中能登町・七尾市

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>【中能登町立中能登中学校】</p> <p>実態調査から、朝食を毎日食べる生徒は 90.6%と横ばいの状態が続いており、主食のみを朝食としている生徒は 27.7%、朝食を食べない生徒は 1.5%であり、固定化してきている。また、配膳された給食を残さず食べる生徒の割合も 64.4%と低い値となっており、実際に給食の残量も多い現状であった。</p> <p>食に関する指導については全体計画に基づいて指導を実施していたが、教科や学級担任による指導はあまり実施できておらず、食育推進のための評価指標は設定されていなかった。そのため、職員が共通理解し、全員が連携協力して食に関する指導を行うことが困難であった。</p> <p>また、地域には生産者を含め、食に関する知識や経験を有する人材が多いが、どのように食に関する指導を進めるか体制が整備されていなかったため、働きかけが弱く、食育推進のための連携や協力はほとんどない状態であった。</p> <p>【七尾市立七尾東部中学校】</p> <p>実態調査から、朝食を毎日食べる 92.0%、主食のみ 18.0%、主食+1品は 30.0%、主食+2品以上 52.0%、朝食を週3日以上食べない生徒は 3.0%と朝食を食べていても、内容に課題のある生徒もいる現状であった。また、給食で出されたものをほとんど食べる生徒は 81.0%、残すことが多い生徒は 5.0%と固定化されてきている状態であった。</p> <p>全生徒を対象とした「簡易カルシウム自己チェック表」による推定のカルシウム摂取量の中央値は 520mg で推奨量（男 1000mg、女 800mg）と比べ下回っていた。</p> <div data-bbox="782 952 1364 1243"> <p>H30年度七尾東部中学校の推定カルシウム摂取量</p> <p>簡易カルシウム自己チェック表による判定 2018年度 1,2,3年 回答人数405名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(mg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>度数</td> <td>405</td> </tr> <tr> <td>平均値</td> <td>557.8</td> </tr> <tr> <td>中央値</td> <td>520.0</td> </tr> <tr> <td>標準偏差</td> <td>201.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>H30年11月</p> </div>		(mg)	度数	405	平均値	557.8	中央値	520.0	標準偏差	201.7
	(mg)										
度数	405										
平均値	557.8										
中央値	520.0										
標準偏差	201.7										
取組の目標	<p>実践校である中学校で学校における食育と家庭・地域が連携した体験活動を実施し、生徒の食に関する課題や食に関する情報を家庭と共有することで、生徒の食に関する自己管理能力の向上と家庭での食育の意識の向上を目指した。</p>										
評価指標	<p>＜共通指標＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 朝食をほとんど毎日食べる（1学期（6～7月） 86.1%→2学期（12月） 88.2%） ② 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる（「毎日」と「週4～5日」の合計：1学期（6～7月） 72.2% →2学期（12月） 64.2%） ③ 一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる（「毎日」と「週4～5日」の合計：1学期（6～7月） 87.0%→2学期（12月） 85.9%） ④ 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる（「はい」と「どちらかというとはい」の合計：1学期（6～7月） 67.8%→2学期（12月） 68.0%） ⑤ 食事のマナーに気を付けている（「はい」「どちらかというとはい」の合計：1学期（6～7月） 96.3%→2学期（12月） 96.2%） ⑥ 伝統的な食文化や行事食について関心がある（「はい」「どちらかというとはい」の合計：1学期（6～7月） 46.5%→2学期（12月） 49.1%） ⑦ 食事の際に衛生的な行動をとる（「はい」と「どちらかというとはい」の合計：1学期（6～7月） 95.1%→2学期（12月） 96.5%） ⑧ 朝食を毎日食べる（「ほとんどない」：1学期（6～7月） 1.0%→2学期（12月） 3.4%） 										

	<p>⑨ 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる（「毎日」と「週４～５日」と「週２～３日」の合計：１学期（６～７月） 79.5%→２学期（１２月） 72.1%</p> <p>⑩ 一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる（「毎日」と「週４～５日」と「週２～３日」の合計：１学期（６～７月） 95.1% →２学期（１２月） 92.8%）</p> <p>⑪ 主食、主菜、副菜を３つそろえて食べることが１日２回以上ある（給食も含む）（「ほとんど毎日」と「週４～５日」の合計：１学期（６～７月） 85.6%→２学期（１２月） 88.4%）</p> <p>＜独自指標＞</p> <p>① 配膳された給食を残さず食べる生徒の割合（７月 65.0%→１２月 73.6%）</p> <p>② 生徒会で実施した個別の残量調査（５日の合計 50 点満点中 47.5 点以上だった生徒の割合：６月 69.0%→１１月 84.0%）</p> <p>③ 朝食で食べてきたものの品数の集計（主食のみ（１品）：７月 18.1%→１２月 16.4%）（主食+２品以上（３品、４品以上）の合計：７月 48.4%→１２月 59.2%）</p> <p>④ 「簡易カルシウム自己チェック表」（平均値：６月 511mg→１２月 530mg）（中央値：６月 480 mg→１２月 520mg）</p>
取組の内容	<p>【中能登町立中能登中学校】</p> <p>(1) 家庭での実践につながる取組（学校における食育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食文化や食事のマナー等に関する学習 ● 体験や食に携わる人々と交流する学習 ● 健康的な生活習慣、栄養に関する学習 <p>(2) 家庭を巻き込んだ取組（親子体験活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 給食試食会 ● おやこ食育教室 <p>(3) 食への理解が深まる取組（家庭における食育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域掲示（学校給食献立、レシピ配布） ● ソーシャルメディアの活用 ● 食育通信「おにぎり」の配布 <p>【七尾市立七尾東部中学校】</p> <p>(1) 育友会（PTA）による体験教室や体験活動の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 育友会 夏休み わくわく「ふるさとの海」体験学習、育友会 給食試食会 ● 育友会教養講座（育友会と生徒会の連携） <p>(2) 専門家等による個別指導等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食に課題を有する生徒への個別相談指導の実施（養護教諭・栄養教諭） <p>(3) 食育に関する講演会や講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育講演会の開催（七尾市学校保健会との連携） <p>(4) 家庭や地域に対する啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校保健委員会、七尾市健康福祉まつりで資料提供（生徒会、教職員、学校医、地域の方） ● 骨密度測定（石川県予防医学協会に依頼して実施） ● 「カルシウム自己チェック表」による調査とリーフレットの配布（全校生徒・保護者） ● 市政講座「糖尿病予防教室」（七尾市健康推進課との連携） <p>(5) 生徒会活動の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 給食時間の放送、掲示資料作成等、食の重要性を知らせる活動（生徒会） ● 個別の残量調査（生徒会） <p>(6) 生徒自身が食事を作る機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み 部活動「野菜を使った健康な昼食作り」

効果・今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査を続けていくことも「給食だより」等と同様に動機付けの一つになると考えている。 ○ 「簡易カルシウム自己チェック表」を活用することにより生徒自身の食事内容の自己採点のごとく、数値化された実態把握ができたことで、自己の問題を真剣に受け止め、行動変容につながったと考える。 ○ 中学生が骨密度測定の受診の機会があったことで、成長期に必要なカルシウム等不足しがちな栄養素を意識してとる、という行動変容につながったことが示唆される。
----------	---

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発については、学校への調査では、計画に基づいて食に関する指導が必要であると回答した中学校9割以上に対し、指導が計画に基づいて実施されている中学校8割近くと必要性は感じていても、実施ができていない。また、食に関する指導全体計画はあるが、毎年同じものを使用している学校が多く、食育は推進されているが評価から改善へとつながっていない。全校体制による食育推進の整備が必要である。</p> <p>栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修については、県内の児童生徒数及び学校数の偏りから、栄養教諭の配置状況が地域によって大きく異なる。栄養教諭が複数校の食育推進に参画している。また、市町1名配置又は配送校の多い共同調理場で参画回数が少ない傾向がある。さらに、市町ごとに児童生徒の家庭環境や地場産物、郷土料理が異なり、指導方法や教材、情報の共有化が図れておらず、食育の内容等に学校間の格差がある。</p>
取組の目標	県内の隣接する町と市の学校での共通の教材による実践を通して、県内で共通実践できる指導・評価方法を検討し、県内全域での食育の推進を実施する
評価指標	<p><栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発></p> <p>① 食に関する指導が全体計画・年間計画どおりに実施できたか。 活動指標（現状値：81.9%、目標値：参画回数の増加） 成果指標（地域の食文化に興味関心を持つ生徒、保護者の増加、家庭での共食を意識する保護者の増加）</p> <p>② 学級担任による食に関する指導を計画どおり実施できたか。 活動指標（現状値：未測定、目標値：指導回数の増加） 成果指標（給食時によくかんで食べる、衛生的な行動をする、食事のマナーを意識して食べる生徒の増加）</p> <p><栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修></p> <p>① 県内全域の地場産物・郷土料理をまとめた、給食の時間等に活用できる指導資料を作成し共有できたか。 （現状：地域ごとに作成、目標：石川県全体版の作成）</p> <p>② 経験年数が短い栄養教諭が質問しやすい環境となったか。 （現状：確立していない、目標：近隣ネットワークの構築）</p>
取組の内容	<p>【七尾市立七尾東部中学校】</p> <p>(1) 教科等の食に関する指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家庭科：「魚の調理（調理実習）」「肉の調理（調理実習）」 ● 保健体育：「食生活と健康」、学級活動：「偏りのない健康によい食事」
効果・今後の課題	<p>○ 食に関する指導の全体計画を見直し、栄養教諭が直接的な指導を行う場面を増やしたい。</p> <p>○ 保護者へのアクションや家庭に対する啓発活動等、実施方法や内容を検討していく必要があると考える。</p> <p>○ 中学校と比べ小学校では食文化を題材にした学習を行う場面が多いことから、小学校での指導を丁寧に行っていくことや、学校給食を通しての啓発活動を検討していきたい。</p> <p>○ 「簡易カルシウム自己チェック表」を活用するにあたっては、精度の高い食事調査との違いを説明することや、野菜や海藻、小魚等、多様な食品群をとってほしい、という目的もあることを踏まえて、更なる教材研究と指導方法を検討していきたい。</p>

(7) 長野県須坂市

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	長野県では、栄養教諭・学校栄養職員部会と連携し「児童生徒の食に関する実態調査」を実施し、朝食欠食や栄養バランス等の課題や原因把握、指導方法の工夫等で一定の成果は出ているが、児童生徒の生活や食習慣の改善には継続した指導が必要となる。
取組の目標	① 1・2年生の目標：食べ物に興味関心を持ち、食品の名前がわかるようにする。みんなと仲良く食べるようにする。 ② 3・4年生の目標：食べ物は働きによって3つのグループに分けられることがわかる。好き嫌いなく食べることができるようになる。 ③ 5・6年生の目標：日常の食事に関心を持ち、バランスのとれた食事の大切さがわかる。食文化や食品の生産・流通・消費について理解を深める。 ④ 食育を通して、自分の健康管理のできる生徒を育成
評価指標	【仁礼小学校】 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる割合（「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：事前 66.2%→事後 67.2%） 【東中学校】 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる割合（「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：事前 58.6%→事後 64.7%）
取組の内容	【仁礼小学校】 各教科と連携した食育授業、親子クッキング、親子給食・栄養教諭講話・試食会及び食育講演会等を行う。 【東中学校】 食育講演会、自己データの見える化、生活習慣の見える化、各教科と連携した食育授業を行う。
効果と今後の課題	○ 小学校低学年 各学年で指導した内容が、学年別のアンケート結果にストレートに現れた。それぞれの学年で理解度も異なるため、単発の指導ではなく、家庭と情報共有を図りながら習慣化するための継続した指導を行っていく必要がある。 ○ 小学校高学年 学習内容をより深く理解するための教材等の工夫で「食」に関する意識を高めたことにより、意識や行動変容につながったと考えられる。家庭での実践を促すよう、学級担任や教科と連携した指導を継続する必要がある。 ○ 中学生 すべての項目で「はい」が増加し、「自分事」として課題を見つけ改善しようとする姿がみられた。各自の課題（成長、スポーツ、学力等）に応じた食に関する専門的な指導やアドバイスをもとに、知識を深め行動に移していると思われる。 ※小中の9年間を見通して、発達段階に応じ継続した指導をすることで、児童生徒の食に関する自己管理能力の育成につながることが分かった。

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>【須坂市の取組】</p> <p>(1) 市健康づくり課（須坂市食育推進計画の担当課）と目標を共有し連携 発達段階に応じた「めざす姿」「つける力」（育成目標）、学校や家庭、地域の役割を整理しリーフレットにまとめて保護者向け食育講話等で活用し、共通理解を図りながら推進している。</p> <p>(2) 教育委員会で食育授業の必須学年を設定（小4、中2、小1は親子給食と栄養教諭講話） 全学校で栄養教諭による食育を実施し、すべての子供たちが食育を受ける機会を確保（栄養教諭が所属校以外の教員と関わるきっかけができる）</p> <p>(3) 学校と学校給食センターの食育計画の連携（栄養教諭の年間活動計画を見える化） 各学校の行事や実情に応じた食育を、計画的・確実に実施可能</p> <p>(4) 教材・指導案の共有化 教育内容を均等化（2クラス同時に実施可能、全体のレベルアップを図る）、教材等準備の時間短縮、栄養教諭の人事異動後も継続可能等</p> <p>(5) 教育委員会のバックアップ 市費の管理栄養士を学校給食センターに配置、毎日の給食献立を市ウェブサイトで発信等、活動を支援</p> <p>【仁礼小学校の状況】 上記(2)による食育は実施していたが、「栄養教諭の所属校ではない」等の理由で、ほかの学年では栄養教諭は関わらない学校独自の取組を実施していた。</p> <p>【東中学校の状況】 上記(2)による食育は実施していたが、「栄養教諭の所属校でない」「食育に割く時間がない」等の理由からほかの学年では栄養教諭による食育は実施しておらず、生徒・保護者・教職員の意識が食育に向かない傾向があった。</p>
取組の目標	-
評価指標	事業参加後に自身の指導に生かした回数
取組の内容	<p><栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発></p> <p>(1) 各学校が「食に関する指導の全体計画」を作成しており、栄養教諭が所属校以外の学校にアプローチしやすい体制になっているが、他校に比べ栄養教諭と連携した食育の機会が少ない学校を実施校に選定し、重点的に事業を展開する。事業前後の児童生徒の意識や行動の変容を見ることで、教職員の意識改革を図る。</p> <p>(2) 小・中9年間を通し発達段階を見据えた継続的な指導を市町村単位で組み立てていくことができないか、市の取組のプロセスや効果、また栄養教諭がどのように効果的に関わられるのか検証する。</p> <p>(3) 本事業の事業報告を、県内市町村教育委員会や食育関係機関に周知するほか、栄養教諭・学校栄養職員の研究協議会等で発表し、他地域への普及を図る。</p> <p><栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修></p> <p>(1) 新規採用者等がモデル事業の一部に「実地研修」という形で参加し、計画から指導までの一連の流れに関わりながら、学校や関係機関との連携の取り方、指導の手法や実施方法等細部について直に学び、掴んだヒントをもとに教材となる献立の充実や自校における食育指導に生かす。</p> <p>(2) 今後の実地研修のあり方について検討する。</p> <p>(3) 経験の浅い栄養教諭と地域の栄養教諭が協働しながら事業に取り組むことで、受入れ側の栄養教諭の指導力のレベルアップ及び後進育成意識の醸成をする。</p>

効果と今後の課題	<p>＜栄養教諭の連携と指導力向上＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規採用者、任用替え栄養教諭（各1名） <ul style="list-style-type: none"> ● 実施校において実施された食育関連事業に参加（3回） ● 参加後の指導回数（新規採用：小学校4回、任用替え：中学校2回） ● 指導回数は目標に達しなかったが、子供たちが関心を寄せる教材や声かけの工夫、学級担任との連携やコミュニケーションの取り方等、本事業で具体的に掴み、そのヒントを自校で実践しようとする意識の向上や行動変容につながった。 ○ 近隣栄養教諭（2名） <ul style="list-style-type: none"> ● 実施校において実施された食育関連事業に参加（3回） ● 須坂市栄養教諭と評価の研修を受講（本事業の評価・検討を一緒に行った。） ● 学校における食育を推進するには、学校だけでなく行政や関係機関との「連携」が重要であることに改めて気づき、自身の市町村においても、小中9年間の成長を見通した継続した食育や、教科横断的な視点で指導につなげること等、広い視野で食育を進める必要性や指導手法も学ぶことができた。 <p>＜学校・教職員の変化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教頭がキーマンとなり、栄養教諭と連携する教科や担当者との橋渡し役として協力。窓口が明確化し、管理職が関わることで学校全体の進捗管理が可能となり、「食」を教科横断的な視点で取り入れ、児童生徒のより深い学びにつながったことを教職員が実感したことで、「食育」に対する意識が変わり理解が進んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「豊かで健やかな児童生徒を育てたい」という目標を関係機関が共有 ● 市教育委員会が主体となり、学校における食育推進体制を構築 ● 全児童生徒が食育を受ける機会を創出（栄養教諭の活動を支援） ● 各教科と連携し深い学びにつなげ、目標達成に向け連携 <p>＜研修報告より＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の栄養教諭の連携を深め、お互いの授業視察や指導案等の共有化等を行いながら資質向上に努めていく。
----------	--

(8) 静岡県裾野市

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>＜裾野市の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝食摂取率は高いが、食事内容、共食、食事マナーに課題。（朝食摂取率 98%、栄養バランスのとれた朝食摂取 37%、朝食を子供だけで食べる割合 43%、食事の際のあいさつ 78%） ○ 食育に関心はあるが家庭で取り組まれている。（家庭で食育に関心がある割合 63%、栄養バランスに配慮 76%、大人の食事の際にあいさつ 44%） ○ 農業が盛んで地域と連携した食農体験が行われている。（主な農産物はモロヘイヤ、いちご、米、茶等。地産地消へ関心がある割合 74%） ○ 食育を通じた児童の正しい食生活を見直し、家庭における食事の環境づくりの支援が必要。 ○ 地域ぐるみで子供たちを育てる体制づくりが課題。 <p>＜実施校の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食育の指導体制は、食に関する指導の全体計画は整備されているものの、計画に沿って実践できていないところがある。 ○ 食育の評価方法は、授業等の実践後の児童の変容により評価は行っているものの、客観的な指標等による評価方法は確立されていない。
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 静岡特産のお茶を飲み、お茶の味、機能性を学ぶことを通して、食に関する理解を深め、日常生活における実践力を身に付けるとともに、お茶の歴史、文化等を学ぶことで郷土への愛着を高める。 ○ 親も子もともに静岡茶について学び、家庭でお茶を飲むことで共食の機会を増やし、家庭の教育力を高める。
評価指標	<p>【共通指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 朝食をほとんど毎日・週に4～5日とする割合（「ほとんど毎日」と「週に4～5日」の合計：事前 94.4%→事後 94.6%） ② 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる・どちらかといえどとる割合（「はい」と「どちらかといえればはい」の合計：事前 72.9%→事後 75.4%） ③ 一緒に生活する人と一緒に朝食をほとんど毎日・週に4～5日とする割合（「ほとんど毎日」と「週に4～5日」の合計：事前 75.3%→事後 71.4%） <p>【東小学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 朝食をとっている割合（事前 97.2%→事後 98.7%） ② 栄養バランスのとれた朝食をとっている割合（事前 27.7%→事後 33.2%） ③ 朝食を大人と一緒に食べる割合（事前 37.2%→事後 38.7%） ④ 裾野市でお茶を生産していることを知っている割合（事前 80.8%→事後 88.4%） ⑤ 家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合（事前 29.2%→事後 28.5%） <p>【富岡第一小学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 朝食をとっている割合（事前 98.1%→事後 97.1%） ② 栄養バランスのとれた朝食をとっている割合（事前 34.2%→事後 43.5%） ③ 朝食を大人と一緒に食べる割合（事前 49.4%→事後 49.9%） ④ 裾野市でお茶を生産していることを知っている割合（事前 65.8%→事後 74.6%） ⑤ 家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合（事前 38.4%→事後 39.3%）

取組の内容	<p>【東小学校】</p> <p>(1) 4年生では、栄養教諭、保護者と連携し、おいしいお茶の淹れ方教室、茶摘み体験、手もみ茶体験、茶道教室を、5年生では茶道教室、6年生ではキャリア教育の一環として日本茶インストラクターによる講話を行った。</p> <p>(2) 5年生で、加熱用調理器具を学ぶ際に栄養教諭によるお茶の淹れ方を体験、炊飯実習では栄養教諭、保護者が参画し、児童が炊飯したごはんの試食に合わせ、お茶を使った料理の試食を行った。</p> <p>(3) 学校と家庭をつなげるため、PTAの家庭教育学級において、製茶店主によるお茶に関する講話、お茶の淹れ方指導、お茶の料理教室、お茶生産者によるお茶の飲み比べ、冷茶作り等を保護者が実際に体験し、学校の学びを家庭における実践につなげた。</p> <p>【富岡第一小学校】</p> <p>(1) 3、4年生では、栄養教諭と連携し、茶摘み体験、手もみ茶体験、お茶の淹れ方体験、お茶に関する調べ学習等、お茶に関するさまざまな取組を行い、新聞等にまとめた。</p> <p>(2) 5年生では、日本茶インストラクターを講師に、お茶について学び、お茶の淹れ方を体験した。</p> <p>(3) 4年生は社会科見学で、「ふじのくに茶の都ミュージアム」へ行き、お茶の歴史や栽培、製茶方法等について学び、総合的な学習の時間の学習と連携した。</p> <p>(4) 4年生は、茶道の講師を招き、教室に畳や床の間を用意して、本格的な雰囲気の中で、お茶の作法や文化に触れる茶道体験を行った。</p> <p>(5) 6年生、保護者、教職員を対象に、学校保健委員会「めざせ！お茶博士～お茶のヒミツを探る～」で、保健委員会による児童アンケートの報告、ふじのくに茶の都ミュージアム副館長、学校医及び学校歯科医によるお茶の健康効能等の講話が行われた。</p> <p>(6) 児童会行事「富っ子のつどい」で、4年生が総合的な学習の時間で学んだお茶に関する事柄を、他学年の児童や保護者に伝えた。</p> <p>(7) 学校と家庭をつなげるため、PTAの家庭教育学級において、地域の製茶店主を講師に招き、親子でおいしいお茶の淹れ方を学び、実際に淹れ方を体験し、家庭での実践につなげた。</p>
-------	---

効果	<p><共通指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝食摂取状況について、各校の栄養教諭が朝食啓発リーフレットを活用した朝食指導、給食だより等により啓発したことにより、朝食をほとんど毎日・週に4～5日とる割合が94.4%から94.6%と増加したと考えられる。 ○ 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる・どちらかといえどとる割合が72.9%から75.4%に増加したことについては、栄養教諭による家庭科における朝食指導、日々の学校給食を生きた教材として活用した指導の成果によるものと考えられる。 <p><独自指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各校学校において、体育科、家庭科、総合的な学習の時間等にお茶をツールとして食に関する指導に取り組み、また、栄養教諭が専門性を活かして、朝食指導、給食の時間における指導（食事のマナー等）、給食だよりの配布等を行い、評価指標の改善を図った。さらに、学校でお茶を飲む機会を冬季に設定し、学びの定着を図った。評価指標の目標値に達することはできなかったが、多くの項目において、事前結果の数値より改善した。 ○ 東小学校では、特に家庭とのつながりに成果があった。PTAの家庭教育学級でお茶に関する講座を開催することで保護者の意識を高めることができた。そこでの学びを家庭で実践するだけでなく、総合的な学習の時間ではお茶の淹れ方、家庭科では調理実習に参画し、学級担任や栄養教諭を支援していた。 ○ 富岡第一小学校では、特に地域とのつながりに成果があった。地域の茶畑を学びの場として提供してもらい、そのお茶を使った手もみ茶体験、給食の時間における冷茶の提供等、行うことができ、今後も継続して取り組む体制が整った。
今後の課題	<p><共通指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一緒に生活する人と一緒に朝食をほとんど毎日とる・週に4～5日とる割合が75.3%から71.4%へ減少したことについては、朝食指導や給食の時間における指導等で食事内容に重点をおいた指導となっており、家族との共食は講話の中で少し触れる程度となっていたためと考えられる。今後は、家族との共食を改善する指導について工夫する必要がある。 <p><独自指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東小学校の課題としては、家庭教育学級に参加する保護者は、もとより学校への関心が高く、協力的な保護者が多いため、学びのつながりを広げることができたが、そうでない家庭とつながりを強くすることが継続及び発展のカギであり、その工夫が求められる。 ○ 富岡第一小学校の課題としては、当校の校区は、自分の家庭で飲む分の茶葉は、所有する茶畑で賄っている家庭があり、お茶が身近なものとなっているため、学校で教材として扱うには工夫が必要であり、栄養教諭による魅力的な教材の開発が期待される。

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>＜実施校の栄養教諭間の連携の状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 月に約1回、市の栄養教諭や学校栄養職員等が集まって研修する市の栄養士会において、学校給食管理全般については協議しているが、食に関する指導に特化した協議の機会がない。 ○ 市内の栄養教諭が情報共有する機会はあるが、食育の実践内容及び回数は学校及び栄養教諭間に差があり、市内の児童に統一的な内容で指導を実施できていない。 			
取組の目標	<p>栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発については、食に関する指導の計画の作成・運営について、指導部を活用し、より具体性のある計画及び評価方法を整備する。</p> <p>栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修については、実施校の栄養教諭間で連携して、お茶を教材とした食に関する指導について検討し、実践する。また、次年度の食に関する指導の全体計画に、お茶を教材とした食に関する指導を位置付ける。さらに、実施校間で、ゆっくりよくかんで食べるや日本型食生活等、統一的な教材を検討し、給食だよりを作成する。</p>			
評価指標	評価指標	事前	事後	目標
	お茶を教材とした食に関する指導の実践回数	0回	複数回実施	前年度以上
	食に関する指導の全体計画への位置付け	なし	あり	位置付ける
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東小学校は食に関する指導の計画の作成・運営について、健康指導部会（毎月実施）を活用し、食に関する指導の月目標、行事等の資料を栄養教諭が配布し、各学年に伝達するとともに、食に関する指導の全体計画で予定している指導の時期が近づくと、栄養教諭が関係職員に声かけをして確実な実施に努めた。 ○ 富岡第一小学校は、食に関する指導の計画の作成・運営について、東小学校同様、指導部会（隔月実施）を活用し、食に関する指導の月目標、行事等の資料を栄養教諭が配布し、各学年に伝達するとともに、食に関する指導の全体計画で予定している指導の時期が近づくと、栄養教諭が関係職員に声かけをして確実な実施に努めた。 ○ 共通教材の活用、市内の栄養教諭で共有しているフォルダの活用、市内栄養教諭等研修会の活用により連携を図った。 ○ 小学5年生の家庭科では、食育啓発リーフレット「朝ごはん食べていますか？」（静岡県教育委員会発行）を活用し、学級担任とのT・Tにより、五大栄養素や3つの食品のグループを学習するとともに、朝食指導を行った。学校給食では、静岡茶を使った料理のレシピを共有し、5月から1月にかけて、毎月献立に登場させた。冬季のインフルエンザ流行期に合わせて全校児童にスティック茶を配布し、学校で静岡茶を飲む機会を確保する際には、学級担任、養護教諭と連携し、お茶の健康効能等の講話を実施し、静岡茶を飲む習慣づくりのきっかけとした。その他、箸の使い方等の食事マナー、和食等、給食だより、給食の時間の放送原稿を共有した。 			
効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修においては、実施校の栄養教諭は、お茶の文化、歴史、健康効能、栄養成分等の知識だけでなく、お茶の淹れ方を指導できるスキルを獲得するため、日本茶アドバイザーの資格を取得し、積極的に栄養教諭としての資質向上に努めることができた。 ○ 学校の食育は、栄養教諭が中核となって行われるものであり、お茶の食育を推進するためには、栄養教諭の活躍が必須である。実施校の栄養教諭はその役割を担うことを自覚し、意欲的に自らの資質向上に努めた。また、校内職員とのつながりを強くするため、校内指導部会への参画、給食の時間の学級訪問、授業前の綿密な打ち合わせ等、積極的に関わり、食に関する指導の校内体制の整備を図っていた。 			

今後の課題	○ 本事業で得た協力体制を維持するために、より実効性のある食に関する指導の全体計画の作成及び運営等の検討が必要であり、校内及び市教育委員会担当者と協力してその資質向上を図るための研修体制を整備することが必要である。
-------	---

(9) 三重県立松阪あゆみ特別支援学校・三重県立聾学校

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>【松阪あゆみ特別支援学校】</p> <p>子供たちの障がいの程度は、軽度から重度と幅広く、小学部から高等部の各学部において発達段階に応じた教育を展開している。</p> <p>子供たちの実態については、障がいの特性からこだわりが強く偏食の者が多い。また、家庭環境や運動不足が原因で肥満傾向の者も多い。</p> <p>食育の指導に関しては、授業が単発的であったり、個々の担任でそれぞれ取り組んでいたりする等、上手く連携できていないところがあるため、連携の強化や系統立てた指導に取り組める体制づくりが必要である。</p> <p>【聾学校】</p> <p>聴覚に障がいのある、幼稚部から高等部・高等部専攻科までの子供たちが通う学校である。聴覚以外の重複障がいを持つ子供も在籍する。</p> <p>子供たちの実態については、偏食の者や給食を残す者が多い。また、口を閉じて噛むこと、箸使い、食べる時の姿勢等、食事マナーが身に付いていない者も多い。</p> <p>食育の授業については、栄養教諭の関わりは単発的で、栄養教諭に任せきりな傾向がみられるので、学校全体で共通理解を図り、連携して取り組む必要がある。</p>
取組の目標	① 子供たちの食に関する興味・関心の高揚及び自己管理能力の育成
評価指標	<p>① ゆっくりよくかんで食べている</p> <p>【松阪あゆみ特別支援学校】</p> <p>(「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：[幼稚部・小学部] 事前 37.2% → 事後 40.0% [中学部] 事前 50.0% → 事後 61.8%)</p> <p>【聾学校】</p> <p>(「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：[幼稚部・小学部] 事前 51.3% → 事後 66.7% [中学部] 事前 58.8% → 事後 64.7%)</p> <p>② 食事のマナーに気を付けている</p> <p>【松阪あゆみ特別支援学校】</p> <p>(「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：[幼稚部・小学部] 事前 34.3% → 事後 43.4% [中学部] 事前 60.5% → 事後 74.7%)</p> <p>【聾学校】</p> <p>(「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：[幼稚部・小学部] 事前 76.9% → 事後 82.0% [中学部] 事前 76.5% → 事後 88.3%)</p> <p>③ 感謝の気持ちを持って食事をしている</p> <p>【松阪あゆみ特別支援学校】</p> <p>(「とてもしている」と「している」の合計：[幼稚部・小学部] 事前 60.6% → 事後 83.3% [中学部] 事前 83.3% → 事後 82.4%)</p> <p>【聾学校】</p> <p>(「とてもしている」と「している」の合計の合計：[幼稚部・小学部] 事前 82.0% → 事後 82.0% [中学部] 事前 88.2% → 事後 100.0%)</p> <p>④ 給食喫食率の増加</p> <p>【聾学校】</p> <p>([幼稚部・小学部] 6月 21.0% → 12月 8.0% [中学部] 6月 28.0% → 12月 16.0%)</p>

取組の内容	<p>(1) 実施校2校には、言葉による説明を理解したり、想像したりすることが難しい子供たちが多く在籍している。そのため、視覚支援や体験活動が非常に重要とされる。そこで、地域で食に携わっている人々との出会いや体験活動を通して、子供たちの食に関する興味・関心を高めたいと考えた。また、実施校の教職員は、食事マナーが身に付いていない子供たちが多いことが気になっていた。子供たちが持つ障がいの影響もあるが、これから社会へ出て、さまざまな人々と生活をともにすることを考えると、食事マナーを身に付け、みんなで楽しく食事ができる人に育ってほしい。このような願いから、食事マナー学習も重視して取り組むことにした。</p> <p>(2) 家庭とのつながりについては、担任を中心に日ごろから連絡を密に取り合っているが、食の視点で更につながることができれば、食育の取組がよりよいものになると考えた。そこで、子供たちが毎日食べる学校給食を大いに活用し、情報発信することにした。また、地域とのつながりについては、小・中学校のように地域ボランティア等の活用もなく、これまでつながるきっかけを持てずにいた。</p>
効果	<p><児童生徒について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よく噛んで食べるメニューの紹介や調理実習、RDテストによる、見てわかる口腔内チェック、咀嚼チェックガムやかみかみセンサーの活用等、養護教諭と連携して、子供たちが噛むことを意識できる取組をしたが、アンケート調査では、望ましい変化がみられなかった。 ○ 命をいただくということ、食事マナー、給食時のルール作り等、主に栽培活動、出前授業や食育講演会、学級活動で取り組んだが、アンケート調査では、望ましい変化がみられなかった。「正しい箸の持ち方・使い方ができていますか」のように事後アンケート結果の数値が下がった設問、学部があった。しかし、教職員のアンケートの記述内容には「マナーの悪さに気付く場面や自分たちで食事を楽しくとろうと意見を出す姿がみられるようになった」「配膳がきれいになった」「生徒同士で給食を残す生徒を注意し合う姿がみられた」「調理員へ声かけをする様子が多くみられた」という声があり、取組の成果を感じている教職員がいることが分かった。 <p><保護者について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 給食試食会やたよりを通して、子供たちの様子や給食献立、使われている食材について紹介してきたが、アンケート調査の数値には、望ましい変化がみられなかった。しかし、アンケートの記述内容には、充実した給食に対する感謝の気持ちが多く述べられていた。 ○ 本事業をきっかけに、親子料理教室や食育講演会、出前授業等、家庭や地域とつながることを意識して取り組んだ。親子料理教室と食育講演会については、保護者からの反響が大きく、「また開催してほしい」という声が多く寄せられた。また、教職員は、食育講演会をきっかけに、保護者と教職員が共通認識を持ち、子供たちに関わることの大事さを実感することができた。

今後の課題	<p><児童について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業で取り組んだり、他人から指摘されたりした時だけ意識してよく噛むのではなく、普段からよく噛んで食べる習慣が身に付くよう、根気強く声かけする等、継続して取り組んでいく必要がある。また、保護者のアンケートの記述内容より、家庭での子供たちの会話からよく噛む取組を知り、興味を持つ保護者がいることが分かった。今後も引き続き、たよりや行事等で発信し、家庭と連携して取り組む必要がある。 ○ 子供たちは、事業の取組以前は「正しく箸を使えている」「マナーを守っている」と思っていたが、その後の学習で「できていない」「マナーを守れていない」ことに気付き、事後アンケートではそれが低い評価につながったのではないかと考えられる。 <p><保護者について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域とのつながりの機運を大切に、家庭と連携し、子供たちの障がいの特性等を考慮した食に関する指導の方法を検討していく必要がある。また、子供たちのアンケートの記述内容から、こういった取組が印象に残っていることが分かり、食への関心を高めるのに有効であったと考えられる。引き続き、地域の人々との出会いや体験活動を通じて、つながりを広められる取組を進める必要がある。
-------	---

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上


現状と課題	学校における食育の推進については、三重県全体の課題として、まだまだ栄養教諭に任せきりになる傾向があることが挙げられる。また、栄養教諭の研修については、県内特別支援学校は県内各地に散在するため、なかなかお互いの授業を参観する機会を持ってない。ましてや市町小中学校の栄養教諭とは、ほとんど交流する機会がない。
取組の目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 栄養教諭と教職員の連携及び指導力の向上 ② 家庭や地域との食を通したつながりの醸成
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能している 【松阪あゆみ特別支援学校】 （「できている」：事前 9.4%→事後 10.7%） 【聾学校】 （「できている」：事前 15.4%→事後 16.7%） ② 栄養教諭が計画どおりに授業参画できている 【松阪あゆみ特別支援学校】 （「できている」：事前 4.8%→事後 16.2%） 【聾学校】 （「できている」：事前 10.9%→事後 20.0%） ③ 教科等の目標に準じ授業を行い、評価基準により評価できている 【松阪あゆみ特別支援学校】 （「できている」：事前 6.3%→事後 10.8%） 【聾学校】 （「できている」：事前 10.2%→事後 8.0%） ④ 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができている 【松阪あゆみ特別支援学校】 （「できている」：事前 4.7%→事後 13.5%） 【聾学校】 （「できている」：事前 12.0%→事後 7.5%）

取組の内容	<p>(1) 講演は、「特別な支援を必要とする子どもへの食育について」と題し、障がいの特性によるこだわりや偏食傾向の事例等を通して、具体的に改善する手立てについて学ぶ内容であった。また、保護者と教職員が共通認識を持つよい機会になった。</p> <p>(2) 松阪あゆみ特別支援学校では、メンバーが2チームに分かれ、実施校の所在地である松阪市と津市の地産地消メニューを考案し、調理実習をした。試食後、給食に活用しやすくするため、考察した。</p> <p>(3) 聾学校では、近隣市町小・中学校の栄養教諭等を招き、開発したメニューのお披露目会を実施した。メニューについて、食材のほか、給食に活用する際の工夫点もアピールすることができた。また、試食しながら、交流することができた。</p>
効果	<p>○ 「教科等の学習内容に『食育の視点』を位置付けることができているか」について、「できている」「概ねできている」と回答した教職員が、46.9%から56.0%（2校平均）に増加した。本事業を受けるにあたり、職員会議や研修会で子供たちの実態から見えてくる課題を共有し、目標を定めて取り組んだことの表れであると考えられる。</p> <p>○ 「学校で食育を行うことは、幼児・児童・生徒の成長にとって重要だと思うか」という問いに対し、事前・事後アンケートとも、重要と思う教職員がほとんどであった。「教員同士の連携体制が構築され、食に関する指導が行われているか」について、「できている」「概ねできている」と回答した教職員が、52.6%から76.7%に増加した。</p> <p>○ 地産地消メニューの開発や公開授業を実施した。開発したメニューについては、参加者が所属するすべての学校で、給食として提供することができた。公開授業については、指導案検討や参観を通じて得られることが多いと反響があった。</p>
今後の課題	<p>○ 本年度の事業をきっかけに、教職員の食育に関する意識が高まり、連携も強化されつつある。今後は、小学部（幼稚部）から高等部（高等部専攻科）までの子供たちが通う特別支援学校の特性を生かし、12年間を見通した指導を更に充実させる必要がある。</p>

(10) 奈良県橿原市

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

現状と課題	<p>【畝傍東小学校】</p> <p>○ これまでの食育の取組状況</p> <p>栄養教諭が参画し、学校給食を「生きた教材」として活用しながら、担任と連携して生活科・保健・家庭科・特別活動等、各学年の教科と関連した食に関する指導を行ってきた。</p> <p>○ 学校の課題</p> <p>低学年では食経験が浅く、食べ慣れないものを口にしない児童もあり、給食の残量が多い。朝食摂取状況は、「食べない」「食べない日が多い」と答えた児童が全体の約8%であり（平成29年度奈良県における児童生徒の食生活等実態調査）、前回調査（平成25年度）より増加している。学校での食に関する指導だけでは児童の変容は難しく、家庭での食事や生活習慣を考える機会を持つように働きかける部分が十分ではなかったため、児童のみならず「家族みんなが健康に過ごすこと」を実現できる環境づくりとして、家庭と連携して規則正しい食習慣・生活習慣の定着を目指す必要があると考える。</p> <p>【橿原中学校】</p> <p>○ これまでの食育の取組状況</p> <p>新規採用で着任し、中学校での食育をどのように進めていくべきなのか悩みながら、家庭科教諭と連携し、家庭科の調理実習の中で、食に関する指導を実施してきた。また、給食時間の指導に加え、献立紹介や食育だよりを配布したり、給食委員会や部活動を通した食育活動を実施したりしている。</p> <p>○ 学校の課題</p> <p>毎日教室に掲示している献立表を見て、給食を楽しみにしている生徒が多い一方で、好き嫌いのある生徒も多く、特に野菜や海藻類、きのこ類、豆類等が入った副食の残量は多い傾向にある。また、毎年6月に実施する校内食生活アンケート調査の結果によると、朝食を「食べない」「食べない日が多い」と答えた生徒は10.5%であり、県内や全国と比較しても高く、朝食を食べると答えた生徒のうち、「主食のみ」と答えた生徒は25.7%で最も多く、主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べている生徒は全体の15.1%にとどまっている。このことから、学校教育活動全体で食育を充実させ、家庭を巻き込んだ取組が必要であると考え。</p>
取組の目標	<p>栄養教諭が中核となり、学校給食を「生きた教材」として活用しながら教員と連携し、家庭・地域・関係団体等を巻き込んだ食育プログラムの構築と教材開発を行う。そして、県内に広く発信し、効果的な食育活動を展開することで、児童生徒が健全な食習慣を形成することを目指す。</p>
評価指標	<p>① 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる</p> <p>【畝傍東小学校】</p> <p>（「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：1回目 68.3%→2回目 67.1%）</p> <p>② 朝食を毎日食べる</p> <p>【畝傍東小学校】</p> <p>（「ほとんど毎日」：1回目 91.4%→2回目 87.7%）</p> <p>【橿原中学校】</p> <p>（「ほとんど毎日」：1回目 80.6%→2回目 79.8%）</p> <p>③ 主食、主菜、副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上ある</p> <p>【畝傍東小学校】</p> <p>（「ほとんど毎日」：1回目 69.8%→2回目 65.9%）</p> <p>【橿原中学校】</p> <p>（「ほとんど毎日」：1回目 62.6%→2回目 64.3%）</p> <p>④ 食事の際に衛生的な行動をとる</p>


	<p>【樫原中学校】 （「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：1回目 88.5%→2回目 92.8%）</p> <p>⑤ 食事マナーに気を付けている</p> <p>【樫原中学校】 （「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：1回目 90.1%→2回目 93.2%）</p> <p>⑥ 1食あたりの食塩相当量の月平均量（奈良県地場産物等実態調査）</p> <table><tr><th>校種</th><th>平成 30 年度実績 （年間平均）</th><th>実施後実績 （令和元年 4 月～ 令和 2 年 2 月平均）</th></tr><tr><td>小学校</td><td>3.0g</td><td>2.5g</td></tr><tr><td>中学校</td><td>3.7g</td><td>3.3g</td></tr></table> <p>⑦ 学校給食における地場産物等活用の割合（奈良県地場産物等実態調査）</p> <table><tr><th>期間</th><th>小学校</th><th>中学校</th></tr><tr><td>平成 30 年 6 月第 3 週目</td><td>8.3%</td><td>8.2%</td></tr><tr><td>平成 30 年 11 月第 3 週目</td><td>7.2%</td><td>7.1%</td></tr></table> <div></div> <table><tr><td>令和元年 6 月第 3 週目</td><td>32.2%</td><td>32.2%</td></tr><tr><td>令和元年 11 月第 3 週目</td><td>37.2%</td><td>38.5%</td></tr></table>	校種	平成 30 年度実績 （年間平均）	実施後実績 （令和元年 4 月～ 令和 2 年 2 月平均）	小学校	3.0g	2.5g	中学校	3.7g	3.3g	期間	小学校	中学校	平成 30 年 6 月第 3 週目	8.3%	8.2%	平成 30 年 11 月第 3 週目	7.2%	7.1%	令和元年 6 月第 3 週目	32.2%	32.2%	令和元年 11 月第 3 週目	37.2%	38.5%
校種	平成 30 年度実績 （年間平均）	実施後実績 （令和元年 4 月～ 令和 2 年 2 月平均）																							
小学校	3.0g	2.5g																							
中学校	3.7g	3.3g																							
期間	小学校	中学校																							
平成 30 年 6 月第 3 週目	8.3%	8.2%																							
平成 30 年 11 月第 3 週目	7.2%	7.1%																							
令和元年 6 月第 3 週目	32.2%	32.2%																							
令和元年 11 月第 3 週目	37.2%	38.5%																							
取組の内容	<p>【畝傍東小学校】</p> <p>(1) 食に関する指導の全体計画と食育プログラムに基づいた指導</p> <p>[1 年]</p> <ul style="list-style-type: none">● 「きゅうしょくができるまでをしよう（食育プログラム）」● 「たべもののなまえをしよう（食育プログラム）」● 「そだてただいずで、きなこをつくろう（生活科との関連）」 <p>[2 年]</p> <ul style="list-style-type: none">● 「やさいとなかよしになろう（食育プログラム）」● 「さつまいもパワーを知ろう（生活科との関連）」● 「そだてたさつまいもで、ちゃきんしぼりを作ろう（調理実習）」● 「食べものはたらきを知ろう（食育プログラム）」 <p>[3 年]</p> <ul style="list-style-type: none">● 「大豆はかせになろう（食育プログラム）」● 「生活リズムをととのえよう（食育プログラム）」 <p>[4 年]</p> <ul style="list-style-type: none">● 「カルシウムの働きを知ろう（食育プログラム）」● 「食生活を考えよう（食育プログラム）」 <p>[5 年]</p> <ul style="list-style-type: none">● 「野菜を食べよう（食育プログラム）」● 「毎日の食事と栄養素の働きについて知ろう（家庭科）」 <p>[6 年]</p> <ul style="list-style-type: none">● 「生活習慣病を予防しよう（食育プログラム）」● 「くふうしよう おいしい食事（家庭科）」● 「目覚ましスイッチの入る朝ごはんを考えよう（家庭科）」 <p>(2) 学習したことの確認、加えて児童の食への興味関心を更に高めるため、学習内容に合わせた掲示物を作製した。</p> <p>(3) 給食週間のテレビ放送等、給食委員会が中心となって、学校給食を通した食育活動を行った。</p>																								

	<ul style="list-style-type: none"> ● ポスター製作 ● 「給食標語」の募集 ● 残量調べ ● 給食週間のテレビ放送 <p>(4) 学習の事前アンケートやワークシート、休み中家庭科の宿題において、保護者からコメントをもらうことで、家庭を巻き込んだ取組を行った。また、朝食や減塩をテーマに食育活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● P T A給食試食会開催（1年生保護者対象） ● 夏休み親子料理教室開催 「夏野菜たっぷり！親子で休日の朝ごはんを作ろう！」 ● 休日参観で食育講演会を実施 <p>(5) 職員とつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 担任と連携して指導案や教材の検討を行い、食育プログラムを実践した。 ● 民間委託調理員と協力して、毎月「ラッキー人参の日」を実施し、学校給食週間中の取組にも連携した。 ● 食物アレルギー対応研修会でエビペントレーナーを使った講習を実施した。 ● 給食指導を徹底（マナー、時間、配膳の位置、残食の減少等）した。 <p>(6) 地域とつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● P T A家庭教育学級の料理講習会に市食生活改善推進員よりレシピ提案、調理指導の協力を得た。 ● 学校ウェブサイトで、食育の取組を紹介した。 ● 地域ボランティアとの交流給食（毎年2月） ● 市内の米農家さんをゲストティーチャーに招き、3年生社会科で「地産地消を知ろう」の学習後、交流給食も実施した。当日は、給食に橿原市産の米を使用し、「和食の日の献立」を提供した。 ● 3年生の総合的な学習の時間に、J Aならけんと地域ボランティアの方々に指導と協力をいただき「大豆の植え付け」を実施した。 <p>(7) 団体とつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【5年生 「味覚の授業」】 「味覚の一週間」委員会事務局・奈良県日本調理技能士会の協力を得た。プロの料理人から、“五味・五感で味わうことの大切さ”を教えていただき、昆布とかつお節でとったおいしいだしを試飲して、“うま味”を体感した。 ● 【3年生 総合的な学習の時間「豆腐作り体験」】 3年生は6月に大豆を植え付け、国語科や食に関する指導で大豆についての学習を重ねてきた。さらに天理市の豆腐製造業者に協力をいただき、収穫した大豆を使って豆腐作りの体験を行った。 <p>【橿原中学校】</p> <p>(1) 家庭科における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【1年「食中毒の予防」「奈良県の郷土料理」の調理実習】 奈良県の食文化や郷土料理をテーマとした食育講演会を2学期に実施し、その発展学習として「奈良県の郷土料理の調理実習」を毎年3学期に実施している。 <p>(2) 保健体育科における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【3年「食生活と健康」】 健康に過ごすためには、食生活が大切であることを指導した。朝食摂取前後のサーモグラフィー、朝食と学習集中力との関係のグラフ、朝食アンケート結果を示して、朝食を食べる大切さについて改めて理解を深めるよう働きかけた。
--	---

	<p>(3) 「朝ごはん指導計画」を活用し、1年生を対象にチャレンジタイム（朝の会）で朝食の大切さについて指導を行った。朝ごはんが体に与えるよい影響や、自分たちで朝ごはんのバランスをよくする方法等を学習した。</p> <p>(4) 給食時間における食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 掲示物の配布：全クラスに「献立紹介」を配布し、教室に掲示している。 ● 校内放送の活用：放送委員会の常時活動として、毎日の給食時間に、市内の栄養士が分担して作成している「給食カレンダー」を放送している。 ● 賞状の配布：学期末には、給食を残さないように意識して食べているクラスを対象に、3つの部門の表彰を行い、次学期への給食を残さず食べる意欲につなげた。 <p>(5) 「チャレンジ部」は、活動理念「生徒のしたいことを、なんでもチャレンジする部活」として、野菜栽培や調理実習、ボランティア活動等、多岐にわたって活動している。</p> <p>(6) 生徒に望ましい食習慣を身に付けるためには、家庭の食生活が重要であることから、保護者へ食に関する情報を発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食育だよりの発行 ● 給食試食会の実施 <p>(7) 職員とつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 給食指導や食育の取組 給食時間の約束等を全校で統一するため、職員会議や職員朝礼で協議し、共通理解を図っている。また、掲示資料を配布して生徒へも周知している。 ● 食育プログラムの実践 食育プログラムに沿って教科担任と連携し指導案や教材の再検討を行い、実践した。 ● 民間委託調理員との連携 「ハッピー人参」を実施して、楽しい給食の時間を過ごせるようにしている。 ● 給食週間の取組 給食が安全においしく作られていることを生徒に知らせるため調理室のビデオ撮影、調理員さんインタビュー、調理道具の紹介等を行った。 <p>(8) 地域とつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1年生「総合的な学習の時間」 大和野菜である「大和まな」の生産者をゲストティーチャーとして招き、大和まなの特徴や地産地消について学習した。農業の大変さを知る機会にもつながった。 ● 1年生「食育講演会」 食育アドバイザーを迎え食育講演会を実施した。 ● 生徒たち自身が「食の传承人」として食文化を継承できるよう、奈良県の食文化や郷土料理、給食の歴史について学習した。この講演会后、「奈良県の郷土料理」の調理実習を実施した。 <p>【橿原市教育委員会】</p> <p>(1) 減塩の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調理従事者へ減塩の意識付け 市内全給食施設に塩分濃度計を配布し、毎日塩分濃度の測定を行い記録した。 ● 旨味を活かす献立作成 費用面を考慮しながら、天然の昆布や削り節でだしをとり、調味料の使用量を減らすことにつなげた。 ● 手作りで食塩の使用量を減らす
--	--

	<p>調理加工済みの煮魚や個包装のドレッシング、シチュー等のルウの使用を控えるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 減塩レシピの開発 市内栄養士 21 名で減塩をテーマにしたレシピ案を作成し、これをもとにしたメニュー開発をフードコーディネーターに依頼した。開発メニューの中から厳選した献立を、減塩レシピ集「Let's 減塩 Cooking!」にまとめ、減塩クリアファイルとともに市内の小中学校の児童生徒に配布した。 ● 学校給食調理員等研修会～減塩についての講演～ 講演内容「知って得する適塩多菜の食育学」 ● P T A 給食部の取組～食育講演会の開催～ 講演内容「楽しく食育！野菜の魅力とほど塩生活」 <p>(2) 樺原市内産、近隣市町産及び県内農産物の使用量と使用品目数の増加に向けて、推進会議やワーキング会議において協議し、J A ならけん・農民連・関係部局等と連携した取組を実施したことで、作付け段階から計画的に学校給食に取り入れられるようになった。</p> <p>(3) 栄養教諭等が中心となり、教科等横断的な視点を持った 9 年間の食育プログラムの開発と、使用する教材を作成し、食に関する指導の全体計画の改善に取り組んだ。</p> <p>(4) 小学校については朝ごはん指導計画を策定し、学年毎に作成した指導資料を市内の全小学校に配布し、各学級担任からの指導を実施した。中学校についても順次作成しており、作成済みのものから栄養士を中心に各学校において活用している。</p> <p>(5) 市広報に給食・食育特集掲載</p> <p>(6) 食育展《健康増進課・こども未来課と連携》</p>
効果と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校において、朝ごはん指導計画に基づく指導や朝ごはんをテーマにした食育講演会や親子料理教室の開催を行ったところ、朝ごはんを「毎日食べる」「週に 4～5 日食べる」と回答した児童及び保護者が増加し、改善がみられた。今後は、「週に 1 日程度」「ほとんどない」と回答している児童や保護者に対するアプローチを検討する必要がある。 ○ 食育プログラムに基づき、計画的かつ系統的に食事の重要性について学ぶ機会を持ったことにより、栄養バランスを考えて食事やおやつをとるかの設問に、「はい」「どちらかといえばはい」と答えた児童と保護者が増加した。ほかにも、主食、主菜、副菜を 3 つそろえて食べるかの設問についても改善がみられた。学んだ知識を実生活で生かす実践力につながったと考えられる。今後も実態に応じてプログラムを見直しながら、家庭を巻き込んだ、計画的で効果的な指導を続ける必要がある。 ○ 調理員が給食の汁物を塩分計で測定したり、学校給食従事者対象に減塩の研修を実施したりしたところ学校給食の食塩相当量が約 0.5g 減少した。学校給食従事者の減塩に対する意識改革が実現できたことから、今後学校給食摂取基準の目標値に向かって改善が期待できる。 ○ 学校給食の県内農産物の使用量と使用品目数の増加に向けて、J A ならけん・農民連・関係部局等と連携した取組を実施したことで、作付け段階から計画的に取り入れられるようになり、地場産物活用割合が目標値を達成した。

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発については、モデル地域の栄養教諭等の食育指導に係る取組時間数は、小学校が 69.9 時間、中学校が 18.5 時間であり、実践事例は中学校が少ない。これは、県内の他地域の中学校においても同様の傾向があり、中学校では「食に関する指導」に係る時間の確保が困難である。</p> <p>栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修については、県内において、経験の浅い栄養教諭等や市町村に一人配置の新規採用栄養教諭への給食管理や食育推進に関して業務に対するサポート体制が十分に確立されていない。</p>														
取組の目標	県内の栄養教諭等が協力・連携する体制を強化することで、給食管理や食に関する指導の更なる実践力の向上を目指す。														
評価指標	<p>① 実践校栄養教諭の食育指導に係る取組時間数（食に関する指導活動状況調査）</p> <table><tr><td>年度</td><td>畝傍東小学校</td><td>榎原中学校</td></tr><tr><td>平成 30 年度</td><td>96.2 時間</td><td>20 時間</td></tr></table> <p style="text-align: center;"></p> <table><tr><td>年度</td><td>畝傍東小学校</td><td>榎原中学校</td></tr><tr><td>令和元年度</td><td>104 時間</td><td>58 時間</td></tr></table>			年度	畝傍東小学校	榎原中学校	平成 30 年度	96.2 時間	20 時間	年度	畝傍東小学校	榎原中学校	令和元年度	104 時間	58 時間
年度	畝傍東小学校	榎原中学校													
平成 30 年度	96.2 時間	20 時間													
年度	畝傍東小学校	榎原中学校													
令和元年度	104 時間	58 時間													
取組の内容	①児童生徒の食に関する自己管理能力の育成の取組内容参照														
効果	<ul style="list-style-type: none">○ 栄養教諭が家庭科担当教員とともに指導を行い、また学級担任が給食指導の中で食事の日常的な指導を実施することで、食事の際に衛生的な行動をとるかの設問に、「はい」と答えた生徒が増加した。生徒の衛生管理に係わる行動変容は、学校全体で食育を取り組んだ成果と考えられる。○ 事業を活用し、実践校の栄養教諭と市内の栄養教諭等が協力しながらプログラムを作成し、実践につなげたことにより、学校全体での食育の推進に取り組んでいこうという体制が築かれたと言える。														
今後の課題	<ul style="list-style-type: none">○ 今後も食に関する指導の全体計画の見直しを行い、よりよい実践につながるよう組織として取り組んでいく。														

(11) 山口県宇部市

① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成

<p>現状と課題</p>	<p>【宇部市立上宇部小学校】</p> <p>○ これまでの食育の取組</p> <p>どの学年においても、担任と連携して食に関する授業を行っており、年間 60 時間以上の授業に参画している。学校の課題を解決するために、教職員や家庭に食に関するさまざまな情報提供を行い、外部団体の活動を学校の教育活動に取り入れる等、工夫を凝らした継続的な取組を行っている。</p> <p>○ 学校の課題</p> <p>保護者や地域は、学校の教育活動に大変協力的であるが、朝食で主食のみを食べている児童の割合が比較的高く、近年、朝食摂取率が減少傾向にある。児童は、嫌いなものを食べずに残す傾向がみられる。</p> <p>【宇部市立琴芝小学校】</p> <p>○ これまでの食育の取組</p> <p>栄養教諭が中心となり食に関する指導を進めている。栄養教諭が単独で行う授業は、年間 20 時間を超えている。各種たよりの発行回数も多く、保護者や地域の方を対象とした給食試食会も多く（平成 30 年度は 8 回）開催するなど、学校給食を活用した啓発活動に力を入れている。</p> <p>○ 学校の課題</p> <p>さまざまな方法で食生活の重要性を継続的に啓発しているが、一部に、望ましい食習慣についての意識付けが進まない現状がある。また、食育を小中学校で連携して取り組みたいところだが、共同調理場が配食する中学校と、この小学校からの接続校が違うため、ちぐはぐな状況が生まれている。</p> <p>【宇部市立新川小学校】</p> <p>○ これまでの食育の取組</p> <p>見て、触れて、考え楽しめるような給食掲示物を作成する等、体験活動を通じた食育の推進を目指している。食に対する関心が高い保護者が多く、朝食の摂取率は比較的高い。また、担任等と連携して、教科等での学習を給食の献立に結び付けて理解を深める工夫を取り入れている。</p> <p>○ 学校の課題</p> <p>調理場が学校から離れた場所に立地しており、巡回指導校も多く抱えているため、食に関する指導の打ち合わせ等の時間が取りにくい状況がある。栄養教諭が直接関わる給食時間も含めた一校あたりの食に関する指導の時間が少ない。</p> <p>【宇部市立船木小学校】</p> <p>○ これまでの食育の取組</p> <p>宇部市のブランド「万倉なす」の生産者を招いた授業や交流会を開催したり食品企業の出前授業を活用した親子活動を取り入れたりしている。また、そら豆の皮むき等の体験活動を通して食に対する興味関心を高めようとしている。</p> <p>○ 学校の課題</p> <p>地域では、米や野菜を生産しているが、校区には農家が少なく、学校での学習を家庭で実践する児童が少ない。朝食の摂取率は横ばい状態が続いており、摂取している内容も主食のみである児童の割合が多い。</p>
<p>取組の目標</p>	<p>「へら塩」（適塩学習）の取組を切り口に、学校が中心となって、家庭や地域、関係機関・団体と連携を深める校内の食育推進体制を充実させ、児童の食に関する自己管理能力の育成に向けた食育の効果を高める中で、そのコーディネート役を担う栄養教諭の資質向上も図る。</p>

評価指標	<p><共通指標></p> <p>① 一日や一週間の栄養バランスを考えている児童の割合（「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：6月 72.1%→12月 71.1%）</p> <p>② 朝食をほぼ毎日摂食する児童の割合（「ほとんど毎日」と「週に4～5日」の合計：6月 95.1%→12月 95.5%）</p> <p>③ 栄養バランスを考えた食事を毎日とっている児童の割合（「ほとんど毎日」：6月 67.9%→12月 69.7%）</p> <p><独自指標></p> <p>① 塩分の多い料理を控えるように心がけている児童の割合（「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：6月 68.8%→12月 72.6%）</p> <p>② 野菜を食べることを心がけている児童の割合（「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：6月 84.5%→12月 86.2%）</p>
取組の内容	<p>(1) 「へら塩」を題材とした授業</p> <p>(2) 体験活動を通した学び</p> <p>(3) 委員会を活用した児童から児童へのはたらきかけ</p> <p>(4) 親子給食試食会</p> <p>(5) 学校保健委員会での食育指導</p>
効果	<p>○ 「①塩分の多い料理を控えるように心がけている児童の割合」について、肯定的な回答（「はい」又は「どちらかといえばはい」を選択）をした児童の割合は、事業前の 68.8%から事業後は 72.6%に変化し、大きな向上がみられた。</p> <p>○ 「②野菜を食べることを心がけている児童の割合」について、肯定的な回答をした児童の割合は、事業前の 84.5%から事業後は 86.2%に変化し、微増ではあるが向上がみられた。学校別、学年別に変化をみていくと、実施校4校すべてで、低学年の否定的な回答（「どちらかといえいいえ」又は「いいえ」を選択）をした児童の割合が増加している。4校中3校については、小学1年生の否定的な回答が大きく増加していた。</p> <p>○ 「③一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる児童の割合」については、事業前と事業後で望ましい変化がみられなかったが、「⑤ 主食、主菜、副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上ある児童の割合」は、肯定的な回答をした児童の割合が、微増ながら向上していることから、日常の中で、何気なく実践しているよい習慣を、食に関する指導等を通して価値付けすることも必要であることがうかがえる。</p> <p>○ 「④朝食を食べる習慣がない（「週に1日程度」又は「ほとんどない」を選択）児童の割合」については、大きな変容がみられないものの、発達段階に応じてみると、高学年には、望ましい変化がみられた。</p>
今後の課題	<p>○ 学校別、学年別に、より詳細な値の変化を見ていくと、学校全体として事業前と事業後に 0.8pt の改善がみられた実施校において、2年生における④の割合が事業前と事業後で 6.4pt 減少したにも関わらず、3年生、4年生においては、2pt 以上増加してしまう状況があった。各学級における 2.1%とは1名いるかいなかであるので、全体で朝食の摂取の重要性を指導しながら、支援が必要な児童に対して個別の対応をしていく必要があるが、その出現を、早期発見し、早期対応することが最も重要であると考え。そのためには、開発的生徒指導の視点を持ち、児童の食の実態を把握し、学校全体で共有できるシステムを構築することが必要であると考え。</p>

② 栄養教諭の実践的な指導力の向上

現状と課題	<p>【宇部市立琴芝小学校】</p> <p>○ これまでの食育の取組</p> <p>栄養教諭が中心となり食に関する指導を進めている。栄養教諭が単独で行う授業は、年間 20 時間を超えている。各種たよりの発行回数も多く、保護者や地域の方を対象とした給食試食会も多く（平成 30 年度は 8 回）開催する等、学校給食を活用した啓発活動に力を入れている。</p> <p>○ 学校の課題</p> <p>さまざまな方法で食生活の重要性を継続的に啓発しているが、一部に、望ましい食習慣についての意識付けが進まない現状がある。また、食育を小中学校で連携して取り組みたいところだが、共同調理場が配食する中学校と、この小学校からの接続校が違うため、ちぐはぐな状況が生まれている。</p>
取組の目標	<p>「へら塩」（適塩学習）の取組を切り口に、学校が中心となって、家庭や地域、関係機関・団体と連携を深める校内の食育推進体制を充実させ、児童の食に関する自己管理能力の育成に向けた食育の効果を高める中で、そのコーディネート役を担う栄養教諭の資質向上も図る。</p>
評価指標	<p>① 給食の時間における食に関する指導について（「できている」と「概ねできている」の合計：事前 78.8%→事後 90.0%）</p> <p>② 教科等における食に関する指導について（「できている」と「概ねできている」の合計：事前 76.2%→事後 85.2%）</p> <p>③ 個別的な相談指導（「できている」と「概ねできている」の合計：事前 75.3%→事後 83.3%）</p> <p>④ 栄養教諭（学校栄養職員）間で互いに学び合う関係があると思う（「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：6 月 71.4%→12 月 85.7%）</p> <p>⑤ 経験年数差のある栄養教諭（学校栄養職員）に気軽に相談することができる（「はい」と「どちらかといえばはい」の合計：6 月 71.4%→12 月 85.7%）</p>
取組の内容	<p>(1) 学校の食育推進体制の充実</p> <p>(2) ワーキンググループの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 啓発資料の作成、配付 ● 周防大島町との合同研修会 ● 授業力向上のための授業研修会 ● つながる食育講演会 <p>(3) 個別的な指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業前アンケート結果のフィードバック ● 山口大学大学院創成科学研究科との連携

<p>効果と今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食に関する指導は、教科横断的にあらゆる教育活動の中に食育の視点を入れていく必要があるが、それゆえに、教職員全体で各学校における食に関する指導の方針が共有されていなければ、推進が難しい。今回の事業を受けた実施校では、栄養教諭による校内研修等を通して、課題の共有や目指す児童像の共有が行われたことが効果的であった。教職員の食育に対する意識の高まりを、教職員向けのアンケートの結果によって評価すると、「給食の時間における食に関する指導」「教科等における食に関する指導」「個別的な相談指導」のいずれの場面においても、望ましい変化がみられた。意識の変化は行動の変化につながると考えられるので、今後も、食育の意識を高める取組を継続し、推進体制の充実を目指したい。 ○ 今回の事業を終えて宇部市全体の栄養教諭にアンケートを行い、今回の事業を通して変容を感じることができたか調査したところ、すべての栄養教諭が指導力の向上を感じると回答した。また、互いに学び合う関係があると回答した栄養教諭の割合は、事業前 71.4%であったが、事業後は 85.7%と向上した。 ○ 学校に一人配置が多い栄養教諭にとって、他校の栄養教諭との連携は、食に関する指導をより充実させるために必要不可欠である。今回の事業が栄養教諭間の連携強化につながった効果は大きいと考える。
-----------------	---

1.3 栄養教諭アンケート

(1) 調査設計

実施校での取組内容及び栄養教諭等から見た実施校の実情を把握するため、栄養教諭等を対象としたアンケートを行った。調査設計は下表のとおり。

図表 1-9 栄養教諭アンケート調査設計

項目	概要
調査対象	実施校の栄養教諭
実施数	実施校（全 21 校）
設問数	第 1 回：17 問 第 2 回：6 問
実施時期	第 1 回：令和元年 10 月 31 日～11 月 8 日 第 2 回：令和 2 年 1 月 7 日～1 月 17 日
実施方法	電子ファイル(MS E x c e l)調査票の電子メール送付・回収
回収率	100%（全 21 校）※第 1 回・第 2 回とも
調査内容	<p><第 1 回></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度までの貴校の食育に関する状況や課題 ● 貴校で把握している給食に関するデータ ● 食に関する指導や食育活動において使用している教材 ● 貴校における朝食摂取・欠食の状況 ● 朝食摂取についての取組内容や変化、情報共有 ● 本年度の「つながる食育推進事業」に関する取組内容 ● 独自の評価指標の設定 ● 貴校における食に対する理解、望ましい食習慣の形成、健康状態の改善 ● 取組における配慮や工夫 ● 児童生徒や保護者、地域等にみられる変化 <p><第 2 回></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本年度「つながる食育推進事業」に関する取組の成果 ● 児童生徒や家庭、地域等との連携において特にポイントと感じている点 ● 児童生徒の朝食摂取の意識 ● 貴校における食に対する理解、望ましい食習慣の形成、健康状態の改善 ● 児童生徒や保護者、地域等にみられた変化

(2) 調査結果概要

① 昨年度までの食育の取組について

昨年度までの実施校における児童生徒や保護者の課題として、多く挙げられた内容は、下表のとおり。

図表 1-10 昨年度までの実施校における児童生徒や保護者にみられた課題

児童生徒（上位3つ）	保護者（上位2つ）
<ul style="list-style-type: none"> ● 食事マナーが身についていない子供が多い（増えている・改善しない）：15校 ● 伝統的な食文化や行事食に対する関心が低い（向上しない）：14校 ● 栄養バランスのよい食事が取れていない子供が増えている：12校 ● 睡眠時間が不足している子供が多い（増えている）：12校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭における正しい食生活の実践に対する意識が低い（ばらつきが大きい）：14校 ● 給食試食会や食育に関する講演会等への参加率が低い：11校

② 朝食摂取について

朝食摂取に関する児童生徒の課題としては「児童生徒の起床時間が遅く、食べる時間がない」「夕食が遅い・夜食を摂る等が原因で、児童生徒自身に朝起きた時の食欲がない」といった点が挙げられていたが、今年度の事業に取り組むことで、児童生徒・保護者・学校の教職員とも朝食摂取は重要と思っている割合が高くなった。

また、朝食摂取の取組を含めて、近隣の学校と情報共有している学校も多いことから、自校だけではなく、地域として取り組むことも重要と考えられる。

③ 今年度の「つながる食育推進事業」での取組

今年度の「つながる食育推進事業」での具体的な取組内容及び特に力を入れて取り組んでいる取組内容は下表のとおり。

図表 1-11 今年度の「つながる食育推進事業」での取組内容（一部抜粋）

具体的な取組内容	特に力を入れて取り組んでいる取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ● 給食の時間での食に関する指導の実施：20校 ● 保護者を対象とした食育教室（親子料理教室・給食試食会・講演会等）の企画・実施：19校 ● 学級担任等と連携した食に関する指導の実施：18校 ● 郷土料理や地場産物を取り入れた給食の献立づくり：18校 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科等での食に関する指導の実施：3校 ● 郷土料理や地場産物を取り入れた給食の献立づくり：3校 ● 学校と家族をつなぐ方策の企画、実施：3校

④ 食に対する理解、望ましい食習慣の形成、健康状態の改善について

児童生徒の食に対する理解については、今年度の事業に取り組むことで、「ほぼ理解できている」「まあ理解できている」の合計割合が大きく増加していた。同様に、児童生徒の望ましい食習慣の形成についても、「ほぼできている」「まあできている」の合計の割合が増えていた。これらのことから、「つながる食育推進事業」に取り組むことで、児童生徒の意識や食習慣がよい方向に変化したと感じている栄養教諭が多いことが分かる。

⑤ 本年度事業の関係主体との連携に向けた配慮や工夫

保護者（家庭）、地域の生産者・地域組織、関係機関・団体等とのつながり・連携において配慮したり工夫している点は、下表のとおり。

図表 1-12 関係主体との連携に向けた配慮や工夫（一部抜粋）

関係主体	具体的な配慮や工夫
保護者（家庭）	<ul style="list-style-type: none"> 給食試食会等を通じて、給食から食に関する興味・理解を高めてもらうよう促した 授業や取組について、保護者からコメントをもらう形とした おたより等を配布し、情報提供を行った
地域の生産者・地域組織	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方を招いた講座を実施し、郷土料理等への興味を深めたり、地域の方との交流を行うようにした 地域での稲刈り等の体験活動を実施した
関係機関・団体等	<ul style="list-style-type: none"> 大学や関連機関等と連携した講座や講演会を実施 自校の課題に基づき、指導内容を一緒に検討した

⑥ 本年度の取組による変化

本年度の取組を進めることでみられた児童生徒や保護者の変化として、主に挙げられた内容は下表のとおり。

図表 1-13 モデル事業の取組による児童生徒や保護者にみられた変化（一部抜粋）

児童生徒	保護者
<ul style="list-style-type: none"> 給食を残さない等、食べ物や生産者・調理の方への感謝の気持ちを持つようになった 栄養バランスのよい食事の必要性を理解した 朝食の重要性を理解し、朝食摂取率が向上したほか、自身で作ろうという意識が醸成された 肥満・痩身傾向の児童生徒が減少している学校もあったが、健康状態の改善に至っていないケースが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 家族を巻き込んだ取組を行ったことで、保護者自身の食育への興味・関心が高まった 生活リズムの確立や朝食の重要性を実感し、朝食を子供に用意するだけでなく、その内容にも気を配る家庭が多くみられた 健康状態の変化までは把握できていないが、家庭での食事や運動の習慣を子供と一緒に考えるようになった様子がみられた

⑦ 本年度の取組による成果

取組の中で、保護者、地域、学校内とのつながりを意識していたが、成果として「十分できた」のは、地域の生産者や食に関わる人々と子供が交流する機会を作ること、学校内の他の教職員と連携を取ることであった。

⑧ 特にポイントと感じている点

子供とのつながりにおいては、給食の時間の指導・様子等を通じて子供の実態を把握することがポイントと感じている学校が多かった。

また、家庭・保護者とのつながりにおいては、おたより等を通じた情報提供、PTAを巻き込んだ取組の実施のほか、子供から保護者に伝える食育の重要性を感じている学校もみられた。

学校内の教職員とのつながりでは、日ごろからのコミュニケーションがポイントと多くの学校で感じていた。

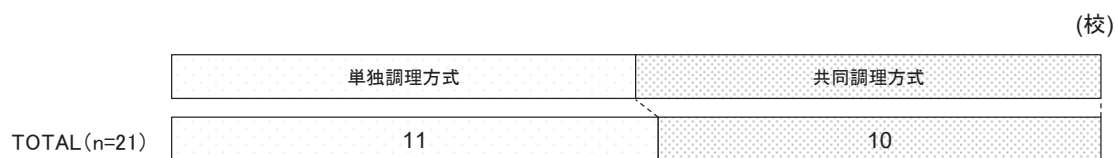
地域とのつながりでは、学校の状況についての情報発信、地域の生産者とのつながりを密に取組を行うことがポイントと感じている学校が多くみられた。

(3) 調査結果詳細

① 実施校の基本属性

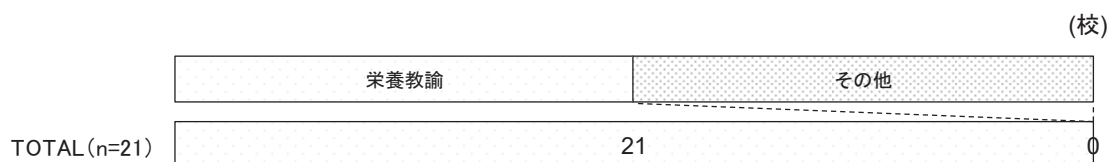
- 学校給食の調理方式
「単独調理方式」が11校、「共同調理方式」が10校である。

図表 1-14 学校給食の調理方式(単一回答)



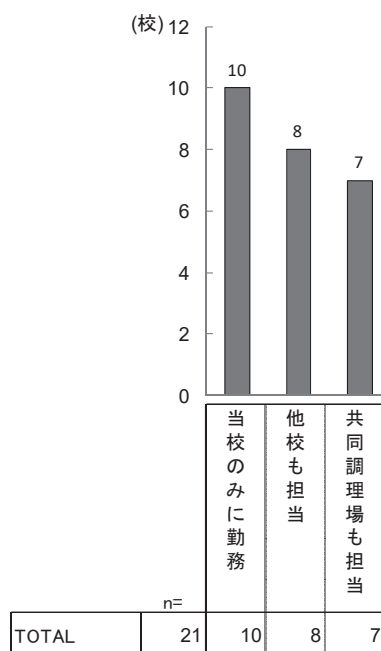
- 実施校での栄養教諭の配置状況
すべての実施校において、栄養教諭を配置している。

図表 1-15 実施校での栄養教諭の配置状況(単一回答)



- 栄養教諭の他校等との兼務状況
実施校の栄養教諭において、「当校のみに勤務」は10校、「他校も担当」が8校となっている。

図表 1-16 栄養教諭の他校との兼務状況(複数回答)

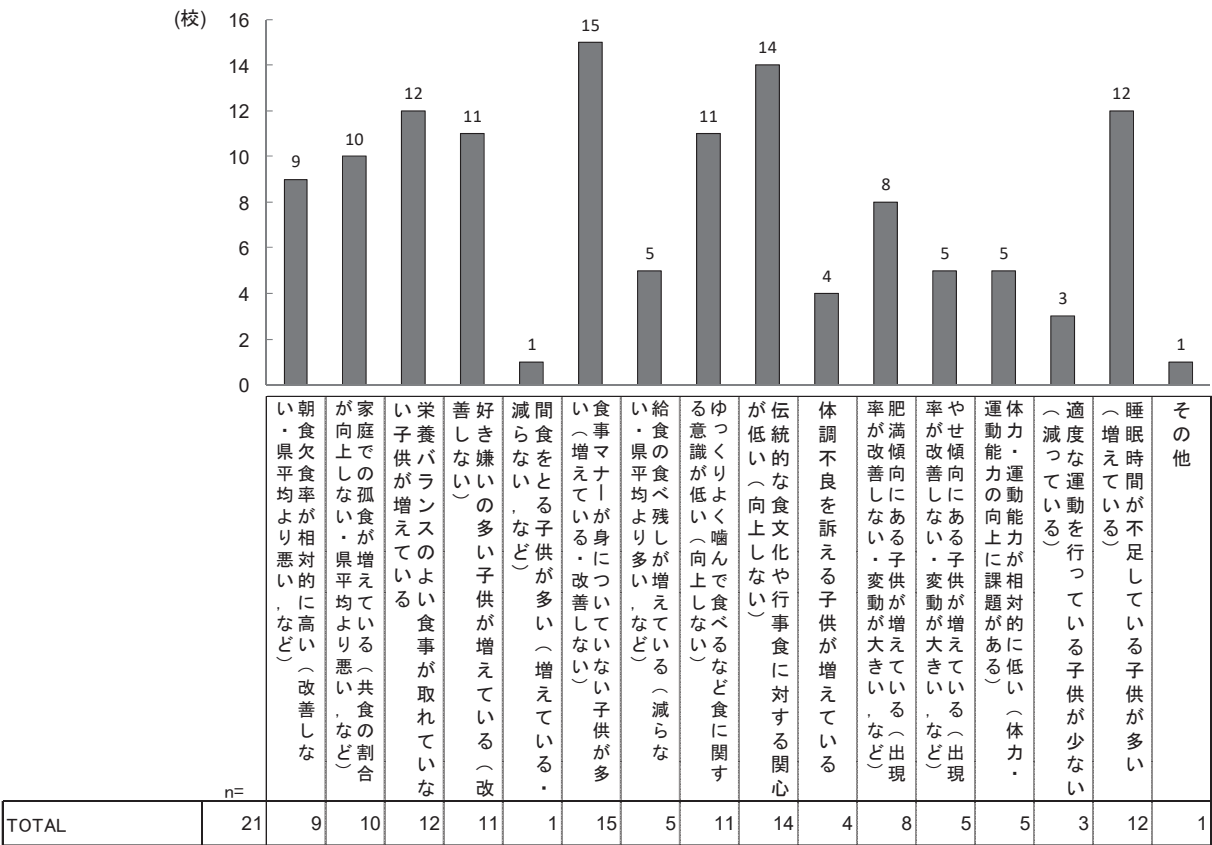


※ベース：実施校において栄養教諭を配置していると回答した実施校のみ

② 昨年度までの食育に関する状況や課題等

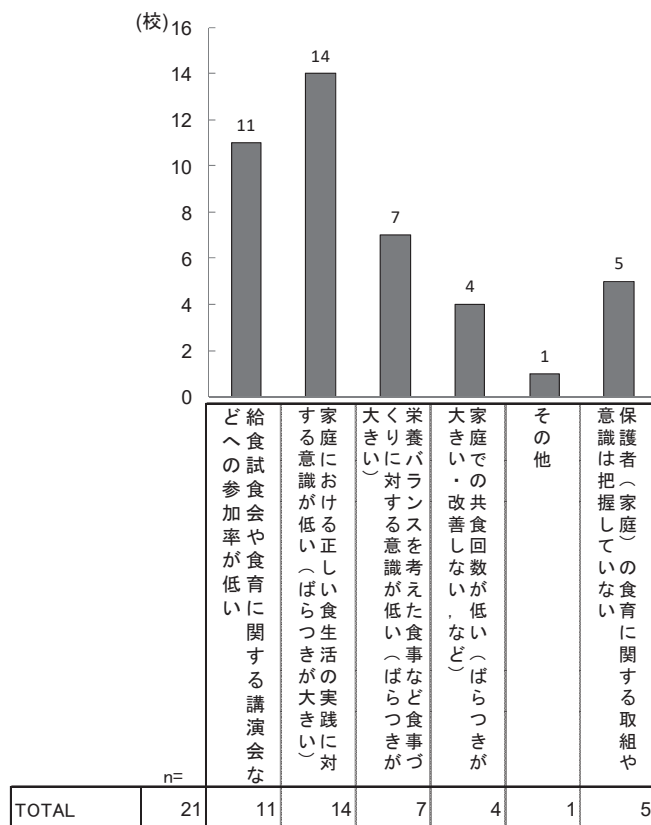
- 昨年度までの食育の取組の中でみられた児童生徒の食習慣や食生活での課題
「食事マナーが身についていない子供が多い（増えている・改善しない）」が 15 校と最も多く、次いで「伝統的な食文化や行事食に対する関心が低い（向上しない）」が 14 校、「栄養バランスのよい食事が取れていない子供が増えている」「睡眠時間が不足している子供が多い（増えている）」がそれぞれ 12 校となっている。

図表 1-17 昨年度までの食育の取組の中でみられた児童生徒の食習慣や食生活での課題(複数回答)



- 昨年度までの食育の取組の中でみられた保護者（家庭）の食育推進に関する課題
「家庭における正しい食生活の実践に対する意識が低い（ばらつきが大きい）」が 14 校と最も多く、次いで「給食試食会や食育に関する講演会などへの参加率が低い」が 11 校となっている。なお、「保護者（家庭）の食育に関する取組や意識は把握していない」は 5 校である。

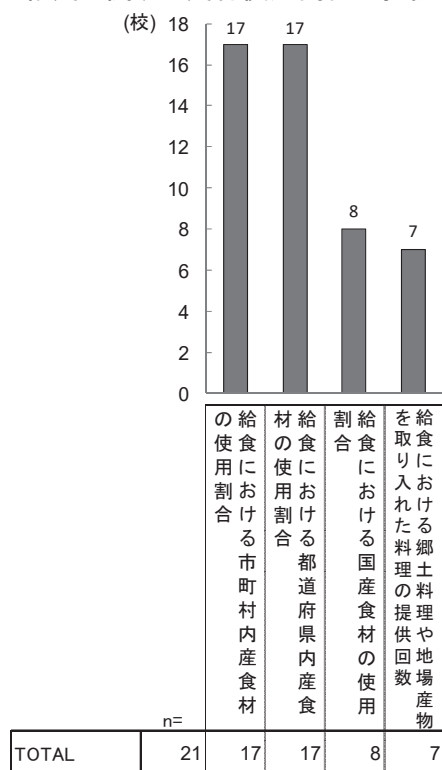
図表 1-18 昨年度までの食育の取組の中でみられた保護者（家庭）の食育推進に関する課題（複数回答）



● 給食に関する食材使用割合の把握

「給食における市町村内産食材の使用割合」「給食における都道府県内産食材の使用割合」がそれぞれ 17 校と最も多くなっている。

図表 1-19 給食に関する食材使用割合の把握(複数回答)



それぞれの食材使用割合の最新データの平均値としては、下表のとおり。

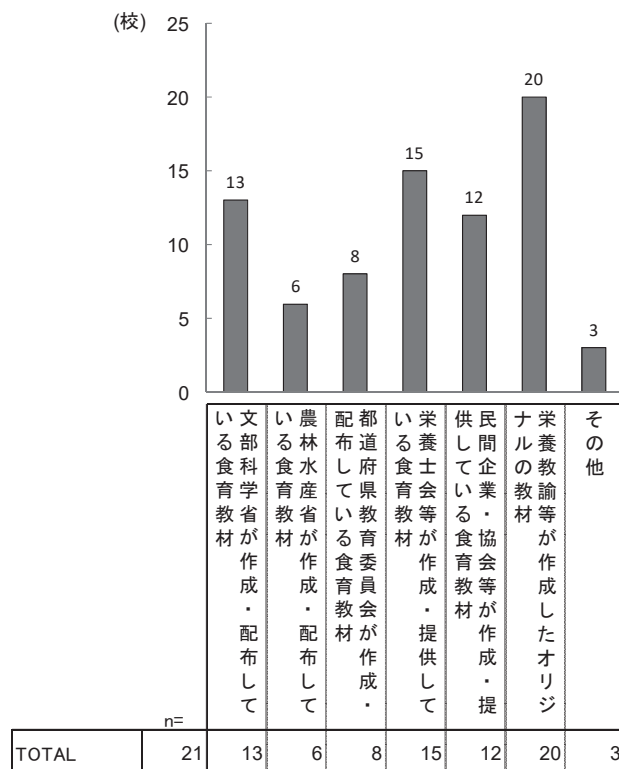
図表 1-20 給食に関する食材使用割合(数値回答)

	給食における市町村内産食材の使用割合	給食における都道府県内産食材の使用割合	給食における国産食材の使用割合	給食における郷土食の提供回数
n=	17	17	8	7
TOTAL	18.6%	50.0%	71.2%	24.9回

● 昨年度まで食に関する指導や食育活動で使用していた教材

「栄養教諭等が作成したオリジナルの教材」が 20 校と最も多く、次いで「栄養士会等が作成・提供している食育教材」が 15 校、「文部科学省が作成・配布している食育教材」が 13 校となっている。

図表 1-21 昨年度まで食に関する指導や食育活動で使用していた教材(複数回答)

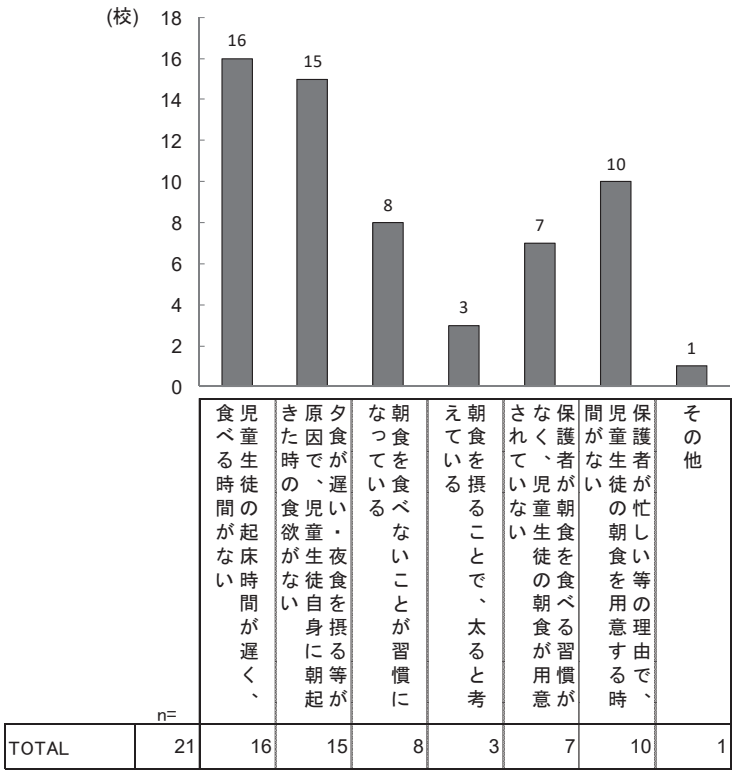


③ 朝食摂取・欠食の状況

● 朝食摂取に関する児童生徒の課題

「児童生徒の起床時間が遅く、食べる時間がない」が 16 校と最も多く、次いで「夕食が遅い・夜食を摂る等が原因で、児童生徒自身に朝起きた時の食欲がない」が 15 校、「保護者が忙しい等の理由で、児童生徒の朝食を用意する時間がない」が 10 校となっている。

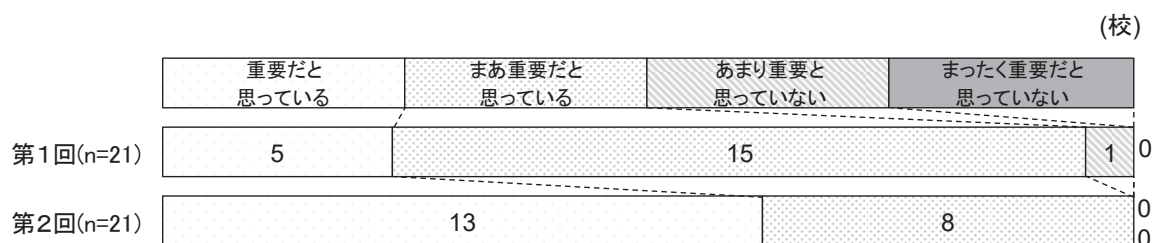
図表 1-22 朝食摂取に関する児童生徒の課題(複数回答)



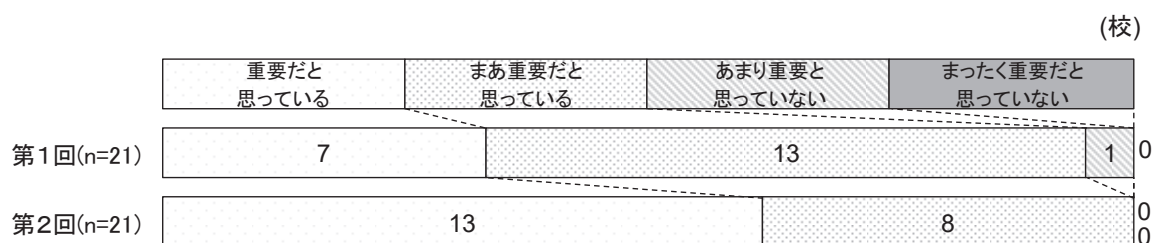
● 朝食摂取への意識

「重要だと思っている」割合が、児童生徒は第1回の5校から第2回で13校、保護者は第1回の7校から第2回で13校、学校の教職員は第1回の14校から第2回で18校とそれぞれ増えている。

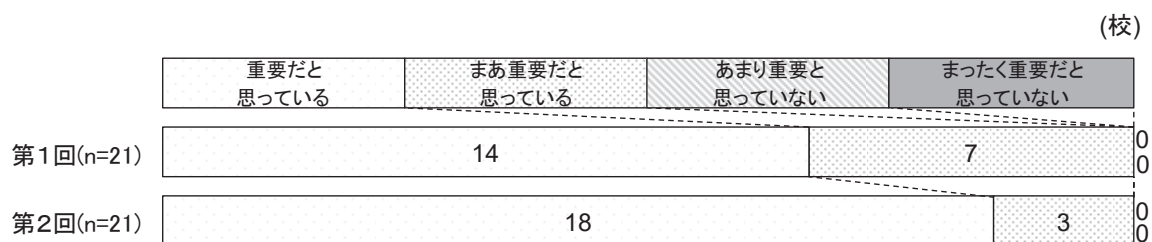
図表 1-23 朝食摂取への意識(児童生徒)(単一回答)



図表 1-24 朝食摂取への意識(保護者)(単一回答)



図表 1-25 朝食摂取への意識(学校の教職員)(単一回答)



● 朝食摂取についての具体的な内容と変化

朝食摂取に向けた取組として多く挙げられたのは、児童生徒向けでは「給食だより配付やポスター等掲示による啓発」「家庭科や食育等の授業や給食の時間での指導」「生活・学習記録カードの活用」、保護者向けでは「給食だより・食育だよりによる情報提供、啓発」「給食試食会・食育講演会の実施」といった内容である。

また、取組による変化としては、児童生徒で「朝食摂取の重要性について理解が深まった」「自分で作ろうとする意欲が向上した」「栄養バランスを考えるようになった」、保護者で「朝食の大切さを再認識した」「摂取だけでなくバランスへの意識が高まった」といった内容が多く挙げられ、特に児童生徒に変化がみられた取組は「家庭科や食育等の授業」と思われる。

図表 1-26 朝食摂取についての児童生徒向けの具体的な内容と変化(自由回答)

実施校		児童生徒向けの取組内容	児童生徒の変化
北海道	帯広市立大空中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育掲示板では朝食の効果や、朝食の組み合わせについて掲示を行っている。中学生なので、自分で作れるような、すぐに食べられるような食材、簡単に食べられるもの、レシピを紹介している。掲示物前には朝食の組み合わせのフードモデルの展示も行っている。 ● 給食だより、食育だより、食育通信での情報提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 掲示について、実際にカードを組み合わせたり、フードモデル、レシピに興味を持って見ている。
	帯広市立栄小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 6年生の家庭科で朝食に関する単元があるため、そこで朝食摂取の重要性等について教えている。 ● ほかの学年については児童玄関前にある食育掲示板にて情報提供及び啓発を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭科の授業終了後の児童のワークシートには朝食の重要性が分かっただけでなく、実際に自分で考えて作っていきたいといった内容もあり、朝食を今後は積極的に食べていこうという意欲が高まっている。
山形県	山形市立東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 5、6年生の家庭科で栄養教諭と担任による授業を受けた後、学習したことを生かし、自分で朝食を作る課題に取り組んだ（6年おかず、5年味噌汁）。 ● 元気いっぱい充電カード（生活リズムカード）の朝食欄に内容を確認する欄（黄・赤・緑）を加えた。 ● プロバスケットボール選手を招いての応援給食（5年生）。 ● 6年生の毎日の学習カードの欄に朝食の項目を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食摂取率は昨年度よりも少し上がっている。そして内容では、特に5、6年生の「主食のみ」と回答した児童が減った。主食だけでは不十分だということが分かり、おかずを食べることに意識が向くようになった。 ● 家庭で自分で調理する機会ができ、調理への関心・技術が高くなった。

実施校		児童生徒向けの取組内容	児童生徒の変化
	山形市立 桜田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 就寝時間及び起床時間が遅く朝ごはんを食べない児童がいるという実態から、親子で目的を持って活動することで改善するのではないかと考え、「親子でお弁当作り」を実施した。年4回実施し、実施した内容は振り返りカードに記入し、保護者や担任から一言もらい、次へつなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 就寝時間が遅いため起床時間も遅く、食べる時間がないと言っていた児童が、お弁当作りの日は次の日のために早寝、早起きしてお弁当作りを手伝い、朝ごはんも食べてきていた。
	山形市立 第三中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● P T A 母親委員会主催で「我が家のおすすめ朝食レシピ」を募集した。 ● 行事にちなんだ食育講話（1年生：成長期の栄養、2年生：スポーツ栄養、3年生：スポーツ栄養、受験期の栄養）を実施している。 ● 教科（保健体育科、技術・家庭科）でT・Tでの授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業後の感想として、自分のパフォーマンス能力（体力面、学力面）を上げるためにも、朝食が大事であると答えていた生徒や朝食を単品だけではなく、組み合わせることが大事であると答えていた生徒が多かった。 ● 「我が家のおすすめ朝食レシピ」を考えたことで、自分で朝食を作ることができると自信をつけた生徒やほかの家庭の朝食レシピを自分でもやってみたいと意気込んでいる生徒がいた。
福島県	三春町立 三春中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年生において生活リズムと朝食について、食に関する指導を行っている。 ● 給食委員会の活動において、朝食摂取に関するポスター作成や「朝食を見直そう運動週間」時に生徒への呼びかけを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業後のアンケート調査では、朝食摂取率の向上がみられる。

実施校		児童生徒向けの取組内容	児童生徒の変化
	新地町立 新地小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度から毎週水曜・朝の「すこやか検査」の1項目として、「朝食摂取」を入れて習慣化を図っている。 ● 教育計画の健康教育「すこやか」の取組として、5月に保健委員会が中心となり、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを整え、運動会でがんばろうという意識化・実践化を図っている。 ● 6月と11月に「朝食を見直そう週間運動」を実施し、学校・家庭との双方向で取り組んでいる。教育計画の健康教育「すこやか」の取組として、「食育委員会」が中心となり、朝食の大切さを伝えている。1～3年生は「すこやかチェックシート」で、4～6年生は「自分手帳」（福島県教育委員会作成）で、朝食摂取・野菜摂取・汁物摂取・共食を重点的に取り組んでいる。 ● 食に関する指導を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎週「すこやか検査」実施後、保健委員会児童が学級毎の結果を放送しているので、昨年度より習慣化は図られているが、100%にはならない（98.4%）。
石川 県	中能登町立 中能登中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食摂取による効果や重要性等を便り等で発信している。 ● 給食の時間には給食委員会からの発表を通して朝食摂取の呼びかけを実施。 ● 夏休みには簡単で栄養満点な朝食作り体験を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食摂取の重要性については理解しているようだが、例年、朝食摂取の呼びかけを行っているため、摂取率の変化はあまりみられない。
	七尾市立七尾 東部中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒会活動での朝食調査。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度との比較で朝食の品数が増加した生徒の割合は増えたが、欠食する生徒の割合には変化がなかった。
長野 県	須坂市立 東中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日の生活記録の朝食摂取の欄に記録している。 ● 学年集会で栄養教諭による朝食の指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学習、学年集会の指導により、できるだけ食べてこようとする姿がみられる。
	須坂市立 仁礼小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校での食育授業や毎日の給食を通して、朝食に限らず栄養バランスのとれた食事をしようと心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低学年については、好き嫌いなく何でも食べようと少しずつがんばっている。 ● 高学年では、朝食を食べられない時の原因を考え、自分の生活習慣の見直しを行っている。

実施校		児童生徒向けの取組内容	児童生徒の変化
静岡県	裾野市立東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の中で、朝食摂取について担任から話をする。 ● 給食放送で朝食摂取について話をする。 ● 5年生家庭科で、静岡県教育委員会作成のリーフレットを活用した指導をする予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食の大切さが分かったり、毎日食べようという意識を持ったりする。 ● 栄養バランスにも気を付けたいという意識を持つ。
	裾野市立富岡第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 静岡県教育委員会作成の食育啓発リーフレット「朝ごはん食べていますか？」を活用した朝食摂取状況調査と指導（5年生）。 ● 給食放送や食育だよりで朝食摂取についての内容を取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食の大切さが分かる。 ● 朝食を毎日食べようという意識を持つ。
三重県	三重県立松阪あゆみ特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝ごはんについての会話を通して、意識を高める。 ● 給食だよりを利用して啓発する。 	—
	三重県立聾学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝の会や家庭科の授業で朝食の必要性の話を担任から伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● あまり変化なし
奈良県	橿原市立畝傍東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年を通じて、「朝食」をテーマに掲示物を掲示した。 ● 食に関する指導では、市教育委員会から1～6年生向けに朝食についての紙芝居や指導資料が配布されたため、学級で担任教諭による指導を実施し、児童の感想等をまとめた。 ● 4～6年生では、学級活動や家庭科の授業に栄養教諭が参画し、朝食摂取についての指導を実施した。家庭科では、夏休み中に朝食作りに取り組む宿題を出し、児童は意欲的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「朝食」のみならず、生活習慣全体に興味・関心が高まり、朝食は自分の体にとって大切な役割を果たしていることが理解できていると思われる。
	橿原市立橿原中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活習慣のアンケートを実施し、それに基づいて各クラスで朝食摂取の重要性を伝える短時間の授業を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1度の取組のため、経時的な実態の変化はまだみられないが、授業後の生徒の感想には、「なぜ家族や先生が朝食を食べよう言っているか、理由が分かった」等、朝食を食べる重要性を、理由付けて理解することにはつながっている。
山口県	宇部市立上宇部小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 1、3、5年生において学級活動や教科の中で朝食の指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食の摂取率や朝食内容について、わずかであるが改善がみられる。
	宇部市立琴芝小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 週に1度、朝食調べを各学級で行い、担任より指導を行っている。 	—

実施校		児童生徒向けの取組内容	児童生徒の変化
	宇部市立 船木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業や保健指導等で朝食摂取について指導している。 ● 生活リズムカードの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業や生活リズムカードの取組等によって、朝食摂取の意識は根付いているが、家庭によって朝食摂取への行動の変化に結び付かない現状もある。
	宇部市立 新川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食時間の巡回指導。 	—

図表 1-27 朝食摂取についての保護者向けの具体的な内容と変化(自由回答)

実施校		保護者向けの取組内容	保護者の変化
北海道	帯広市立大空中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者向けのおたよりで情報提供。 ● 食育掲示板での啓発。 ● 給食のレシピ、簡単にできるレシピ等の発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化祭、参観日等の行事の時には、食育掲示板をよく見ている。
	帯広市立栄小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者向けの食育資料（ぱくぱくだより）の発行や食育掲示板で情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の変化を把握できる機会がないため、アンケートから変化を読み解く。
山形県	山形市立東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活リズムや朝食をテーマにした拡大学校保健委員会を開催し、大学教授から専門的な話を伺ったり、保護者同士の情報交換を取り入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食の重要性に気付いたり、自分の家庭でもできることをやってみようという意欲が持てた。 ● 元気いっぱい充電カードでの朝食内容調べにより、朝食の摂取だけでなく内容への意識も出てきた。
	山形市立桜田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 「子供と一緒に弁当を作る」という主旨を理解していただき、一週間前からお弁当に入れるおかずを子供と一緒に考え、子供と一緒にスーパーに買い物に行き、前日は下準備等お弁当を作るまでの準備から協力してくれていた。朝、時間がない中作る工夫等も子供と一緒に考えてくれていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大変だったが、親子の生活リズムを整える上で、よい取組だったという振り返りがあった。
	山形市立第三中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● P T A母親委員会主催の「我が家のおすすめ朝食レシピ」の募集。 ● 学校保健委員会「成長期の自分を見つめよう～みんなで取り組める思春期の生活習慣づくりのヒント集～」の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校保健委員会で講話を聞き、朝食の効果を科学的に理解したことで、より一層朝食の大切さを感じたと答えていた。 ● 朝食レシピは、食育通信でも内容を発信しているが、授業参観等で写真を撮り実践している家庭もある。
福島県	三春町立三春中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 「朝食を見直そう運動週間」前に保護者への協力依頼を行う。学校だよりや食育だより等を活用し、朝食摂取の大切さを知らせている。 ● 1年生の授業後には、生徒から保護者に朝食についての授業内容について話す機会を設け、ワークシートに保護者からの感想を記入してもらった取組を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートのコメントから、栄養バランスを考えた朝食摂取の大切さを再認識したり、朝食内容を見直すきっかけとなっているようである。

実施校		保護者向けの取組内容	保護者の変化
石川 県	新地町立 新地小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 「朝食を見直そう週間運動」の協力依頼をし、朝食の大切さの啓発を図っている。 ● 入学説明会時には「朝食を食べて登校すること」を依頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 意識の変化がない保護者が1～2名いる。
	中能登町立 中能登中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校からは便りでの呼びかけや、給食試食会を開催し、講話を行っている。 ● 近隣の商業施設に給食献立の掲示や給食献立レシピの配布をお願いした。 ● 昨年度は中能登町PTA連合会主催で各家庭の朝食レシピの募集を行ったり、食育講演会等を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 意識している保護者は積極的に試食会や講演会等に参加しており、実際に改善が必要な保護者への働きかけが難しい。 ● 朝食摂取についての保護者向けの調査をしていなかったため、変化しているかどうかは不明である。
	七尾市立七尾 東部中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒に対する記名式の食生活調査の回答用紙を保健カードに挟み、通知表を渡す時に学級担任から保護者に直接手渡しする（7月）。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度と比較し、朝食の品数が増加した生徒の割合は増えたが、欠食する生徒の割合には変化がなかった。
長野 県	須坂市立 東中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● PTA講演会を食育講演会として企画し、保護者が参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 早寝、早起き、朝ごはんは、やはり重要だという意識が高まった。 ● 朝ごはんは、おかずが重要だという意識が高まった。 ● もう一品おかずを作ろうという意識が高まった。
	須坂市立 仁礼小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● PTA三役はじめ教養部では「教養部だより～食育編～」と称した通信を発行し、積極的に保護者への啓発を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食の内容について、バランス良く食べるようメニューを考え、実践している家庭もある。 ● 今まで単食（パン、おにぎり）だった家庭がおかずも大切だということを意識し、実践しようと考え始めている。
静岡 県	裾野市立 東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 入学説明会等で、朝食を食べて登校させるよう話をする。 ● 給食だより等に朝食の重要性について掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちが元気に生活するためには、朝食を食べさせていることが大切だということを理解し、実践する。 ● 栄養バランスにも気を付けようとする。

実施校		保護者向けの取組内容	保護者の変化
	裾野市立富岡第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 静岡県教育委員会作成の食育啓発リーフレット「朝ごはん食べていますか？」を活用する中で、児童の朝食摂取状況について、家庭からのコメント欄を設けている（５年生）。 ● 食育だより等で朝食の重要性について啓発。 ● 入学説明会の栄養教諭からの話の中で、朝食について取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食摂取状況調査の家庭からのコメント欄には、「三色の食品がそろうような朝ごはんを作るように気を付けたい」「早起きをして朝ご飯をしっかり食べてもらいたい」等のコメントが多くあった。
三重県	三重県立松阪あゆみ特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食だよりを利用して啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今のところ具体的な変化は把握していない。
	三重県立聾学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食摂取に関する給食だよりの配付。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 変化は感じられない。
奈良県	橿原市立畝傍東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業を行った学年については、ワークシートに保護者からの意見を記入してもらった。 ● 啓発のため家庭向けに「食育だより」や「生活習慣改善に向けた資料」等を配布した。 ● 夏休みに「野菜たっぷり朝食メニュー」をテーマに親子料理教室を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者からは、学校の取組に対し好意的な意見が寄せられ、家庭でも朝食摂取を進めることや、栄養バランスのよい朝食献立の実現に向けて取り組みたいという声が多かった。 ● 親子料理教室は好評で、毎年の実施を希望する声が寄せられた。
	橿原市立橿原中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育だよりの配布。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育に対して関心の高い保護者は配布物も興味を持って読んでくれるが、食育に関して関心のない保護者もいる。
山口県	宇部市立上宇部小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校給食試食会や学校保健安全委員会、学校運営協議会等で子供たちの実態を報告し共通理解を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供の朝食の摂取率や朝食内容についてもわずかであるが改善がみられる。
	宇部市立琴芝小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 欠食にならないように、何かしら（主に炭水化物のようなもの）を食べて登校させている。 	—
	宇部市立船木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 保健だより、給食だより等による啓発。 ● 生活リズムカードの活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組期間中・直後は意識し食事の内容の充実がみられる家庭もある。
	宇部市立新川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食だより等で情報発信。 ● 学校保健委員会で児童の食生活アンケート（１回目）の結果報告。 ● 給食試食会での講話。 	—

- 朝食摂取の取組に関する情報共有
「共有している」が13校と最も多く、次いで「共有していない」が7校となっている。

図表 1-28 朝食摂取の取組に関する情報共有(単一回答)

	(校)		
	共有している	共有していない	その他
TOTAL(n=21)	13	7	1

- 朝食摂取以外の取組に関する情報共有
「共有している」が17校と最も多く、次いで「共有していない」が3校となっている。

図表 1-29 朝食摂取以外の取組に関する情報共有(単一回答)

	(校)		
	共有している	共有していない	その他
TOTAL(n=20)	17	3	0

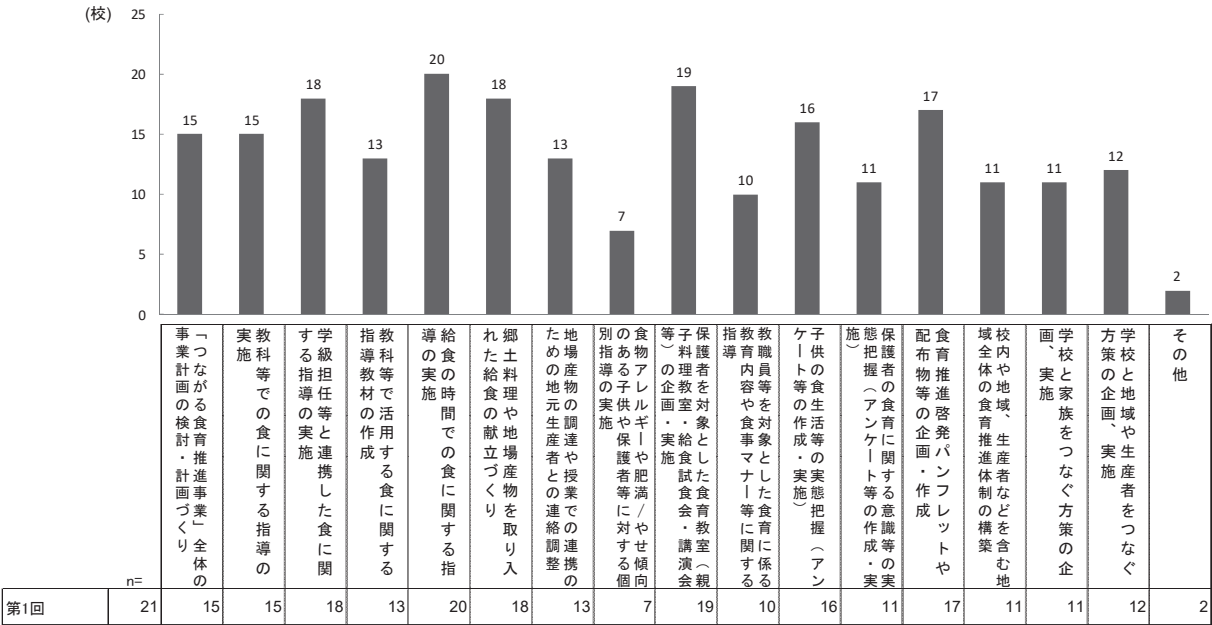
具体的に共有している情報としては、「栄養教諭・栄養士で食育指導に関する指導案、教材等」「児童の状況（早寝早起き、アレルギー等）」等が挙げられた。

④ 今年度の取組内容

● 具体的な取組内容

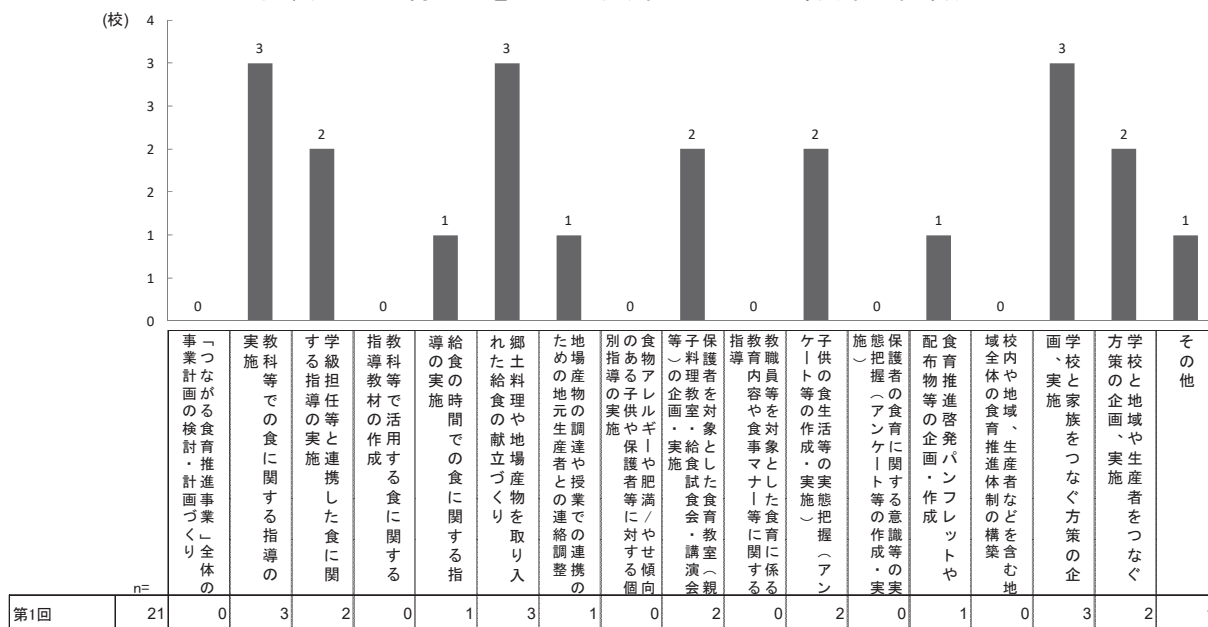
「給食の時間での食に関する指導の実施」が 20 校と最も多く、次いで「保護者を対象とした食育教室（親子料理教室・給食試食会・講演会等）の企画・実施」が 19 校、「学級担任等と連携した食に関する指導の実施」「郷土料理や地場産物を取り入れた給食の献立づくり」がそれぞれ 18 校となっている。

図表 1-30 具体的な取組内容(複数回答)



- 特に力を入れて取り組んでいる内容
「教科等での食に関する指導の実施」「郷土料理や地場産物を取り入れた給食の献立づくり」「学校と家族をつなぐ方策の企画、実施」がそれぞれ3校と最も多くなっている。

図表 1-31 特に力を入れて取り組んでいる内容(単一回答)



● 独自に設定している評価指標

このアンケート調査の指標以外に、本年度「つながる食育推進事業」に係る取組の成果・効果を検証するために独自の評価指標を設定している場合は、その指標について、それぞれ自由回答を得た。

図表 1-32 独自に設定している評価指標(自由回答)

学校名	評価指標
帯広市立 大空中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校給食が好きな割合 ● 学校給食の副菜をどれくらいたべているか ● 学校給食で苦手なものが出たとき、どうしているか ● 学校給食で十勝や帯広の食材を使用していることを知っている割合 ● 家庭や学校で作物を育てたり、牛の搾乳をする等の農業体験をしたことがある割合 ● 帯広や十勝ではどのようなものが生産されているか知っているか ● 食品を買うとき、どのようなことを気にしているか ● 昨日の夕食、今日の朝食に何を食べたか ● 地産地消について知っている割合、伝統的な食文化、郷土料理、行事食を学ぶことの大切さ ● 朝食の大切さ、家族と一緒に食事をとることの大切さ ● 食事の際に衛生的な行動をとることの大切さ ● 栄養バランスを考えた食事をとることの大切さ ● 食事マナーを身に付けることの大切さ
帯広市立 栄小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 十勝・帯広の地場産物の種類を把握している児童の割合 ● 十勝・帯広が収穫量日本一の作物の種類を把握している児童の割合
山形市立 桜田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事の挨拶をいつもする児童の割合 ● 姿勢良く食事をする児童の割合 ● 正しく食器を置くことができる児童の割合 ● 正しいはしの持ち方で食事をする児童の割合 ● 食器を持って食べる児童の割合 ● おかずを交互に食べている児童の割合
三春町立 三春中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 肥満・やせ傾向児の出現率 ● 新体力テストの総合評価
新地町立 新地小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 肥満傾向児出現率の減少 ● 生活習慣病予防検診結果の改善 ● BDHQ（食事調査） ● 給食での地場産物活用率の向上 ● 各種コンクール出品数の向上 ● 生活リズムの改善（22時までに就寝する児童の増加） ● 食生活に関する意識の向上（町内共通アンケート）
中能登町立 中能登中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 配膳された給食を残さず食べる生徒の割合 ● 自己チェック表で推定摂取量を把握し、カルシウムの多い食品を積極的にとろうとしている生徒の割合
七尾市立七尾 東部中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 「カルシウム自己チェック表」（石井他 Osteoporosis Japan 2005;13:497-502）での各生徒の推定カルシウム摂取量

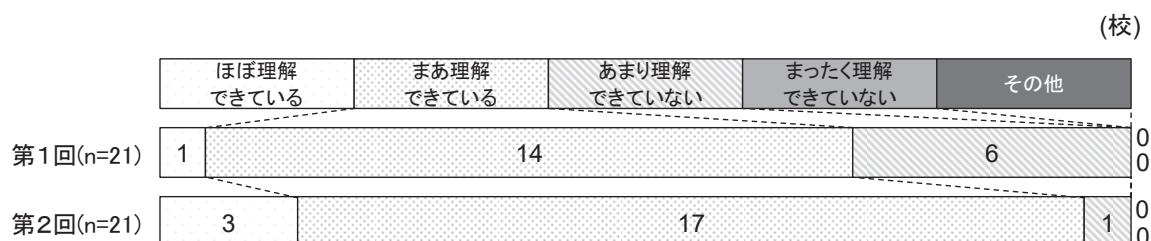
学校名	評価指標
裾野市立 東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食をとっている児童の割合 ● 栄養バランスのとれた朝食をとっている児童の割合 ● 朝食を大人と一緒に食べる児童の割合 ● 裾野市でお茶を生産していることを知っている児童の割合 ● 家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い児童の割合 ● 学校評価の食に関する項目でAの割合（校内体制の評価） ● お茶を教材とした食に関する指導を実践した回数（栄養教諭の評価） ● 食に関する指導の全体計画への位置付け（栄養教諭の評価）
裾野市立富岡 第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食をとっている児童の割合 ● 栄養バランスのとれた朝食をとっている児童の割合 ● 朝食を大人と一緒に食べる児童の割合 ● 裾野市でお茶を生産していることを知っている児童の割合 ● 家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い児童の割合 ● 学校評価の食に関する項目でAの割合（校内体制の評価） ● お茶を教材とした食に関する指導を実践した回数（栄養教諭の評価） ● 食に関する指導の全体計画への位置付け（栄養教諭の評価）
三重県立松阪 あゆみ特別支 援学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食喫食割合 ● 栄養教諭間での連携の強化 ● 栄養教諭間で食育の授業交流の機会の増加
三重県立 豊学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食喫食率の増加 ● 栄養教諭間の連携ができたと思う栄養教諭の増加 ● 授業参観等の機会の増加
檀原市立 畝傍東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食を食べない児童の割合 ● 地場産物使用の割合 ● 献立における野菜使用量の増加 ● 献立における食塩量の減少 ● 本校における給食残量
宇部市立 上宇部小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 塩分の多い料理を控えるように心がけていますか。 ● 野菜を食べることを心がけていますか。

⑤ 食に対する理解、望ましい食習慣の形成、健康状態の改善について

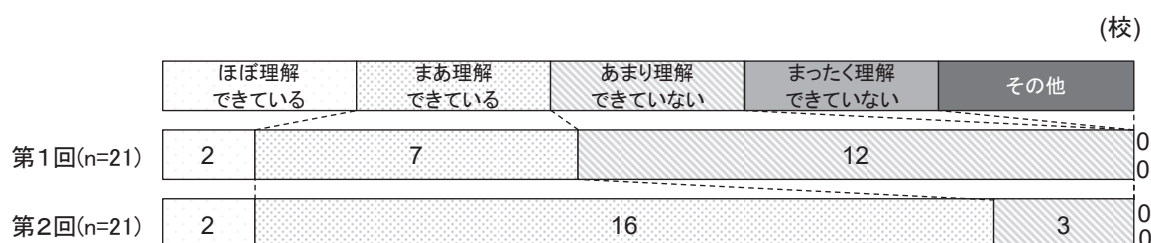
● 児童生徒の食に対する理解

「理解できている（「ほぼ理解できている」と「まあ理解できている」の合計）」の割合は、ゆっくりよくかんで食べるが、第1回の9校から、第2回では18校と大幅に増えている。また、栄養バランスを考えた食事・おやつの摂取についても、第1回の15校から、第2回では20校と増加がみられる。

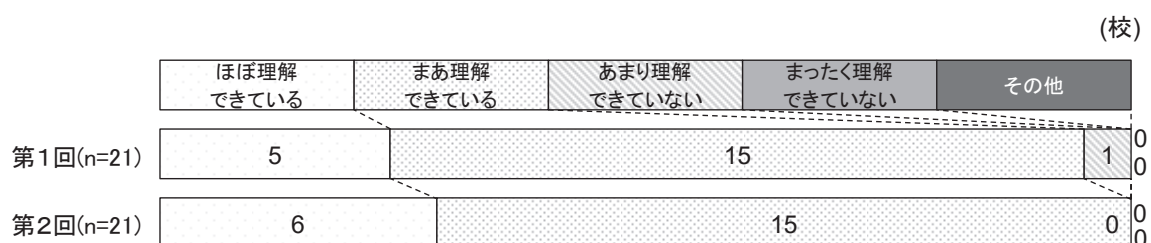
図表 1-33 児童生徒の食に対する理解(栄養バランスを考えた食事・おやつの摂取)(単一回答)



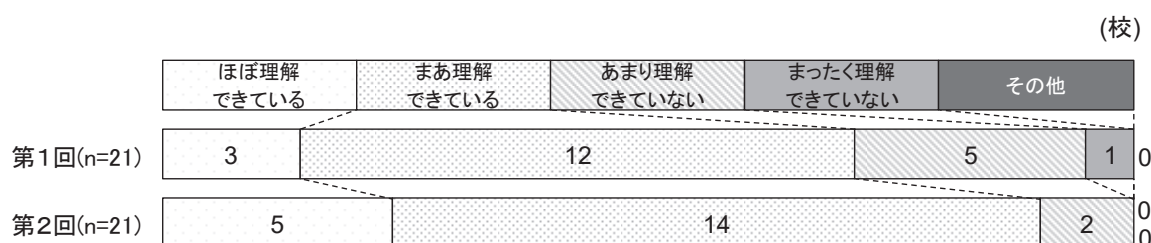
図表 1-34 児童生徒の食に対する理解(ゆっくりよくかんで食べる)(単一回答)



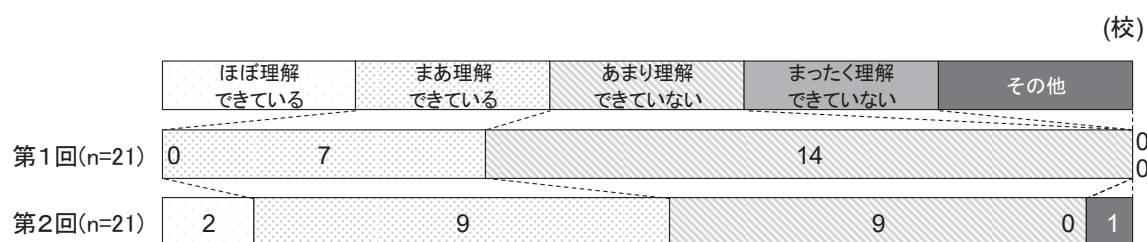
図表 1-35 児童生徒の食に対する理解(食事の際の衛生的な行動)(単一回答)



図表 1-36 児童生徒の食に対する理解(食事マナー)(単一回答)



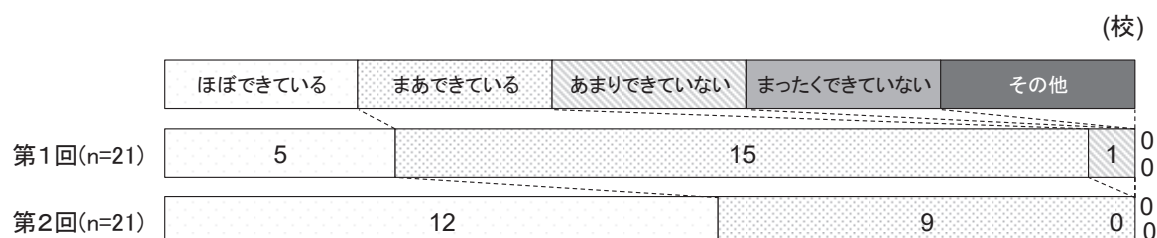
図表 1-37 児童生徒の食に対する理解(伝統的な食文化や行事食)(単一回答)



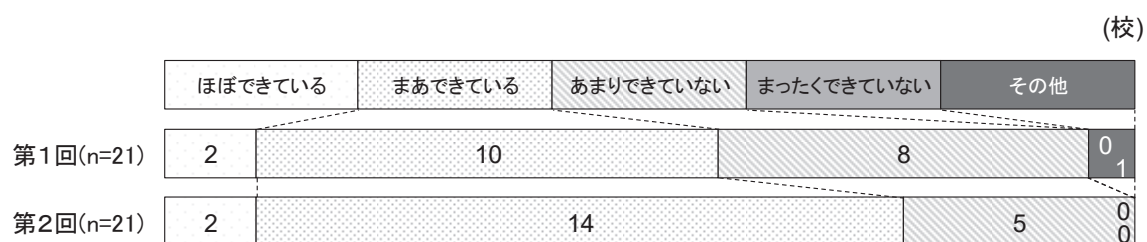
● 児童生徒の食習慣形成

「まあできている」の割合は、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが、第1回の5校から、第2回では13校と大幅に増えている。また、朝食の摂取は「ほぼできている」の割合が、5校から12校に増えている。

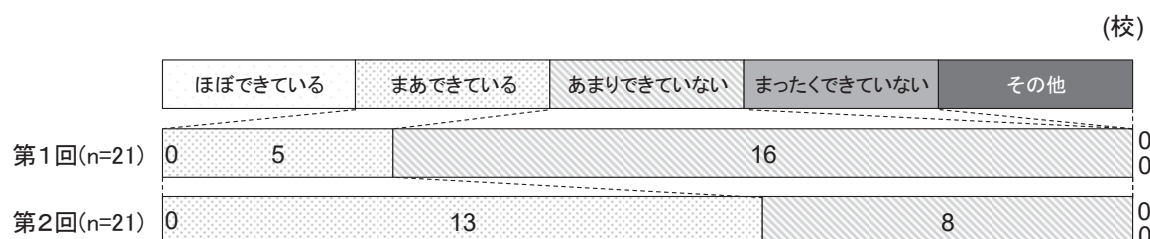
図表 1-38 児童生徒の食習慣形成(朝食の摂取)(単一回答)



図表 1-39 児童生徒の食習慣形成(共食)(単一回答)



図表 1-40 児童生徒の食習慣形成(主食・主菜・副菜を3つそろえて食べること)(単一回答)



- 取組の中で行った配慮や工夫
栄養教諭として、取組の中で行った配慮や工夫について、それぞれ自由回答を得た。

図表 1-41 保護者(家庭)とのつながり・連携における配慮や工夫(自由回答)

学校名	分類	保護者(家庭)とのつながり・ 連携における配慮や工夫点
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食に関わる方々に生徒が取材して作成する地産地消新聞の配布 ● 給食だより、食育だより、食育掲示板による啓発
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校との連携 ● 小学校での給食指導や食育授業の実施
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	● 給食試食会で保護者に実際に給食を食べてもらい、給食から食に関して興味を持ち、理解してもらうように促している。
	望ましい食習慣の形成	● 参観日に食育掲示板を見ってもらうことや、月1回を目安に発行している食育通信で食習慣について考えてもらう機会としている。
	健康状態の改善	● 担任や養護教諭と連携し、食物アレルギーを持つ児童を配慮した内容の指導に努めている。
山形市立 東小学校	望ましい食習慣の形成	● 元気いっぱい充電カード実施に向けて、養護教諭と連携し、カードの内容を検討したり、保健だより、食育だより両方で食習慣の改善に向けて働きかけを行っている。
	健康状態の改善	● 健康状態が心配な児童について、成長曲線等を確認し、常に養護教諭と連携し、保護者との個別相談を行っている。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	● 「さくらの日」振り返りカードの共有
	望ましい食習慣の形成	● 「体いきいきカード」の共有
	健康状態の改善	● 長期休みの健康チェック表の共有
山形市立 第三中学校	食に対する理解	● エビデンスに基づいたデータや数字で食事の効果を示す。
三春町立 三春中学校	食に対する理解	● 授業後は、生徒から学習内容について保護者に伝え、コメントをもらう。
新地町立 新地小学校	食に対する理解	● 「さわやかだ」献立・日本型食生活の献立・かみかみ献立をそれぞれ月1回実施し、保護者への理解・校種間の共有を図っている。
	望ましい食習慣の形成	● 定期的に「さわやかだ」・日本型食生活・かみかみ献立で、給食を実施することで、生きた教材として食育に活用し、望ましい食習慣の形成に努めている。
	健康状態の改善	● 意図的・定期的に学校給食を提供することにより、健康によい食事パターンを理解し、喫食することで、健康な体づくりに努めている。

学校名	分類	保護者（家庭）とのつながり・ 連携における配慮や工夫点
中能登町立 中能登中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食試食会の開催や給食巡回指導数の増加 ● 近隣の商業施設に献立表やレシピの掲載
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食試食会の開催や給食巡回指導数の増加
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒、保護者に向けて毎月発行する予定献立表（印刷配布とウェブサイト公開）は全献立の使用材料の記載、献立のねらい（ひとくちメモ）を市内全小中学校共通のものを全栄養教諭・学校栄養職員で共同作成している。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の食生活調査、カルシウム自己チェック表の回答用紙を保護者（家庭）に確実に知らせるために保健健康カード（押印が必要）に挟み、通知表を渡す時に学級担任から直接渡すようにしている。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 骨密度測定結果を数値化し、実施した生徒の保護者へ科学的根拠に基づいた評価も添えて個別に渡す。
須坂市立 東中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● その都度、学校ウェブサイトや学校・学級だよりに掲載し周知している。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育講演会を実施し、広く周知した。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 兄弟関係がある小学校とは連絡を密にし、問題が生じれば必要な対応をしている。
須坂市立 仁礼小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェブサイトや学校通信、PTA通信を通して、本年度進めている食育事業について知らせている。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校保健委員会で子供たちの食習慣における課題や朝食、共食の大切さについて保護者と学び合った。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 兄弟関係がある中学校とは連絡を密にし、問題が生じれば必要な対応をしている。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育学級で学んだことを、授業等の支援に入ることによって児童へ還元する。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育学級で学んだことを、授業等の支援に入ることによって児童へ還元する。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育学級で学んだことを、授業等の支援に入ることによって児童へ還元する。
裾野市立 富岡第一小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育学級で親子でお茶について学ぶ。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育だよりを配付し、朝食摂取や長期休み中の食生活についての情報提供を行っている。
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がいによるこだわり等の特徴に配慮した声かけを心がける。
三重県立聾学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食試食会の回数を増やした。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食試食会の回数を増やした。

学校名	分類	保護者（家庭）とのつながり・ 連携における配慮や工夫点
檀原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	● 児童が学習したことを家庭に知らせ、家庭からの意見を集約。集めた意見に対して、一つずつ回答・お礼を記入して返却。今後も継続して家庭で取組が進むよう肯定的に働きかける。
	望ましい食習慣の形成	● 児童が学習したことを家庭に知らせ、家庭からの意見を集約。集めた意見に対して、一つずつ回答・お礼を記入して返却。今後も継続して家庭で取組が進むよう肯定的に働きかける。
	健康状態の改善	● 児童が学習したことを家庭に知らせ、家庭からの意見を集約。集めた意見に対して、一つずつ回答・お礼を記入して返却。今後も継続して家庭で取組が進むよう肯定的に働きかける。
檀原市立 檀原中学校	食に対する理解	● 授業実施後、実施内容に関する食育だよりの配布を行い、家庭でも話題にしてもらえるよう作成した。
	望ましい食習慣の形成	● さまざまな家庭があるため、朝食摂取率だけに焦点をあてるのではなく、既に朝食を食べている生徒や家庭についても朝食内容の更なる改善等、幅広い内容の食育だよりとして配布した。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	● 料理教室の開催 ● 学校保健安全委員会での啓発
	望ましい食習慣の形成	● 料理教室の開催 ● 学校保健安全委員会での啓発
	健康状態の改善	● 料理教室の開催 ● 学校保健安全委員会での啓発
宇部市立 琴芝小学校	食に対する理解	● 試食会の実施
宇部市立 船木小学校	食に対する理解	● おたより等を配布している。
	望ましい食習慣の形成	● おたより等を配布している。
宇部市立 新川小学校	食に対する理解	● 試食会で講話をした。 ● 食に関するたよりを複数作成し、配布した。

図表 1-42 地域の生産者や地域組織とのつながり・連携における配慮や工夫(自由回答)

学校名	分類	地域の生産者や地域組織とのつながり・連携における配慮や工夫点
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域生産者、地域加工業者と連携して地場産物を活用した給食「ふるさとの日」を実施した。 ● 生産者との給食交流、収穫体験の実施、掲示物、給食指導での生産者についての啓発
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産物を使用した調理実習の実施、給食の方々をゲストティーチャーに招いた授業、新聞づくり
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校との連携、情報共有
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の生産者を招き、授業の中で話してもらうことで感謝の心を育み、食に対する理解を促している。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 本事業にて食育講演会を保護者向けに行い、望ましい食習慣について考える機会としてもらう。 ● 講演会と同時に地場産物即売会も行うことで、地域の生産者の思いを保護者や地域の人に伝える機会とする。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 食物アレルギーを持つ児童を配慮した内容の指導に努めている。
山形市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 主な日程調整は栄養教諭が行い、担任等と常に情報共有しながら、内容について検討を深めた。また、児童がより理解しやすいように、効果的な進め方について担任等と一緒に検討した。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食室前に地域の生産者の紹介や講師リストを作成して掲示した。
山形市立 第三中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● まずは地域の生産者等を知ることが大切である。
新地町立 新地小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 「新地の子供はさわやかだ」の食育推進により、学校給食実施や食育上、魚や野菜等で地元生産者や関係者をつなぎ、校種間の連携も図っている。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域組織とつながり、町の食育推進計画に基づいた食育実践を行い、望ましい食習慣の形成を図っている。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 校種間連携により、生活習慣病予防検診結果の共有を図っている。さらに個別追跡を行うことにより、改善を図っている。
中能登町立 中能登中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 小中学校すべての給食を1施設で作っているため、中能登町農林課を通じて生産者との交流給食等連携がとりやすい。

学校名	分類	地域の生産者や地域組織とのつながり・連携における配慮や工夫点
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	● 七尾市教育研究会学校給食部会、栄養教諭・学校栄養職員部会で市内統一献立に関して地域の農協等からの地場産物に関する情報の共有や、献立のねらいを年間計画に沿って共同で検討する。
	望ましい食習慣の形成	● 七尾市健康福祉部健康推進課保健師を招聘し「生活習慣による病気の予防」講座を生徒対象に実施することで身近な地域保健の実態とその予防方法を知る機会を作る。
	健康状態の改善	● 学校保健委員会（さわやかファイン会議）として生徒、教職員、各地区公民館長、PTA、行政等の委員を招聘し健康の取組について意見をいただいている。
須坂市立 東中学校	食に対する理解	● 地域体験講座「やしょうま作り」に地域の方を講師に招き、郷土料理を学んだ。
須坂市立 仁礼小学校	食に対する理解	● 3年生では「親子でクッキング」を開催。地産地消ということで食材を集め、朝食作りをした。食材を提供してくださった方からはメッセージをいただいた。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	● 地域の茶葉の提供。
	健康状態の改善	● 地域の茶葉の提供。
裾野市立 富岡第一小学校	食に対する理解	● 地域の茶園での茶摘み体験、手もみ茶体験。摘んだ茶葉を学校で児童に提供。
三重県立聾学校	食に対する理解	● 材料納入業者を給食試食会に招いた。
	望ましい食習慣の形成	● 材料納入業者を給食試食会に招いた。
檀原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	● 児童が生産者との交流を通じて、自分たちの食が地域の方やさまざまな方の協力によって成り立っていることを理解できるように、授業や給食時間の指導に留意する。
	望ましい食習慣の形成	● 「地産地消」について、児童が更に理解を深め、実践することができるよう、授業や給食時間の指導に留意する。また、家庭への働きかけを行う。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	● 学校運営協議会への参加 ● 地域のコミュニティでの啓発活動
	望ましい食習慣の形成	● 学校運営協議会への参加 ● 地域のコミュニティでの啓発活動
	健康状態の改善	● 学校運営協議会への参加 ● 地域のコミュニティでの啓発活動
宇部市立 琴芝小学校	食に対する理解	● 西岐波みかんの生産者を招聘し、生産時の苦労等の話を聞く（3年生対象）。
宇部市立 船木小学校	食に対する理解	● 地域の生産者を招いたり、地域で稲刈りや芋掘り等の体験活動を行ったりしている。
宇部市立 新川小学校	食に対する理解	● 産地見学に行き、生産者の思いを児童に知らせた。

図表 1-43 関係機関・団体等とのつながり・連携における配慮や工夫(自由回答)

学校名	分類	関係機関・団体等とのつながり・連携における配慮や工夫点
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 農協青年部と連携し、長芋、ごぼうの収穫体験の実施 ● 給食センターとの連携 ● 飲食店での職業体験の実施
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 市での食育講演会の実施
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 農政課が行っている食育アンケートの結果より、児童の朝食欠食率の現状を他校と比較して把握し、それを考慮した内容の指導を行った。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 農政課が行っている食育アンケートの結果より、児童の朝食欠食率の現状を他校と比較して把握し、それを考慮した内容の指導を行った。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 食物アレルギーを持つ児童を配慮した内容の指導に努めている。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際交流センターとの連携を進めるため、講師リストを作成
三春町立 三春中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養士養成大学と連携し、料理教室のアシスタントや生徒への栄養アドバイス等を行っている。
新地町立 新地小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育講座や講演会で、専門家・専門機関とつながり、直接指導していただくことで、食に関する理解を図っている。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育講座や講演会で、専門家・専門機関とつながり、直接指導していただくことで、望ましい食習慣の形成を図っている。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育講座や講演会で、専門家・専門機関とつながり、直接指導していただくことで、健康状態の改善を図っている。 ● 「さわやかダイエット」提唱者（医師）から、個別指導におけるアドバイスもいただいている。
中能登町立 中能登中学校	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 本校だけでなく、中能登町全体での朝食摂取率の現状や、改善等の取組を食育推進ネットワークで情報共有している。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2次中能登町健康増進計画へ参画し、児童生徒の健やかな発達に町全体で取り組んでいる。
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭科調理実習において市食生活改善協議会等、地域の方に指導支援に参画いただくことで技能指導の充実を図った。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 七尾市教育研究会学校給食部会の取組として、市内全小中学校から各学校における食に関する指導レポートを取りまとめ冊子にし、全市内小中学校、食に関する行政機関に配布、情報交換を行っている。

学校名	分類	関係機関・団体等とのつながり・ 連携における配慮や工夫点
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 骨密度測定の結果を七尾市学校保健研究大会で示し、測定結果について生徒、保護者へどのような指導にしていけばよいか、学校医に教示していただいた。
須坂市立 東中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 県立大学との連携
須坂市立 仁礼小学校	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活習慣の形成ということで機会をとらえながら講演会等を企画した。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施校間で、栄養教諭が取組を参観する。
裾野市立 富岡第一小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施校間で、栄養教諭が取組を参観する。
檀原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業実施により、今年度初めて連携することになった団体等に対し、今後も継続した取組が可能になるよう働きかける。
檀原市立 檀原中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業実施前にはなかった、中学校間での食育授業研究を行い、市内全体で取組を行った。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 味覚の出前授業 ● 生産者のお話 ● 味噌作り等の体験授業を取り入れる。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 味覚の出前授業 ● 生産者のお話 ● 味噌作り等の体験授業を取り入れる。
宇部市立 琴芝小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)シマヤと連携し、味噌作り体験を行う(5年生)。
宇部市立 新川小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部講師を招き、児童へ体験学習をしていただいた。

図表 1-44 その他、取組全体を通じた配慮や工夫(自由回答)

学校名	分類	その他、取組全体を通じた配慮や工夫点
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食指導や資料配布 ● 家庭科教諭と連携した授業づくり ● 調理実習
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食で使用している食材の食品群の掲示 ● 給食のポイントについて、食育掲示板による啓発
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食指導や給食指導資料の配布 ● 学級担任、養護教諭との情報交換
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産物と児童をつなげる存在として給食を取り上げることができるよう給食を提供するよう心掛けている。また、そのような給食だということを各学級で指導できる資料を提供している。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特性や家庭環境等に配慮するため、各学級担任及び養護教諭から各学級の現状を把握し、それを考慮した内容の指導ができるようにした。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 担任や養護教諭と連携し、食物アレルギーを持つ児童を配慮した内容の指導に努めている。
山形市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 打合せ等で、月別の食育計画を提示し、教職員へ食育の取組の予定や改善してほしい内容を説明し、共通理解を図っている。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 時期に合わせた情報発信
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科に合わせた場面設定（例：家庭科調理実習後にさくらの日設定等）
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活リズムが崩れやすくなる長期休み前後の健康チェック表の配布
山形市立 第三中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 日々の声かけ ● 視覚教材
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 日々の声かけ ● 視覚教材
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 日々の声かけ ● 視覚教材
新地町立 新地小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 苦手な食品を食べようとする児童を増加させるために、体験活動を行ったりして、給食の時間の指導を行い、改善に努めている。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 「さわやかだ」献立の嗜好率をアップさせること・日本型食生活のよさの定着は、望ましい食習慣の形成につながるので、給食を生きた教材として、食に関する指導に生かしている。

学校名	分類	その他、取組全体を通じた配慮や工夫点
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 養護教諭と連携を図り、個別健康指導「すくすく」により肥満・痩身の児童の指導を、毎月実施している。 ● 「すくすく体操」の実践も行っているので、肥満傾向児出現率も減少しているが、なかなか全国平均までにはならない。
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒に指導したい内容を給食委員会等の生徒の言葉で伝える取組になるよう意図的に工夫している（給食だより、掲示物、給食時間の放送等）。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒に指導したい内容を給食委員会等の生徒の言葉で伝える取組になるよう意図的に工夫している（給食だより、掲示物、給食時間の放送等）。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒に指導したい内容を給食委員会等の生徒の言葉で伝える取組になるよう意図的に工夫している（給食だより、掲示物、給食時間の放送等）。
須坂市立 東中学校	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養教諭所属校の利点を生かし、各学年の要請に応えた食の指導を実施
須坂市立 仁礼小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 校長講話において、いきものの命をいただいている話をして、食の大切さを学んだ。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 須坂市はセンター給食で、栄養教諭が常勤しているわけではないので、電話やメール等で連絡を密に取り、食育授業やその他の取組について話し合う機会を設けた。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員会議等で情報を共有する。 ● 給食放送等で地域の食材を伝える。
裾野市立 富岡第一小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導部会等で情報を共有する。
三重県立聾学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食のメニューを児童の見やすいところに児童が毎日書く。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食時に栄養教諭から話をする。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食時に栄養教諭から話をする。
檀原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭での食事について、学校教育が踏み込んで実態を把握することは難しい状況であるが、アンケートや取組を通じて少しでも把握し改善することができるよう努める。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭での食事について、学校教育が踏み込んで実態を把握することは難しい状況であるが、アンケートや取組を通じて少しでも把握し改善することができるよう努める。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が中心となって家庭、地域、関係機関と連携を深めることで、児童への食育の推進を図る。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が中心となって家庭、地域、関係機関と連携を深めることで、児童への食育の推進を図る。

学校名	分類	その他、取組全体を通じた配慮や工夫点
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が中心となって家庭、地域、関係機関と連携を深めることで、児童への食育の推進を図る。

図表 1-45 取組を進める上で感じた課題や課題解決に必要な支援・工夫(自由回答)

学校名	分類	取組を進める上で感じた課題や課題解決に必要な支援・工夫点
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 学級担任、管理職との連携
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭環境の改善 ● 家庭との連携 ● 自己管理能力の育成
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭環境の改善 ● 家庭との連携 ● 自己管理能力の育成 ● 養護教諭との連携
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育に理解があまりない方と連携して行うのは非常に厳しいものがあると感じた。児童に対してだけでなく、先生や周囲の方々に対しても食の重要性や食育の意義を伝えるのは課題だと感じたが、それを栄養教諭が行う機会や時間も限られているため、食育に対する理解を栄養教諭だけでなく一般教諭からも広められるような情報提供や環境整備といった支援が必要だと感じた。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域や家庭環境が児童によって異なるため、それらに配慮した内容の指導案の作成が課題と感じた。この課題は先生方と協力することで解決できるため、先生方の食育に対する理解を進めることが課題解決につながると考えた。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 担任や養護教諭と連携し、食物アレルギーを持つ児童に配慮した内容の指導を行うため、担任と養護教諭から事前に聞き取りを行っている。
山形市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 忙しい先生方の様子が見え過ぎて、食に関する指導をさせてほしいとなかなか声をかけられないこともある。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事の内容等は、プライバシーに関わる部分もあるので、強制できない面もある。家庭に協力を求めてよいか悩むこともある。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別相談したい児童はいるが、家庭の事情を考えると個別相談が難しい児童もいる。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合の時間では、子供たちの必要感に合わせて講師を探さなければならないため、できるだけ多方面での講師リストが必要。

学校名	分類	取組を進める上で感じた課題や課題解決に必要な支援・工夫点
山形市立 第三中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果が出ないと食に関する理解が進まない。 ● 評価の指標がわからない。
新地町立 新地小学校	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活リズムの改善は、理解しているが、実践化が課題である。全校で取り組んでいるが、家庭での実践なので、改善になかなかつながらない。 ● 評価のために、「食と生活に関するアンケート」を実施しているが、アンケートの回数が多くなってしまい、保護者から不評である。望ましい食習慣の形成の項目もなかなか改善できない。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● BDHQの調査は、個別の結果が分かるので、今後の健康課題解決につなげることができるように、全体指導や個別指導に活用している。ただし記入が大変である。
中能登町立 中能登中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 地場産物への理解が低いため、生産者との交流によってより理解が深まるようにしている。
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域、保護者への食に対する理解の推進に向けて具体的な手立てで課題を感じている。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別に課題がある生徒への働きかけの方法について課題を感じている。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別に課題がある生徒への働きかけの方法について課題を感じている。
須坂市立 東中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食を作ってもらえない生徒、朝食を食べない習慣の家庭等に寄り添っていく必要があり、自分で作れるように指導が必要である。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食を作ってもらえない生徒、朝食を食べない習慣の家庭等に寄り添っていく必要があり、自分で作れるように指導が必要である。
須坂市立 仁礼小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 本校にはさまざまな家庭事情や特性を持った児童がいる。その家庭、その児童に沿った取組が必要である。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 本校にはさまざまな家庭事情や特性を持った児童がいる。その家庭、その児童に沿った取組が必要である。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要機関と連携を取りながら対応している。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業や校外活動への保護者の参加

学校名	分類	取組を進める上で感じた課題や課題解決に必要な支援・工夫点
檀原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	● 予算配当がなければできないこともあり、事業実施後も継続した取組ができるかどうか課題であるが、市や学校予算等、工夫しながら取り組んでいきたい。
	望ましい食習慣の形成	● 予算配当がなければできないこともあり、事業実施後も継続した取組ができるかどうか課題であるが、市や学校予算等、工夫しながら取り組んでいきたい。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	● 学校全体における食育の推進 ● 家庭地域との連携
	望ましい食習慣の形成	● 学校全体における食育の推進 ● 家庭地域との連携
	健康状態の改善	● 学校全体における食育の推進 ● 家庭地域との連携
宇部市立 琴芝小学校	食に対する理解	● 食育がイベントにならないよう、継続して食育を行うことの必要性を感じる。
宇部市立 船木小学校	食に対する理解	● 食育に意識の低い家庭ほど、取組が行いにくい。
	望ましい食習慣の形成	● 食育に意識の低い家庭ほど、取組が行いにくい。
	健康状態の改善	● 食育に意識の低い家庭ほど、取組が行いにくい。
宇部市立 新川小学校	食に対する理解	● 食育に関心が低い家庭ほど、取組が進めにくい。

- 「つながる食育推進事業」に係る取組を通じてみられた児童生徒や保護者等の変化
「つながる食育推進事業」に係る取組を通じて、児童生徒や保護者等の意識や行動等にみられた変化について、それぞれ自由回答を得た。

図表 1-46 児童生徒にみられた変化(自由回答)

学校名	分類	児童生徒にみられた変化
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	● 給食に関わる方々に感謝の気持ちを持ち、残さず食べたいという意識を持つようになった。
	望ましい食習慣の形成	● 朝食についての調理実習を終え、朝食についての大切さや、作ってみようという意識が持てるようになった。
	健康状態の改善	● 今のところ健康状態を測るようなことはしていない。今後改善がみられるよう指導を続けたい。
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	● 地場産物を通じて食について以前より食に関する理解が深まったと授業ワークシートの感想から読み取れた。また、高学年においては家庭科でも勉強した栄養のバランスについて給食で振り返っている場面もあり、食に関する指導によって授業で学んだことを日常生活に生かすことができていると感じた。また、低学年や中学年においても食に関する指導で行った内容を給食時間に思い出して食べていたと各学級担任から聞き、食に対する理解が深まったと考えた。
	望ましい食習慣の形成	● 6年生においては家庭科の食品に関する分野において栄養バランス等について指導を行ったため、毎日の給食や食事の時に生かされている。それ以外の学年については給食指導を中心に話しており、給食では偏食傾向の改善といった変化がみられている。
	健康状態の改善	● 今回の事業を行ったことで健康状態が改善したかどうかは、今後もこの内容を継続して伝えることで少しずつ分かると思う。
山形市立 東小学校	食に対する理解	● 黄・赤・緑の食品をそろえた栄養バランスのよい食事が必要だと理解できた。また、地域の方や専門の方からの講話や体験活動、家庭科で朝食作りの実践を行ったことで、理解が深まったり調理技術も向上した。「食べ物のいのち」や「食に関わる方々」への感謝の気持ちも育った。

学校名	分類	児童生徒にみられた変化
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 「元気いっぱい充電カード」や「5、6年生の家庭科」「4年生の保健（養護教諭と連携）」等での生活リズムや朝食についての指導により、バランスのよい食事（主食・主菜・副菜・汁物）への意識が高まり、朝食内容も「主食のみ」からおかずも食べるように変化した。作ることもできるようになった。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 便通が良くなり、腹痛で来室する児童が減った。骨折する児童が 2018 年度より減った。また、肥満傾向の児童に個別相談指導を始めてから、ある児童は肥満度が下がり、活動も活発になり体調不良での来室回数が減った。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品への関心が高まった。（旬、産地、どのように料理するとおいしいか等） ● 味噌作りを通して発酵させることについて親子で学ぶことができた。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 彩りと栄養バランスについて学んだことで、食卓の彩りについて家族で話題にするようになった。 ● 食事マナーへの意識が高まった。（特に食器の置き方、食べ方） ● 減塩について、給食便り等を参考に意識しながら食べるようになった。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 2018 年度より欠席者数が減っている。 ● 休み時間、体育館やグラウンドで体を動かす児童が増えた。
山形市立 第三中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食の献立に興味を持つ生徒が増えた。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食の重要性について、語れる生徒が増えた。 ● スポーツと栄養の関係についての質問が増えた。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 欠席者数が減少した。（食育以外の要因も含むが）
三春町立 三春中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 主食・主菜・副菜・汁物をそろえて食べることがバランスよい食事であることを理解し、実践しようとする態度がみられる。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食を欠食する生徒が、少しずつではあるが減ってきている。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 4 月と 9 月の身体測定の結果から肥満傾向生徒の出現率の減少がみられた。特に 2 年生女子においては半数に減少した。
新地町立 新地小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 「さわやかだ」食事は定着し、嗜好面でも「すき・どちらかといえばすき」の割合がどの要素でも増加した。健康のために食事を大切にする児童が増えた。

学校名	分類	児童生徒にみられた変化
	望ましい食習慣の形成	● 朝食摂取は 98%前後であるが、「早寝・早起き・朝ごはん」はなかなか定着できない。メディア利用時間や睡眠時間の改善を図ることができなかったため、今後も継続指導の必要がある。
	健康状態の改善	● 肥満傾向児童は、減少傾向にあるが、なかなか 10%を下回することは難しい（全国平均を上回っている）。生活習慣病予防健診結果では、「要医学的指導」者は 0 人と改善した。
中能登町立 中能登中学校	食に対する理解	● 生産者や地域の方と交流する中で、食材のことや栄養、和食のこと等について理解が深まった。
	望ましい食習慣の形成	● 食事のマナーについて改善までは至っていないが、理解している生徒は増えた。
	健康状態の改善	● 骨密度測定やカルシウム自己チェックを行ったことから、食生活を振り返る機会となった。
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	● アンケートで①栄養バランスを考えて食事やおやつをとる、②ゆっくりよくかんで食べる、③食事の際に衛生的な行動をとる、④食事のマナーに気を付ける、⑤伝統的な食事や行事食について関心がある、⑥朝食を毎日食べる、の設問で良好な回答の割合が 7 月→12 月で上昇した。
	望ましい食習慣の形成	● 苦手なものを食べる等、給食の残食量が減った（給食を残さず食べる生徒の割合 65%→74%）。また、家庭での食事でカルシウムの多い食品を食べる生徒が増えた（カルシウム自己チェック表の評価、推定摂取量 600mg 以下の群で平均値 419mg→469mg と有意に上昇）。 ● 朝食の品数が増加した生徒が増えた（主食 + 2 品以上の生徒の割合 48%→59%）。
	健康状態の改善	● 「体調不良を訴え保健室に来室した生徒の延べ人数」と、「骨折等大きな外傷件数」が前年度より減った。また、肥満、やせの生徒の割合が減り、適正体重の生徒が 4 月 89.8%→9 月 90.6%と増えた。
須坂市立 東中学校	食に対する理解	● どの学年も給食のバランスのよさを理解し、しっかり食べようという意識が育っている。食べ物を無駄にしない意識が育っている。食べ物を無駄にしない意識が育っている。命の大切さを学び、残さず食べる姿がみられる。残菜のあった 1 年生の残量が 0 になった。
	望ましい食習慣の形成	● 朝食の重要性を理解し、朝食を食べようとしている。

学校名	分類	児童生徒にみられた変化
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 食習慣の乱れから来る体調不良は以前から少なかったが、現在も良好。 ● 肥満・やせ傾向の児童については今後も経過を見ていく。
須坂市立 仁礼小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 好き嫌いなく食べる。 ● 給食は残さず食べる。 ● 朝食の大切さ等、以前より理解が深まり実践しようとする姿がみられる。 ● 校長講話から、命の大切さ、命をいただくことを理解した。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 休日や長期休み等で起床時間が遅くなって、朝食を食べないということがないように、規則正しい生活を送ろうとする姿がみられる。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 食習慣の乱れから来る体調不良は以前から少なかったが、現在も良好。 ● 肥満・やせ傾向の児童については今後も経過を見ていく。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 裾野市でお茶の生産をしていることを知っている割合が7.6%増えた。 ● お茶が静岡県の特産であることが分かる。 ● お茶についての知識を深める。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食を食べる割合が1.5%増えた。 ● 赤緑黄色3種類そろった食事の割合が5.5%増えた。 ● おいしいお茶の淹れ方を家庭でも実践しようとする。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶のおいしさを知る。 ● おいしいお茶の淹れ方を家庭でも実践しようとする。 ● 健康に過ごすためには、食生活が大切だと知る。
裾野市立 富岡第一小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶が静岡県の特産物であることが分かる。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑茶のおいしさを知り、家でもお茶を淹れてみよう、飲んでみようという意欲を持つことができる。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶がインフルエンザの予防に効果的であるといわれていることが分かる。
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養素について理解している生徒が増加した。 ● 地域の産物について興味を持つ児童生徒が増加した。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● よく噛んで食べることを意識して食べる児童生徒が増加した。 ● 苦手な食材を少しでも食べてみようとする児童生徒が増加した。

学校名	分類	児童生徒にみられた変化
三重県立聾学校	食に対する理解	● 食べ物の大切さを理解する児童生徒が増えた。
	望ましい食習慣の形成	● 正しい配膳を理解し、実施する生徒が増えた。食事のマナーを守ることが大切であると理解する児童生徒が増えた。
橿原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	● 食に対する興味関心が更に高まり、食育学習を楽しみにする児童が増えた。また、農業体験や生産者との交流を通じて、食べ物を大切にする気持ちが芽生えた。
	望ましい食習慣の形成	● 朝食欠食率は2年前の調査より下がり、概ね理解が進んでいると考えるが、習慣的な欠食については、引き続き保護者への啓発が必要である。
	健康状態の改善	● 高度肥満や痩身の児童数は微減しているが、高学年では運動不足から肥満になりやすいため、引き続き保健・食育の両面からの指導が必要。
橿原市立 橿原中学校	食に対する理解	● 朝食の大切さ等、授業をすることで理解してもらえた部分はある。
	望ましい食習慣の形成	● 朝食の大切さは理解しているものの、実践につながっているかは、継続的な働きかけが必要である。
	健康状態の改善	● 朝ごはんを食べるようになった、薄味に慣れた、という生徒は多い。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	● 食塩についての授業を通して、「塩をとり過ぎてはいけないことが分かった」児童が100%、「塩を減らすためにどうしたらよいか分かった」児童が100%、「家でもやってみようと思った」児童が95%と理解が深まった。
	望ましい食習慣の形成	● 主食、主菜、副菜をそろえて食べることが1日に2回以上、週4～5回以上の児童が事前と事後を比較すると4.2%上昇した。塩分の多い料理を控えるように心掛けている児童も4.5%上昇した。
	健康状態の改善	● 健康状態までは把握できていない。
宇部市立 琴芝小学校	食に対する理解	● 6年生の「生活習慣病の予防」の学習後、84%の児童が今後の食生活の改善について取り組もうと回答している。
	望ましい食習慣の形成	● 「塩分の多い料理を控えるように心がけていますか」というアンケートに対して、「はい」「どちらかといえばはい」と回答した児童が2.5%増えている。
宇部市立 船木小学校	食に対する理解	● 授業を通して、食べ物や健康について関心を持った。

学校名	分類	児童生徒にみられた変化
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 塩分の多い料理を控えるように心がけるといふ質問に「はい」「どちらかといえばはい」と回答する児童が、59.2%から68.5%と増えていた。
宇部市立 新川小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 2年生におやつ授業をして、おやつの内容、時間、量について理解できた。さらに1割の児童は内容について特に理解できた。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 「主食、主菜、副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上ありますか」の結果でほとんど毎日と答えた児童が増えた。 ● 「塩分の多い料理を控えるように心がけていますか」の結果で心がけている児童が増えた。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康状態までは把握していない。

図表 1-47 保護者にみられた変化(自由回答)

学校名	分類	保護者にみられた変化
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	● 生徒が収穫した食材を持ち帰り、調理することで食べものの大切さを意識してもらうことができた。
	望ましい食習慣の形成	● 冬休み中に生徒が朝食を作る課題から、朝食の大切さについての意識を持ってもらえるようになった。
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	● 4年生において授業の内容を家庭へと発信し、保護者にワークシートへの記入をお願いしていた。その返却されたワークシートには、保護者の食に関する知識の理解だけでなく今後どう生かしていくかについて記述されていた。ほかの学年については事前・事後アンケートや親子料理教室にて順次把握できればと考えているが、食に対する理解については着実に深まっている。
	望ましい食習慣の形成	● 4年生において授業の内容を家庭へと発信し、保護者にワークシートへの記入をお願いしていた。その返却されたワークシートには、保護者の望ましい食習慣の形成に関する理解だけでなく今後どう生かしていくかについて記述されていた。ほかの学年については事前・事後アンケートや親子料理教室にて順次把握できればと考えている。
	健康状態の改善	● 今回の事業を行ったことで健康状態が改善したかどうかは、今後もこの内容を継続して伝えることで少しずつ分かると思う。
山形市立 東小学校	食に対する理解	● 親子クッキングや学校保健委員会、1年生保護者試食会での講話や意見交換、食育だよりの発行により、栄養バランスのとれた食事や朝食の大切さ等についての理解が深まった。また、各学習の中で、家庭を巻き込む内容を取り入れたことで、食育への興味や関心が高まった。
	望ましい食習慣の形成	● 生活リズムの確立や朝食の重要性を実感し、朝食内容への意識が高まり自分の家でもできることを工夫してやってみようという意欲が高まった。また、アンケートを2回実施したことで保護者の意識付けになったり、栄養バランスのよい朝食を心がけるようになった家庭もあるようだ。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	● お弁当作りを通して、子供ができるようになったことが増えて嬉しかっただけでなく、親子で旬や産地、鮮度について考えて食品を選択するようになった。

学校名	分類	保護者にみられた変化
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝、手作り味噌を使った味噌汁を作るようになった。 ● 塩分のとり過ぎについて意識するようになった。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● お弁当に好きなおかずばかりいれるのではなく、彩りや栄養バランスのことも考えていこうという意識を持ってくれるようになった。 ● 朝ごはんの内容についても意識してくれるようになってきている。
三春町立 三春中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートのコメント欄に記入する家庭が増えている。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭においても、バランスのよい食事をしている家庭が増えている。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査していないのでわからない。
新地町立 新地小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 「さわやかだ」食事は定着し、家庭での実施回数も増加した。食育の大切さは理解し、地場産物活用割合も増加している。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活習慣の基本である「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを整える大切さを理解し、実践をしている保護者は固定化しており、実践できない保護者の改善が難しい。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 減塩が課題であり、だしのよさを啓発したり、学校給食試食会で減塩味噌汁を体験することで、意識化にはつながっている。しかし、減塩による健康状態改善にはつながっていない。
中能登町立 中能登中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 試食会への参加人数が増えた。
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケートで①栄養バランスを考えて食事やおやつをとる、②ゆっくりよくかんで食べる、③食事の際に衛生的な行動をとる、④食事のマナーに気を付ける、⑤伝統的な食事や行事食について関心がある、⑥朝食を毎日食べる、⑦一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる、の設問で良好な回答の割合が7月→12月で上昇した。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケートで①栄養バランスを考えて食事やおやつをとる、②ゆっくりよくかんで食べる、③食事の際に衛生的な行動をとる、④食事のマナーに気を付ける、⑤伝統的な食事や行事食について関心がある、⑥朝食を毎日食べる、⑦一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる、の設問で良好な回答の割合が7月→12月で上昇した。
須坂市立 東中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育講演会や学年だより、学校だよりから中学生の食の重要性を再認識した。

学校名	分類	保護者にみられた変化
	望ましい食習慣の形成	● 食育講演会后、朝食を食べさせようという意識が高まっている。朝食におかずをもう一品増やす、いろいろな食材を使うという意識がある。
須坂市立 仁礼小学校	食に対する理解	● 食育授業や学校保健委員会で栄養教諭による食の講演会等により、成長期の子供たちにとっての、食の重要性を再認識したと思われる。食育授業後の保護者アンケートでも「頑張って栄養バランスを考えた食事を作りたい」等の声が寄せられた。
	望ましい食習慣の形成	● 共働き家庭が多くなってきている。夕食時間が遅くなったり、一人で食べたりすることの多い家庭では、家庭での生活時間のやりくりを考えたいという声も学習カードのコメントから聞かれた。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	● 家庭教育学級で学んだことを児童へ還元したり、家庭で実践したりする。
	望ましい食習慣の形成	● 「朝食を大人と一緒に、又は家族みんなで食べた」が1.4%増えた。
	健康状態の改善	● 家庭でもお茶を飲むようになる。
裾野市立 富岡第一小学校	望ましい食習慣の形成	● 子供たちを通して緑茶のおいしさ等を知ること、家でもお茶を淹れてみよう、飲んでみようという意欲を持つ。
	健康状態の改善	● 子供たちを通して緑茶と健康の関わりを知ること、家でもお茶を淹れてみよう、飲んでみようという意欲を持つ。
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	望ましい食習慣の形成	● 偏食等の食に関する課題の解決について興味を持つ保護者が増加した。
檀原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	● 学校での食育を好意的に捉え、家庭での食事に留意する保護者が増えた。
	望ましい食習慣の形成	● 数年前より朝食欠食率は下がり、生活習慣も改善されているが、まだまだ家庭の変容までは道のりが遠いと感じる。
	健康状態の改善	● 学習したことを家庭に知らせることで、「家族みんなが健康に過ごせることが大切である」と考える家庭が増えた。
檀原市立 檀原中学校	食に対する理解	● 朝食の内容や減塩等、理解はしているが実践できていない家庭が多い。
	望ましい食習慣の形成	● 生徒の食生活は保護者に依存する部分が大きく、朝ごはんの種類を変えたという声もあった(菓子パンをやめる等)。
	健康状態の改善	● 健康状態の改善までは把握できていないが、食育だより等で啓発はできたと思う。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	● 伝統的な食文化や行事食について関心がある保護者が4.8%上昇した。
	望ましい食習慣の形成	● 毎日朝食を食べる家庭が0.5%上昇した。塩分の多い料理を控えるように心掛けている家庭も3.3%上昇した。

学校名	分類	保護者にみられた変化
宇部市立 琴芝小学校	健康状態の改善	● 健康状態までは把握できていない。
	食に対する理解	● 「伝統的な食文化や行事について関心がありますか」というアンケートに対して、「はい」「どちらかといえばはい」と回答した保護者は6.7%増えている。
	望ましい食習慣の形成	● 「塩分の多い料理を控えるように心がけていますか」というアンケートに対して、「はい」「どちらかといえばはい」と回答した保護者は0.7%増えている。
宇部市立 船木小学校	望ましい食習慣の形成	● 授業をきっかけに、家庭での食事、運動の習慣を子供と一緒に考えて実行する様子があった。
	健康状態の改善	● 把握していない。
宇部市立 新川小学校	食に対する理解	● 「伝統的な食文化や行事食について関心がありますか」の結果で関心のある保護者が増えた。
	望ましい食習慣の形成	● 「ゆっくりよくかんで食べますか」の結果で食べる保護者が増えた。「塩分の多い料理を控えるように心がけていますか」の結果で心がけている高学年の保護者が増えた。
	健康状態の改善	● 健康状態までは把握していない。

図表 1-48 ほかの教職員にみられた変化(自由回答)

学校名	分類	ほかの教職員にみられた変化
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	● 給食について知ってもらうことで、より関心を持ってもらえるようになった。
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	● 今回の事業を進めるにあたって作成していた資料の配付や各学級での食に関する指導において、ほかの教職員の食に対する理解が深まったと考えている。今後は子供だけでなくほかの教職員の食育に対する知識理解も含め資料の配付を中心にしていこうと考えている。
	望ましい食習慣の形成	● 今回の事業を始めるにあたって学校独自で教職員向けアンケートを行った結果、望ましい食習慣の形成に関しては特に低学年や中学年の学級担任が興味を持ってくれていた。今回の事業で食に関する指導で特に触れることはしなかったが、日々の給食指導を通じて疑問を栄養教諭に聞くといった体制もできたことから、望ましい食習慣の形成に対する理解が深まったと考えた。
	健康状態の改善	● 今回の事業を行ったことで健康状態が改善したかどうかは、今後もこの内容を継続して伝えることで少しずつ分かると思う。
山形市立 東小学校	食に対する理解	● 食育の大切さや栄養教諭の役割を理解し、栄養教諭のコーディネートを得ながら連携して学習することにより、深い学びにつながる事が分かった。さまざまな食育の方法に気付いたり、日々の給食や給食指導、食育への関心が高まった。「食」への知識も高まった。
	望ましい食習慣の形成	● 栄養教諭の月別の食育計画により、給食や給食のマナーへの意識が高まり、食器の置き方や姿勢、よくかむ、好き嫌いしない等、児童にも声かけしてくれるようになったのと同時に先生方自身の改善にもつながった。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	● 地域の先生や国際交流の先生等、リストを作成することで教科へ結び付けられるようになった。
	望ましい食習慣の形成	● 給食時間での衛生指導、食事マナーの徹底、食育だよりやリーフレットを使った学級指導を行ってくれるようになった。
	健康状態の改善	● 健康観察の時に、朝ごはんを食べてきているかの確認をとってくれるようになった。
山形市立 第三中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食指導や食に関する指導に対する理解が深まった。 ● 食についての情報を教えてもらえるようになった。

学校名	分類	ほかの教職員にみられた変化
三春町立 三春中学校	食に対する理解	● 給食が食事の目安量であることを理解し、全職員で配膳時の指導を行っている。
	望ましい食習慣の形成	● 各教科でどのように食育と関連付けた指導をしていくかについて、考え、実践しようとしている。
	健康状態の改善	● 調査していないのでわからない。
新地町立 新地小学校	食に対する理解	● 「新地の子どもはさわやかだ」の食育実践は、校内でも定着し、食育の推進につながっている。
	望ましい食習慣の形成	● 教育計画に位置付け、組織的に取り組んでいるので、教育評価項目にも入れて、全校で共通理解を図り、改善に努めている。
	健康状態の改善	● 個別健康指導「すこやか」や「自分手帳」を活用した指導や「ふくしまっ子児童期運動指針」に基づいた指導、体育部の各種運動検定により、体力は向上している。
中能登町立 中能登中学校	望ましい食習慣の形成	● 学級担任による全校一斉マナー指導を行ったことで、クラスでの指導も活発になった。
	健康状態の改善	● 職員の骨密度測定も行い、生徒と比較したデータをとることができた。
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	● 食に関する指導や食育の取組回数が前年度より増えたことで、食の重要性の理解が深まった。
	望ましい食習慣の形成	● 給食指導（配膳、食べ残しをしない、片付け）の指導が徹底されてきている。
須坂市立 東中学校	食に対する理解	● 生徒たちに、朝食を食べたかどうか、投げかけが増えた。苦手なものも一口食べるよう声かけが増えた。
	望ましい食習慣の形成	● 生活記録の起床、睡眠時間、朝食摂取のチェックをして啓発している。
須坂市立 仁礼小学校	食に対する理解	● 学校生活を送る上で食の重要性を実感した。今後も継続していくためには、関係職種との連携（授業時間、打ち合わせ時間）を大切にして、無理のない食育計画を実現したい。
	望ましい食習慣の形成	● 小学生にとって、「望ましい食習慣の形成」の実現には、保護者の理解と協力が不可欠であることを改めて実感した。
	健康状態の改善	● 児童への食育授業を通じて、教職員自身の生活習慣や食習慣について考えるきっかけとなった。改善に向けた取組をしている職員もいる。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	● お茶を通して食生活の大切さを子供たちへ伝える。
	望ましい食習慣の形成	● お茶について学んだことや給食時間の資料を活用して子供たちへ指導する。

学校名	分類	ほかの教職員にみられた変化
	健康状態の改善	● 健康に過ごすために、子供たちへ声かけ等の働きかけをする。
裾野市立 富岡第一小学校	食に対する理解	● お茶を活用したさまざまな実践を通して連携を深める。
	健康状態の改善	● お茶を活用したさまざまな実践を通して、緑茶と健康の関わりを知り、児童に伝えることができる。
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	食に対する理解	● 地域の産物や行事食等について、給食だよりや献立表を活用して児童生徒に説明する教職員が増加した。
	望ましい食習慣の形成	● 偏食改善に向けて、さまざまな方法で取り組む教職員が増加した。
三重県立聾学校	食に対する理解	● 給食指導に力を入れる教職員が増えた。
橿原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	● 給食や食育学習への理解が深まり、協力を得られるようになった。
	望ましい食習慣の形成	● 食育学習への理解が深まり、子供たちや家庭への働きかけ等、協力を得られるようになった。
橿原市立 橿原中学校	食に対する理解	● 朝食や減塩等、授業や給食で取組、説明を行ったので食に対する理解は深まったと思うが、食育を栄養教諭が行うものと考えている教職員も多く、今後も働きかけが必要。
	望ましい食習慣の形成	● 減塩の給食に対する不満の声は減ったように感じる。また、生徒との会話の中で「朝ごはんは食べたか」等と声かけをしてくれる機会が増えた。
	健康状態の改善	● 先生方も薄味に慣れてくれたと感じる。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	● 給食時間における食に関する指導ができている教職員が 25.7%上昇した。
	望ましい食習慣の形成	● 教科等における食に関する指導ができている教職員が 12.5%上昇した。
宇部市立 琴芝小学校	食に対する理解	● 給食時間における食に関する指導について、「できている」「概ねできている」と回答した教職員は 90.1%である。
	望ましい食習慣の形成	● 教科等における食に関する指導について「できている」「概ねできている」と回答した教職員は 87.8%である。また、学校評価アンケートにて「食育に取り組んでいる」と回答した教職員は 100%であった。
宇部市立 船木小学校	食に対する理解	● 給食の時間における食に関する指導について「できている」「概ねできている」との回答が 75.3%から 68.5%と増えていた。
	健康状態の改善	● 把握していない。
宇部市立 新川小学校	食に対する理解	● 給食の時間における食に関する指導について「できている」教職員が増えた。

学校名	分類	ほかの教職員にみられた変化
	望ましい食習慣の形成	● 教科等における食に関する指導について「できている」教職員が増えた。

図表 1-49 地域、関係機関等にみられた変化(自由回答)

学校名	分類	地域、関係機関等にみられた変化
帯広市立 大空中学校	食に対する理解	● 生徒と交流することでより、給食の重要性や地域の子供と触れ合うことの大切さを理解してもらうことができた。
帯広市立 栄小学校	食に対する理解	● 食に関する指導で関わっていただいた方に関しては、子供たちの感想を見せることで食に対する理解を深めることができたと考えている。しかし、関わっていない地域や関係機関に関しては情報発信もしっかりできたとは言えないので、今後どのようにしていくか検討していきたい。
	望ましい食習慣の形成	● 望ましい食習慣の形成に特に関係する親子料理教室が現時点で未実施のため、2019年度が終わるまでに変化があったかどうか考える。
	健康状態の改善	● 今回の事業を行ったことで健康状態が改善したかどうかは、今後もこの内容を継続して伝えることで少しずつ分かると思う。
山形市立 東小学校	食に対する理解	● 児童が学校でどんなことを学んでいて、どんなことに興味や関心があるのかに気付いたり、子供たちと関わる喜びや大切さを実感したり、自分の仕事へのやりがいを再認識したようだ。
山形市立 桜田小学校	食に対する理解	● 食に関心を持たせる情報の発信をしてくれるようになった。(給食センター・農政課)
	望ましい食習慣の形成	● 給食センターと連携して減塩対策を進めていこうとしている。
新地町立 新地小学校	食に対する理解	● 「新地の子どもはさわやかだ」の食育実践は、地域・関係機関にも定着し、食育の推進につながっている。「健康しんち 21」計画作業部会員として、町民につなげたい。
	望ましい食習慣の形成	● ウェブサイトや「食育パンフレット」で啓発し、理解されているが実践が伴っていない。今後も地域・関係機関と連携し、学童期における望ましい食習慣の形成を継続して実施したい。特に減塩運動、「早寝・早起き・朝ごはん」の改善に努めたい。

学校名	分類	地域、関係機関等にみられた変化
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 新地町地域学校保健委員会を年1回開催し、学校・地域で共通理解を図っている。また、栄養教諭が新地町食育推進計画の中間見直し策定委員になり、学童期における健康課題解決に取り組み、結果を共有し改善に努めている。
中能登町立 中能登中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 料理教室の開催数が増えた。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 中能登町保健環境課との連携でバランスのとれた食事の重要性や親子の共食等についての理解を深めることができた。
七尾市立 七尾東部中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 調理実習の指導を時間内に的確に実施するために市食生活改善推進委員ボランティアや地域の食品会社の方に支援していただいた。このことを研修会で紹介したことで近隣の学校からも要請があり、広がりを見せている。
須坂市立 東中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育の取組を継続して啓発、発信していく。
須坂市立 仁礼小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も今までどおり、計画されている活動を実施し、児童・教職員と連携し、食の大切さを伝えて行く。
裾野市立 東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶を通したさまざまな実践を通して連携を深める。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶を通したさまざまな実践を通して連携を深める。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶を通したさまざまな実践を通して連携を深める。
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の産物や文化について出前授業を行う等、協力してくださる方や団体が増加した。
檀原市立 畝傍東小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食や学校での食育学習に理解を深めてもらうことができ、多くの協力をいただけた。
檀原市立 檀原中学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 市教育委員会を通して、多くの方と関わることができ、学校給食への理解は深まったと思う。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 例えば、地場産物を学校給食に活用する重要性等は理解してもらえ、協力いただけたと思う。
	健康状態の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 把握はしていないが、市の広報誌等に掲載いただき、広く啓発できたと思う。
宇部市立 上宇部小学校	食に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のコミュニティでの学習の場において啓発を行ったところ、食の重要性について理解が深まった地域の方が68%だった。
	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のコミュニティでの学習の場において啓発を行ったところ、塩分について関心が深まった人が27%だった。

学校名	分類	地域、関係機関等にみられた変化
宇部市立 琴芝小学校	食に対する理解	● 学校保健安全委員会や学校運営協議会にて、情報交換をし理解を得ている。
	望ましい食習慣の形成	● 食育講演会に参加された地域の方は、「へら塩で簡単料理」は参考になったと意見をいただいた。
宇部市立 新川小学校	食に対する理解	● 学校保健委員会に参加した地域の方は「何気なく食事をしていたが、これからは減塩に気を付けながら考えて食事をしていきたい」と考えるようになった。学校運営協議会で食に関する現状と課題を理解した。
	望ましい食習慣の形成	● 食育講演会に参加し、食育について知った。

⑥ 本年度の取組の成果

- 本年度の「つながる食育推進事業」で感じている成果

本年度の「つながる食育推進事業」に係る取組の中で感じている成果について、「十分できた」は、「地域の生産者や食に関わる人々と子供が交流する機会を作ること」「学校内の他の教職員と連携をとること」がそれぞれ8校と最も多くなっている。

図表 1-50 取組の中で十分できたと感じるもの(単一回答)

(校)

	十分できた	ほぼできた	どちらとも いえない	あまりでき なかった	できなかった	あらかじめ 想定していない
保護者と子供と一緒に参加する機会を作ることができましたか(n=21)	2	13		3	1	2
現状や課題をデータで把握し、子供・家庭・学校が共有することができましたか(n=21)	3	12		2	3	1
学校と家庭の双方向での情報交換を図ることができましたか(n=21)	1	11		6	3	0
地域の生産者や食に関わる人々と子供が交流する機会を作ることができましたか(n=21)	8		11		1	0
学校種を超えた連携や地域の様々な世代との交流を図ることができましたか(n=21)	4	11		3	2	1
学校内の他の教職員と連携をとることができましたか(n=21)	8		13		0	0

- 本年度の「つながる食育推進事業」の取組を通じて特にポイントとなると感じた点

本年度の「つながる食育推進事業」に係る取組を通じて、子供とのつながり、家庭・保護者とのつながり、学校内の教職員とのつながり、地域とのつながりにおいて、特にポイントとなると感じた点は、それぞれ下表のとおり。

図表 1-51 特にポイントとなると感じた点:子供とのつながり(自由回答)

学校名	子供とのつながりで特にポイントとなると感じた点
帯広市立大空中学校	● 毎日食べている給食を教材とし、生産者や加工業者、調理員と生徒が直接会って話す機会を設けたことや、実際に畑に出向き、収穫体験を行ったこと。
帯広市立栄小学校	● 信頼関係を築くこと。授業を行ってみて、毎日の給食指導で話しやすい関係づくりがポイントになると感じた。 ● 専門職として、子供の実態を把握すること、食育の目指すもの、目標を子供たちに知らせ、実生活において実践的な態度を育てることが大切と改めて感じた。
山形市立東小学校	● 子供との関わりを大事にし、「食」への興味・関心を高めたり、何を学びたいのかを感じ取ったり、やる気を引き出すことが大事だと思った。また、日ごろの給食時間の声かけや指導も大事だが、授業(家庭科や保健等)で専門的な立場として、しっかりと正しい知識や技能を伝えたり、実践できる手立てを考えたり計画することが大事だと思った。
山形市立桜田小学校	● 活動ごとにふりかえりカードを活用することは次への意欲にもつながり、効果的だった(からだいきいきカード・さくらの日ふりかえりカード・食事マナーカード・教科のふりかえり)。
山形市立第三中学校	● 普段から生徒と接し、生徒と近い関係を築いておくこと。栄養教諭が異質な存在にならないことで、すんなりと指導が入っていくと感じる。
三春町立三春中学校	● 3年間を見通した、系統的な食に関する指導。
新地町立新地小学校	● 体験活動は大変有意義だった。自分自身で生産や調理実習をすることにより、苦手だった食品(野菜や魚介類)を食べられるようになった児童が多かった。またそれを食育レポートにまとめて発信もできた。食育でもアクティブラーニングができた。

学校名	子供とのつながりで特にポイントとなると感じた点
中能登町立 中能登中学校	● 体験活動や、生産者の方や食に関わる人々との交流する機会等に、より関心を持って生徒も取り組んでいた。
七尾市立七尾 東部中学校	● 個々の生徒自身の食生活や発育、健康状態の実態を客観的に知らせることでより健全な行動ができるようになること。
須坂市立 東中学校	● 定期的に給食時に訪問することで、栄養教諭をしっかりと教諭として生徒が認識した。そのことで、食育を教科としてとらえてくれた。
須坂市立 仁礼小学校	● 定期的に学校訪問することで、栄養教諭を児童が教諭として認識した。
裾野市立 東小学校	● 子供の実態を把握すること。給食の様子や活動の様子等、自分の目で見ること。
裾野市立富岡 第一小学校	● 子供の実態を把握すること。
三重県立松阪 あゆみ特別支 援学校	● 食に関わる場面以外でも子供たちと関わることで、より細やかな実態把握をすること。
三重県立 壘学校	● 給食時間を活用することが効果的だった。
檀原市立 畝傍東小学校	● 栄養教諭が給食時間の指導やさまざまな学習に関わることで、子供たちの食に対する興味関心が高まり、給食や食育の授業を一層楽しみにしてくれるようになった。
檀原市立 檀原中学校	● 授業だけでなく、日常生活を通して生徒と関わっていくことで、授業以外でも食の話題に触れてくれていた。
宇部市立 上宇部小学校	● 積極的に授業、給食時間等を活用して子供との関わりを持つこと。
宇部市立 琴芝小学校	● 毎日の給食時間の食育。
宇部市立 船木小学校	● 給食時間の日々の指導を通して、積極的に関わっていくこと。
宇部市立 新川小学校	● 毎日の給食指導を通して、積極的に関わる。

図表 1-52 特にポイントとなると感じた点:家庭・保護者とのつながり(自由回答)

学校名	家庭・保護者とのつながりで特にポイントとなると感じた点
帯広市立 大空中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食だよりや、食育だより等で地場産物や、生産者、給食についての情報提供や、生徒の活動についての情報提供。 ● 生徒が給食に関わる方々へ取材をして作成した新聞の配布。 ● 収穫体験した長芋やごぼうを持ち帰り、調理してもらうことにつながった。
帯広市立 栄小学校	● 生涯を通じて、食育の大切さに気付き、実践してもらうには、家庭との連携が不可欠であると感じる。食育だよりで家庭や保護者へと情報を発信するだけでなく、双方向での情報交換ができればと思う（今回はアンケートや授業後の感想を書いていただいた）。

学校名	家庭・保護者とのつながりで特にポイントとなると感じた点
山形市立 東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 自主的かというと、やる気のある児童だけの取組になってしまうため、朝食作り等の課題を出して、保護者が関わってもらう場面をつくるのが大事だと思った。また、一方的な講話よりも、保護者同士の意見交換を取り入れると、親同士のつながりもでき、家庭での工夫や改善に結び付くので効果的である。さらに、食物アレルギーや肥満傾向の児童については、継続的に面談をしてじっくり話すことで、保護者との信頼関係を築くことができ、協力して改善していくことができると思った。
山形市立 桜田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● ふりかえりカードに保護者からの一言欄を設けることで活動を共有できた。また、食育の重要性への理解にもつながられた。
山形市立 第三中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭も巻き込んだ活動をするには、PTAの協力が大事だと思った。
三春町立 三春中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 食育授業後のワークシートに保護者からコメントをもらうようにし、学校での学びを家庭にお知らせする。
新地町立 新地小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 「食育講座（地場産物活用の調理実習）」では、早めに学年便りで参加を呼びかけ、食育講演会（2019 年度は食育映画上映）はPTA行事日に開催して、多くの方が参加できるようにし、つながる機会を多くした。食育が根付いてきて、家庭でも健康を考えて食事をしているというコメントがあった。また、家庭での「さわやかだ」食事の回数も増加した。
中能登町立 中能登中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 試食会や料理教室等なかなか参加者が集まらず苦勞したが、保護者から保護者への声かけでより理解が得られると感じた。
七尾市立七尾 東部中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 個々の生徒自身の食生活や発育、健康状態の実態を客観的に知らせることでより健全な行動ができるようになること。
須坂市立 東中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● この点が難しい。センター勤務の栄養教諭は、生の声がなかなか聞くことができない。栄養教諭からのおたよりや学校からのおたよりを通して間接的に啓発していく。こちらからの発信に対してアンケートに答えてもらうしかなく、双方向での発信が難しい。父親・母親委員会等のPTA活動を行うのもセンター勤務だと難しい。
須坂市立 仁礼小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校保健委員会で、児童の食生活について課題を共有したりグループとの話し合いに参加することで、一緒に考えたり情報交換できた。
裾野市立 東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校からの情報発信をよくすることで、学校の様子を保護者に知らせること。
裾野市立富岡 第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校で取り組んでいることを発信していくこと。偏食やマナー等、保護者がどんなことを問題と感じているか把握すること。
三重県立松阪 あゆみ特別支 援学校	<ul style="list-style-type: none"> ● たより等を通しての情報発信だけでなく、担任等と情報交換しながら保護者が困っていることや求める情報について把握すること。
三重県立 豊学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校に来てもらう機会を増やすとよいと思った。
檀原市立 畝傍東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシート等のやり取りを通じて、保護者が学校の食育に好意的な捉え方をしていることが伝わり、児童の家庭での様子も把握することができた。
檀原市立 檀原中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校は、小学校と比べると保護者が来校する機会が少ないため、子供を通じて伝える食育も大切だと感じた。授業後、学習プリントや配布物を保護者にも見せ、こんな話を聞いたよと伝えてもらえるよう声かけを行った。
宇部市立 上宇部小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状把握をし、学校保健安全委員会や試食会等限られた啓発場面において、体験活動を取り入れる等、より有効的な方法を見つけること。

学校名	家庭・保護者とのつながりで特にポイントとなると感じた点
宇部市立 琴芝小学校	● 試食会や体験活動を取り入れた食育活動、便りやウェブサイトによる情報の発信。
宇部市立 船木小学校	● 養護教諭と連携し、家庭の様子を把握して現状を伝える。
宇部市立 新川小学校	● アンケート結果等、現状や課題をデータで示し情報共有する。給食だよりやウェブサイト等で情報発信を行う。試食会や学校保健委員会等、限られた啓発場面において、体験活動のような有効的な方法を用いて、家庭への食育を推進する。

図表 1-53 特にポイントとなると感じた点:学校内の教職員とのつながり(自由回答)

学校名	学校内の教職員とのつながりで特にポイントとなると感じた点
帯広市立 大空中学校	● 一緒に収穫体験や、給食に関わる方を招いて授業を行ったことで、より給食を身近に感じてもらい、給食について知ってもらう機会となった。
帯広市立 栄小学校	● 打ち合わせや職員会議で情報を発信するだけでなく、栄養教諭とほかの教職員が相談しやすい環境づくりが特にポイントだ。先生方の中でも食育に興味・関心に差があるため、どの先生も栄養教諭に相談しやすい環境を整えることで連携にもつながり、よりよい指導になる。まず、教育課程に食育をしっかりと位置付け、その授業展開において、栄養教諭が関わる時間を増やし、授業を充実させることが何よりも大切だと感じている。
山形市立 東小学校	● 日ごろから先生方とコミュニケーションを取り、信頼関係を築いておくことや、児童の課題を共有したり、学習内容や進捗状況を把握しておくことが大事だと思った。また、今回は組織をうまく活用できず、個人の発想や提案になってしまった点もあったが、組織（健康部会等）を活用して多くの先生方を巻き込んで活動できると更に良かったと思う。
山形市立 桜田小学校	● 教職員用の食育通信を発行することで、教職員間の情報の共有や活動の意義、子供たちへの事前・事後指導の徹底を図ることができた。
山形市立 第三中学校	● 普段からのコミュニケーションで関係を築いておくこと（食に関することに関わらず）。
三春町立 三春中学校	● 各教科での食育と関連項目の抽出を行ったことで、教育課程全体を見通した、全体計画が作成され、各教科においても食育を意識した指導を行うことが可能となった。
新地町立 新地小学校	● 教育計画に位置付け、それに基づいて「チーム新地」として事業実践ができ、成果につなげることができた。ただし、アンケートの回数が多く、先生方にも多くの負担をかけることになった。
中能登町立 中能登中学校	● どのような活動をどのような目的で取り組むかを全職員が共通理解しておくことが効果的に指導するポイントだと感じた。
七尾市立七尾 東部中学校	● 家庭科、保健体育科等教科においては、既存の枠で栄養教諭がコーディネートしたり、直接授業に参画したりすることで、学習効果の高まりが期待できることを説明したこと。また、アンケート実施によって具体的な課題が明確になり、食育関連行事の企画、実施に教職員の協力を得やすくなったこと。
須坂市立 東中学校	● 定期的な学級訪問や、学校内の一職員として、会議や研修会、授業研究会、学校行事に参加することで、校内の教職員のつながりが深まった。
須坂市立 仁礼小学校	● 定期的に学校訪問することで、連携して授業することができた。
裾野市立 東小学校	● 日ごろからのコミュニケーション。

学校名	学校内の教職員とのつながりで特にポイントとなると感じた点
裾野市立富岡第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーションを取ること。 ● 情報の共有。
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養教諭の役割等をほかの教職員に伝えて理解してもらうこと。
三重県立豊学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題意識を共有することが必要だと思った。
橿原市立畝傍東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養教諭とともに勤務をすることが初めての教職員がほとんどであったが、栄養教諭の職務や食育のコーディネーターとしての役割を理解して、食育に前向きな教職員が増えたと感じる。
橿原市立橿原中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員の中でも食に対する意識に差があり、つながりは特に難しく感じた。ハードルが高いと感じ、構えてしまう「食育」を、いかに身近に感じてもらうかが重要であり、コーディネーターとしてどのようにアプローチをするかが課題。
宇部市立上宇部小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 校内での食育研修会の実施と指導資料の配付。
宇部市立琴芝小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休みの食育研修会や食に関する資料の提示。
宇部市立船木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料の提示や給食時間での関わり。
宇部市立新川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 校内研修会を行い、共通理解を図る。給食指導や授業において資料提示を行う。日々のコミュニケーションをしっかりと取る。

図表 1-54 特にポイントとなると感じた点:地域とのつながり(自由回答)

学校名	地域とのつながりで特にポイントとなると感じた点
帯広市立大空中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の生産者、加工業者、学校給食センターと連携し、事業を進めた。
帯広市立栄小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養教諭が地域の人材を把握することがポイントだと考えた。今回は4年生において地域の農家の方に協力をお願いした。しかし、実際には給食センターの調理員や業者、さまざまな人が地域にはいる。その人材をどのように食育につなげるかを考えるためにも栄養教諭がまずは把握し、そこから各学級の食に関する指導に活かしていくことが流れがよいと考えた。
山形市立東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元の農家の方と何度も連絡を取り合ったり、畑に出向いたりして自分たちの思いを伝えたり、農家の方の思いや考え方を知ったり、お互いわかり合うことにより、気持ちがつながり、同じ思いで子供たちを育てることができた。
山形市立桜田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● P T A主催の行事への全面協力や生産者交流では市農政課、郷土料理に関する食生活改善推進協議会といった連絡体制を整えることでスムーズに活動することができた。
三春町立三春中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報誌等の活用。学校での取組を地域に伝える手段。
新地町立新地小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 「食育講座」の講師に地域関係者を依頼したり、十分な事前打合せを行い、「地元産食材のよさ」の定着、啓発に努めることができた。また町の教育委員会・保健センターとは常につながって、事業を進めることができた。「食育パンフレット」は町全戸に配布している。
中能登町立中能登中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産者等、生徒と顔を合わせる機会は少ないが、試食会等、交流する場を持つことで食育への関心を持ってもらうことができたと思う。

学校名	地域とのつながりで特にポイントとなると感じた点
七尾市立七尾東部中学校	● 市学校教育研究会学校給食部会研修会、市学校給食会研修会、市学校保健会研修会、市食育推進委員会等で、学校における食育に関心を持っていただけるよう、学校でのこれまでの取組を紹介したこと。また、地域の方に授業等の講師をお願いすることで新たなつながりができたこと。
須坂市立東中学校	● 中学は授業以外に時間がなく、日常的にはできない。特設授業も難しく、アズマデーで、地域に伝わる伝統的なやしょうま作りの講座を開設するのが限界である。
須坂市立仁礼小学校	● 親子でクッキングに参加し、食で健やか応援隊と交流が持て、情報交換できた。市健康づくり課管理栄養士と連携できた。
裾野市立東小学校	● 地域の生産者や業者とのつながりを大切にすること。
裾野市立富岡第一小学校	● 地域の生産者、ボランティアで関わってくれた方とのつながりを大切にすること。
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	● 学校の状況等を積極的に地域の方へ伝えること。
三重県立豊学校	● 学校側からの情報発信が大切だと思った。
檀原市立畝傍東小学校	● 「子供たちのために」と、生産者等、多くの方が協力をしてくださり、今後につながるよい出会いができた。
檀原市立檀原中学校	● 地域の方が関わる行事も少ないため、どのような部分でお願いできるのか模索しなければならない。
宇部市立上宇部小学校	● 学校運営協議会への参加における食についての現状や課題について共有。
宇部市立琴芝小学校	● 学校運営協議会への参加。
宇部市立新川小学校	● 学校運営協議会に出席し、情報発信を行う。

図表 1-55 特にポイントとなると感じた点:栄養教諭自身に求められる資質(自由回答)

学校名	栄養教諭自身に求められる資質で特にポイントとなると感じた点
帯広市立大空中学校	● 地域、生産者、学校をつなぐコーディネーターとして、校内の先生方や日々の給食作りに関わる方々と密に連携を取ること。
帯広市立栄小学校	● 子供やほかの教職員だけでなく家庭や保護者、そして地域の方と関わるためにコミュニケーション能力が大切だ。話しかけやすい雰囲気づくりだけでなく、情報をわかりやすく発信することもその能力の一つである。食育を今後広げていくためにも、このような能力が特に重要になってくる。
山形市立東小学校	● 思うだけでなく、データの分析や子供たちの様子から何が課題なのかを把握し、それを、資料等を作ってしっかり教職員や家庭へ伝え、共通理解を図る力。そして、課題解決をしようという強い思いと、食育のコーディネートをし改善していく実行力が必要だと思う。また、先生方や保護者の立場も考えながら、コミュニケーションを取り、信頼関係を築いていく力や子供一人ひとりに寄り添う力も大事だと思う。情報も変わるので常に学び続ける姿勢も大事だと思う。
山形市立桜田小学校	● アンテナを高く持つ。教職員、子供、保護者、地域の声をキャッチし、実り多い活動に結び付ける情報を発信していく。
山形市立第三中学校	● 食に関する知識はもちろんだが、さまざまな関係職種と連携・調整する力。

学校名	栄養教諭自身に求められる資質で特にポイントとなると感じた点
三春町立 三春中学校	● コーディネート力（保護者や地域との連携・調整）。
新地町立 新地小学校	● コーディネート力とフットワーク。
中能登町立 中能登中学校	● データを分析する力や課題解決の手法を見出す力が必要。また、さまざまな業種の方や教職員等とのコミュニケーション能力も重要。
七尾市立七尾 東部中学校	● 生徒の栄養状態等の把握に関する技法、個別相談指導での栄養学等の専門知識に基づいた対応。保護者への指導、助言。
須坂市立 東中学校	● 明るさ。受け身ではいけない。積極的に学校に入っていく姿勢。給食時間に積極的に学級訪問する。養護教諭との連携。
須坂市立 仁礼小学校	● 明るさ。受け身ではいけない。積極的に学校に入っていく姿勢。給食時間に積極的に学級訪問する。養護教諭との連携。
裾野市立 東小学校	● たくさんのつながりを大切にすること。コミュニケーション能力。さまざまな食に関する情報を常に勉強すること。
裾野市立富岡 第一小学校	● コミュニケーション能力。食に関する指導を円滑に進めるためのコーディネート能力。
三重県立松阪 あゆみ特別支 援学校	● 担任等と協力しながら学校教育活動全体で食育を推進する体制づくりのため、情報を収集・発信すること。
三重県立 豊学校	● 子供にとって必要なことを知り、ほかの教職員を巻き込んで共通の問題意識とするような、周りを巻き込む力が必要だと思う。
檀原市立 畝傍東小学校	● 子供・学校・家庭・地域を結ぶ食育のコーディネーターとしての役割が求められている。学校での学習内容や児童の様子等をしっかり理解・把握し、個々に応じた指導を進める力が必要と考える。
檀原市立 檀原中学校	● 学校や生徒に必要な食育をしっかりと準備し、推進していく強い意志が必要だと思った。生徒や保護者だけでなく、教職員の食育に対する意識をよりよいものにする働きかけを身に付けなければならない。
宇部市立 上宇部小学校	● 栄養教諭としての専門的な指導能力と子供、家庭、地域との連携を図るためのコミュニケーション能力。
宇部市立 琴芝小学校	● 専門的な指導能力とコミュニケーション能力。
宇部市立 船木小学校	● 学校や保護者、地域と連携を取るためのコミュニケーション能力。 ● 専門性。
宇部市立 新川小学校	● 学校、家庭、地域をつなぐコミュニケーション能力が必要である。また、食に関する指導能力が大切である。

2. 実施校へのヒアリング調査

2.1 ヒアリング調査設計

(1) 実施校におけるヒアリング調査設計

実施校で取り組んでいる内容について詳細を把握し、実施校における効果検証や全国に普及させる方策検討の参考とするために、実施校へのヒアリングとして、下表の調査設計に基づいて実施した。

図表 2-1 実施校におけるヒアリング調査設計

項目	概要
調査対象	実施校の栄養教諭
ヒアリング実施数	11 校
ヒアリング時間	1 団体 2 時間以内
実施時期	令和元年 12 月 12 日～令和 2 年 1 月 21 日
実施方法	実施校へ電話にて協力を依頼。 弊社の研究員 1～2 人を派遣し、対象の指定する場所であらかじめ作成したインタビューフローをもとに現地ヒアリング調査を実施。
実施機関	株式会社インテージリサーチ

(2) ヒアリング対象校

実施校（全 21 校）から、以下の観点に着目して 11 校を抽出し、それぞれの学校における取組の工夫や児童生徒における具体的な変化、関係者との連携状況等についてヒアリングした。

- 取組に関するロジックモデルを明確にする観点から、抱える課題と取組効果に対する仮説が明確である学校
- ベストプラクティスとなる事例を取り上げ、他校への展開を促すため、取組実施により既に前向きな変化や効果がみられる学校
- 朝食摂取率のうち、週 1 回以下が 4 %を超える学校
- 事前アンケートの児童生徒における朝食摂取率（問 6）が高い／低い学校、教師における回答の総合スコア や校長のスコア、学級担任のスコア及び食の指導に係る項目の合計スコアが高い／低い学校
- 学校内（教職員間）での連携による取組や、保護者、生産者や地域、関係機関と連携した取組を実施した学校
- 朝食の内容を把握する取組や、小学校高学年や中学生で自分で朝食を作るよう促す取組をしている学校
- 地域、校種、学校規模（児童生徒数）、児童生徒 1 人あたりの予算額、栄養教諭の経験年数、地域の特徴（市街地か農村地帯か等）になるべく偏りが生じないように考慮する（9 県 12 事業、小・中のバランスが偏らないよう配慮する）

効果・成果の把握にあたっては、栄養教諭アンケート（第 1 回）の回答内容を参考にし、特に「問 8 朝食摂取についての取組を経た（2）児童生徒の変化、（4）保護者の変化」「問 16 取組の中での配慮や工夫等」「問 17 取組を通じた変化（1）児童生徒、（2）保護者、（3）ほかの教職員や地域、関係機関等」に着目した。

図表 2-2 ヒアリング対象校の選定ポイント

都道府県	学校名	事例選定のポイント	実施日
北海道	帯広市立 大空中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前アンケートにおける児童生徒の朝食摂取率が、実施校（中学校）の中で2番目に高い一方、朝食を毎日食べる割合が「週に1日程度」「ほとんどない」の合計が4.1%となっていることから、朝食摂取について生徒内でばらつきがあり、朝食摂取に向けた取組を学校として取り組む必要があると考えられる。 ● 2017年度からの朝食摂取率の推移（全国学力学習状況調査、中学3年生のみ）を見ると、84.3%（2017年度）、84.4%（2018年度）、85.7%（2019年度）と増加傾向にあることから、学校として取り組んでいる内容を具体的に確認する。 	令和元年 12月24日
山形県	山形市立 桜田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前アンケートの児童生徒における朝食摂取率が、実施校（小学校）の中で2番目に高いため、活動指標「朝食の毎日摂取率」（85%）の達成に向けた取組の成果を具体的に確認する。 ● 栄養教諭アンケートにおいて、就寝・起床時間の遅さから朝食欠食となる児童に対する問題意識が明確であり、それに対する取組を重点的に行っていることから、他校の参考になると考えられる。 ● 栄養教諭アンケートにおいて、家庭とのつながりを特に意識していると回答していることから、家庭と連携するための工夫や連携することで効果が出ていることがあるか具体的に把握する。 	令和元年 12月17日
石川県	中能登町立 中能登中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 県内の実施校で人口規模が異なっており、地域との連携における課題に違いがあるかを確認する。 ● 事前アンケートの児童生徒における朝食摂取率が平均より低いため、取組の成果を具体的に確認する。 ● 事前アンケートにおける教員のうち、校長のスコアが実施校（中学校）の中で最も高いことから、校長の理解によって教員間の連携がどの程度できているかを確認する。 ● 栄養教諭の経験年数が短いことから、栄養教諭の素質やほかの教員の巻き込み方等、学校内での連携状況を確認する。 ● 栄養教諭アンケートにおいて、「保護者への働きかけが難しい」との認識を持っていることから、そう感じるきっかけ、働きかけるための工夫を確認する。 	令和元年 12月12日

都道府県	学校名	事例選定のポイント	実施日
石川県	七尾市立 七尾東部 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 県内の実施校で人口規模が異なっており、地域との連携における課題に違いがあるかを確認する。 ● 事前アンケートの児童生徒における朝食摂取率が実施校（中学校）で下から３番目と低いため、取組の課題や成果を具体的に確認する。 ● 栄養教諭アンケートでは朝食摂取をはじめ多様な取組を行っていることが確認できるが、成果を実感できていないとの回答があるため、実際にどのような課題があるかを確認する。 ● 事前アンケートにおける教員の総合スコア及び校長のスコアが実施校（中学校）で２番目に高いことから、学校内の連携状況を確認する。 ● 栄養教諭自身が、民間企業でも勤務経験があることから、その知見を活かした指導の工夫があるか確認する。 ● 栄養教諭アンケートにおいて、朝食調査を生徒会活動の一環で実施していることから、朝食の内容をどの程度把握しているか、それによる効果を確認する。 	令和元年 12月13日
長野県	須坂市立 東中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒１人あたりの予算規模が大きい。 ● 他校と比べ、栄養教諭と連携した食育の機会が少ない中学校であり、重点的に事業を展開している。 ● 栄養教諭アンケートより、健康状態については校種間連携のもと対応していることが確認できる。 ● 事前アンケートの児童生徒における朝食摂取率が実施校（中学校）で下から２番目に低く、朝食を毎日食べる割合が「週に１日程度」「ほとんどない」の合計が４％となっていることから、課題等を具体的に確認する。 	令和２年 1月8日
静岡県	裾野市立 東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 特産品（静岡茶）を教材としたユニークな食の指導を行っており、地域との連携に対する意識が明確である。 ● 静岡県の２校のうち、教員アンケートの総合スコアが高い。 ● 事前アンケートにおける教員のうち、校長のスコアが実施校（中学校）で最も高いことから、校長の理解によって教員間の連携がどの程度できているかを確認する。 	令和元年 12月23日

都道府県	学校名	事例選定のポイント	実施日
三重県	三重県立 松阪あゆみ特別 支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 本校に特有の食育の課題が明確である（偏食が多い、アレルギー体質等で食材に制限がある、家庭環境や運動不足により肥満傾向が多い等）。 ● 栄養教諭アンケートでは朝食摂取の取組を行っていることが確認できるが、成果を実感できていないとの回答があるため、実際にどのような課題があるかを確認する。 ● 事前アンケートにおける児童生徒の朝食摂取率が、実施校（中学校）の中で3番目に高い一方、朝食を毎日食べる割合が「週に1日程度」「ほとんどない」の合計が5.5%となっていることから、朝食摂取について児童生徒内ではばらつきがあり、朝食摂取に向けた取組を学校として取り組む必要があると考えられる。 ● 栄養教諭の経験年数が短いことから、栄養教諭の素質やほかの教員の巻き込み方等、学校内での連携状況を確認する。 	令和2年 1月9日
三重県	三重県立 聾学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 本校に特有の食育の課題が明確である（好き嫌いが多い、食品ロスへの意識が薄い、マナーが身に付いていない等）。 ● 栄養教諭アンケートでは朝食摂取の取組を行っていることが確認できるが、事前アンケートにおける児童生徒の朝食摂取率が実施校（小学校）の中で最も低くなっていることから、実際にどのような課題があるかを確認する。 	令和2年 1月9日
奈良県	橿原市立 橿原中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前アンケートにおける児童生徒の朝食摂取率が実施校（中学校）の中で最も低く、朝食を毎日食べる割合が「週に1日程度」「ほとんどない」の合計が6.1%と高いことから、学校全体として朝食摂取を進める必要がある。 ● 栄養教諭アンケートにおいて、「食育に関心がない保護者がいる」ことを課題として認識しているため、保護者への働きかけの工夫等を確認する。 ● 栄養教諭の経験年数が短いことから、栄養教諭の素質やほかの教員の巻き込み方等、学校内での連携状況を確認する。 	令和2年 1月8日

都道府県	学校名	事例選定のポイント	実施日
山口県	宇部市立 琴芝小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前アンケートにおける教員の総合スコア及び学級担任のスコアが、実施校（小学校）の中で最も高いため、栄養教諭を核とした学校内連携の成果を確認する。 ● 栄養教諭アンケートにおいて、週1回朝食調べを実施していることから、その具体的な内容や朝食摂取率との関係を確認する。 ● 栄養教諭アンケートから、地域の生産者や食品メーカーと連携した取組が確認できる。 	令和2年 1月20日
山口県	宇部市立 船木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前アンケートにおける児童生徒の朝食摂取率が実施校（小学校）の中で3番目に低く、朝食の共食割合も低いことから、家庭全体として朝食を食べていない可能性が考えられ、その実態や課題を把握する。 ● 事前アンケートにおける教員の総合スコア及び学級担任のスコアが、実施校（小学校）の中で3番目に高いため、栄養教諭を核とした学校内連携の成果を確認する。 	令和2年 1月21日

(3) 実施校ヒアリング項目

栄養教諭アンケートでの回答内容について、以下の項目に沿って、各学校の特徴が出るようヒアリングを行った。

図表 2-3 実施校におけるヒアリング項目

分類	概要
実施校の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒の食習慣・食生活における課題（栄養教諭アンケート問1）とそう感じる理由 ● 保護者（家庭）にみられる食育の課題（栄養教諭アンケート問2）とそう感じる理由 ● 児童生徒の抱える課題と、保護者（家庭）にみられる課題の関係性について
課題解決に向けた本年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 本年度の食育事業の目標、目標におけるポイント ● 朝食摂取についての課題認識及び取組内容（栄養教諭アンケート問6・7・8）
給食の現状・今後に向けた考え	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食における市町村内産食材等の使用割合を増やすための取組等（栄養教諭アンケート問3・4）
本年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組を進めるにあたって工夫したり苦労したりしていること ● 取組を進める上で必要な支援 ● 栄養教諭が積極的に関与した取組 等 <p>※栄養教諭アンケート（問10・11）</p>
学校内での教職員間の連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組前後での栄養教諭以外の教職員の意識や給食指導における変化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ （変化があった場合）効果的と思われる取組 ● 教職員間での共通認識の醸成 ● 栄養教諭が課題と感じていたことに対する解決方法
関係団体との連携状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 連携している関係団体と連携内容について
栄養教諭の役割に関する考え	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭環境の把握、保護者や地域との関係性構築における工夫 ● 栄養教諭に求められる資質について
取組の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 取組の成果は想定どおりか ※想定と異なる場合は、どういった成果か <ul style="list-style-type: none"> ➢ 児童生徒への効果 ➢ 保護者への効果 ➢ 地域への効果 <p>※栄養教諭アンケート（問17）</p>
今後に向けた課題と次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後に向けた課題 ● 次年度への展望

2.2 朝食摂取について

朝食摂取についてはすべての実施校で取り組んでおり、小学生では家庭と一緒に朝食を食べること、中学生では保護者に頼らず自分自身で作れるようになることを意識した取組がみられた。また、子供自身が主体的に取り組んだり、取組に楽しさを見出すと、効果に結び付きやすいと考えられる。

図表 2-4 朝食摂取に関する課題認識、取組、効果等

学校名	課題認識	取組内容	取組による効果・欠食率の変化
帯広市立 大空中学校	<ul style="list-style-type: none"> 朝食摂取率自体は低くないが、朝食の内容に問題がある。食育アンケートでは、必要な摂取カロリーに足りない想定される献立を回答する生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生を対象に家庭科で、実際に朝食のメニューを作る授業「朝ごはんを作ろう！」を行った。その後、冬休みの課題として、朝食作りとそのレポートを課した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒からは「簡単なので、家でも作れそう」「ちょっと失敗したが、もう一度作ってみたい」という声があった。
山形市立 桜田小学校	<ul style="list-style-type: none"> 保健室に来る児童から、朝食を食べていない、起床時間が遅く食べる時間がなかった、という状況が見えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 親子でお弁当を作る「さくらの日」を複数回にわたって実施。 	<ul style="list-style-type: none"> お弁当作りのために早寝・早起きするようになった。 親子の交流が深まった。 旬や産地に対する知識が増えた。
中能登町立 中能登中学校	<ul style="list-style-type: none"> バスで通学する生徒は朝の時間に余裕がなく、朝食を食べない傾向がある。 朝食をとらない理由をアンケートで聴取した結果、「食欲がない」が最多。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに、おにぎりの具を考えて作る。（給食委員（1～3年生、計15名）が対象） 保護者が食事を用意できなくとも、「自分で朝食を作って食べよう」という方針。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は楽しんでおにぎり作りに取り組んだが、実際に家での実践につながるかどうかは不確かな部分もあるため、掲示や配布物等での継続的な働きかけが必要。

学校名	課題認識	取組内容	取組による効果・欠食率の変化
七尾市立 七尾東部中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食欠食率が高い。 ● なぜ朝食をとらなければならないかという基本的なことを重視していない様子。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 独自アンケートによる朝食の頻度、品数、満腹感の聴取。 ● 生徒会（保健委員）が中心となり、前期・後期に1回ずつ、各一週間の期間を決めて、朝食を食べてきたかを確認する。チェックの結果は、前期・後期とも、保健委員が全校集会で発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が、自身の言葉で主体的に朝食の重要性を語り掛けたことについては意義があった。 ● ほかの生徒にどの程度、意識の変容を促したかについては、今後の課題。
須坂市立 東中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食摂取率の数値が、「週に1日程度」と「ほとんどない」の割合が4%を超えているが、小規模校であることが原因の一つと考えられる。学級担任の報告から、多くの生徒は朝食を食べているとみられる。 ● 保護者と生徒で朝食摂取率の数値に乖離があるため、生徒が朝食を食べたと認識する場合の朝食の中身について検証する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年集会で、栄養教諭から朝食の大切さについて話す時間を設けた。 ● 東北大学加齢医学研究所所長の川島教授を講師として招き、食育講演会を実施した。川島教授は、食事のほか、読書や睡眠、SNS等について、データを使って話をした。 ● 川島教授の話の内容を実施校だけでなくほかの学校にも広められるように、パネルや食育だよりを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● データを使った客観的な話を聞くことができて、生徒の食事に関する理解が深まった。 ● 生徒からは、「大会で自分の力を発揮するには食事が大切だと感じた」「朝食が大学入試、就職や年収に関係していることに驚いた」「これからは1日元気に過ごすために、朝ご飯をしっかりと食べようと思った」という感想があった。

学校名	課題認識	取組内容	取組による効果・欠食率の変化
裾野市立 東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食を食べている児童が多いが、食べない児童が固定化されている。また、たまに寝坊して朝食が食べられない児童もいる。 ● 主食は食べるが野菜はとっていないという児童が多い。 ● 保護者が朝食を準備しないため、児童が朝食を食べて来ない家庭がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の朝食摂取の有無を、朝の会で生徒に挙手をしてもらう形で学級担任が調べている。 ● 朝食の大切さについて、普段から学級担任が話したり、毎日の給食の時間の放送で委員会の児童から話をしたりしている。 ● 5年生の家庭科の5大栄養素についての授業で、静岡県のリーフレット（「朝ごはん食べていますか？」）を使用し、栄養バランスや朝食の大切さを伝えている。 ● 新1年生の保護者向けに行う入学説明会では、栄養教諭から朝食を欠かさず食べるよう伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5年生の家庭科の5大栄養素についての授業では、栄養と関連して朝食の話をしたため、朝食の大切さを感想として書いている児童もいた。 ● 朝食を食べない児童が固定化しているが、家庭環境に踏み込んで指導することは難しく、検討段階である。

学校名	課題認識	取組内容	取組による効果・欠食率の変化
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食摂取率は高く、全体としてはそれほど大きな課題とは捉えていないが、一部の児童生徒では朝食欠食の傾向がみられる。 ● 児童生徒の多くはスクールバスで通学するが、時間の余裕のなさから朝食がおろそかになるケースがある。 ● 朝食の摂取有無は毎日、保護者が連絡帳に記入するが、記入しない保護者や単品のみでも「食べた」とする保護者も一部にいる。 ● 児童生徒本人のこだわりから、保護者が朝食を用意しても、菓子しか食べない等のケースも多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業療法士（関西福祉科学大学の倉澤茂樹教授）を講師として招き、「特別な支援を必要とする子どもへの食育について」というテーマで、保護者対象の講演会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者からは「野菜を食べないがどうしたらよいか」「箸をうまく持たせるには」等の質問が多数あり、関心の高さがうかがえた。保護者が普段感じている悩みに答える機会となった。 ● 講演会の感想として保護者から「調理方法や食材を考えるきっかけとなった」といった声があり、食に対する意識の高まりがみられた。 ● 教職員にとっては、講演会で保護者から挙がった質問を通じて、保護者が欲している情報が分かり、今後の発信の仕方が明確になった。
三重県立聾学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝の時間に余裕がないことがうかがえる。児童生徒は三重県全域から通学しており、幼稚部から小学部3年生までは保護者の送迎、それ以上は一部の児童生徒が送迎なしで通学する。最も遠い家庭では1時間半～2時間程度の通学時間がかかり、送迎の車の中で朝食をとっているという児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 質問紙等での朝食摂取率の調査はしていないが、朝の会や家庭科の授業で時折、児童生徒に「朝食を食べたか」と尋ねており、食べていない児童生徒はほとんどいないことを確認している。 ● 定期的に声かけし、様子を確認している。 	—

学校名	課題認識	取組内容	取組による効果・欠食率の変化
檀原市立 檀原中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食を食べていない生徒が多い。市が年1回実施している調査（全中学校、全生徒対象）において、檀原中学校は「食べない日のほうが多い」の割合が他校と比べて高かった（「食べない」の割合は大差ない）。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1年生を対象に、1時間目の授業開始前に15分間、栄養教諭が朝食の重要性について話をする機会を設けた。朝食の品数を増やすことについて重点的に話した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒に感想を書かせたところ、「母親がなぜ朝食を食べるというのか、理由が分かった」「これからは毎日欠かさず少しでも食べたい」等の反応があった。
宇部市立 琴芝小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝食摂取率は高く、特段問題であるとは思っていないものの、高学年になるにつれ「朝、起きるのが遅く、食べる時間がなかった」「食欲がなかった」という児童がいる。 ● 女子児童では、太ることを気にしているものもいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 月曜日、学級担任が「朝食を食べたか、食べていないか」を聞いて挙手をさせる形で「朝食調べ」を行っている。 ● 手を挙げなかった児童については学級担任が声かけを行っている。 	—

学校名	課題認識	取組内容	取組による効果・欠食率の変化
宇部市立 船木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 山口県学校栄養士会が毎年、小学校5年生・中学校2年生を対象に行っている「食生活に関するアンケート」において、本年も朝食摂取について「毎日食べる・ときどき食べない・毎日食べない」の3段階で聴取したところ、「毎日食べない」と答えた児童はいなかった。 ● 「朝食はどのようなものを食べましたか。」という設問に対しては「主食のみ」が48.1%と半数近くを占めており、朝食の内容が課題であると考えている。 ● 「ときどき食べない」児童の理由としては、「食欲がない」「時間がない」「太るのがいや」が挙げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度から「朝食を食べたか」というチェック項目を追加したほか、単に起床・就寝時刻を聞く項目を「起床・就寝時間を決めて守れたか」という観点での項目に変更した。 	—

また、栄養教諭に求められる資質としては、さまざまな関係機関との調整役を担うことからコミュニケーション能力、親しみやすい存在であることが重要と考えている学校が多い。そのほか、学級担任とは違った目線で子供の様子をみることができることから、子供と学級担任の橋渡し役を担おうとする栄養教諭も多くみられた。

図表 2-5 栄養教諭の役割や求められる資質

学校名	栄養教諭の役割、求められる資質
帯広市立 大空中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 直接、保護者と接する機会はないが、養護教諭との連携を密に取り、アレルギーの状況や家庭の状況を聞いている。特に問題があると感じる生徒については、学級担任に個別の相談をしている。 ● JA等の生産者、調理員、加工業者等、さまざまな人とコミュニケーションを取り、連携を促す必要があり、信頼関係を構築できるかどうか重要である。

学校名	栄養教諭の役割、求められる資質
山形市立 桜田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者に直接訴えかけることは難しいため、児童を通して保護者に働きかける。 ● 地域とつながるために、栄養教諭から積極的に声をかけるよう意識している。 ● 栄養教諭が核となり、ほかの先生との協力体制を築くことが重要。 ● 各学年で行った食に関連する授業での関わりを、次の年度の同じ学年の授業等に生かす。また、新しく来た先生に、わからないことや悩みを聞き、過去の取組事例や、ほかの先生のよい取組を伝える。 ● 栄養教諭は給食の時間に各クラスを回るため、ほぼすべての児童を把握している。児童の悩みを聞く場面があれば、担任にすぐ報告し、教職員の一人としてサポートしていく。
中能登町立 中能登中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 親しみやすい存在（時には友達に近い存在）として生徒に認識されている。 ● 生徒の家庭環境については気にかけている。生徒から食事についての話を聞き、家族の食事の様子が分かることもある。気になることがあれば担任と共有している。 ● 学校内・学校外、さまざまな人と連絡を取り合わなければならないため、「人と話す力」が重要。 ● 取組を行うにあたり、「課題」→「取組」→「成果」という流れを意識している。取組後の適切な評価を行うには、そうしたプロセスが大切。
七尾市立 七尾東部中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 養護教諭と連携し、急激に痩せた、太った等の健康状態の変化があれば、可能な限り対応を行う。本人に声をかけるほか、担任を通じて保護者と連絡を取ることもある。全体指導のみでは不十分であり、個別の対応が必要な生徒も多いが、家庭への介入は難しいことも多く、課題となっている。 ● 教職員や調理員が食育の重要性を理解できるよう、丁寧にコミュニケーションを取ることが重要。
須坂市立 東中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 普段は給食センターにいるため、保護者や地域の方と関わる機会がない。学校を訪問し直接会って話したり、顔が分かる関係性を構築したりする等、特に自分から積極的にコミュニケーションを取ることが必要。 ● コミュニケーション能力や明るさが大切。 ● 東中学校の職員でもあるため、気さくに話ができて、相談してもらえる、声をかけてもらえる、頼ってもらえる存在でいられるよう、心がけている。

学校名	栄養教諭の役割、求められる資質
裾野市立 東小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭環境の把握は難しく、踏み込めないと感じている。 ● 肥満や食物アレルギーについて個別に保護者に話すときは、保護者も頑張って食事を用意していると思うので、否定しないで助言するように留意している。 ● 保護者には、明るく元気に協力を頼むことを意識している。 ● 給食を用意する際等に業者との連携が必要な場合は、間際にならないように早めにアプローチするよう心掛けている。 ● 栄養教諭がスキルを発揮するには、学級担任や保護者の協力が大切である。 ● 食べ物についての知識や、食に関する課題とそれに対する取組を勉強する必要がある。 ● 給食作りでは、栄養バランスも考慮する必要があるが、栄養バランスが良くてもおいしくないと児童は食べないので、おいしい給食を作ることがスタートだと考えている。
三重県立松阪あゆみ特別支援学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学級担任との連絡・調整、地域との関係構築を主体的に担うことが必要である。 ● 児童生徒の特性を踏まえた食育のあり方については、学級担任との会話の中で気付くことが多く、学級担任との連携を重視している。一方、栄養教諭としてどのような取組や成果を目指すかという点については、自身から発信していく必要がある。
三重県立聾学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学部低学年では2～3日に1度、送迎の際に保護者との情報共有の機会を設けている。高学年以降では、学期末の懇談会や電話で保護者と話す機会を設けている。 ● 学級担任は個々の児童生徒の状況をよく把握しているが、栄養教諭も同じように把握し、児童生徒のニーズに合った支援をしていかなければならない。
檀原市立 檀原中学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 栄養教諭は若手であり生徒と年齢が近いこと、また成績を付ける等のプレッシャーがないことから、生徒は気軽に話しかけている。また2年生のクラスで副担任をしており、該当するクラスの生徒とはコミュニケーションを取っている。遅刻した生徒との会話等から、朝食の課題が見えることもある。 ● 保護者へのアプローチは給食日より、食育だよりに限られるのが実情であり、課題である。 ● さまざまな立場の教職員とコミュニケーションを取り、協力を要請していくスキルの必要性を痛感している。掲示物の手伝い等を買って出て、信頼関係を構築することもある。 ● 運動部の生徒から「どうしたら筋肉がつくのか」等と問われることがあるため、常に知識を得る努力をしていかなければならない。
宇部市立 琴芝小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校内では学級担任をはじめとする連携が不可欠であり、栄養教諭は給食の時間、毎日全クラスを巡回しており、学級担任と話しやすいように工夫しているほか、児童とも接する機会を作っている。 ● 学校外では市内の栄養教諭との連携を深めている。 ● 20代の若手栄養教諭に対して資料や教材を提供したり、授業のアドバイスをしたりしている。同時に、若手栄養教諭が相談しやすいような雰囲気を意識する。

学校名	栄養教諭の役割、求められる資質
宇部市立 船木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係各所と連携を取るためのコミュニケーション能力や、積極的に動けるよう、情報のアンテナを張り、きちんと関係各所と話ができる能力が必要である。 ● 校外については、自治体の担当課等、地域での照会先がある程度理解することで、スムーズに依頼を進めることができる。 ● 学級担任と話をする際は、児童の様子を把握しておかなければならないため、日ごろから変化に気付けるように気を付けておく必要がある。

2.3 ヒアリング結果詳細

(1) 事例1 北海道帯広市立大空中学校

実施校	テーマ	つながる北海道の食育推進 栄養教諭を中核に学校・家庭・地域が連携・協働した食育の推進			
	所在地	〒080-0838 北海道帯広市大空町 11 丁目 4 番地			
	学校給食	共同調理方式			
	栄養教諭	配置年	平成 27 年度	兼務状況	共同調理場も担当
帯広市	人口	166,135 人、88,230 世帯 ※令和元年 11 月末日現在 住民基本台帳			
	学校数	小学校 26 校 中学校 14 校			
	地域概要	帯広市は、北海道東部の十勝[とかち]地方のほぼ中央に位置する、人口約 17 万人のまちである。明治 16 年(1883 年)に本格的に開拓がはじまり、基盤目状の道路網等、計画的な市街地形成を行ってきた。また、農業を主要産業とする十勝地方(約 35 万人、1 市 16 町 2 村)の中心地であり、農産物集積地、商業都市としての役割を担っている。			

① 実施校の概要

昭和 49 年、帯広市の南西部、大規模な団地造成が行われた新興住宅地の中心に開校。地域の学校として保護者をはじめ連合町内会等、地域住民の協力関係が強く、生徒会を中心にアルミ缶・古切手回収運動や「いじめ暴力追放運動」を実施している。

学校の規模としては、全学年 159 人、全 8 学級（6＋特別支援 2）である。

学校教育目標は「明るく健康な心身と個性豊かな英知を育む」、目指す学校像は「あいさつと笑顔があふれ、潤いの環境がある学校」「豊かな創造性が発揮され生徒が生き生きとする活力に満ちた学校」「学力・体力の向上と、健康・安全に努める学校」である。

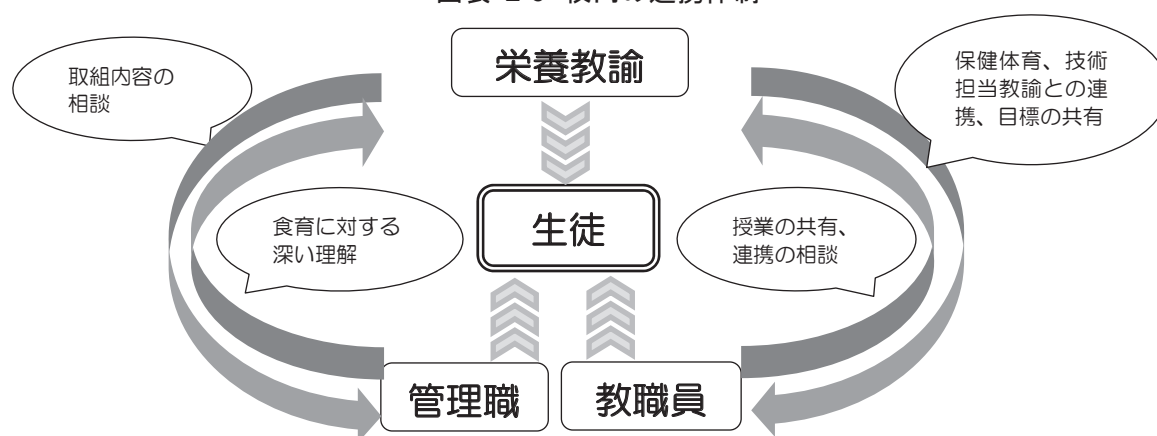
② モデル事業の実施体制

A. 校内の連携

栄養教諭は学級担任、管理職との相談の上で取組を企画・実施した。大空中学校では平成 27 年度から栄養教諭が配置されており、学校として栄養教諭及びその役割への理解はなされている。そのほか、体育教諭や技術・家庭科教諭との連携が必要になる場面もあるが、全体としては連携が取れていたと考えられる。教頭は、「学外の生産者等や、学内の関係者との調整においては、専門性を持つ栄養教諭の存在が欠かせない」という私見を述べている。

特に「自己管理能力を高める」といったテーマは、保健体育と共通する部分もあるため、体育教諭とは目標の共有ができた。また、技術科で畑作業を行うことがあるため、収穫体験は発展的な体験として、生徒の理解を深める一助となった。

図表 2-6 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-7 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
大学等の高等教育機関	札幌保健医療大学	帯広市の実態を踏まえた、事前・事後の状況についての評価と分析、取組に向けての助言等

③ 取組の詳細

ア. 重点的に取り組んでいる内容

地域の食への理解を深める取組として令和元年 11 月、2 年生を対象に「地場産物と学校給食」をテーマとした授業（全 7 時間）を行った（なお 3 年生も別途、ごぼうの収穫体験を行った）。

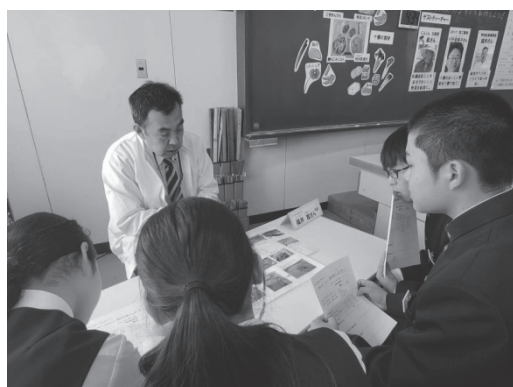
市では、主に十勝の食材を使った給食「ふるさとの日」が毎年 9～11 月に 1 日ずつ設けられている。今回「ふるさとの日」（学校周辺の川西地区の食材を使った「川西カレー」の日）のタイミングで 2 年生が J A 青年部の生産者とともに給食をとり、班ごとに「生産の苦労」等の話をしながら交流を行った。

その後、総合的な学習の時間に、長いもの収穫体験を行った。長いもの収穫は、予め重機で深く掘った穴に入る独特な方法で行うため、生徒は興味を持って取り組んでいた。収穫した長いものは 1 人 1 本自宅用にいただき、後日生徒からは「とろろや焼いておいしく食べた」という声が聞かれた。同行した教職員にとっても地場産物を知るとてもよい機会となった。

給食交流、収穫体験、給食に関わる方への取材活動等を経て、総合的な学習の時間に、「地産地消」と「給食のできるまで」の 2 つのテーマで、「地場産物を食べたい！」と思えるような新聞づくりを行った。取材（質問）は、学校給食に関わる生産者、加工業者、学校給食調理員を対象に行い、給食ができるまでの過程や給食に関わる方々の思いを、班ごとに新聞としてまとめた。当初は、地域の関係者とうまく話せず戸惑う生徒もいたが、取材をしながら打ち解けていくことができた。

本授業を経てどの生徒も「これまで給食を簡単に残すこともあったが、これからは残さないようにしたい」「これからは（生産者の話を聞いた）ニンジン大切にしたい」等の感想を述べており、給食ができる過程に多くの人に関わっていることについての理解が進んだとみられる。

本授業は、栄養教諭、学級担任、地域の関係者と連携して行った。毎日食べている給食に関わる方々と生徒が直接交流することで、よりわかりやすく、給食を身近に感じる、大変貴重な機会となった。一方、生産者、加工業者や学校給食調理員からは、「給食を食べている側の生徒（消費者）から話を聞くよい機会となった」という声もいただいた。

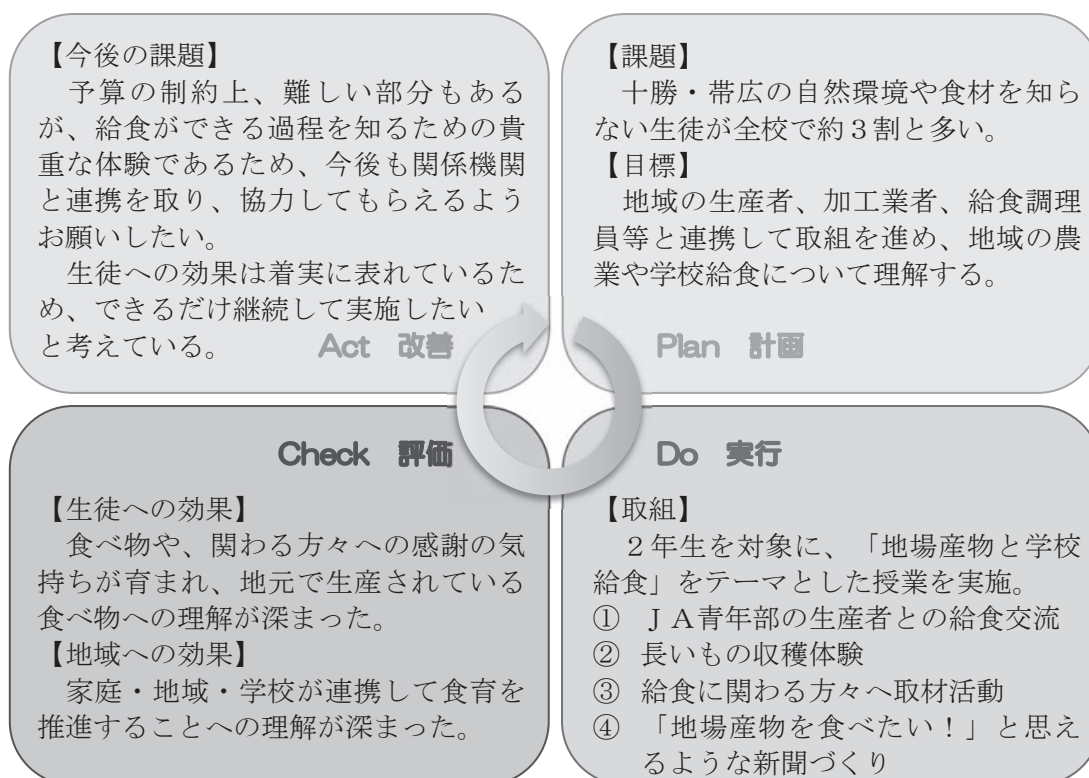


《インタビューの様子》



《生徒が作った新聞》

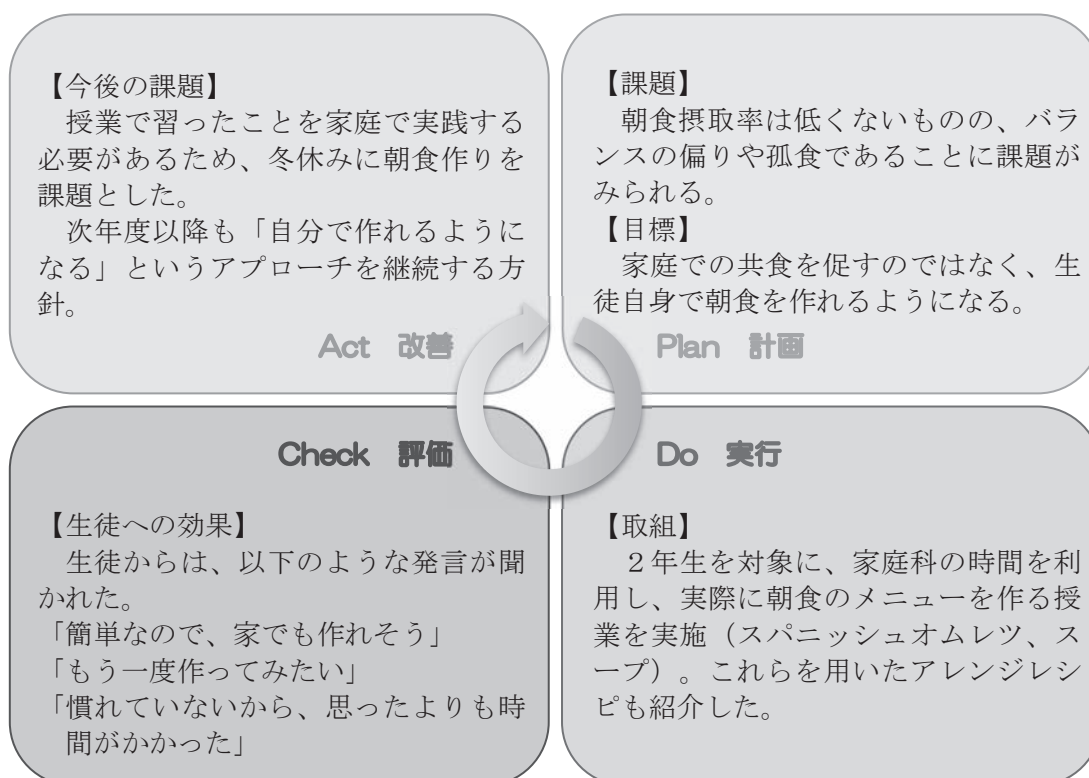
図表 2-8 大空中学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、大空中学校では、以下の取組を行っている。

- 忙しい朝でも食べられる時短レシピを提案



(2) 事例2 山形県山形市立桜田小学校

実施校	テーマ	家庭とつながり、地域へひろげる食育の輪			
	所在地	〒990-2323 山形県山形市桜田東一丁目1番30号			
	学校給食	共同調理方式			
	栄養教諭	配置年	平成28年度	兼務状況	他校も担当
山形市	人口	253,832人、100,303世帯 ※平成27年10月1日現在国勢調査			
	学校数	小学校	36校	中学校	15校
	地域概要	山形市は明治22年に市制を施行、県内中心都市としての基礎を固めた。昭和29年には近接12ヶ村を、続く昭和31年には6ヶ村を合併して広域行政の端をひらき、現在の規模となっている。			
		平成31年に市制施行130周年を迎え、平成31年度に中核市になる。 現在は、目指す将来都市像を「みんなで創る『山形らしさ』が輝くまち」とし、その実現に市民、事業者、行政の共創により取り組んでいるところである。			

① 実施校の概要

本校学区は、山形市南部に位置している。かつてはのどかな田園地帯であったが、区画整理事業により、宅地化が進んだ。「地域の中に小学校を」という地区住民の願いと児童数の増加により、隣接の二つの学校から分離独立し、平成3年に開校した。学校周辺は住宅地を中心に、マンション、アパートが建ち並んでおり、大通りには商店や飲食店等、商業地もある。

学校教育目標は「未来をひらく、^{ちえ}英知と力のある子どもの育成」を掲げており、「自分から行動・挑戦する子」「感謝される活動ができる子」「わかるまで学ぶ子」「よさ・すばらしさを認め合う子」を目指す児童像としている。経営方針は、発達段階に応じた児童の自立、体験から学ぶ相手との共生・協働、家庭・地域との連携の3点を掲げ、その方針の下、食育が日々実践されている。全学年の児童数は460人である。

② モデル事業の実施体制

A. 校内の連携

今年度は「つながる食育推進事業」の一環として学級担任の協力を得やすく、学級担任の間でも、給食の時間はただ食べるだけの時間ではなく、指導の時間であるという認識が定着した。栄養教諭と学級担任の教職員の間で協力体制ができており、学級担任は栄養教諭の指導でわかりにくいところや困難なところがあれば率直に指摘し、栄養教諭は指導内容の改善につなげている。

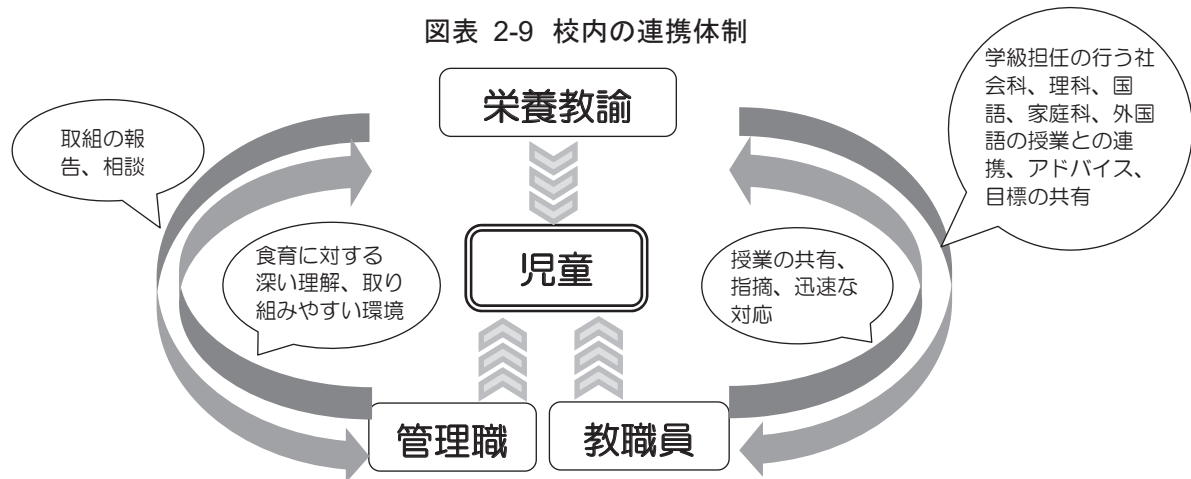
教科における連携も積極的に進められている。家庭科の授業ではT・Tで入り、調理実習のときのアドバイス等を行っており、中でも食文化の紹介や栄養価を失わない調理方法等について栄養教諭からアドバイスをすることが多い。また、社会科・理科・国語・外国語でも学級担任と栄養教諭が連携した取組が進められている。さらに養護教諭とは、ともに健康安全部に所属しており、生活リズム調査からみえる課題への取組として、アレルギーや肥満、偏食に関する個別指導を連携して行っている。

こうした連携を進める背景に管理職の理解がある。校長は、食や生活リズムの改善が学力向上につながると考えている。また、栄養教諭が学校に常にいるという環境によって、児童の意識だけではなく教諭の意識も高まると感じている。

なお本校の栄養教諭は、4年前に山形市に初めて栄養教諭として配属された職員であり、栄養教諭自身がどのような役割を果たせばよいか、最初は手探りの状態だった。そうした中で、学年の計画や週予定表を見たり、教職員同士の話をよく聞いたりすることを心掛け、授業や活動に食の視点を入れることができるかどうかを考えた。「お手伝いをさせてください」「見学させてください」という声かけをすると、栄養教諭自身も関わりやすく、ほかの教職員も受け入れやすくなり、うまく協力ができるようになってきた。学級担任と児童との関係性が重要なので、学級担任とコミュニケーションを取りながら、補習という位置付けで授業に入ることを意識している。学級担任も前向きでフットワークが軽く、栄養教諭からの声かけにすぐに対応している。

山形市内の栄養教諭間の連携状況については、桜田小学校を含めて市内の3人の栄養教諭が情報を共有し、市内共通で便りを発行している。

図表 2-9 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-10 連携機関及び連携内容

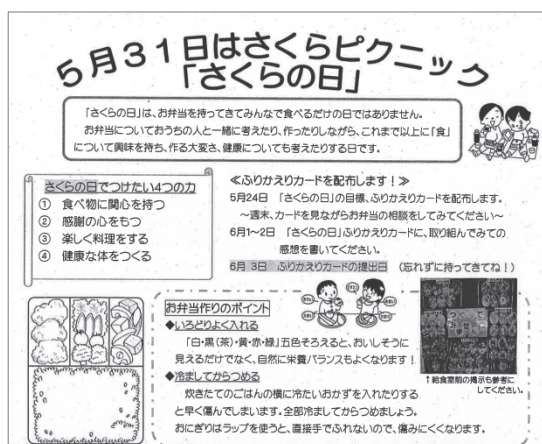
分類	連携機関名	連携内容
幼稚園、小・中学校等	山形市立小・中学校	市の取組における連携協力
P T A等	実践校P T A	親子体験活動等の実施における連携
生産者・関係団体 (J A等)	地元生産者	交流学习、体験活動の指導
市町 関係部局	山形市農政課	地元生産者との連携
市町 関係部局	山形市健康増進課	取組全般について連携協力
食育関係団体 (専門家や給食会等含む)	山形市学校給食センター	取組全般について連携協力

③ 取組の詳細

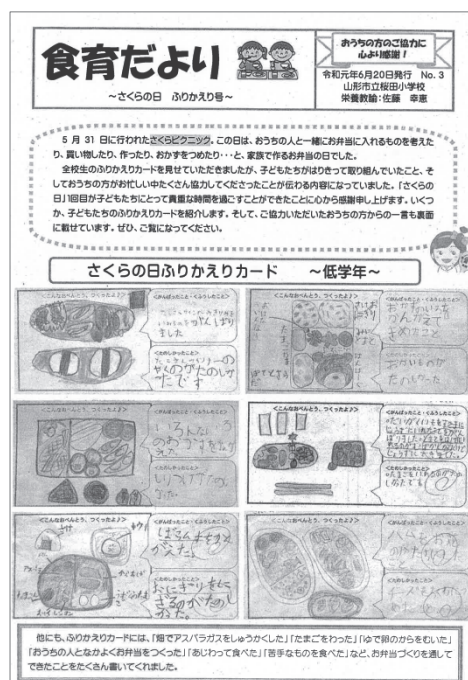
ア. 重点的に取り組んでいる内容

寝るのが遅く、主食・主菜・副菜・汁物がそろった朝食を食べられない児童がいるため、養護教諭が中心となり、「からだ・いきいきカード」を使用した生活リズム調査を年に3回行っている。長期休暇後や運動会前等、各一週間の期間を設け、目標の起床時刻と実際の起床時刻、食事内容、歯磨きの有無、就寝時刻、メディア時間等を児童が自分の生活を振り返り、記入する形式である。期間中は毎日提出することとし、学級担任が気になる点に赤線を入れて、コメントしながら返却している。栄養教諭からの便りに、主食・主菜・副菜・汁物がそろった栄養バランスのとれた食事の例を掲載して、児童及び保護者向けに配布した。

また今年度から、親子で早起きしてお弁当を作る「さくらの日」を年4回実施。毎回テーマを設定し、親子で話し合いながら、楽しんで取り組めるようにした。保護者の協力を得るため、PTA会長に事前に相談し、PTA総会で会長から保護者に呼びかけた。回を重ねるたびに作る料理がレベルアップする家庭もみられた。そのほか、早起きしてお弁当を作る必要があるのも、自然と早く寝るようになり、また朝食を食べる時間ができ朝食摂取率の向上につながったほか、親子の交流も生まれるという効果があると感じている。

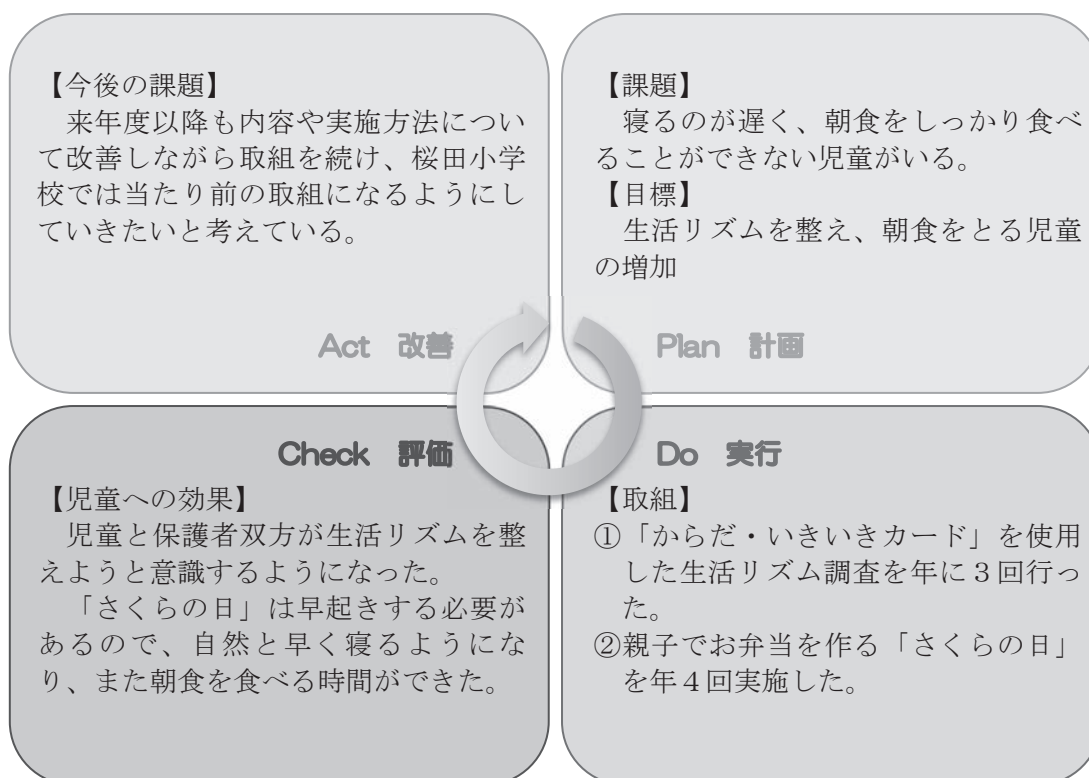


《「さくらの日」の告知》



《「さくらの日」の振り返り》

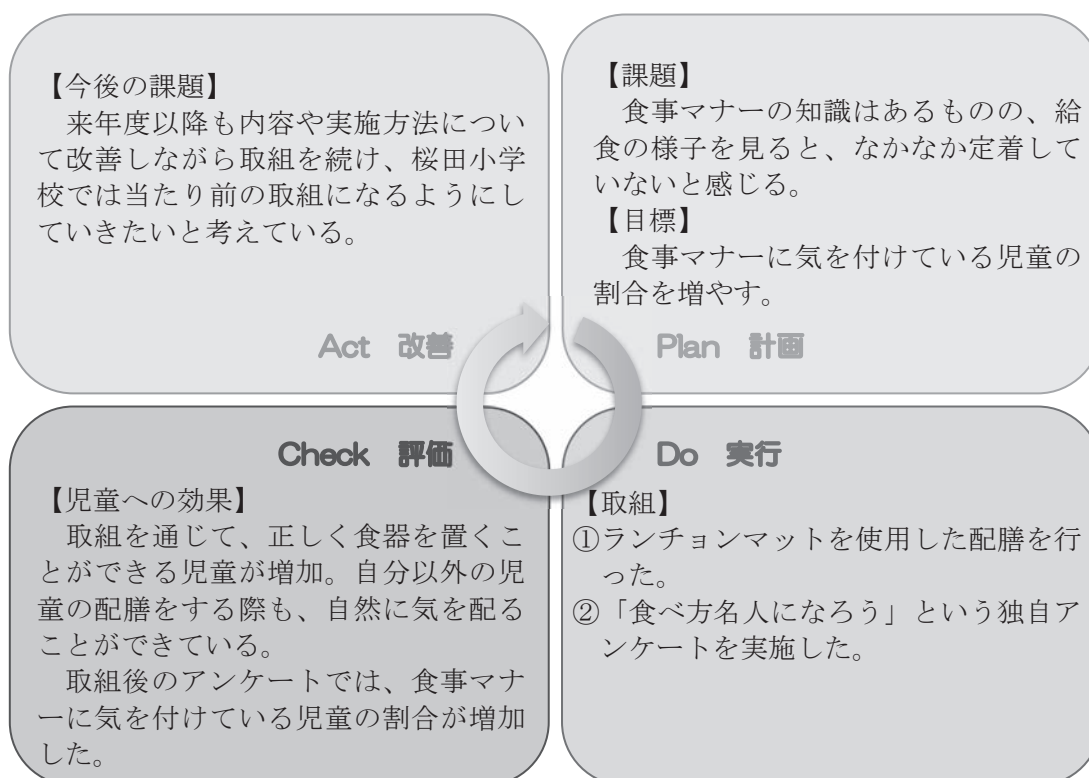
図表 2-11 桜田小学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、桜田小学校では、以下の取組を行っている。

- 児童の食事マナーの改善



(3) 事例3 石川県中能登町立中能登中学校

実施校	テ　ー　マ	地域がつながり未来へつなげる、いしかわの食育 学校・家庭・地域が連携した継続的な食育の実践を通して 生徒が健康を意識した食生活を送る実践力を育てる			
	所　在　地	〒929-1717　石川県鹿島郡中能登町良川け部１番地１			
	学校給食	共同調理方式			
	栄養教諭	配置年	平成 29 年度	兼務状況	共同調理場も担当
中能登町	人　　　口	17,992 人、6,639 世帯　　　　　　　　　※平成 31 年 4 月 1 日現在　住民基本台帳			
	学　校　数	小学校　３校　　　　　中学校　　１校			
	地　域　概　要	平成 17 年 3 月 1 日に（旧）鳥屋町・鹿島町・鹿西町の 3 町が合併して中能登町となった。 中能登町は能登半島の中ほどに位置している。邑知地溝帯を中心に平野部が広がり、東側が石動山、西側は眉丈山をそれぞれ中心とし、日本の原風景とも言える田園地帯と、それを取り巻く丘陵地の緑、潤いある河川等の身近な自然環境、旧街道沿いの集落や、神社・寺院群、それらを舞台とした祭り等の伝統文化を地域の重要な資産としている。			

① 実施校の概要

平成25年4月1日に鳥屋中学校、鹿島中学校、鹿西中学校が統合し開校。教育目標は「豊かな心と、たくましく生きる力を持った生徒の育成」とし、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成を目指している。学校の規模としては、全学年480人、全14学級である。

平成25年に竣工した学校施設には、全校生徒が一同に食事をすることができるランチルームがあり、併設された共同調理場では小中学校全員分の1,700食を調理する等、県内では類を見ない規模と施設を備えている。

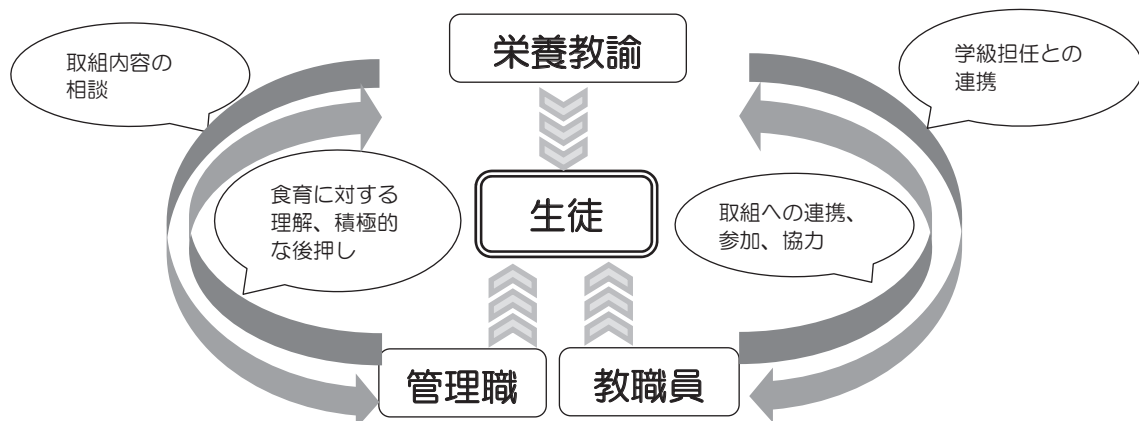
② モデル事業の実施体制

ア. 校内の連携

「つながる食育推進事業」に関連した取組の認知は広がっており、連携も取れているが、教職員の間でも食育に対する関心の濃淡はある。ただ、学級担任は生徒に近いこともあり、食育の取組に参加をしている。中能登中学校では、全校生徒が「ランチルーム」と呼ばれる専用のホールに集まって給食をとるが、12月には各クラスの学級担任が1人ずつ、給食の際に全校生徒の前でマナーの指導を行うという取組を行っている。生徒は学級担任の話に耳を傾け、話の内容に応じて姿勢を正したり、箸の持ち方を見直したりしており、マナー指導による効果がみられた。

学級担任も食育の必要性を認識しており、栄養教諭が学級担任に協力を依頼する際に協力を得やすい。校長は食育に理解があり、栄養教諭が取組の案を挙げれば、積極的に後押ししている。

図表 2-12 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-13 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
大学等の高等教育機関	北陸学院大学	取組評価、結果の検証、指導教材作成
大学等の高等教育機関	金沢学院大学	取組評価、結果の検証、指導教材作成
幼稚園、小・中学校等	石川県小中学校連合会	小中連携した食育推進、取組の波及協力
幼稚園、小・中学校等	石川県高等学校校長協会	中高連携した食育推進、取組の波及協力
P T A等	石川県P T A連合会	家庭と連携した食育推進、取組の波及協力
県 関係部局	石川県健康福祉部	県内における食育推進機関との連携・調整
県 関係部局	石川県農林水産部	県内におけるJ A・地域生産者との連携・調整
県 関係部局	石川県栄養士会	体験学習（防災食・魚さばき等）
市町 関係部局	中能登町農林課	地域生産者との連携調整
市町 関係部局	中能登町保健環境課	地域食育推進機関との連携・調整
市町 関係部局	七尾市産業部	地域生産者との連携調整
市町 関係部局	七尾市健康福祉部	地域食育推進機関との連携・調整
市町 教育委員会	中能登町教育委員会	町内が連携した食育推進
市町 教育委員会	七尾市教育委員会	市内が連携した食育推進

③ 取組の詳細

ア. 重点的に取り組んでいる内容

地域の生産者や食の専門家（震災食の専門家、「おさかなマイスター」資格者、近隣の和倉温泉にある旅館の元料理長である和食料理人等）を招いた講演会を行っている。

講師を探すにあたり、給食関係者や栄養教諭、栄養士の人脈やSNSを駆使し、中学校での講演を依頼した。当初は東京から講師を招くことを考えていたが、身近な地域で活躍する講師のほうが、生徒にとって楽しく理解が進むのではないかと考えた。講師は依頼を快諾し、学校での食育に協力的だった。

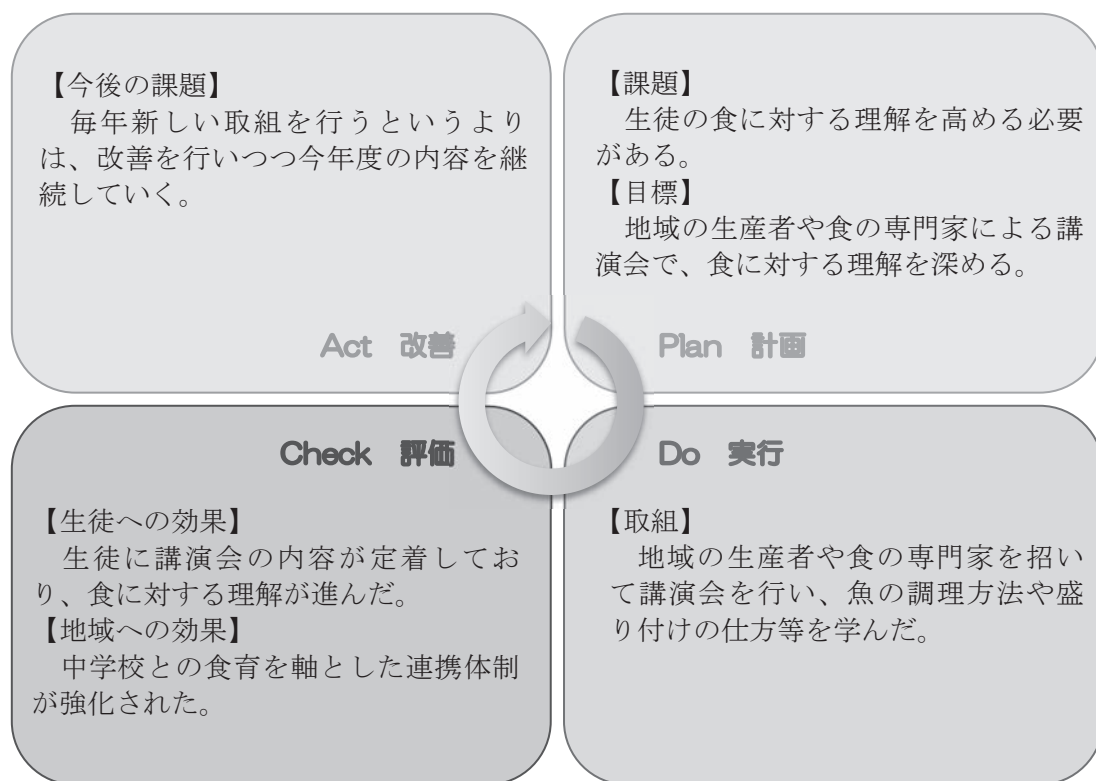
魚の調理方法を学んだ際、生徒は普段家で魚をさばくことがないようで、悲鳴を上げていた。和食料理人を招いた講演会では、「和食のよさとは何か」「どうしたら嫌いなものが食べられるようになるか」「どうして料理人になったのか」等、生徒たちから多くの質問が出た。すべての質問に答える時間がなかったが、後日、講師から質問や感想に対する答えをもらったため、掲示して共有した。

約半年後に再び同じ講師を招き、和食の日（11月24日）に合わせて給食を和の器に盛り付ける等の取組を行った。生徒は講演会の内容を覚えており、食に対する理解が進んでいることを実感した。



《和食料理人を招いた取組》

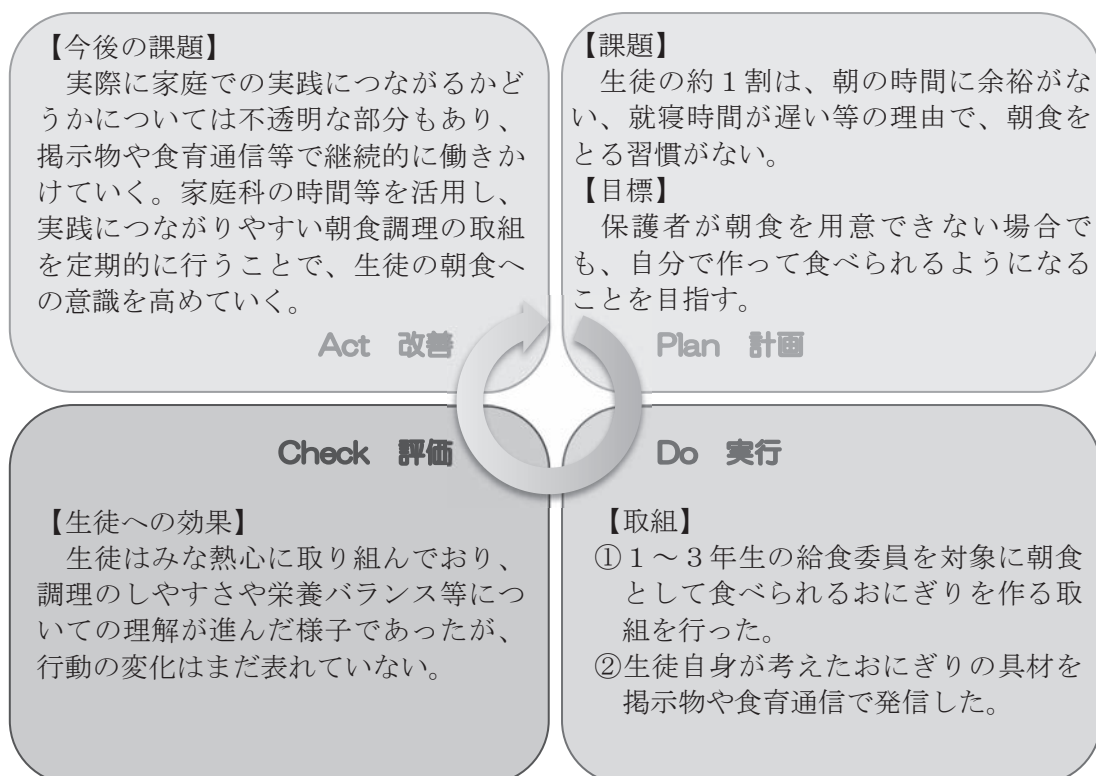
図表 2-14 中能登中学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、中能登中学校では、以下の取組を行っている。

- 忙しい朝でも食べられるおにぎりの具材レシピの提案



(4) 事例4 石川県七尾市立七尾東部中学校

実施校	テ　　マ	地域がつながり未来へつなげる、いしかわの食育 学校・家庭・地域が連携した継続的な食育の実践を通して 生徒が健康を意識した食生活を送る実践力を育てる			
	所　在　地	〒926-0028　石川県七尾市藤野町り部 1 番地			
	学 校 給 食	単独調理方式			
	栄 養 教 諭	配置年	平成 28 年度	兼務状況	小学校 2 校も担当
七尾市	人　　　口	52,160 人、22,105 世帯　　　　　　　　　※令和元年 11 月末日現在　住民基本台帳			
	学　校　数	小学校　10 校　　　　　中学校　　4 校			
	地 域 概 要	2004(平成 16)年 10 月 1 日、「港と温泉のまち　七尾市」・「建具のまち　田鶴浜町」・「演劇のまち　中島町」・「観光の宝島　能登島町」の 1 市 3 町が合併し新七尾市が誕生した。 七尾市は石川県の北部、能登半島の中央に位置し、北は穴水町、西は志賀町、南は中能登町と富山県氷見市と接している。日本で最大規模の山岳城「七尾城」が築かれていた城山に七つの尾根（松尾、竹尾、梅尾、鶴尾（菊尾）、亀尾、竜尾、虎尾）があったのが「七尾」の名の由来とされている。			

① 実施校の概要

平成 22 年 4 月 1 日、湊南中学校・北嶺中学校・東部中学校が統合して七尾東部中学校となる。学校教育目標として、「ふるさとを愛し、豊かな心と健康な身体を育み、主体的に学び、たくましく未来を拓く生徒の育成」を掲げている。生徒の「自主性、主体性」を育み、「自己教育力」を身に付けさせることを目標として、七尾東部中学校 3 つの木「やるべき事を、やるべき時に、やるべき場所で」を合言葉に、地域を代表する学校づくりに全校一丸となって取り組んでいる。

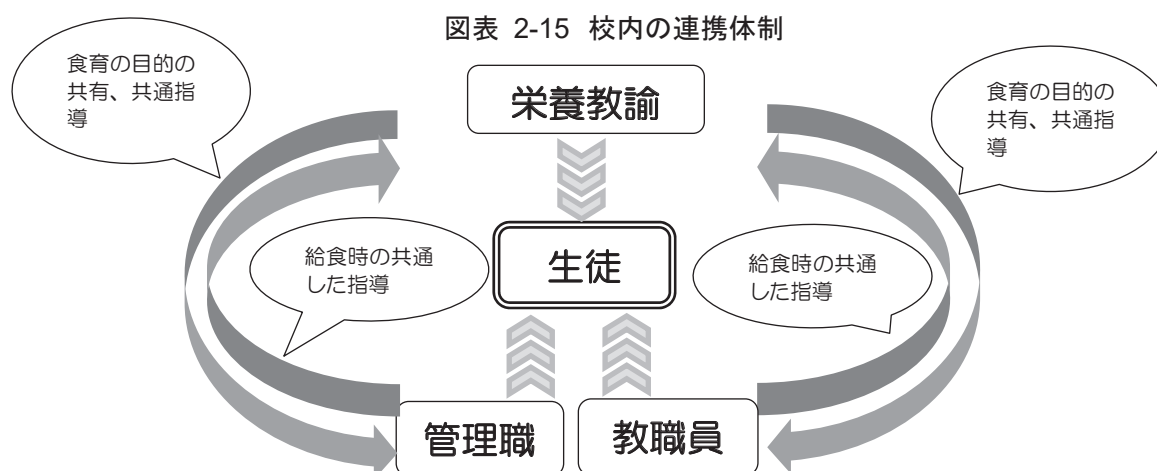
学校の規模としては、全学年 427 人、全 14 学級（12＋特別支援 2）である。生徒の実態としては、校区が広いため、通学方法や家庭環境が多様で、生徒のライフスタイルもさまざまであるという特徴がある。

平成 27～29 年には石川県教育委員会委託「学びの組織的実践推進事業」を実施した。

② モデル事業の実施体制

A. 校内の連携

生徒の食の重要性、食育の取組の重要性について、生徒や保護者から十分に理解を得られないことが課題となっている。学級担任は生徒とともに教室で給食をとるが、好き嫌いがあり、食べ残しをする生徒がみられる。このような状況の中、独自アンケートの結果を職員会議で共有し、声かけ等、共通指導を行っている。また、学校での取組を家庭への発信するための方法を検討し、実施した。



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-16 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
大学等の高等教育機関	北陸学院大学	取組評価、結果の検証
大学等の高等教育機関	金沢学院大学	取組評価、結果の検証
幼稚園、小・中学校等	石川県小中学校連合会	小中連携した食育推進、取組の波及協力
幼稚園、小・中学校等	石川県高等学校校長協会	中高連携した食育推進、取組の波及協力
P T A等	石川県P T A連合会	家庭と連携した食育推進、取組の波及協力
県 関係部局	石川県健康福祉部	県内における食育推進機関との連携・調整
県 関係部局	石川県農林水産部	県内におけるJ A・地域生産者との連携・調整
県 関係部局	石川県栄養士会	体験学習（防災食）、指導教材作成
市町 関係部局	中能登町農林課	地域生産者との連携調整
市町 関係部局	中能登町保健環境課	地域食育推進機関との連携・調整
市町 関係部局	七尾市健康福祉部	地域食育推進機関との連携・調整
市町 教育委員会	中能登町教育委員会	町内が連携した食育推進
市町 教育委員会	七尾市教育委員会	市内が連携した食育推進

③ 取組の詳細

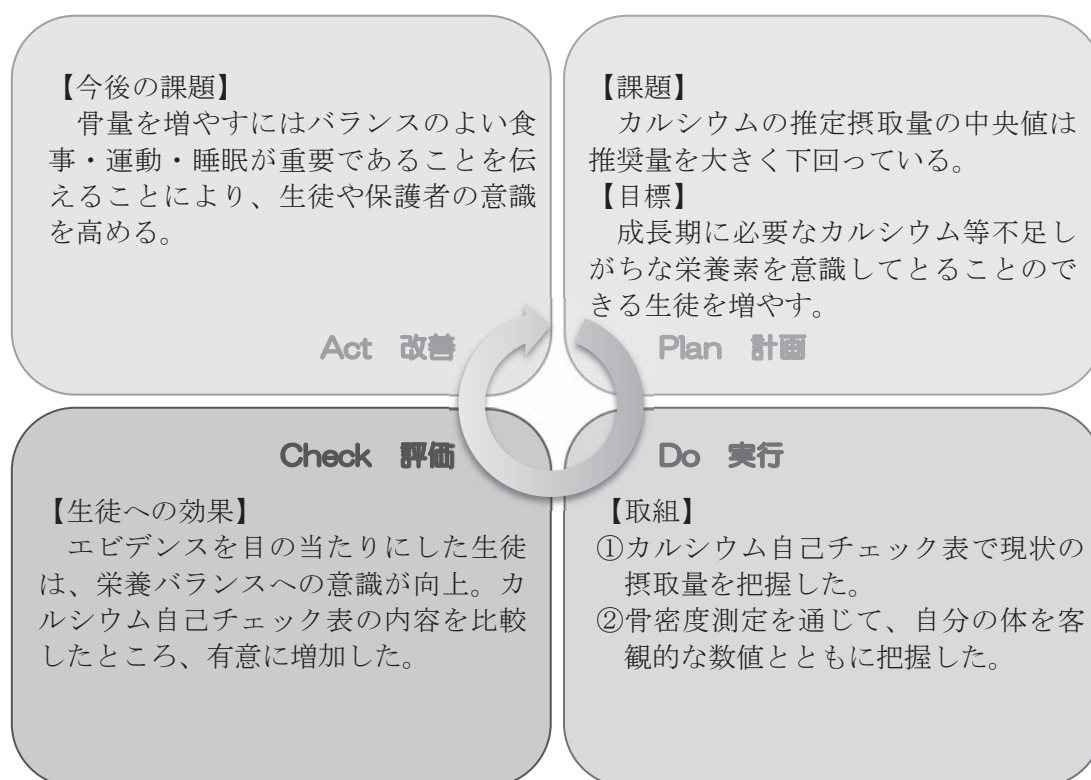
ア. 重点的に取り組んでいる内容

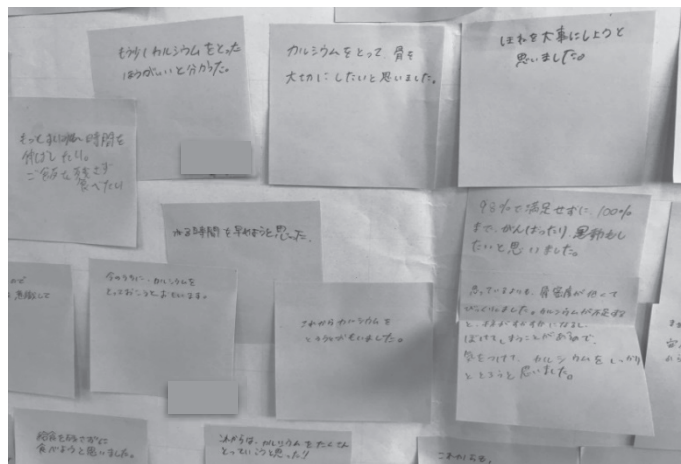
カルシウムの摂取状況を把握する工夫として、6月と11月に、カルシウム自己チェック表^{*}の記入を全校生徒を対象に実施し、実態把握を行った。自己チェック表は5分ほどで記入でき、具体的な食品名と食べる頻度から得点を計算できる。こうして数値化することで、生徒は「次は少しでも得点を上げよう」という意識が高まった。（※出典：簡便な「カルシウム自己チェック表」の開発とその信頼度の確定 石井光一/上西一弘/石田裕美/他 Osteoporosis Jpn/ 13-2/497-502(2005.05)）

カルシウム等不足しがちな栄養素を意識してとる工夫として、中学3年生（希望者）を対象に骨密度測定を実施した。自分の骨密度が数値化され、科学的根拠に基づいた評価も添えられ、同年代の骨密度と比べてどの程度高いのか、低いのか個別に分かるため、生徒へのインパクトは大きかったようだ。「骨量を増やし、身長を伸ばせる時期は20歳頃まで」というエビデンスを提示しながら、骨量を増やすにはバランスのよい食事・運動・睡眠が重要であることを伝えたことにより、生徒の意識を高めることができた。

家庭での実践につながる食育の工夫として、生徒の身長・体重・視力等を記した健康カード、学校独自のアンケート結果及びカルシウム自己チェック表のプリントを、集計後、通知表を渡すタイミングと同時に、学級担任から保護者に手渡しし、家庭でもカルシウム摂取に取り組むよう啓発した。確実に保護者の手に渡るようになり、関心を喚起できたと考えている。特に注意が必要な生徒の保護者に対しては、栄養教諭がプリントに付箋を付ける等して担任に声かけを依頼した。

図表 2-17 七尾東部中学校でのPDCAサイクル



[illegible]

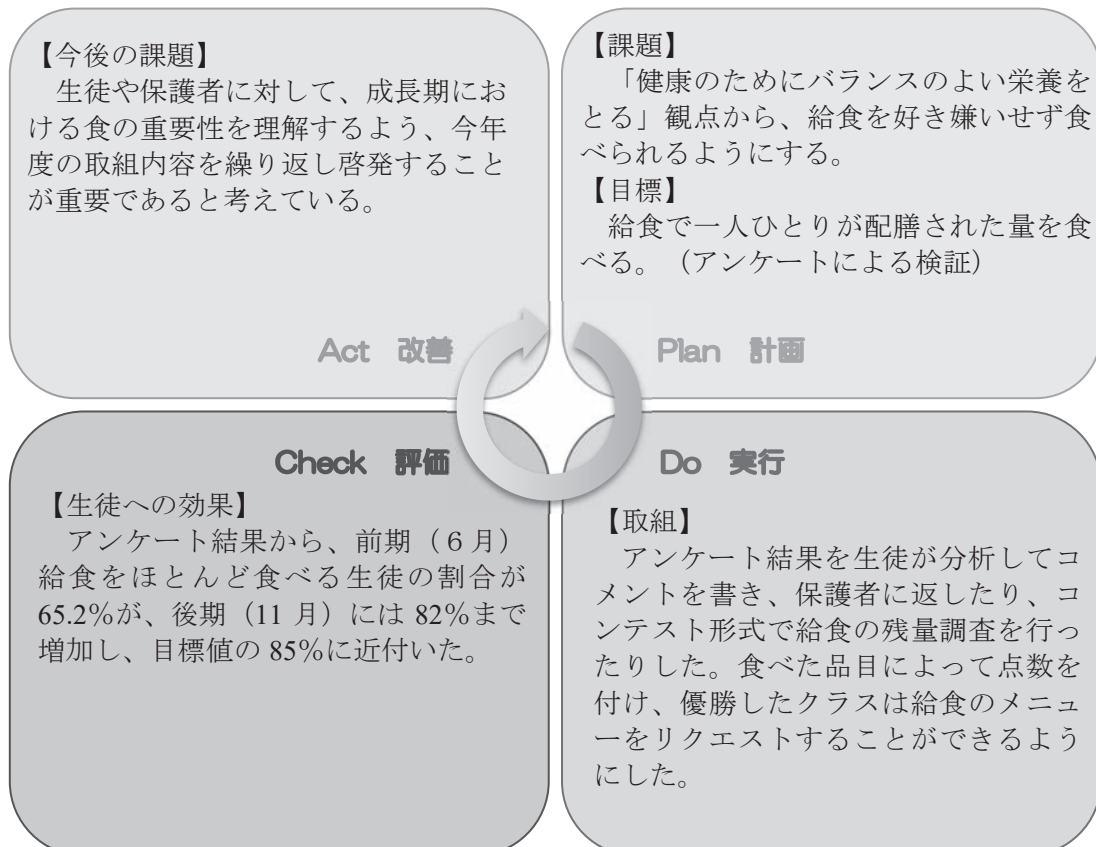
《骨密度測定に関する食育だより》

《骨密度測定後の生徒の反応》

イ. その他の取組

上記以外にも、七尾東部中学校では、以下の取組を行っている。

- 「給食を残さない」 取組



(5) 事例5 長野県須坂市立東中学校

実施校	テーマ	You are what you eat! ～未来まで健康に過ごすための「食」について学び、実践する～			
	所在地	〒382-0023 長野県須坂市大字亀蔵6-6			
	学校給食	共同調理方式			
	栄養教諭	配置年	平成31年度	兼務状況	他校も担当、共同調理場も担当
須坂市	人口	50,560人、20,039世帯 ※令和元年12月1日現在 住民基本台帳			
	学校数	小学校 11校	中学校 4校	支援学校 1校	
	地域概要	須坂市は長野県の北東部に位置し、明治から昭和初期にかけては製糸の町として栄え、近年は機械・金属工業と風光明媚な観光地、全国有数のリンゴ・ブドウ等果樹の産地として躍進を続けている。気候は、典型的な内陸性気候でそれぞれの季節の訪れを感じることができる。また、東南部には峰の高原、米子大瀑布、五味池破風高原等があり、豊かな自然に恵まれている。市街地には製糸業が盛んだっことを思わせる「蔵の町並み」や、市民をはじめ、訪れる方の憩いの場「臥竜公園」もある。			

① 実施校の概要

昭和33年創立。須坂市の南東にあり、須坂駅より7.3kmの場所に位置し、旧仁礼村、旧豊丘村の扇の要の位置にある。学校目標として「三心自立」を掲げ、【学ぶ心】【思いやる心】【鍛える心】を「三心」と呼び、教科指導をはじめ、日々の生活のあらゆる場面でこれらを磨き、一人ひとりが「自立すること」を目標としている。

全学年の生徒数は154人である。

平成28年長野県と須坂市のICT教育のモデル校に指定され、ICTを活用した協同的な学びによる生徒主体の授業を実現し、思考力・判断力・表現力等の伸長を図っている。

また、平成31年度生徒会スローガンとして「全輝～縦割りで一体となる東中～」が掲げられており、縦割学年活動に力を入れ、さまざまな場面で学びや交流を深めている。

② モデル事業の実施体制

A. 校内の連携

平成31年度より栄養教諭の所属校になったことにより、年度当初の教職員研修で、「須坂市の目指す食育」について、どのように具体化していくのか話し合い、共通理解を図ったことが、全校体制による実施につながった。学校の食に関する指導の全体計画の見直しや、教科等に食育を位置付けていく中で「食育の目標」に示された3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間力」を踏まえ、「何ができるようになるか」を考えることを通じて、校内で連携して食育指導を行う意味が理解された。

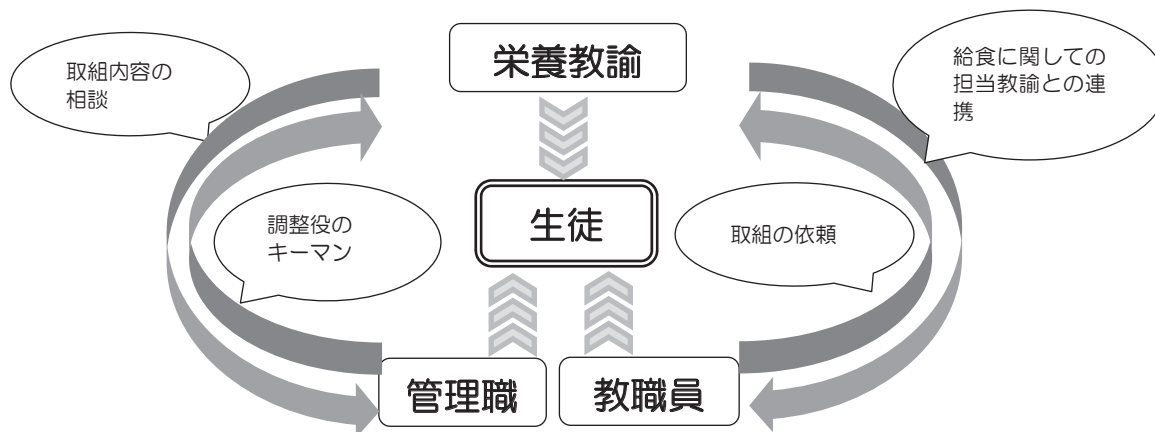
また、栄養教諭が給食時の教室訪問を重ねる中で、教職員や生徒とのコミュニケーションが図られたこと、専門職による食に関する指導が、生徒の食に対する意識を高めることを教職員が実感したことで、食育は学校全体で取り組むものであるという意識が教職員に醸成できた。

学校と給食センターでやり取りする連絡ノートや、日常的な職員室や給食時間の会話についても変化があり、普段から「食」について話題にすることが多くなった。例えば、給食時間に市内全校へ配布している「給食センターだより」の内容について、学級担任が生徒へ問いかけることが増え、家の食卓の様子等が連絡ノートに日常的に記入されるようになった。

給食センターの栄養教諭は、各学校の状況を把握しづらいが、東中学校では教頭がキーマンとなり、連携する教科や担当教諭との調整を行った。管理職が関わり、窓口が一本化されることで、校内全体の進捗状況を管理しながら実施することができた。

その一例として、2年生の理科「動物の体のつくりとはたらき」の単元で、栄養教諭が市内業者から手配した豚の臓器の観察を行った。「豚の命をいただいて行う学習」と位置付け、その後の道徳「いのちをいただく」につなげた。生徒からは、「動物や植物であってもその命はすべて大切なもの。それをいただいでできている自分の体を大切にしないといけない」といった感想があった。カリキュラム・マネジメントに向けた取組として、理科の目標に添って実施し、その後の道徳で「いのち」について考えたことが、より深い学びにつながり、須坂市の目指す「命の教育」が具現化できた授業になった。

図表 2-18 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-19 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
大学等の高等教育機関	長野県立大学	評価方法等指導・助言、身体組成計測、収集データ分析
生産者・関係団体（JA等）	地元生産者	野菜等栽培指導・支援、交流
地域団体	食生活改善推進協議会	郷土料理 おやき やしろうまの伝承、調理実習講師
市町 教育委員会	市町村教育委員会連絡協議会	県内市町村教育委員会への情報発信
市町 関係部局	須坂市健康づくり課（食で健やか応援隊）	身体組成計測の連携 小学校における親子でクッキング指導
市町 関係部局	須坂市養護教諭部会	生活習慣病予防検診の共有化
市町 関係部局	須高地区栄養士会 栄養教諭	身体組成計測の連携、事業の評価
県 関係部局	長野県学校保健会 栄養教諭・学校栄養職員部会 保健主事部会	地区研修会開催、全体研修会での事例発表 県内栄養教諭等への情報提供
県 関係部局	県健康福祉部、農政部（長野県食を育む推進会議）	県食育推進会議等の関係機関へ周知

③ 取組の詳細

ア. 重点的に取り組んでいる内容

生徒は、長野県立大学健康発達学部食健康学科稲山貴代教授から計測の目的を聞き、自分の体を知るための身体計測を実施した。対象は中学3年生。

最新の測定機器（インピーダンス測定器と骨密度計）を大学から借りて、身長、体重、体脂肪量、筋肉量、タンパク量、ミネラル量、体水分量、骨密度の計8項目を測定した。

また、生徒一人ひとりが活動量計を用いて休日も含め一週間測定を行った。長野県立大学が生徒一人ひとりのデータを分析し、アドバイスも付けて生徒にフィードバックした。また、栄養教諭は学級担任と相談し、

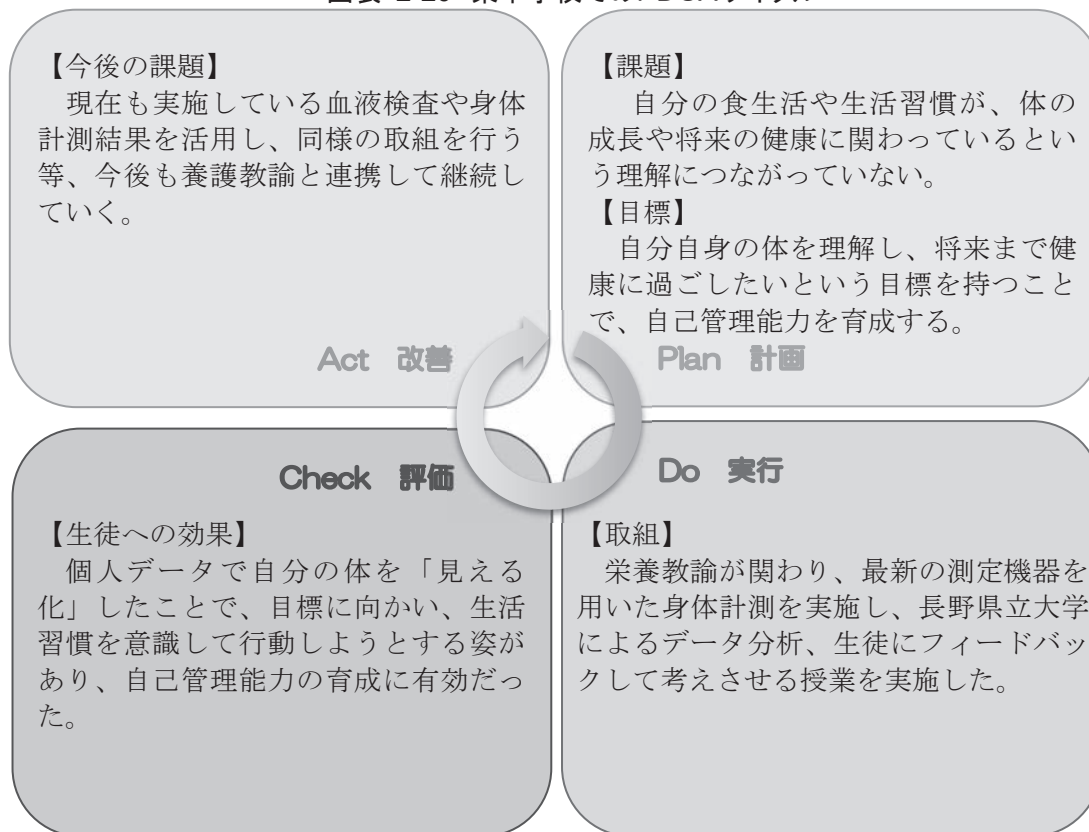
さらに一週間分の食事の記録をとり、データとの関連性を考えられるようにした後、特別活動「You are what you eat!（あなたはあなたの食べたものでできている）」の授業に活用した。中学校生活のまとめとして、自分の体を知りながら、理想的な食習慣や食事の重要性を理解するための授業に有効だった。

生徒は生き生きと自分の体を見つめ、「食事の重要性」や「生活のあり方」等、卒業後の食生活に向けて考える機会になった。なかには、体重が軽くても筋肉量が少ないと軽度肥満と判定される場合もある等、自分の体をより詳しく知ることができたと考えられる。学習カードには、「体脂肪率は標準だったけれど、体は成長しているのでバランスのよい食事をしていこうと思った」「部活動を引退して、前より運動しなくなったので、体を動かそうと思った」等と書かれていた。個人データで自分の体を「見える化」したことは「自分の体は自分の食べたものでできている」ことを実感するための手立てとなり、自分の生活習慣を意識しながら行動しようという姿、自己管理能力の育成に有効だった。



《身体計測の様子》

図表 2-20 東中学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、東中学校に配置されている栄養教諭を中心に、以下の取組を行っている。

- 栄養教諭の学校・教育委員会との連携

【今後の課題】

- ① 教科と連携することで食育が実施できることを、東中学校の事例や成果とともに周知していく。
- ② 教頭等の管理職がキーマンとなり、栄養教諭が「食育の先生」として「教科と連携した食育」に関わることができるようにする。
- ③ 栄養教諭2名で、市内16校のニーズに応えるには、給食管理との両立に時間的な課題がある。

Act 改善

【課題】

栄養教諭2名は、ほぼ毎日市内16校に出向き、食育授業を行うが、食育の取組は学校間に温度差がある。また、栄養教諭は普段、給食センターに勤務しているため、教職員は「食育」は「職外」という認識があった。

【目標】

実施校での食育の取組を通して、教職員の食育に対する意識改革を図り、学校全体で栄養教諭と連携した食育の実施につなげる。

Plan 計画

Check 評価

【教職員への効果】

- ① 教頭がキーマンとなり連携する教科や担当教諭との調整を行い、食育は学校全体で取り組むべきという意識が醸成できた。
- ② 実施校の教職員の食に対する意識が向上し、給食や教科等における食に関する指導ができている割合が増加した。

Do 実行

【取組】

- ① 年度当初の教職員研修や学校保健委員会で、「須坂市の目指す食育」について、共通理解を図った。
- ② 教頭が「調整役のキーマン」として、各教科等の目標と栄養教諭が食育として実施したい内容を結び付け、学校全体のマネジメントを行った。

(6) 事例6 静岡県裾野市立東小学校

実施校	テ　　マ	静岡茶でつながる学校・家庭・地域の食育			
	所　在　地	〒410－1121　静岡県裾野市茶畑 399 番地			
	学校給食	単独調理方式			
	栄養教諭	配置年	平成 22 年度	兼務状況	他校も担当
裾野市	人　　口	51,635 人、21,711 世帯　　　　　　　　　※ 令和元年 12 月 1 日現在　住民基本台帳			
	学　校　数	小学校　9 校　　　　　中学校　5 校			
	地　域　概　要	裾野市は静岡県の東、富士山のふもとに広がり、東には箱根外輪山、西には愛鷹連山と豊かな自然に囲まれた工業のまちである。 人口は 51,635 人（令和元年 12 月 1 日現在）、面積は 138.12 平方キロメートル。気候は温暖で、交通の便も良く、豊かな自然と産業が調和している。 また、裾野市は「健康文化都市」を宣言し、誰もが健康で、人と自然のふれあいを大切にして、豊かな裾野の文化を作り続けることを目指している。 そして、一番の見どころは雄大な富士山の眺望である。稜線が最も美しく、優雅で、気品に満ちた四季折々の富士山が見られる。			

① 実施校の概要

以前は、水田中心の農家が大部分であったが、工場誘致以来、住宅・団地が急増し、田園・文化・産業都市へと発展する裾野市の重要な校区としての役割を果たしている。広域農道の周辺は、なお発展を続けているが、校区に住宅地の造成の余地は少なく、児童数は漸減している。

学校の規模としては、全学年の児童数は 625 人である。通う児童や保護者の状況としては、本校は裾野市の教育と文化の中心の拠点校であり、地域住民にとっては自慢の学校である。3 世代で生活している家庭も多く、あたたかな家庭環境で心豊かに育っている子供たちが多い。また、地域の教育力も大きい。

学校教育目標は「自ら学ぶ感性豊かな子」、重点目標は「かかわりあう子」、学校経営目標は「DON'T THINK FEEL」である。

② モデル事業の実施体制

A. 校内の連携

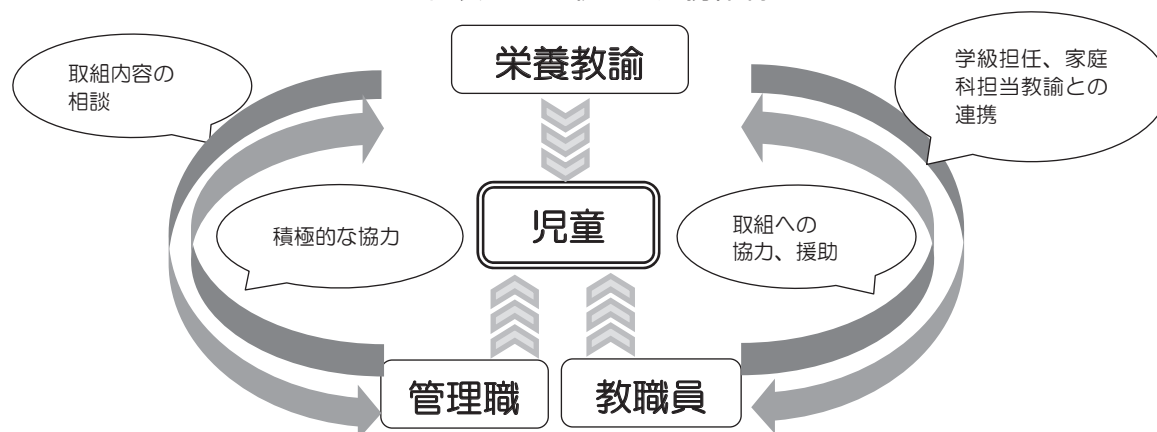
学級担任は、「つながる食育推進事業」に積極的に取り組んでいる。本事業で実施した「食育に関するアンケート」は、教頭が中心となって取り組み、各クラスの学級担任も協力している。校長が積極的であるため、ほかの教職員も協力的な姿勢がみられる。「つながる食育推進事業」が始まる前から、学級担任は協力的で、栄養教諭が 1 人で悩むことはなく、もし困ることがあれば助けてくれるだろうという信頼がある。

静岡茶を使ったお茶摘みやお茶の淹れ方等の取組については、学級担任も児童と一緒に体験し、楽しんでいる様子である。また、児童も学級担任と一緒に体験できることが嬉しいようだった。

5・6 年生の家庭科では、1 クラス 1～2 時間ほど、家庭科担当教諭と連携して T・T で授業を行っている。5 年生の家庭科では、静岡県教育委員会のリーフレットを使用して栄養バランスや朝食の大切さについて授業を行った。6 年生では献立を考える授業が毎年 1 回あり、その際は、「バランスのよい献立を考えよう」という話をしている。

なお、肥満と痩せについては身体測定等で把握しており、夏休み前等に養護教諭と相談して個別に指導することがある。

図表 2-21 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-22 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
県市町 関係部局	県経済産業部お茶振興課、県東部農林事務所	茶生産者との連絡調整等
生産者・関係団体（JA等）	南駿農業協同組合 裾野市お茶生産者	愛飲用及び学校給食用の茶葉提供 校外活動、体験活動等
民間団体	日本茶インストラクター協会	静岡茶出前講座（お茶の淹れ方等）
P T A等	学校 P T A	学校と家庭との連携等

③ 取組の詳細

ア. 重点的に取り組んでいる内容

児童に対する取組は主に学年主任が中心となって準備を行い、学級担任・栄養教諭が協力した。また、主に教頭や主幹教諭が外部講師等とやりとりを行っている。

今年度、4年生の児童は総合的な学習の時間を活用し、静岡茶に関する体験を多く行った。7月にお茶の淹れ方を学び、後述する家庭教育学級でお茶の淹れ方を学んだ保護者の一部も教える側として参加した。児童からは、「家でもお茶を淹れて家族で飲みたい」との感想があった。10月には男女とも茶摘み娘の恰好をして、保護者ととともに秋冬番茶のお茶摘みを体験した。お土産として茶葉を持ち帰り、家庭でてんぷら等にして味わった。児童からは、「夢中になってたくさん摘んだ」「いつも大変な仕事をしていることが分かった」との感想があった。保護者からは、「児童たちが一生懸命摘んでいる姿がとても素敵だった」「茶摘み娘の衣装を着て、貴重な体験だった」との感想があった。さらに、裾野市手もみ保存会を招いて手もみ茶体験を行ったり、茶道教室を実施し抹茶を飲み、お茶菓子を食べる体験をしたりした。



《お茶の淹れ方教室》

5・6年生の児童も、お茶に関する体験を行った。5年生は、9月に家庭科の授業の一環で、お湯を沸かすところからお茶の淹れ方を学んだ。また、4年生と同様、総合的な学習の時間で茶道教室も実施した。6年生は、12月に総合的な学習の時間で日本茶インストラクターを招いて温度や待つ時間等の詳しい煎茶の淹れ方を学んだ。キャリア教育としてお茶に関連した仕事についても話を聞いた。

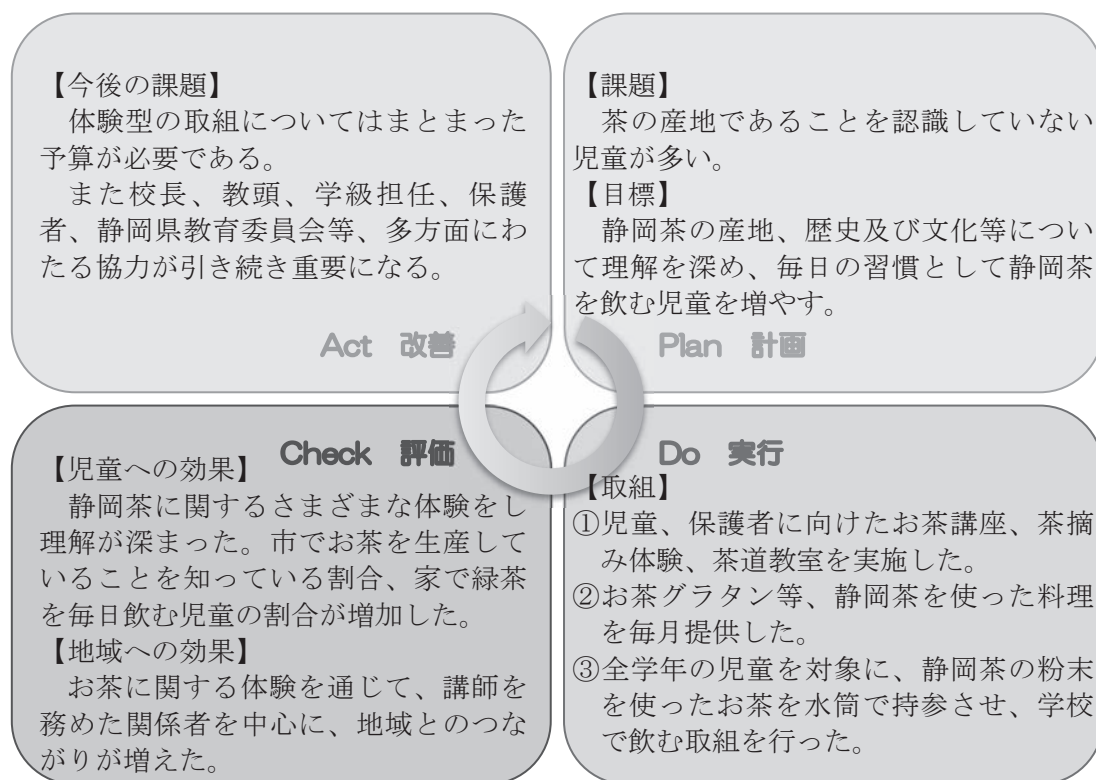
さらに、全学年の児童を対象に、地元のお茶の粉末を使ったお茶を水筒で持参させて、学校で飲むという取組を3学期に実施した。

給食の献立についても、お茶グラタン、手作りスイート茶ポテト等、静岡茶を使った給食を栄養教諭が考案し毎月、数種類を提供している。毎日その日の給食で使った食材や行事食について記載したメモを各学級に配布しているほか、そのメモを給食時間に給食委員会の児童が放送している。静岡茶を使った料理を出す際は、メモにお茶の効能についても記載し、児童に伝えている。

保護者に対する取組も行っている。PTAの組織の一つとして、保護者が外部講師から家庭で活かせることを学ぶ会（家庭教育学級）がある。同会では今年度、お茶講座を3回実施した。外部の講師を毎回招き、各回20～30名の保護者が参加してお茶の淹れ方や古くなった茶葉の活用法、茶殻を使ったふりかけや茶飯の作り方を学んだ。栄養教諭も開催に協力している。

参加した保護者の一部は、児童の学年に関係なく、家庭教育学級で習ったことを児童の授業で伝えた。また4年生がお茶の淹れ方を学習する際は、保護者も教える側として授業に参加してもらい、家庭教育学級で学んだお茶の淹れ方を児童に教えた。5年生の家庭科の調理実習で、伝統的な日常食である白米と味噌汁を作る際には、茶殻を使ったふりかけと茶飯をふるまった。参加した保護者からは、お茶の淹れ方を「静岡人として、親から子へ、教えていくのが大切」との感想や、家庭でもお茶を使った料理を作りたいとの感想があった。

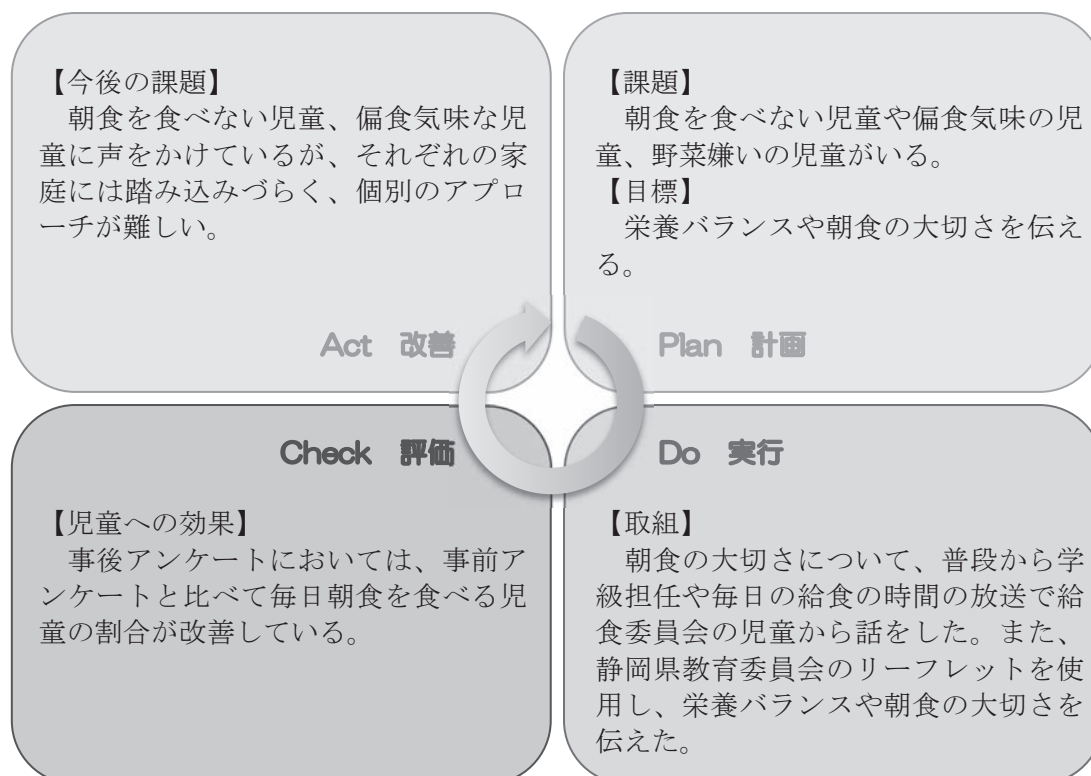
図表 2-23 東小学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、東小学校では、以下の取組を行っている。

- 児童の食生活の改善



(7) 事例7 三重県立松阪あゆみ特別支援学校

実施校	テ ー マ	「つながる！広がる！食育の輪」～特別支援学校における食育の取組～			
	所 在 地	〒515-0044 三重県松阪市久保町 1846-195			
	学 校 給 食	単独調理方式			
	栄 養 教 諭	配置年	平成 30 年度	兼務状況	当該校のみに勤務
松阪市	人 口	163,641 人、73,841 世帯 ※令和元年 11 月 1 日現在 住民基本台帳			
	学 校 数	小学校 36 校	中学校 11 校	特別支援学校 1 校	
	地 域 概 要	平成 17 年 1 月 1 日に、松阪市・嬉野町・三雲町・飯南町・飯高町の 1 市 4 町が合併し、松阪市が誕生した。三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に接し、南は多気郡、北は雲出川を隔てて津市に接している。			
		地形は、西部一体が台高山脈、高見山地、紀伊山地からなる山岳地帯、中央部は丘陵地で、東部一帯には伊勢平野が広がり、北部を雲出川、南部を櫛田川が流れている。 面積は、東西 50 km、南北 37 km と東西に長く延び、総面積で 623.58 平方キロメートルを有し、三重県全体の約 10.8% を占めている。用途別にみると、森林 427.61 平方キロメートル (68.6%) となっており山林の占める割合が高くなっている。 気候は、概ね東海型の気候区に属し、西部は寒暖の差がやや大きく内陸的な特性を持っている。			

① 実施校の概要

平成 30 年 4 月 1 日に開校。学校教育目標は「自立と共生 ～地域で豊かに生きる子どもを育てます～」で、高等部卒業後の子供たち一人ひとりの地域での生活が豊かなものになるよう、各学部がそれぞれの子供たちの発達段階に応じた教育を提供している。また、この地域における特別支援学校としてのセンター的役割を果たすべく、近隣の保育所、幼稚園、小・中学校や高等学校等と連携し、特別な支援を必要とする子供たちへの支援方法等について情報発信している。

全学年の児童・生徒数は 157 人である。児童・生徒の実態は、小学部から高等部まで重度から軽度と幅広い。

② モデル事業の実施体制

A. 校内の連携

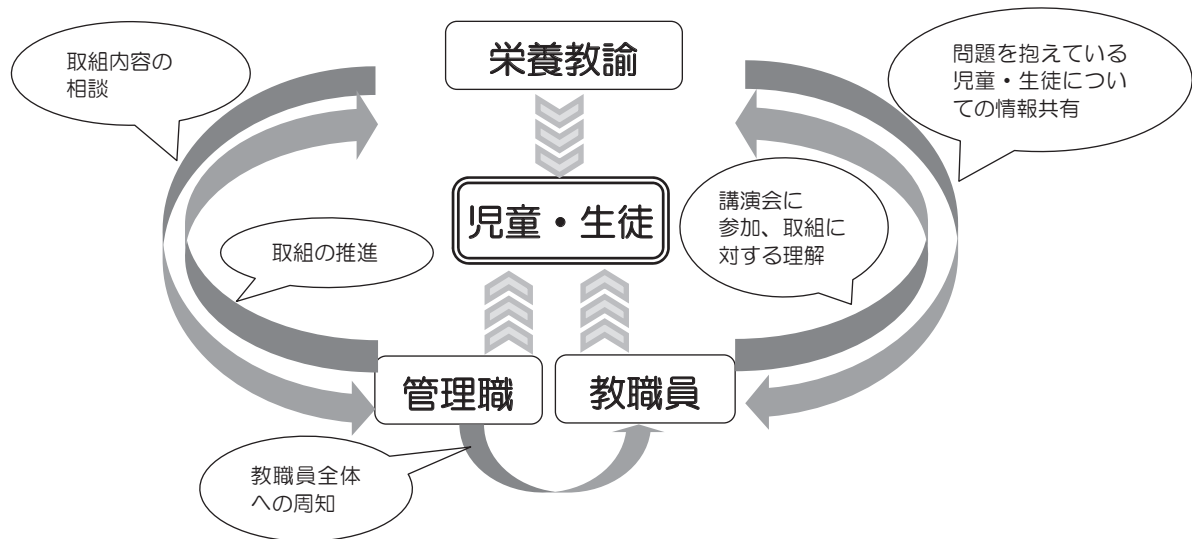
「つながる食育推進事業」の開始時に、校長から全教職員に周知を行って協力依頼をしたことで、食育に取り組むという共通の認識ができた。栄養教諭は外部講師への依頼や調整を主として担い、学級担任が生徒への事前準備を担当するといった体制が校内で構築されていた。

取組の中で、教職員向けに作業療法士による講演を開催し、校内の教職員 71 人が参加した。「特別な支援を必要とする子どもへの食育について」という題目で、感覚過敏や自閉症の傾向のある児童・生徒への対応について、味だけでなく、見た目（形状・色）や食感を嫌がる場合等、実例を挙げながらの説明があった。講演会の開催に際しては三重県から他校に周知を行い、市内の小中学校の教職員、教育委員会、特別支援学校の教諭、栄養教諭等 34 人も参加した。

給食の時間には講師に、学級担任や栄養教諭が特に問題を抱えていると考えている児童・生徒が食べる様子を見てもらうよう依頼した。温度やにおい等の感覚的な刺激が強過ぎるのではないかという指摘や、どうしたら食べられるようになるか（常温に冷ます、茶碗に盛り付けずにおにぎりにする等）についての助言を得た。そうした工夫を実践することにより、数人の児童・生徒はより食が進むようになった。

この講演会を通じて、校内の教職員には食の重要性のみならず、具体的な食の支援方法が周知され、意識の高まりに貢献したと考えている。

図表 2-24 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-25 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
民間企業・民間団体	調理委託業者	給食試食会
地域団体	食に携わる地域の関係者	出前授業、講習会等
幼稚園、小・中学校等	地域の小・中・高等学校	交流、教職員研修、食事マナー講習会
食育関係団体（専門家や給食会等含む）	三重県特別支援学校給食栄養研究会	研修会、授業参観、アンケート調査

③ 取組の詳細

ア. 重点的に取り組んでいる内容

朝食も含め、家庭での食の指導に悩んでいる保護者が多いため、「特別な支援を必要とする子どもへの食育について」というテーマで、作業療法士による保護者対象の講演会を開催した。参加した保護者は 15 人程度。この講師の選定にあたっては、栄養教諭自身の研修で有意義な話を聞いたことから、学校に招くことを考案し、三重県の事務局を通じて依頼した。

保護者からは「野菜を食べないがどうしたらよいか」「箸をうまく持たせるには」等の質問が多数あり、関心の高さがうかがえた。保護者が普段感じている悩みに答える機会となった。

また、保護者向けの講演会の後、教職員向けの講演会も開催。見た目（形状・色）、食感を嫌がる場合の対応等、実例を挙げながらの説明があった。

保護者と教職員が同じ内容を学ぶことで、児童・生徒への指導についての共通認識を持つことにつながった。

加えて、給食の時間には、特に問題を抱えていると考えている児童・生徒が食べる様子を講師に見てもらい、具体的なアドバイスをもらった。

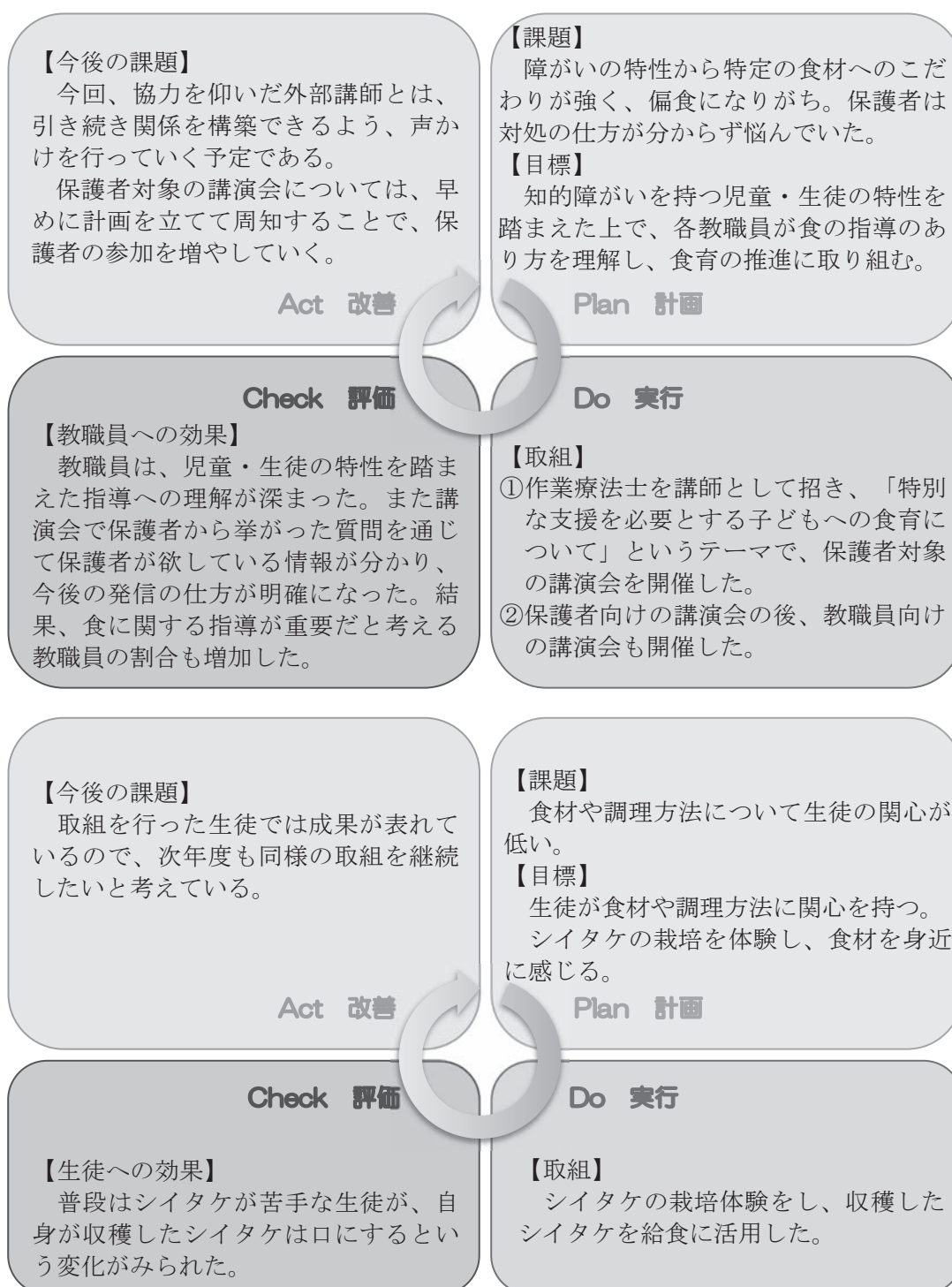


《生産者によるシイタケ栽培の講話》

さらに、児童・生徒に対する取組も多数行っており、中学部3年生はシイタケの栽培体験を行った。これまで生徒は料理に入っているシイタケを目にすることはあっても、栽培や収穫の体験をしたことはなかった。そのため、栄養教諭が近隣のシイタケ生産者を講師として招き、事前にキノコ類について知るための授業を行った。世界に実在するキノコ類の映像やキノコ類の育ち方についての説明を受け、生徒も興味を持って聞いていた。収穫したシイタケは給食に活用したが、普段はシイタケが苦手な生徒が、自身が収穫したシイタケは口にするという変化がみられた。

外部の講師を招くと、児童・生徒は緊張感を持ち、集中して取り組むため、内容が身に付きやすい。ただ、全く新しい取組には抵抗感を示す児童・生徒が多いため、事前に取組に関連した写真や映像を見せたり、取組の流れを順序だてて説明したりして、取組の情景を想起させておくことが欠かせない。

図表 2-26 松阪あゆみ特別支援学校でのPDCAサイクル



(8) 事例8 三重県立聾学校

実施校	テ ー マ	「つながる！広がる！食育の輪」～特別支援学校における食育の取組～			
	所 在 地	〒514-0815 三重県津市藤方 2304-2			
	学校給食	単独調理方式			
	栄養教諭	配置年	平成 21 年度	兼務状況	当該校のみに勤務
津市	人 口	278,501 人、126,740 世帯 ※令和元年 10 月 31 日現在 住民基本台帳			
	学 校 数	小学校 49 校 中学校 20 校 特別支援学校 8 校			
	地域概要	<p>明治 22 年 4 月、全国 30 市とともに日本で初めて市制施行した都市となった津市は、明治時代・大正・昭和初期にかけて、産業の近代化が進み、市内に多くの紡績工場が進出し、全国有数の紡績業が盛んな地帯となった。</p> <p>さらに、戦後、高度経済成長期には、電気産業、造船産業等を中心に近代工業へ進展し、現在も最先端技術を取り入れた企業の進出が進んでいる。</p> <p>平成 18 年 1 月に津市、久居市、河芸町、芸濃町、美里村、安濃町、香良洲町、一志町、白山町、美杉村の 2 市 6 町 2 村の市町村合併を行い、現在の津市に至る。</p>			

① 実施校の概要

校舎は、伊勢湾・阿漕浦が一望できる津市藤方の御殿場海岸にほど近い場所に立地している。三重県内では唯一の聴覚障がい教育の専門機関として幼児・児童・生徒に対する教育を行っている。令和元年度に創立 100 年となった。

幼稚部 17 人、小学部 26 人、中学部 19 人、高等部 17 人、高等部専攻科 2 人の内訳で在籍数は 81 人である。このほかに乳幼児教育相談も行っており、22 人の乳幼児と保護者の来校がある。

高等部には、普通科・産業工芸科・ライフデザイン情報科があり、高等部専攻科には産業工芸科とライフデザイン情報科が設置されている。

三重県は南北に広く、遠方からの児童・生徒のために寄宿舎も備えている。令和元年度は小学部 1 人、中学部 8 人、高等部 5 人の計 14 人が在舎している。

「障がいに向き合い、社会的に自立し、将来を生き抜く力を育みます」を目指す学校像とし、自らコミュニケーションを持てる幼児・児童・生徒、いろいろな情報を得て、主体的に活動する幼児・児童・生徒を育むことを目指している。

また、開かれた学校づくり、安心で安全な学校づくりの推進にも注力し、県内唯一の聴覚に障がいのある子供たちの学校として、センター的機能の発揮にも努めている。

② モデル事業の実施体制

A. 校内の連携

学級担任のほか、各学部で食育担当の教職員を配置しており、教職員は食育の推進に協力的であった。小学部 2 年生を対象に、「おはし名人になろう」という食事マナーをテーマとした研究授業を行った際には、学級担任との連携が必須であり、事前に 2～3 回打合せを行う等、念入りに準備を行った。学級担任は手話による伝達に慣れており、栄養教諭の持つ専門知識をいかに効果的に伝えるかを意識した。

栄養教諭だけでなく、教職員の側からの発信も多い。

「小学部（全学年）を対象にマナーの取組をしたらどうか」といった提案もあった。中学部では、取組後に自主的に復習をする時間を設ける教職員もいた。高等部では、教職員らが自主的に「食べ残しをなくしましょう週間」という取組を行っている。取組開始前から、児童・生徒の食事マナーが気になっていた教職員が多く、当初から協力は得やすかった。

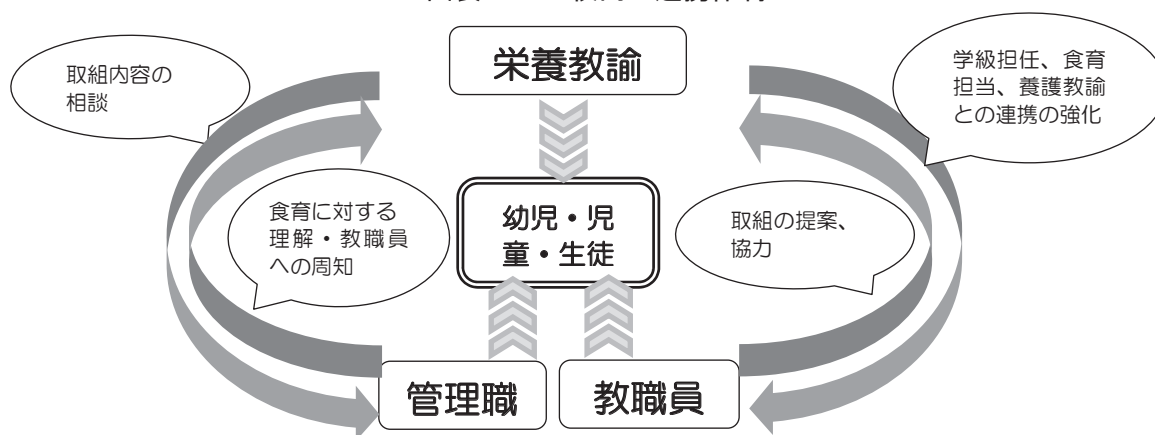


《研究授業の様子》

教職員らが協力的であった背景として、取組開始時に校長が教職員に周知したことから、目的の共有がしやすく、協力関係が築きやすかったとみられる。また、「食事マナー」というテーマは目に見えやすく、指導がしやすかったこともある。

さらに、栄養教諭と養護教諭が連携し、歯と口の健康づくりに取り組んだ。具体的には給食の取組として咀嚼が必要な食材を使う日（かめかめメニューデー）を設け、教職員による摂食指導も行っている。かめかめメニューについては、児童・生徒から募集し、給食に出している。

図表 2-27 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-28 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
民間企業・民間団体	給食食材納入業者・調理委託業者	給食試食会
地域団体	食に携わる地域の関係者	出前授業、講習会等
食育関係団体（専門家や給食会等含む）	三重県特別支援学校給食栄養研究会	研修会、授業参観、アンケート調査

③ 取組の詳細

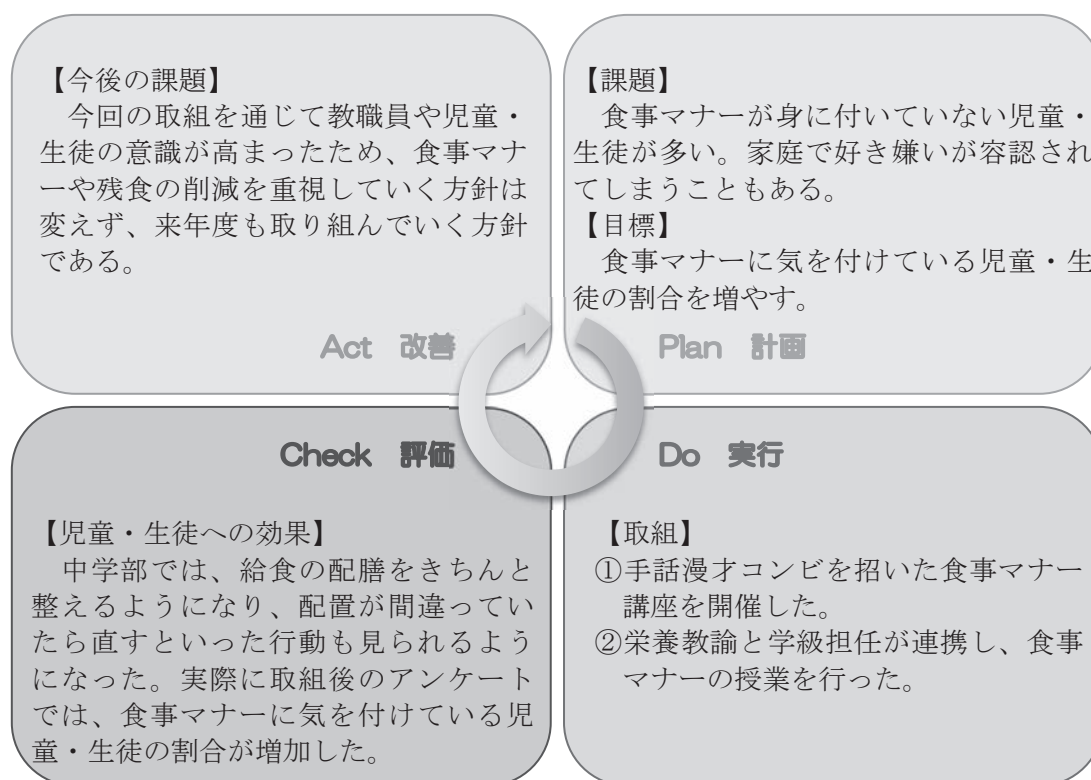
ア. 重点的に取り組んでいる内容

前出の研究授業に加え食事マナー向上の取組の一環として、食事マナーを楽しくわかりやすく伝えてもらうために、全校の幼児・児童・生徒を対象に10月、手話漫才コンビを招いた。栄養教諭がインターネットで探索し、直接電話をして協力を要請した。幼児・児童・生徒は終わってからサインや写真をせがむ等、憧れを抱いた様子であった。そうした“憧れの人”から食事マナーについて話をされることで、普段より素直にアドバイスを受け止めていたようだ。

また、同じく食事マナー向上の取組の一環として、小学部2年生を対象に「おはし名人になろう」というテーマで食事マナーの授業を行った。栄養教諭の専門知識を、手話に慣れた学級担任が分かりやすく伝えることで、児童の理解を促した。

さらに、同じく食事マナー向上の取組の一環として、高等部の生徒を対象に、津市の調理専門学校講師を招いて講座を開いている。高等部の生徒は卒業後、社会に出るため、真剣に話を聞いていた。アンケートで感想を求めたところ、「マナーが上手になりたい」という記述があり、食事マナーの重要性についての理解が深まったと考えている。

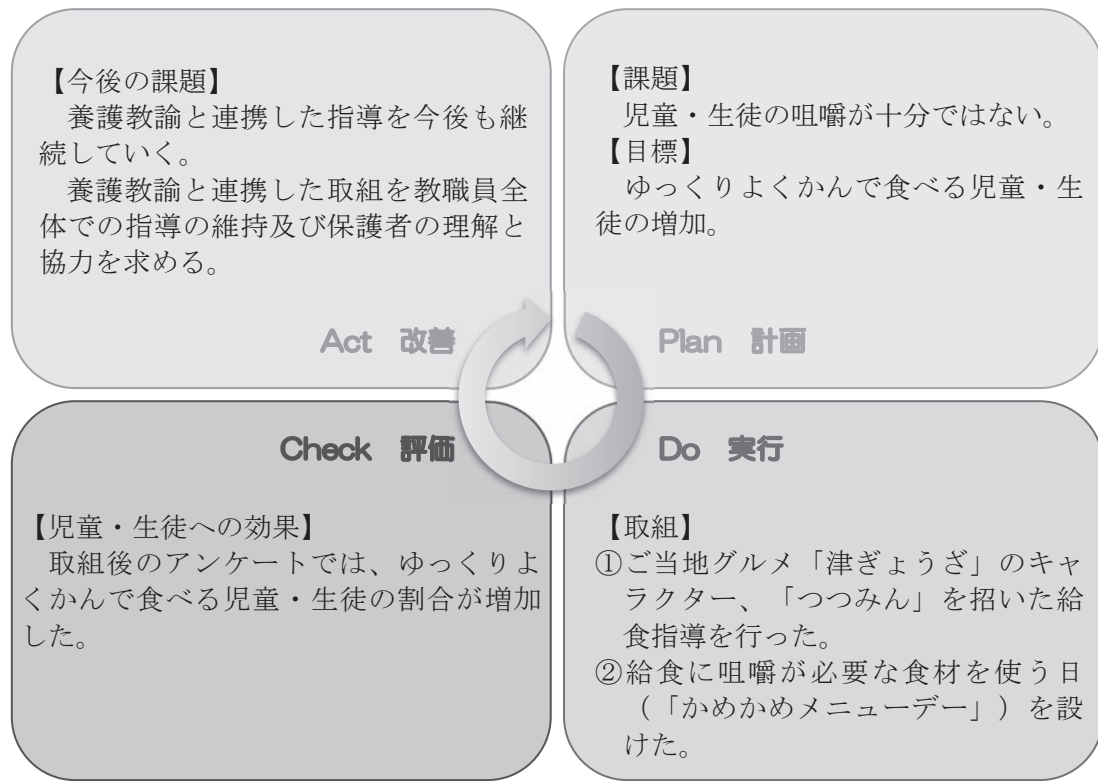
図表 2-29 三重県立聾学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、三重県立聾学校では、以下の取組を行っている。

- ゆっくりよくかんで食べるための取組



(9) 事例9 奈良県橿原市立橿原中学校

実施校	テーマ	学校給食から「つながる」橿原市の食育 ～おいしく、バランスよく食べて、健康実践力を育む～			
	所在地	〒634-0801 奈良県橿原市西新堂町 26 番地の 1			
	学校給食	単独調理方式			
	栄養教諭	配置年	平成 28 年度	兼務状況	当該校のみに勤務
橿原市	人口	121,831 人、53,673 世帯 ※令和元年 10 月 1 日現在 住民基本台帳			
	学校数	小学校 16 校 中学校 6 校			
	地域概要	橿原市は、奈良県のほぼ中央に位置し、東西 7.5 km、南北 8.3 km の広がりを見せ、東は桜井市、西は大和高田市、南は高取町・明日香村、北は田原本町と接している。面積は 39.56 平方キロメートルで、全体的に起伏が少なく、市内の中央部には飛鳥川、西には曽我川が流れている。また、万葉の時代を偲ばせる大和三山（畝傍山：標高 199m、耳成山：139m、香久山：152m）がそびえ、その中央には約 1300 年前に我が国初の首都であった藤原宮跡がある。そのほか、市内には歴史的文化遺産が点在している。鉄道網ではＪＲと近鉄が縦横に走り、あわせて 13 の駅があり、また国道 24 号・165 号・169 号と道路網も発達し、大阪からは 30～40 分、京都からは約 1 時間、関西国際空港からは約 1 時間、名古屋からは約 2 時間と交通の便も良く、古代から交通の要となっている。			

① 実施校の概要

昭和 57 年開校。全学年の生徒数は 565 人である。

学校教育目標として、「自他の生命と人権を尊重し、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」を掲げている。目指す学校像は、「生徒一人ひとりが生き生きと輝く学校」であり、目指す生徒像は「心身ともにたくましく、生きる力のある生徒 自主・自律の精神を備えた生徒 他人と協調し、思いやりのある心豊かな生徒」である。

「基礎基本の定着と学ぶ喜び、わかる授業内容の創造」「楽しく体力向上につながる体育活動の創造」「人と命を大切にすると人権感覚を磨き、自らが変革しようとする実践力を培う学習活動の創造」「自己実現を図り、進路決定をできる能力をつける学習活動の創造」「生徒の内面に迫り、感受性豊かに向き合う教育活動の創造」「地域・保護者からの信頼を基に連携・協働する活動の創造」を教育活動の重点項目としている。

部活動としては栄養教諭が顧問をする「チャレンジ部」において、畑で野菜作りをしたり収穫した野菜で調理実習をしたりと、食育も含めたさまざまな活動をしている。

② モデル事業の実施体制

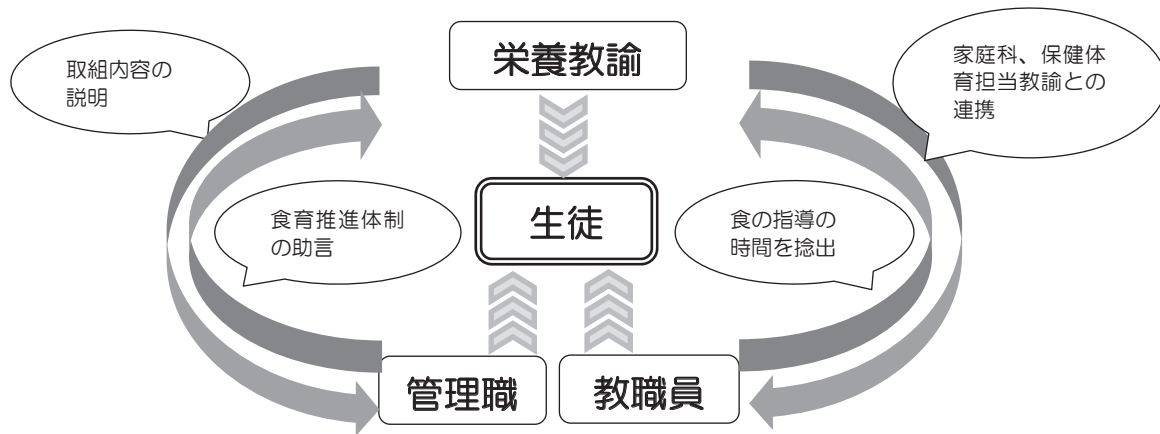
ア. 校内の連携

本校の栄養教諭は若手で経験年数が短い。教職員の中には食育に対しハードルを高く感じている人もおり、給食時間の声かけを依頼しても協力を得にくいことがあった。教科担任制である中学校では、食育を栄養教諭が行うものと考えている教員も多く、「大それたことはできない」「自分の担当ではない」と感じていたりするケースが多いようである。

ただ、家庭科教諭は協力的であり、調理実習等の取組に際しては家庭科教諭からのサポートが大きかった。また取組開始前、栄養教諭が職員会議で「教科の中で食に関連する内容があれば、声をかける（又は声をかけてもらいたい）」旨を全教員に依頼した結果、保健体育で食育に関連した授業が実現している。

今年度は「つながる食育推進事業の実施校である」ことをきっかけに協力を得られたこともあったが、来年度以降は更に理解が得られるように説明する必要がある。学校全体として取組ができるように、食育の重要性を十分に理解するための研修のような場があればよいと栄養教諭は考えている。

図表 2-30 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-31 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
大学等の高等教育機関	帝塚山大学	調査整理・分析、評価方法の指導
民間企業・民間団体	J Aならけん	栽培活動
食育関係団体 (専門家や給食会等含む)	料理研究家、元学校栄養職員	減塩レシピの開発、郷土料理の講演会

③ 取組の詳細

ア. 重点的に取り組んでいる内容

食育の時間を確保することが難しく、これまで家庭科の調理分野の授業において、家庭科教諭と連携した指導を行うにとどまっていたが、取組開始前の平成 31 年 3 月、中学校 3 学年分の教科書をすべてチェックし、各教科で食育と連携できる内容がないかを調べた。保健体育や理科等の教科で食育に関連した授業が展開できるのではないかと考え、担当教諭に相談した。

その結果、保健体育では担当教諭と連携し、3 年生「食生活と健康」の単元で授業を実施することができた。授業では、健康に過ごすためには食生活が大切であることの指導を行い、朝食摂取前後のサーモグラフィー、朝食と学習集中力との関係のグラフ、朝食アンケート結果を示し、保健体育の担当教諭からもよい評価を得た。

理科では「消化と吸収」等の単元で関与できると考えたが、授業時間の都合上、今年度は実現できなかった。栄養教諭としては、指導案や媒体を事前に用意し目的を的確にして説明を行うことで、授業実施へのチャンスが広がるのではないかと考えている。

国語等でも食品を題材にしたものがあるため、令和 2 年度以降はさまざまな教科に積極的に関与していきたいと考えている。ただ、学校全体として食育を推進する意識の醸成が難しく、ほかの教職員にどのように声をかけをしたらよいか、迷う場面が多かった。

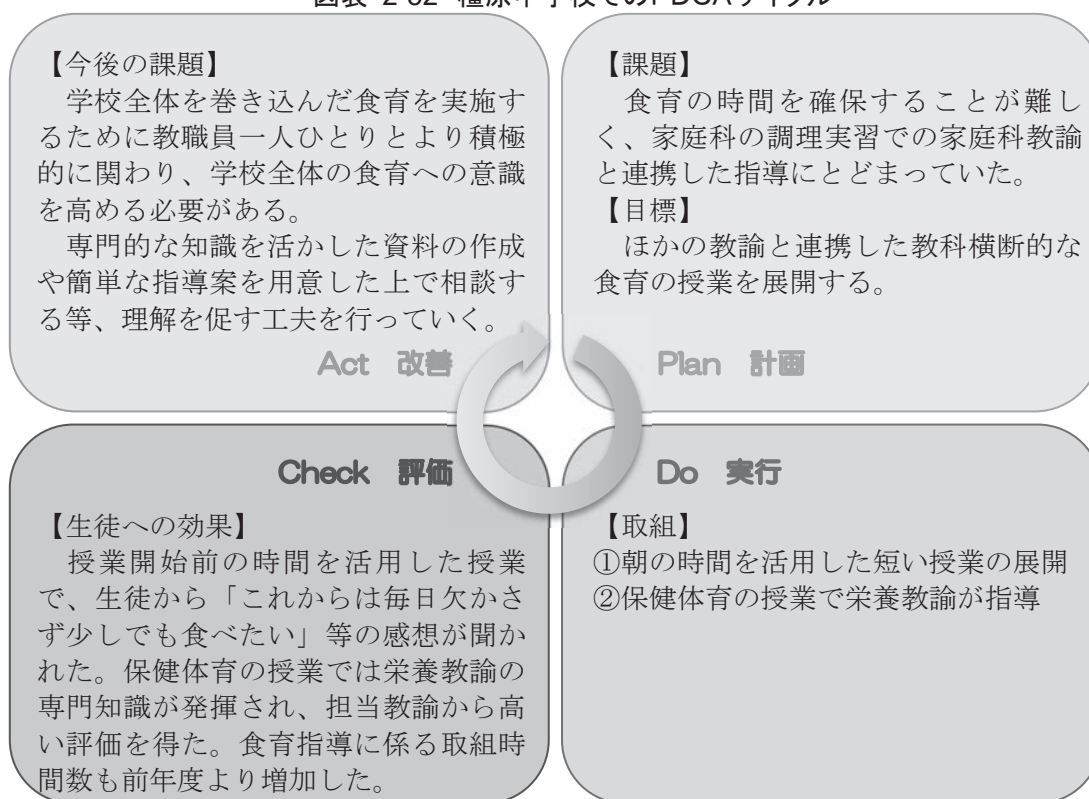


《保健体育の時間における指導》

また、1年生を対象に、授業開始前の読書・学習時間と朝学活（15分）を利用して、朝食の重要性について話をした。授業開始前の時間は教科の時間と比べ、時間の確保がスムーズであった。

さらに、栄養教諭は「生徒がしたいことになんでもチャレンジする」という活動理念の部活「チャレンジ部」（所属する生徒は15名）の顧問をしており、その中で畑作業や調理を積極的に取り入れている。収穫した野菜を調理する取組を行った時は、普段の給食では偏食傾向の生徒が、自分で栽培し収穫した野菜や調理した料理を積極的に食べていた。また、「カレールーを使わずに、一からカレーを作りたい」という生徒の声に応える形で調理実習を行ったこともある。部活については、活動内容が顧問の裁量に任せられるため、部員に対しては食育の機会をできるだけ持てるような提案を行っている。

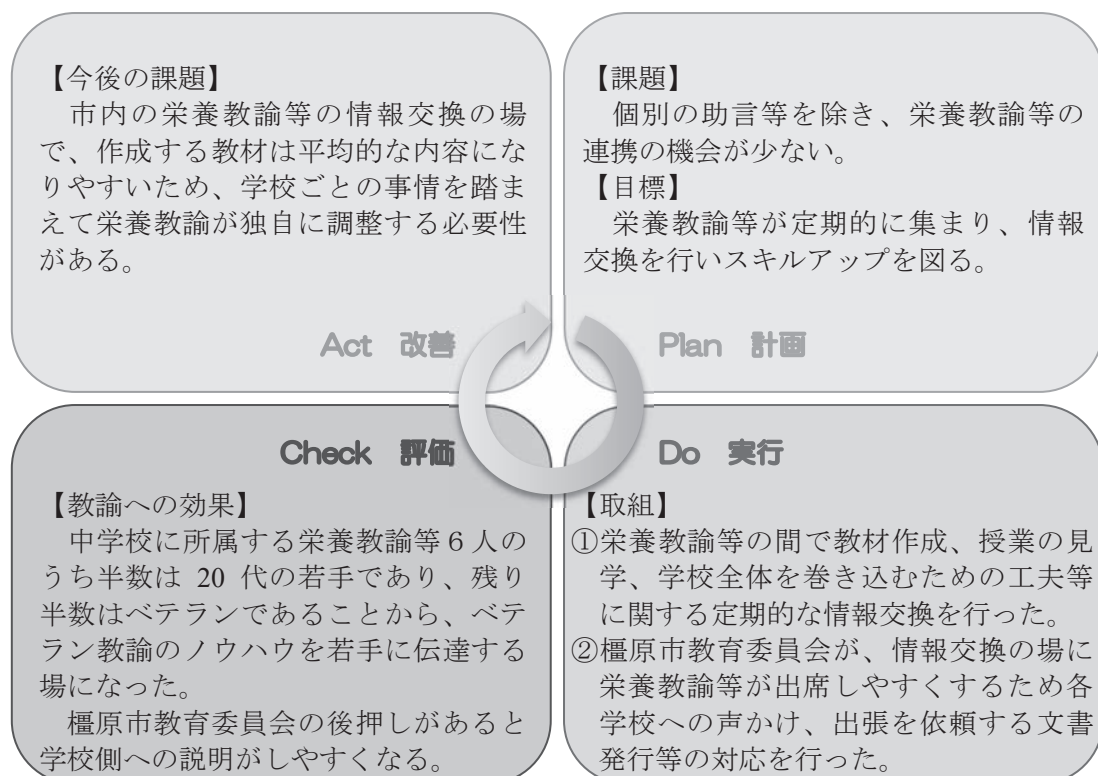
図表 2-32 檀原中学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、樫原中学校では、以下の取組を行っている。

- 市内の栄養教諭との意見交換



(10) 事例 10 山口県宇部市立琴芝小学校

実施校	テーマ	レッツ「へら塩チャレンジ」 ～減塩でつながる地域の食維新～			
	所在地	〒755-0034 山口県宇部市東琴芝二丁目3番48号			
	学校給食	共同調理方式			
	栄養教諭	配置年	平成23年度	兼務状況	共同調理場も担当
宇部市	人口	164,373人、79,419世帯 ※ 令和元年10月末日現在 住民基本台帳			
	学校数	小学校 24校 中学校 12校			
	地域概要	<p>宇部市は、本州西端の山口県の南西部に位置し、西は山陽小野田市、東は山口市、北は美祢市に接し、南は瀬戸内海に面している。</p> <p>交通環境を見ると、鉄道は山陽本線及び宇部線が東西に走り、高速道路は山陽自動車道が市の中央部を横断し、海浜部には重要港湾である宇部港があり、山口宇部空港も市街地に近い位置にある等、陸海空それぞれの交通環境が整っている。</p> <p>気候は、温暖で、雨が比較的少ない典型的な瀬戸内海式気候で、市中央部以北の丘陵地には豊かな自然があふれ、さまざまな動植物が生息している。また、南は海に面していることから、山と海の幸にも恵まれている。</p> <p>今日の宇部市発展の礎は、明治期以降の石炭産業の振興により築かれ、その後、エネルギーの需要構造の転換にいち早く対応し、近代的な工業都市へと変ぼうを遂げ、現在も瀬戸内有数の臨海工業地帯を形成している。</p> <p>また、石炭を基盤に化学工業が発展していたことから、高等工業学校を誘致し、それを契機に、現在も本市は、多くの高等教育機関を有している。</p>			

① 実施校の概要

本校は昭和33年、宇部市の発展による人口の急増に伴い、神原小学校及び上宇部小学校区の一部を変更して、両校の3分の1の児童を合わせて新設された。平成31年には60周年を迎えている。現在地は、旧山口県立宇部高等女学校（戦後は、旧市立宇部高等学校）の跡地であり、工業地帯・中心商業施設からやや遠ざかった市のほぼ中央部に位置している。校区には主な官庁・市立図書館・学校・商店・住宅・アパートが建ち並び、周辺には農家も点在している。また、本校近辺には公園や川、校区東側には常磐公園があり、教育文化・自然環境にも恵まれている。

全学年の児童数は288人、全16学級（12＋特別支援4）である。若い世代のドーナツ化現象が一部でみられ、児童数は減少傾向にある。校区には各種団体も多く、琴芝ふれあいセンターを中心にさまざまな分野で活動が展開されており、地域をあげての児童の健全育成が推進されている。

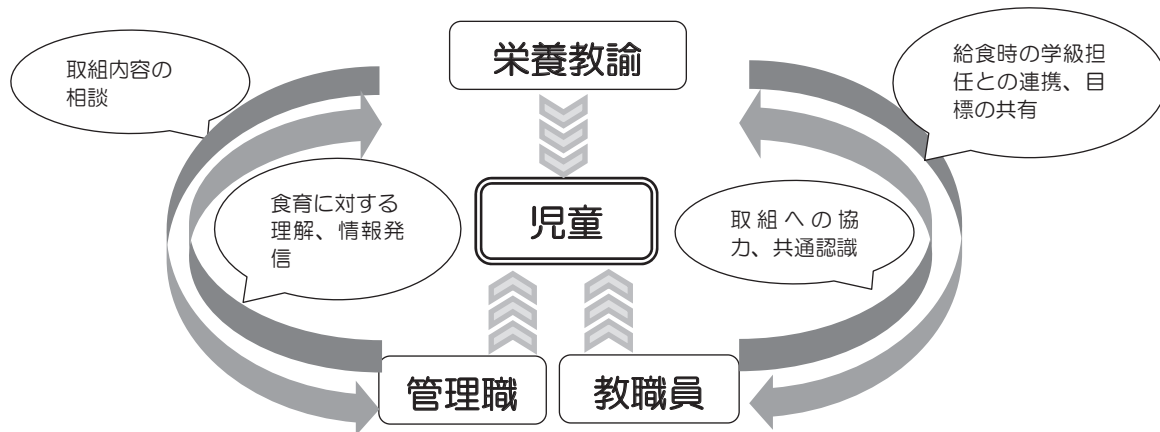
学校教育目標は「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」である。平成25年にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）指定を受けており、学校・家庭・地域の連携意識の向上を通じた「みんなで育てる琴芝っ子運動」を支援している。

② モデル事業の実施体制

ア. 校内の連携

一昨年から栄養教諭が毎日の給食について資料を作り、学級担任が読んだり児童に読ませたりする「ちょこっと食育」の取組を行っている。すべてのクラスで学級担任が取り組んでおり、給食を通じた食育の重要性についての共通認識ができていると感じる。産地や食べ物の由来、栄養についての話が多く、児童にも知識が定着しているようである。児童から産地を問う声が聞こえることもある。また、校長がウェブサイトを通じて食育の取組についての情報を積極的に発信しており、食育を推進することについての理解がある。

図表 2-33 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-34 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
大学等の高等教育機関	山口大学大学院医学系研究科	児童の尿検査及びデータの提供・助言
市町 関係部局	宇都市健康増進課	親子料理教室への支援、「こどもへら塩教室」の開催、各家庭への啓発活動
市町 関係部局	宇都市食生活改善推進協議会	学校保健安全委員会への協力、親子料理教室における調理指導・助言等
市町 関係部局	宇都市栄養教諭連絡協議会（ワーキンググループ）	へら塩レシピ、リーフレット作成、親子料理教室の企画・運営
食育関係団体（専門家や給食会等含む）	宇部市小中学校教育研究会栄養教諭部会	食育教材作成、食に関する指導の指導案検討
市町 教育委員会	下松市教育委員会	情報提供（平成 29 年度「つながる食育推進事業」受託市）
市町 教育委員会	周防大島町健康福祉部・教育委員会	先進事例紹介

③ 取組の詳細

ア. 重点的に取り組んでいる内容

6年生の保健の一環として、生活習慣病の予防に関する授業で、減塩の必要性について説明。児童が日ごろ食べているカップラーメン等には、多くの塩分が含まれていることを紹介した。例えばカップラーメンではスープと麺で塩分量が異なることを伝え、「汁は残すようにする」等の実践的なアドバイスをした。食品の成分表示を見ることを心がけるように伝えた。実際、成分表示を見たことのある児童は多く、児童にも理解しやすかったようだ。また、ペットボトルで血管の模型を作り、塩分のとり過ぎが高血圧や動脈硬化につながることを児童に分かりやすく示した。この模型は宇部市内の栄養教諭の間で共有されており、別の実施校の授業でも使用された。児童は日常生活における減塩の取組について理解したようだが、繰り返し、さまざまな形で伝えることで行動の変容を促していく必要があると考えている。

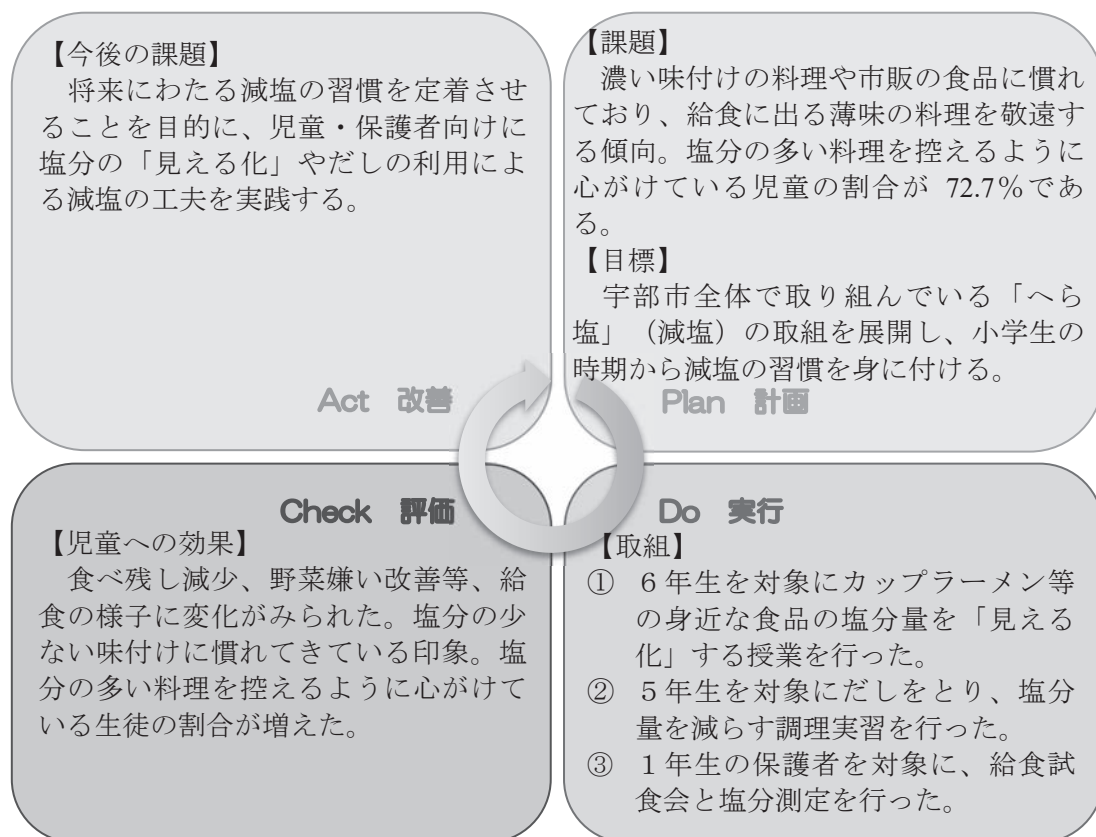
5年生では家庭科の時間に白飯と味噌汁を作る調理実習を行った。味噌汁を作る際には煮干しを使い、だしをとる練習をした。また、鰹節や昆布等でもだしをとれることを学んだ。家庭では顆粒だしや粉末だしを使用している児童が多く、鰹節を削る経験は新鮮だったようだ。児童は、だしをしっかりとることで塩を多く入れる必要がなくなり、減塩につながる事が分かった。味噌汁の味噌については、参観日に親子で作った味噌を使用した。

1年生の保護者を対象に、給食試食会と塩分測定を行った。給食試食会は毎年行っているが、塩分測定は初めての試み。1年生の保護者、約50名ほぼ全員が参加した。普段、家庭で飲んでいる汁物を持参してもらい、塩分測定器を用いて塩分濃度を測った。その後、給食を試食し、薄味のよさを実感してもらった。塩分濃度が高い家庭もあり、「測定できてよかった」という声があった。日々忙しくしている保護者も多く、減塩への取組をおさなりにしがちであるため、定期的にこうしたきっかけづくりが必要であると考えている。



《鰹節を削っている様子》

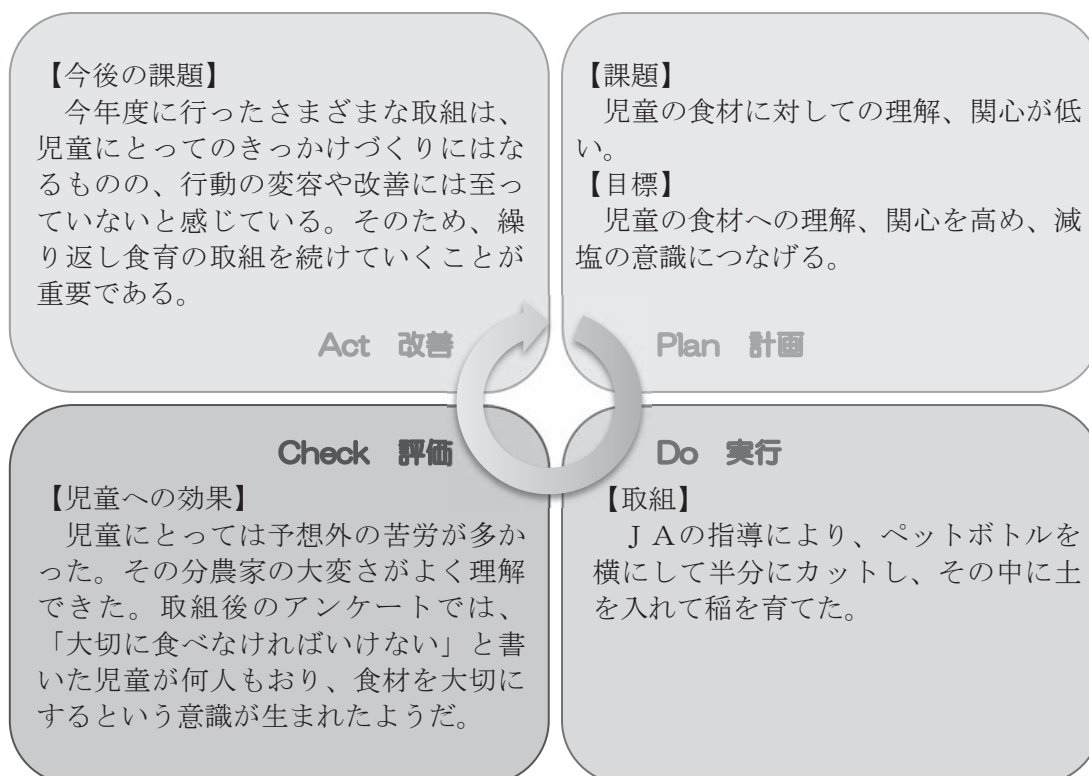
図表 2-35 琴芝小学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、琴芝小学校では、以下の取組を行っている。

- ペットボトルで稲を育てる体験



(11) 事例 11 山口県宇部市立船木小学校

実施校	テ　　マ	レッツ「へら塩」チャレンジ ～減塩でつながる地域の食維新～			
	所　在　地	〒757-0126 山口県宇部市大字船木 4483			
	学　校　給　食	単独調理方式			
	栄　養　教　諭	配置年	平成 24 年度	兼務状況	当該校のみに勤務
宇部市	人　　口	164,373 人、79,419 世帯 ※ 令和元年 10 月末日現在 住民基本台帳			
	学　校　数	小学校 24 校 中学校 12 校			
	地　域　概　要	<p>宇部市は、本州西端の山口県の南西部に位置し、西は山陽小野田市、東は山口市、北は美祢市に接し、南は瀬戸内海に面している。</p> <p>交通環境を見ると、鉄道は山陽本線及び宇部線が東西に走り、高速道路は山陽自動車道が市の中央部を横断し、海浜部には重要港湾である宇部港があり、山口宇部空港も市街地に近い位置にある等、陸海空それぞれの交通環境が整っている。</p> <p>気候は、温暖で、雨が比較的少ない典型的な瀬戸内海式気候で、市中央部以北の丘陵地には豊かな自然があふれ、さまざまな動植物が生息している。また、南は海に面していることから、山と海の幸にも恵まれている。</p> <p>今日の宇部市発展の礎は、明治期以降の石炭産業の振興により築かれ、その後、エネルギーの需要構造の転換にいち早く対応し、近代的な工業都市へと変ぼうを遂げ、現在も瀬戸内有数の臨海工業地帯を形成している。</p> <p>また、石炭を基盤に化学工業が発展していたことから、高等工業学校を誘致し、それを契機に、現在も本市は、多くの高等教育機関を有している。</p>			

① 実施校の概要

船木小校区は東西に長く延びていて、中央には幹線道路である国道 2 号線が走っている。昼夜を問わず、大型トラックが往来するほど交通量が多く交通安全には気を付けなければならない地域である。また、住宅地と田畑が混在する自然豊かな地域で、家庭や地域の方々のたくさんの理解と協力を得ながら充実した教育活動を展開している。しかし近年では児童数が減少傾向にあり、全校児童 141 名、学年 1 学級の小規模校となった。

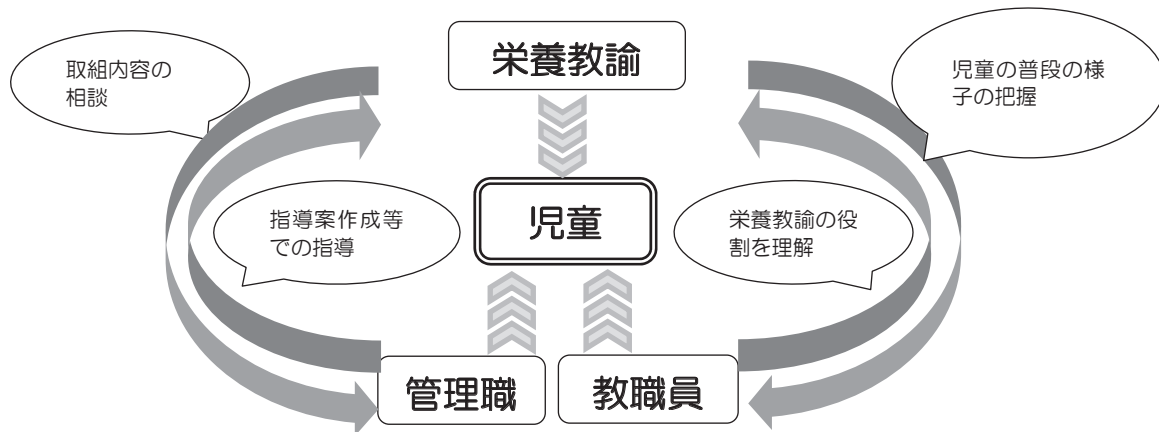
中学校区を中心に「地域を愛し、人を大切にする子供の育成」を楠地区 4 校（楠中学校、船木小学校、万倉小学校、吉部小学校）の共通テーマとして掲げ、9 年間を見通した小中連携校育を推進している。特に本校では「やる気・元気・本気 ふなき」を合言葉に、感動と感謝があふれる学校づくりに努めている。このように、コミュニティー・スクールの機能を活用しながらやまぐち型地域連携教育の推進を図り、地域とともにある開かれた学校の確立に努めている。

② モデル事業の実施体制

ア. 校内の連携

現在本校にいる栄養教諭は平成 31 年 4 月に共同調理場から船木小学校に赴任したばかりのため、養護教諭と連携し、保健室に来る児童（体調や食の面で課題を抱えている児童）の状況の把握に努めた。本校は以前から栄養教諭が在籍しており、教職員の間では栄養教諭の役割についての十分な理解があったため、児童の普段の様子を把握することができた。管理職を中心に他教諭との強い連携のもと、生活習慣病予防の指導案作成や、「健康チャレンジ」クイズの作成に、学校をあげて積極的に取り組んだ。

図表 2-36 校内の連携体制



イ. 外部との連携

外部との連携における連携機関や具体的な内容は下表のとおり。

図表 2-37 連携機関及び連携内容

分類	連携機関名	連携内容
大学等の高等教育機関	山口大学大学院医学系研究科	児童の尿検査及びデータの提供・助言
市町 関係部局	宇都市健康増進課	親子料理教室への支援、「こどもへら塩教室」の開催、各家庭への啓発活動
市町 関係部局	宇都市食生活改善推進協議会	学校保健安全委員会への協力、親子料理教室における調理指導・助言等
市町 関係部局	宇都市栄養教諭連絡協議会（ワーキンググループ）	へら塩レシピ、リーフレット作成、親子料理教室の企画・運営
市町 教育委員会	宇都市教育研究会栄養教諭部会	食育教材作成、食に関する指導の指導案検討
市町 教育委員会	下松市教育委員会	情報提供（平成 29 年度「つながる食育推進事業」受託市）
市町 教育委員会	周防大島町健康福祉部・教育委員会	先進事例紹介

③ 取組の詳細

ア. 重点的に取り組んでいる内容

6年生の保健の授業の一環で、生活習慣病の予防に関する授業を行った。栄養教諭の研究授業の形で公開授業をすることが予定されていた。そのため、まずはベテラン栄養教諭の授業を参観し、内容を協議した。その後、宇部市内の他校の栄養教諭との間で模擬授業を行いながら指導案を繰り返し検討し、入念な準備を行った。他校の栄養教諭が作成した血管の模型を利用し、授業の効果的な導入についてアドバイスをもらった。さらに、校内でも指導案の検討を行った。

当初、栄養教諭は血管の模型や死因のデータから授業を始めるつもりだったが、ベテラン栄養教諭の助言を受け、動画（男児が夜遅くまでゲームをしたり、カップラーメンやポテトチップスを食

べたりしている様子）から始めることとした。実際の授業では、児童にとっては自分の生活を振り返るきっかけとなり、集中して聞いている様子であった。

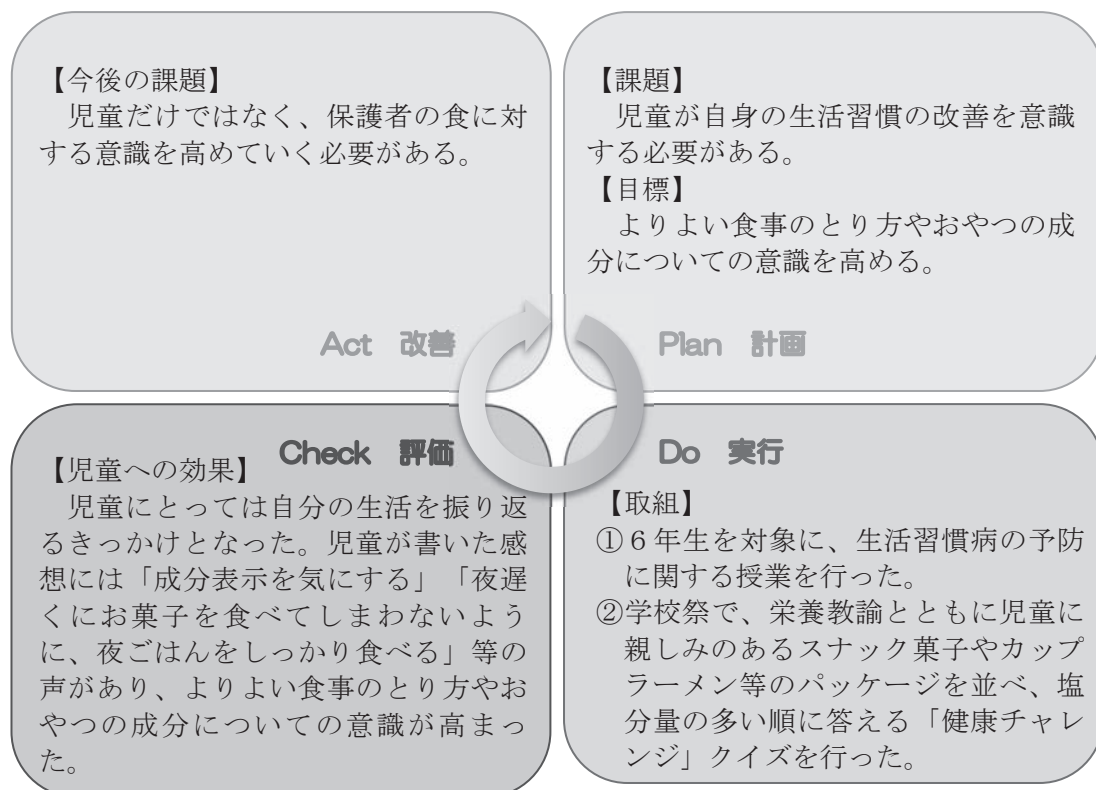
授業の中では、菓子に含まれる脂肪・食塩の量を成分表示から調べたり、砂糖・脂肪・食塩をとり過ぎない間食のとり方を考えたりした。児童が書いた感想には「成分表示を気にする」「夜遅くにお菓子を食べてしまわないように、夜ごはんをしっかり食べる」等の声があり、よりよい食事のとり方やおやつの成分についての意識が高まった。また、取組後、塩分の多い料理を控えるように心がけている児童の割合が増加した。

「船木っ子まつり」という学校祭（参観日）では、栄養教諭とともに、児童に親しみのあるスナック菓子やカップラーメン等のパッケージを並べ、塩分量の多い順に答える「健康チャレンジ」クイズを行った。保護者が来校する機会のため、減塩の取組を発信するために企画した。実際、多くの保護者が掲示を見ており、低学年では保護者も一緒に解答を考えていた。



《公開授業研究会の様子》

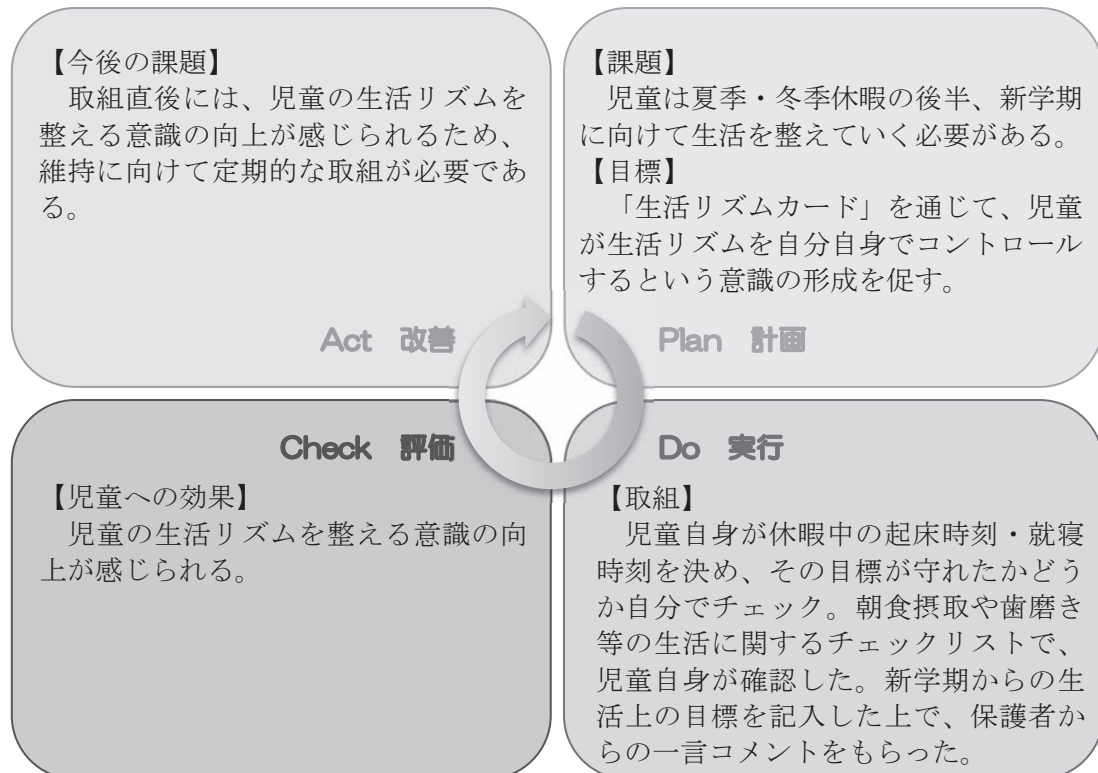
図表 2-38 船木小学校でのPDCAサイクル



イ. その他の取組

上記以外にも、船木小学校では、以下の取組を行っている。

- 「生活リズムカード」の実施



3. 事前・事後アンケート

3.1 調査設計

実施校（全 21 校）における食育推進の取組とその効果について、定量的、定性的に検証を行うとともに、実効性のある取組を全国に普及させるべき方策等の検討を行うため、実施校の児童生徒、保護者、教師を対象とする事前・事後アンケートを行った。

図表 3-1 事前・事後アンケートの調査設計

	事前・事後アンケート (児童生徒)	事前・事後アンケート (保護者)	事前・事後アンケート (教師)
調査対象	実施校（全 21 校）の児童生徒	実施校（全 21 校）の児童生徒の保護者	実施校（全 21 校）の教師
実施期間	事前：令和元年 6 月 事後：令和 2 年 1 月	事前：令和元年 6 月 事後：令和 2 年 1 月	事前：令和元年 6 月 事後：令和 2 年 1 月
調査方法	学校配布・学校回収	学校配布・学校回収	学校配布・学校回収
回収数	事前：7,309 人 事後：7,254 人	事前：6,633 人 事後：6,448 人	事前：604 人 事後：671 人

図表 3-2 事前・事後アンケートの調査項目

事前・事後アンケート (児童生徒)	事前・事後アンケート (保護者)	事前・事後アンケート (教師)
<ul style="list-style-type: none"> ● 食に関する意識 ● 伝統的な食文化・行食事に対する関心 ● 朝食の摂取 ● 共食の回数 ● 栄養バランスを考えた食事をとっている頻度 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供の食に関する意識 ● 子供の伝統的な食文化・行食事に対する関心 ● 子供の朝食の摂取 ● 子供の共食の回数 ● 子供の栄養バランスを考えた食事をとっている頻度 	<ul style="list-style-type: none"> ● 給食時間・教科・個別指導等の食に関する指導 ● 栄養・衛生面での給食管理 ● 食に関する指導や給食管理における連携・調整

3.2 結果の概要

(1) 学年別の特徴

① 食に関する意識

ア. 児童生徒

「食事の際に衛生的な行動をとるか」「食事マナーに気を付けているか」について、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、学年が上がるにつれて高くなっており、中学生では9割以上となっている。

一方、「伝統的な食文化や行事食についての関心」について、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、全体で6割、中学生では約5割と更に低くなっている。

イ. 保護者からみた児童生徒の様子

「食事の際に子供が衛生的な行動をとるか」「子供が食事マナーに気を付けているか」について、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、小学校・中学校のどの学年においても8割以上となっている。また、保護者からみた児童生徒の様子の結果を児童生徒の結果と比較すると、「食事の際に子供が衛生的な行動をとるか」では児童生徒の結果より高くなっているが、「子供が食事マナーに気を付けているか」では児童生徒の結果より低くなっている。

一方、「伝統的な食文化や行事食についての子供の関心」について、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、小学生では約7割、中学生では約6割となっており、児童生徒の結果より高くなっている。

② 食習慣について

ア. 児童生徒

「朝食を食べる頻度」は、小学校・中学校のどの学年においても約9割と高くなっている。

「一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度」「一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる頻度」について、「ほとんど毎日」の割合は、朝食・夕食ともに、学年が上がるにつれて低くなっている。特に、夕食よりも朝食のほうが一緒に生活する人と共食できている割合が低く、中学生では「一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度」は5割となっている。

また、「主食、主菜、副菜をそろえた食事が1日に2回以上ある頻度」については、学年による違いはほとんどみられず、どの学年においても約7割となっている。

イ. 保護者からみた児童生徒の様子

「子供が朝食を食べる頻度」は、児童生徒の結果と同様、小学校・中学校のどの学年においても約9割と高くなっている。

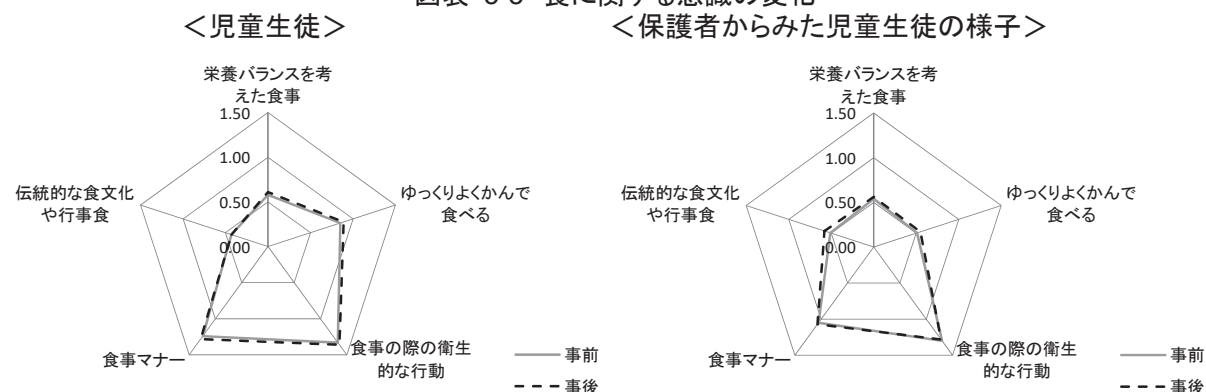
「子供が一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度」「子供が一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる頻度」について、「ほとんど毎日」の割合は、朝食・夕食ともに、小学生よりも中学生のほうが低くなっている。特に、夕食よりも朝食のほうが一緒に生活する人と共食できている割合が低く、中学生では「子供が一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度」は約6割となっている。また、保護者からみた児童生徒の結果を児童生徒の結果と比較すると、小学校低学年を除き、児童生徒の結果より高くなっている。

また、「主食、主菜、副菜をそろえた子供の食事が1日に2回以上ある頻度」については、学年による違いはほとんどみられず、どの学年においても約6割となっており、児童生徒の結果より低くなっている。

(2) 食に関する意識について

事前・事後アンケートの結果から、食に関する意識の変化については、児童生徒・保護者ともに、概ね大きな変化はみられなかった。なお、図表 3-3 は事前・事後アンケートの食に関する意識の5項目について、「はい」を2点、「どちらかといえばはい」を1点、「どちらかといえはいえ」を-1点、「いいえ」を-2点として、それぞれ平均値を算出した。

図表 3-3 食に関する意識の変化

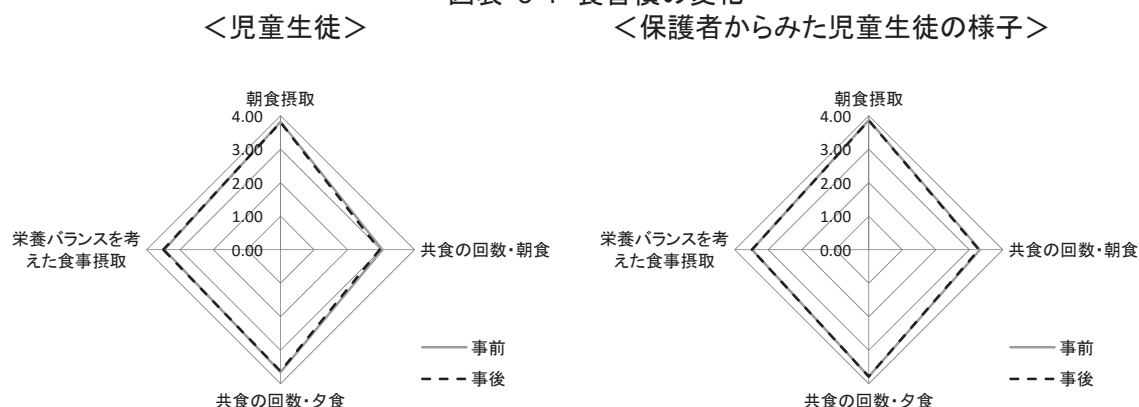


	児童生徒					保護者				
	栄養バランスを考えた食事	ゆっくりよくかんで食べる	食事の際の衛生的な行動	食事マナー	伝統的な食文化や行事食	栄養バランスを考えた食事	ゆっくりよくかんで食べる	食事の際の衛生的な行動	食事マナー	伝統的な食文化や行事食
事前	0.58	0.85	1.33	1.24	0.43	0.54	0.51	1.30	1.05	0.51
事後	0.61	0.89	1.36	1.28	0.43	0.56	0.55	1.28	1.07	0.58

(3) 食習慣の変化について

事前・事後アンケートの結果から、食習慣の変化については、児童生徒・保護者ともに、概ね大きな変化はみられなかった。なお、図表 3-4 では事前・事後アンケートの食習慣の4項目について、「ほとんど毎日」を4点、「週に4～5日」を3点、「週に2～3日」を2点、「週に1日程度」を1点、「ほとんどない」を0点として、それぞれ平均値を算出した。

図表 3-4 食習慣の変化



	児童生徒				保護者			
	朝食摂取	共食の回数・朝食	共食の回数・夕食	栄養バランスを考えた食事摂取	朝食摂取	共食の回数・朝食	共食の回数・夕食	栄養バランスを考えた食事摂取
事前	3.82	3.04	3.66	3.47	3.87	3.32	3.79	3.48
事後	3.80	2.96	3.63	3.50	3.86	3.29	3.79	3.49

(4) 教師アンケートについて

① 食に関する指導

「給食の時間における食に関する指導」について、最も「できている」項目は、「手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できているか」（事前アンケート4割強、事後アンケート約5割）である。

「教科等における食に関する指導」について、最も「できている」項目は、「栄養教諭が計画どおりに授業参画できているか」（事前アンケート3割強、事後アンケート約5割）である。

「個別的な相談指導」について、最も「できている」項目は、「食物アレルギーを持つ児童生徒に適切な指導ができているか」（事前アンケート6割弱、事後アンケート6割強）である。

② 給食管理

「栄養管理」について、いずれの項目も、「できている」が、事前アンケートでは半数以下となっているが、事後アンケートでは約5割になっている。

「衛生管理」について、いずれの項目も、「できている」が、事前アンケートでは半数以下となっているが、事後アンケートでは半数以上となっている。

③ 連携・調整

「食に関する指導」について、最も「できている」項目は、「栄養教諭は養護教諭、学級担任等と連携して指導ができているか」（事前アンケートでは4割弱、事後アンケートでは5割）である。

「給食管理」について、いずれの項目も、「できている」が、事前アンケートでは半数以下となっているが、事後アンケートでは半数以上となっている。

3.3 結果詳細

(1) 児童生徒アンケートの事前・事後での比較

① 回答者の属性

本アンケートの調査対象者は、全実施校の小学生及び中学生である。三重県立松阪あゆみ特別支援学校では高校生、三重県立鷺学校では幼稚園生及び高校生も在籍しているが、本アンケートでは小学生及び中学生のみを集計対象としている。

図表 3-5 回答者の属性(単一回答)／学校種別

(%)

	小学生	中学生
TOTAL (n=14563)	64.6	35.4
事前 (n=7309)	64.5	35.5
事後 (n=7254)	64.8	35.2

図表 3-6 回答者の属性(単一回答)／学年別

(%)

	小学 1年	小学 2年	小学 3年	小学 4年	小学 5年	小学 6年	中学 1年	中学 2年	中学 3年
TOTAL (n=14563)	9.4	10.6	11.0	11.7	10.8	11.1	12.1	11.5	11.7
事前 (n=7309)	9.5	10.6	11.0	11.7	10.6	11.0	12.3	11.5	11.8
事後 (n=7254)	9.3	10.5	11.0	11.8	11.0	11.2	12.0	11.5	11.7

なお、アンケートは無記名で実施されているため、児童生徒一人ひとりの事前アンケート結果と事後アンケート結果を比較することができない。そのため、本調査研究では、モデル事業の取組を通じて一人ひとりの食に関する意識や食習慣の変化の把握・分析は行っていない。

② 食に関する意識

● 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとるか

一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとるかについて、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 68.9%、事後アンケートでは 70.2%となっており、事後アンケートのほうが、1.3 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学校低学年から中学年にかけて高くなり、小学校高学年から中学生にかけて低くなっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、特に小学校中学年では 4.1 ポイント増えている。

図表 3-7 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとるか(単一回答)／学年別

(%)

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答	
TOTAL (n=14563)		30.0	39.6	20.1	10.0	0.3	
事前 合計 (n=7309)		30.1	38.8	20.5	10.3	0.2	
事後 合計 (n=7254)		29.9	40.3	19.8	9.8	0.3	
低学年	事前 (n=1471)	29.8	34.5	19.4	15.6	0.7	
	事後 (n=1436)	29.6	36.0	20.1	13.9	0.4	
小学校 中学年	事前 (n=1660)	35.8	36.6	18.0	9.5	0.2	
	事後 (n=1653)	37.1	39.4	15.5	7.6	0.4	
高学年	事前 (n=1581)	31.4	43.3	19.2	6.1	0.1	
	事後 (n=1611)	30.2	43.6	19.2	6.9	0.1	
中学校 全学年	事前 (n=2597)	25.9	40.0	23.5	10.4	0.1	
	事後 (n=2554)	25.2	41.2	22.7	10.7	0.2	

● ゆっくりよくかんで食べるか

ゆっくりよくかんで食べるかについて、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 76.3%、事後アンケートでは 77.3%となっており、事後アンケートのほうが 1.0 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、大きな差はなく、約 8 割となっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、特に小学校中学年では 2.7 ポイント増えている。

図表 3-8 ゆっくりよくかんで食べるか(単一回答)／学年別

(%)

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答	
TOTAL (n=14563)		38.4	38.3	17.5	5.4	0.3	
事前 合計 (n=7309)		37.9	38.4	17.8	5.7	0.3	
事後 合計 (n=7254)		39.0	38.3	17.2	5.2	0.3	
低学年	事前 (n=1471)	46.4	31.5	16.2	5.5	0.4	
	事後 (n=1436)	46.4	31.4	15.0	6.7	0.6	
小学校 中学年	事前 (n=1660)	45.8	31.0	15.2	7.6	0.4	
	事後 (n=1653)	45.6	33.9	14.8	5.1	0.6	
高学年	事前 (n=1581)	36.3	41.6	16.8	5.1	0.3	
	事後 (n=1611)	37.6	38.9	18.1	5.4	0.1	
中学校 全学年	事前 (n=2597)	29.0	45.1	20.9	4.9	0.1	
	事後 (n=2554)	31.4	44.6	19.4	4.3	0.2	

● 食事の際に衛生的な行動をとるか

食事の際に衛生的な行動をとるかについて、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 89.3%、事後アンケートでは 90.0%となっており、事後アンケートのほうが 0.7 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学校中学年以降では学年が上がるにつれて高くなっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、中学生では 2.6 ポイント増えている。

図表 3-9 食事の際に衛生的な行動をとるか(単一回答)／学年別

						(%)
		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答
TOTAL (n=14563)		57.3		32.4	7.6	2.5 0.3
事前 合計 (n=7309)		56.8		32.5	8.0	2.5 0.2
事後 合計 (n=7254)		57.8		32.2	7.1	2.5 0.4
低学年	事前 (n=1471)	54.2		32.6	9.4	3.5 0.3
	事後 (n=1436)	50.3		34.2	9.7	5.2 0.6
小学校 中学年	事前 (n=1660)	55.4		29.8	10.4	4.1 0.2
	事後 (n=1653)	54.0		32.1	9.9	3.6 0.5
高学年	事前 (n=1581)	57.9		32.8	7.7	1.5 0.2
	事後 (n=1611)	59.1		32.0	7.3	1.4 0.2
中学校 全学年	事前 (n=2597)	58.5		33.9	5.8	1.7 0.1
	事後 (n=2554)	63.6		31.4	3.8	0.9 0.3

● 食事マナーに気をつけているか

食事マナーに気をつけているかについて、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 87.3%、事後アンケート 88.4%となっており、事後アンケートのほうが 1.1 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、学年が上がるにつれて高くなっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、小学校高学年では 1.8 ポイント、中学生では 1.7 ポイント増えている。

図表 3-10 食事マナーに気をつけているか(単一回答)／学年別

(%)

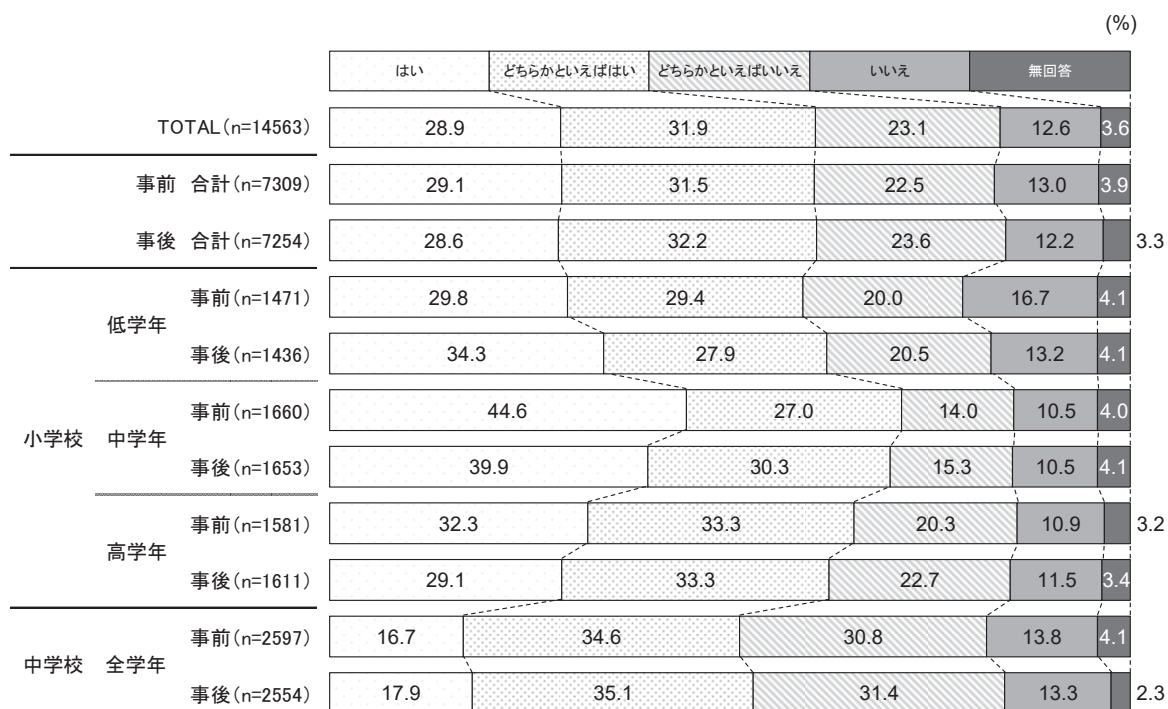
		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答	
TOTAL (n=14563)		52.3		35.5	9.4		2.6 0.2
事前 合計 (n=7309)		51.7		35.6	9.8		2.8 0.2
事後 合計 (n=7254)		53.0		35.4	9.0		2.4 0.2
低学年	事前 (n=1471)	42.7		37.5	15.2	4.2	0.3
	事後 (n=1436)	39.9		39.1	15.3	5.4	0.2
小学校 中学年	事前 (n=1660)	51.4		33.1	11.7	3.7	0.1
	事後 (n=1653)	51.6		34.2	10.8		2.9 0.4
高学年	事前 (n=1581)	50.7		38.0	9.1		2.0 0.3
	事後 (n=1611)	54.6		35.9	8.2		1.3 0.1
中学校 全学年	事前 (n=2597)	57.6		34.6	5.9		1.8 0.0
	事後 (n=2554)	60.2		33.7	4.8		1.0 0.2

● 伝統的な食文化や行事食についての関心

伝統的な食文化や行事食についての関心について、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 60.6%、事後アンケートでは 60.8%となっており、事後アンケートのほうが 0.2 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学校低学年から中学年にかけて高くなり、小学校中学年から高学年、中学生にかけて低くなっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、小学校低学年では 3.0 ポイント増えているが、小学校高学年では 3.2 ポイント減っている。

図表 3-11 伝統的な食文化や行事食についての関心(単一回答)／学年別



③ 食習慣について

● 朝食を食べる頻度

朝食を食べる頻度について、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケートでは 89.0%、事後アンケートでは 88.5% となっており、事後アンケートのほうが 0.5 ポイント減っている。

学年別でみると、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学校低学年では 9 割強、小学校中学年以上では 9 割以下となっている。

図表 3-12 朝食を食べる頻度(単一回答)／学年別

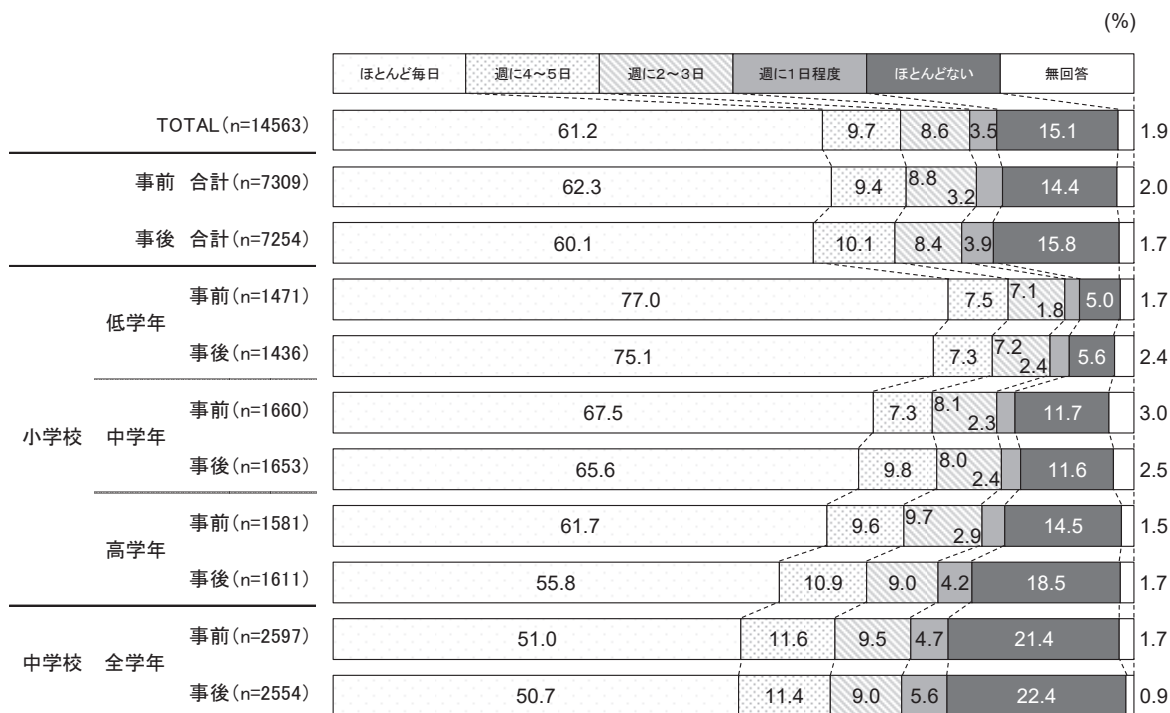


● 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度

一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度について、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケートでは 62.3%、事後アンケートでは 60.1%となっており、事後アンケートのほうが 2.2 ポイント減っている。

学年別でみると、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも、学年が上がるにつれて低くなっている。

図表 3-13 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度(単一回答)／学年別

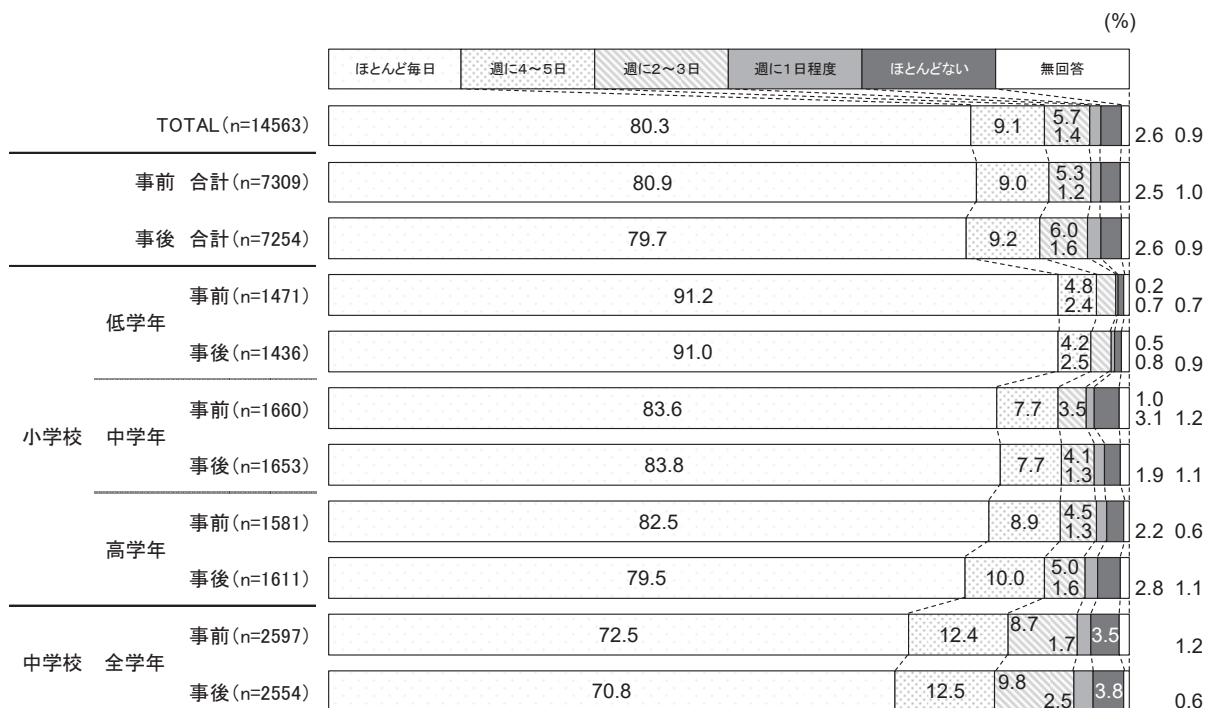


● 一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる頻度

一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる頻度については、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケートでは 80.9%、事後アンケートでは 79.7%となっており、事後アンケートのほうが 1.2 ポイント減っている。

学年別でみると、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学校低学年が約 9 割と高いが、学年が上がるにつれて低くなっている。

図表 3-14 一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる頻度(単一回答)／学年別



● 主食、主菜、副菜をそろえた食事が1日に2回以上ある頻度

主食、主菜、副菜をそろえた食事が1日に2回以上ある頻度について、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケートでは66.1%、事後アンケートでは67.1%となっており、事後アンケートのほうが1.0ポイント増えている。

学年別でみると、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも、大きな差はなく、約7割となっている。「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートを比較すると、特に小学校中学年では2.4ポイント増えている。

図表 3-15 主食、主菜、副菜をそろえた食事が1日に2回以上ある頻度(単一回答)／学年別



(2) 保護者アンケート

① 回答者の属性

本アンケートの調査対象者は、全実施校の小学生及び中学生の保護者であり、実施校に複数の子供（兄弟姉妹）が通っている場合も、基本的にはそれぞれの子供について回答する形となっている。三重県立松阪あゆみ特別支援学校では高校生、三重県立豊学校では幼稚園生及び高校生も在籍しているが、本アンケートでは小学生及び中学生の保護者のみを集計対象としている。

図表 3-16 回答者の属性(単一回答)／子供の学校種別

(%)

	小学生	中学生
TOTAL (n=13081)	66.0	34.0
事前 (n=6633)	65.0	35.0
事後 (n=6448)	67.0	33.0

図表 3-17 回答者の属性(単一回答)／子供の学年別

(%)

	小学 1年	小学 2年	小学 3年	小学 4年	小学 5年	小学 6年	中学 1年	中学 2年	中学 3年
TOTAL (n=13081)	10.3	11.5	11.0	11.5	10.4	11.2	12.0	11.2	10.8
事前 (n=6633)	10.3	11.4	10.7	11.5	10.3	11.0	12.6	11.4	11.0
事後 (n=6448)	10.4	11.5	11.4	11.6	10.6	11.5	11.3	11.1	10.6

なお、アンケートは無記名で実施されているため、保護者一人ひとりの事前アンケート結果と事後アンケート結果を比較することができない。そのため、本調査研究では、モデル事業の取組を通じて一人ひとりの食に関する意識や食習慣の変化の把握・分析は行っていない。

② 子供の食に関する意識

● 子供が一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとるか

子供が一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとるかについて、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 70.4%、事後アンケートでは 71.2% となっており、事後アンケートのほうが 0.8 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、大きな差はなく、7 割以下となっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、特に中学生では 1.7 ポイント増えている。

図表 3-18 子供が一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとるか
(単一回答)／学年別

						(%)
		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答
TOTAL (n=13081)		20.0	50.8	22.2	6.8	0.2
事前 合計 (n=6633)		20.1	50.3	22.1	7.3	0.2
事後 合計 (n=6448)		19.9	51.3	22.3	6.2	0.2
低学年	事前 (n=1437)	22.2	50.9	20.1	6.8	0.0
	事後 (n=1413)	21.1	52.4	20.5	5.7	0.4
小学校 中学年	事前 (n=1468)	20.4	51.0	21.7	6.9	0.1
	事後 (n=1481)	19.2	52.9	22.6	5.3	0.1
高学年	事前 (n=1408)	21.1	50.6	21.4	6.7	0.1
	事後 (n=1424)	20.1	51.1	22.5	6.0	0.3
中学校 全学年	事前 (n=2320)	18.0	49.4	23.9	8.1	0.6
	事後 (n=2130)	19.5	49.6	23.3	7.3	0.2

● 子供がゆっくりよくかんで食べるか

子供がゆっくりよくかんで食べるかについて、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 68.1%、事後アンケート 69.4%となっており、事後アンケートのほうが 1.3 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学校低学年では7割以上、小学校中学年以上では7割以下となっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、特に小学校中学年では2.1 ポイント増えている。

図表 3-19 子供がゆっくりよくかんで食べるか(単一回答)／学年別

(%)

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答	
TOTAL (n=13081)		19.0	49.7	27.2	3.9	0.2	
事前 合計 (n=6633)		18.9	49.2	27.5	4.2	0.2	
事後 合計 (n=6448)		19.1	50.3	26.9	3.6	0.2	
低学年	事前 (n=1437)	21.7	49.1	25.3	3.9	0.0	
	事後 (n=1413)	20.9	50.5	24.8	3.7	0.1	
小学校 中学年	事前 (n=1468)	18.1	47.9	29.4	4.6	0.1	
	事後 (n=1481)	17.7	50.4	28.2	3.6	0.1	
高学年	事前 (n=1408)	16.6	50.9	27.8	4.5	0.1	
	事後 (n=1424)	17.3	51.2	28.1	3.2	0.2	
中学校 全学年	事前 (n=2320)	19.2	49.0	27.5	4.0	0.3	
	事後 (n=2130)	20.1	49.4	26.5	3.7	0.3	

● 食事の際に子供が衛生的な行動をとるか

食事の際に子供が衛生的な行動をとるかについて、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも 91.3%となっている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、大きな差はなく、9割以上となっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、大きな差はみられない。

図表 3-20 食事の際に子供が衛生的な行動をとるか(単一回答)／学年別

(%)

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答	
TOTAL (n=13081)		46.9			44.4	7.6	0.9 0.2
事前 合計 (n=6633)		47.5			43.8	7.7	0.8 0.2
事後 合計 (n=6448)		46.2			45.1	7.5	1.0 0.2
小学校	低学年 事前 (n=1437)	54.0			38.6	6.6	0.8 0.0
	事後 (n=1413)	49.9			42.2	6.5	1.3 0.1
	中学年 事前 (n=1468)	49.0			42.9	7.4	0.7 0.0
	事後 (n=1481)	46.8			44.7	7.7	0.6 0.2
	高学年 事前 (n=1408)	46.9			44.2	8.1	0.6 0.1
	事後 (n=1424)	45.6			46.0	7.4	0.7 0.2
中学校	全学年 事前 (n=2320)	42.9			47.3	8.4	1.1 0.3
	事後 (n=2130)	43.7			46.8	8.0	1.2 0.3

● 子供が食事マナーに気をつけているか

子供が食事マナーに気をつけているかについて、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 85.3%、事後アンケートでは 86.3%となっており、事後アンケートのほうが 1.0 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、大きな差はなく、約 9 割となっている。「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートと事後アンケートを比較すると、中学生では 1.7 ポイント、小学校高学年では 1.5 ポイント増えている。

図表 3-21 子供が食事マナーに気をつけているか(単一回答)／学年別

(%)

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答	
TOTAL (n=13081)		35.5	50.3	12.8	1.3	0.2	
事前 合計 (n=6633)		35.5	49.8	13.1	1.4	0.2	
事後 合計 (n=6448)		35.5	50.8	12.4	1.2	0.2	
低学年	事前 (n=1437)	42.2	44.1	12.2	1.5	0.0	
	事後 (n=1413)	37.2	48.8	12.4	1.4	0.2	
小学校 中学年	事前 (n=1468)	34.8	52.2	11.5	1.4	0.0	
	事後 (n=1481)	37.2	50.3	10.9	1.4	0.2	
高学年	事前 (n=1408)	34.8	50.1	13.8	1.1	0.2	
	事後 (n=1424)	34.1	52.3	12.7	0.8	0.1	
中学校 全学年	事前 (n=2320)	32.2	51.6	14.4	1.5	0.3	
	事後 (n=2130)	34.1	51.4	13.2	1.2	0.1	

● 伝統的な食文化や行事食についての子供の関心

伝統的な食文化や行事食についての子供の関心について、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケートでは 65.5%、事後アンケートでは 67.5%となっており、事後アンケートのほうが 2.0 ポイント増えている。

学年別でみると、「はい」と「どちらかといえばはい」の合計は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学生では約 7 割、中学生では 6 割強となっている。事前アンケートと事後アンケートを比較すると、中学生では 2.6 ポイント、小学校高学年では 2.5 ポイント増えている。

図表 3-22 伝統的な食文化や行事食についての子供の関心(単一回答)／学年別

(%)

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	無回答	
TOTAL (n=13081)		21.5	45.0	25.3	5.2		3.2
事前 合計 (n=6633)		20.8	44.7	26.1	5.5		3.0
事後 合計 (n=6448)		22.2	45.3	24.4	4.8		3.3
低学年	事前 (n=1437)	24.2	43.5	22.9	7.0		2.4
	事後 (n=1413)	24.3	44.7	23.1	5.9		2.0
小学校 中学年	事前 (n=1468)	21.8	47.3	24.3	4.3		2.4
	事後 (n=1481)	24.0	46.2	22.3	4.7		2.8
高学年	事前 (n=1408)	21.5	44.7	26.7	4.8		2.3
	事後 (n=1424)	23.6	45.1	24.9	4.3		2.1
中学校 全学年	事前 (n=2320)	17.5	43.7	28.9	5.6	4.3	
	事後 (n=2130)	18.7	45.1	26.3	4.6	5.3	

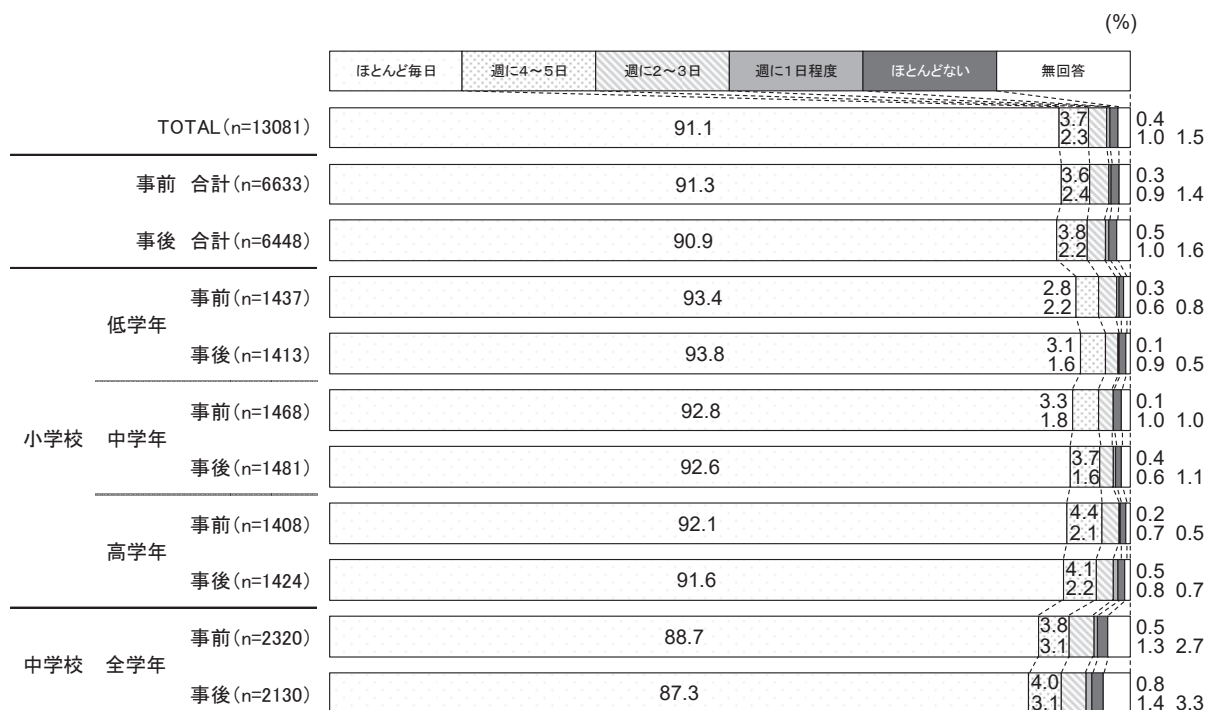
③ 子供の食習慣について

● 子供が朝食を食べる頻度

子供が朝食を食べる頻度について、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケートでは 91.3%、事後アンケートでは 90.9%となっており、事後アンケートのほうが 0.4 ポイント減っている。

学年別でみると、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも、学年が上がるにつれて低くなっている。

図表 3-23 子供が朝食を食べる頻度(単一回答)／学年別



● 子供と一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度

子供と一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度について、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケートでは 69.8%、事後アンケートでは 68.7%となっており、事後アンケートのほうが 1.1 ポイント減っている。

学年別でみると、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学生では約 7 割、中学生では約 6 割となっている。

図表 3-24 子供と一緒に生活する人と一緒に朝食を食べる頻度(単一回答)／学年別

(%)

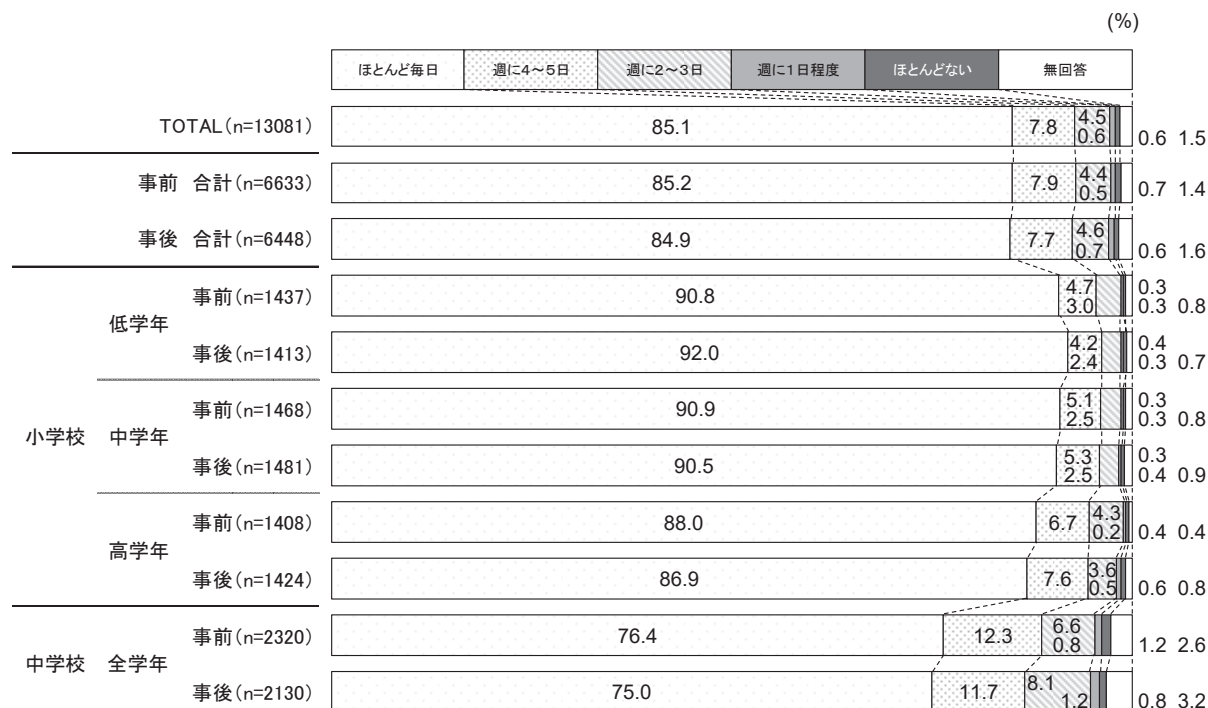
		ほとんど毎日	週に4～5日	週に2～3日	週に1日程度	ほとんどない	無回答	
TOTAL (n=13081)		69.3	8.7	9.7	2.8	8.0	1.6	
事前 合計 (n=6633)		69.8	8.8	9.5	2.4	8.1	1.5	
事後 合計 (n=6448)		68.7	8.5	10.0	3.2	7.9	1.8	
低学年	事前 (n=1437)	74.3	9.0	9.5	1.7	4.7	0.8	
	事後 (n=1413)	74.7	6.7	11.0	2.0	4.8	0.8	
小学校 中学年	事前 (n=1468)	74.4	8.2	7.8	2.2	6.3	1.1	
	事後 (n=1481)	73.7	8.4	9.0	2.0	5.9	1.0	
高学年	事前 (n=1408)	71.7	8.3	9.8	2.6	7.3	0.3	
	事後 (n=1424)	69.7	8.8	10.0	3.3	7.1	1.1	
中学校 全学年	事前 (n=2320)	62.9	9.4	10.3	2.7	11.7	3.0	
	事後 (n=2130)	60.6	9.6	10.0	4.6	11.8	3.4	

● 子供と一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる頻度

子供と一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる頻度について、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケートでは 85.2%、事後アンケートでは 84.9%となっており、事後アンケートのほうが 0.3 ポイント減っている。

学年別でみると、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも、小学生では約 9 割、中学生では 7 割台半ばとなっている。「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートを比較すると小学校低学年では 1.2 ポイント増えているものの、その他の学年では減っており、特に中学生では 1.4 ポイント減っている。

図表 3-25 子供と一緒に生活する人と一緒に夕食を食べる頻度(単一回答)／学年別



● 主食、主菜、副菜をそろえた子供の食事が1日に2回以上ある頻度

主食、主菜、副菜をそろえた子供の食事が1日に2回以上ある頻度について、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも63.2%となっている。

学年別でみると、「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートとも、大きな差はなく、約6割となっている。「ほとんど毎日」の割合は、事前アンケート・事後アンケートを比較すると「ほとんど毎日」の割合が小学校低学年では2.3ポイント増えているものの、その他の学年では減っており、特に中学生では1.1ポイント減っている。

図表 3-26 主食、主菜、副菜をそろえた子供の食事が1日に2回以上ある頻度(単一回答)／学年別

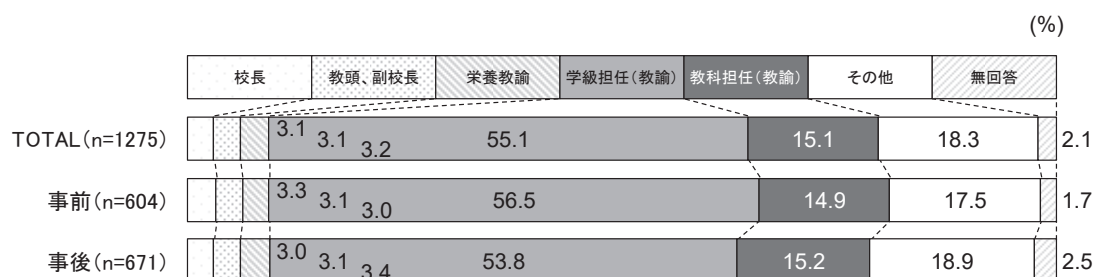


(3) 教師アンケート

① 回答者の属性

本アンケートの調査対象者は、全実施校の教師である。

図表 3-27 教師の職位(単一回答)



なお、アンケートは無記名で実施されているため、教師一人ひとりの事前アンケート結果と事後アンケート結果を比較することができない。そのため、本調査研究では、モデル事業の取組を通じて一人ひとりの食に関する指導や給食管理、連携・調整の変化の把握・分析は行っていない。

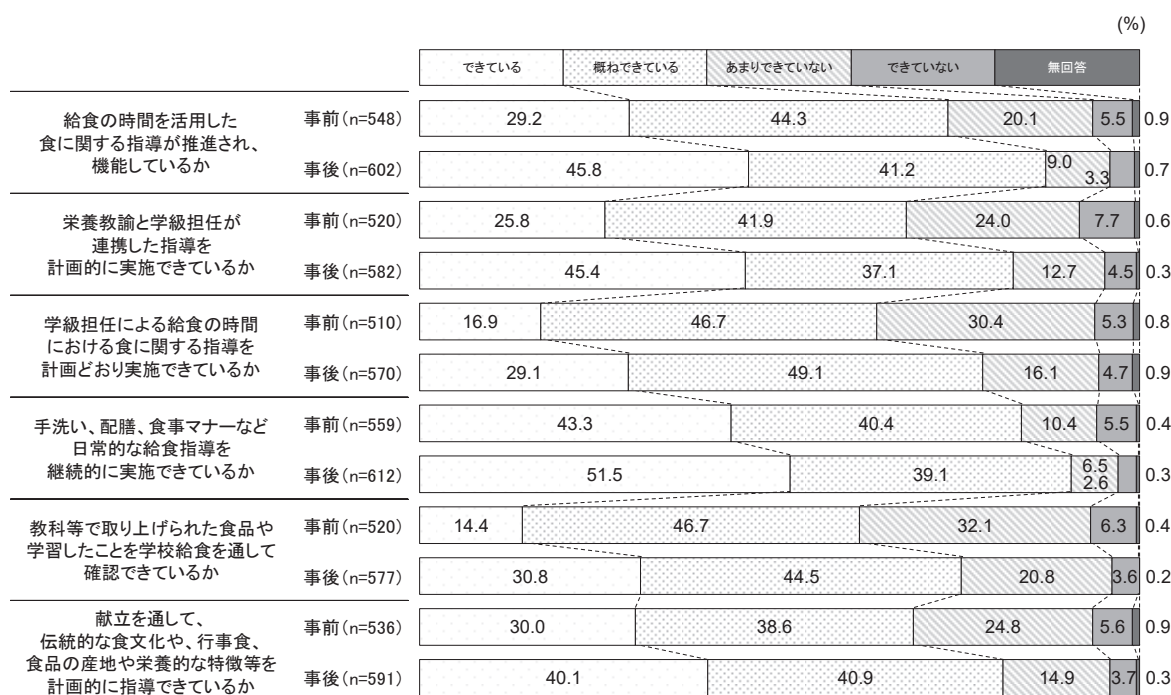
② 食に関する指導

● 給食の時間における食に関する指導

事前アンケート・事後アンケートとも、最も「できている」項目は、「手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できているか」（事前アンケート 43.3%、事後アンケート 51.5%）である。

事前アンケートと事後アンケートを比較すると、いずれの項目も「できている」割合が増えており、特に「栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できているか」が、19.6 ポイント、次いで「給食の時間を活用した食に関する指導が推進され、機能しているか」が 16.6 ポイント、「教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できているか」が 16.4 ポイント増えている。

図表 3-28 給食の時間における食に関する指導(単一回答)

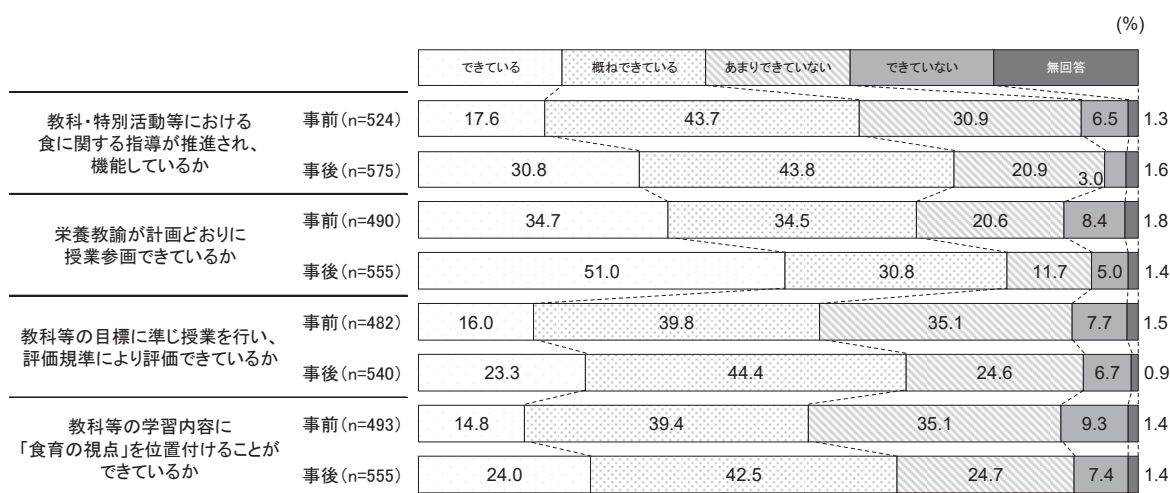


● 教科等における食に関する指導

事前アンケート・事後アンケートとも、最も「できている」項目は、「栄養教諭が計画どおりに授業参画できているか」（事前アンケート 34.7%、事後アンケート 51.0%）である。

事前アンケートと事後アンケートを比較すると、いずれの項目も「できている」割合が増えており、特に「栄養教諭が計画どおりに授業参画できているか」が 16.3 ポイント、次いで「教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか」が 13.2 ポイント増えている。

図表 3-29 教科等における食に関する指導(単一回答)

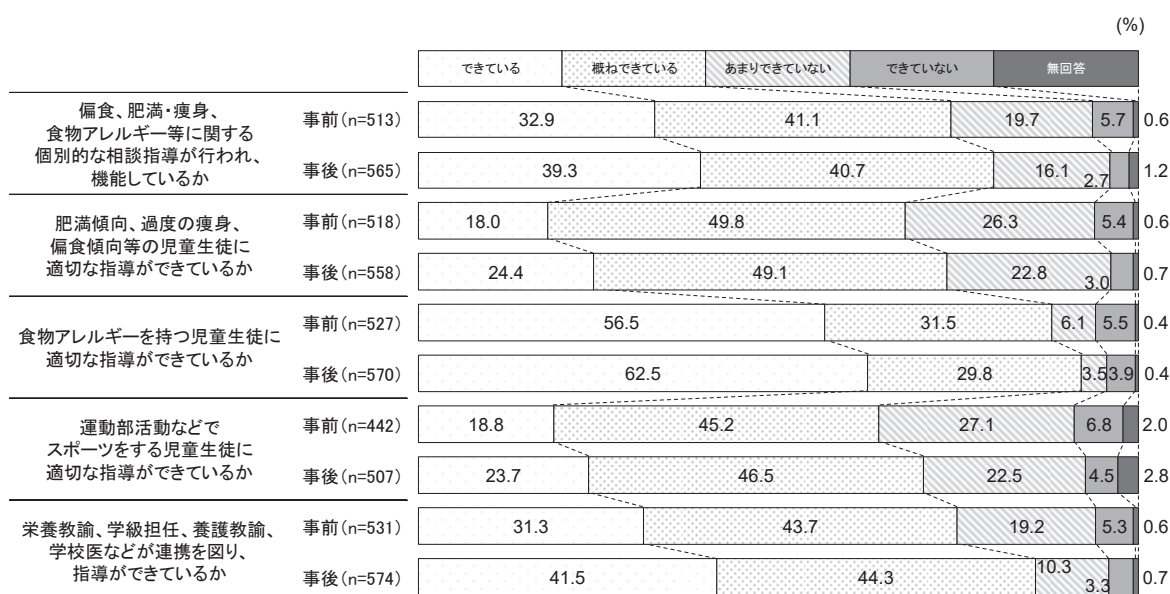


● 個別的な相談指導

事前アンケート・事後アンケートとも、最も「できている」項目は、「食物アレルギーを持つ児童生徒に適切な指導ができていないか」（事前アンケート 56.5%、事後アンケート 62.5%）である。

事前アンケートと事後アンケートを比較すると、いずれの項目も「できている」割合が増えており、特に「栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医などが連携を図り、指導ができていないか」が 10.2 ポイント増えている。

図表 3-30 個別的な相談指導(単一回答)



③ 給食管理

● 栄養管理

いずれの項目も、「できている」が、事前アンケートでは半数以下となっているが、事後アンケートでは約5割となっている。

事前アンケートと事後アンケートを比較すると、いずれの項目も「できている」割合が増えており、特に「食事状況調査、嗜好調査、残食量調査等が実施できているか」が 9.0 ポイント増えている。

図表 3-31 栄養管理(単一回答)

(%)

		できている	概ねできている	あまりできていない	できていない	無回答
「学校給食実施基準」を踏まえた給食が提供されているか	事前 (n=214)	50.0	27.6	8.4	6.1	7.9
	事後 (n=211)	53.6	21.3	4.3	4.3	16.6
「学校給食摂取基準」を踏まえた、栄養管理及び栄養指導ができているか	事前 (n=211)	46.0	29.9	9.0	6.6	8.5
	事後 (n=205)	50.2	24.9	3.4	4.9	16.6
「学校給食摂取基準」及び食品構成等に配慮した献立の作成、献立会議への参画・運営ができているか	事前 (n=188)	44.1	29.8	8.0	8.5	9.6
	事後 (n=205)	49.3	24.9	4.4	4.9	16.6
食事状況調査、嗜好調査、残食量調査等が実施できているか	事前 (n=233)	39.9	33.9	10.3	8.2	7.7
	事後 (n=229)	48.9	30.1	3.1	4.4	13.5

● 衛生管理

いずれの項目も、「できている」が、事前アンケートでは半数以下となっているが、事後アンケートでは半数以上となっている。

事前アンケートと事後アンケートを比較すると、いずれの項目も「できている」割合が増えており、特に「調理過程から配膳までの手順や衛生管理を徹底し異物混入を予防できているか」が 10.3 ポイント、次いで「『学校給食衛生管理基準』を踏まえた衛生管理がなされているか」が 8.1 ポイント、「施設・設備の維持管理を適切に行うことができているか」が 7.8 ポイント増えている。

図表 3-32 衛生管理(単一回答)

(%)

		できている	概ねできている	あまりできていない	できていない	無回答
「学校給食衛生管理基準」を踏まえた衛生管理がなされているか	事前 (n=254)	42.5	33.9	6.3	7.5	9.8
	事後 (n=233)	50.6	26.2	3.4	4.3	15.5
衛生管理を徹底し、食中毒の予防に取り組んでいるか	事前 (n=323)	47.7	34.4	4.3	7.1	6.5
	事後 (n=288)	53.1	28.5	3.5	5.8	11.1
調理過程から配膳までの手順や衛生管理を徹底し異物混入を予防できているか	事前 (n=271)	39.9	40.6	5.5	7.4	6.6
	事後 (n=249)	50.2	29.7	2.8	4.8	12.4
国や学校等の対応方針に基づき、適切な食物アレルギー対応ができているか	事前 (n=294)	54.8	27.2	3.4	8.2	6.5
	事後 (n=275)	58.9	22.9	1.5	5.1	11.6
検食を適切に実施し、記録を残しているか	事前 (n=204)	56.4	19.1	4.4	8.8	11.3
	事後 (n=206)	59.7	16.0	1.5	3.9	18.9
保存食を適切に採取・保存し、記録を残しているか	事前 (n=180)	52.2	19.4	7.2	7.8	13.3
	事後 (n=186)	54.3	15.1	3.2	3.2	24.2
調理及び配食に関する指導は適切に行うことができているか	事前 (n=234)	46.2	32.9	4.7	6.4	9.8
	事後 (n=219)	51.1	23.7	4.6	2.7	17.8
物資選定委員会等への出席や食品購入に関する事務を適切に行うことができているか	事前 (n=165)	44.2	23.6	8.5	7.9	15.8
	事後 (n=171)	49.1	18.1	2.9	4.1	25.7
産地別使用量の記録や諸帳簿の記入、作成を適切に行うことができているか	事前 (n=161)	44.1	24.2	7.5	8.7	15.5
	事後 (n=174)	49.4	19.0	2.9	3.4	25.3
施設・設備の維持管理を適切に行うことができているか	事前 (n=193)	40.9	34.7	5.2	6.7	12.4
	事後 (n=187)	48.7	21.9	3.7	3.2	22.5

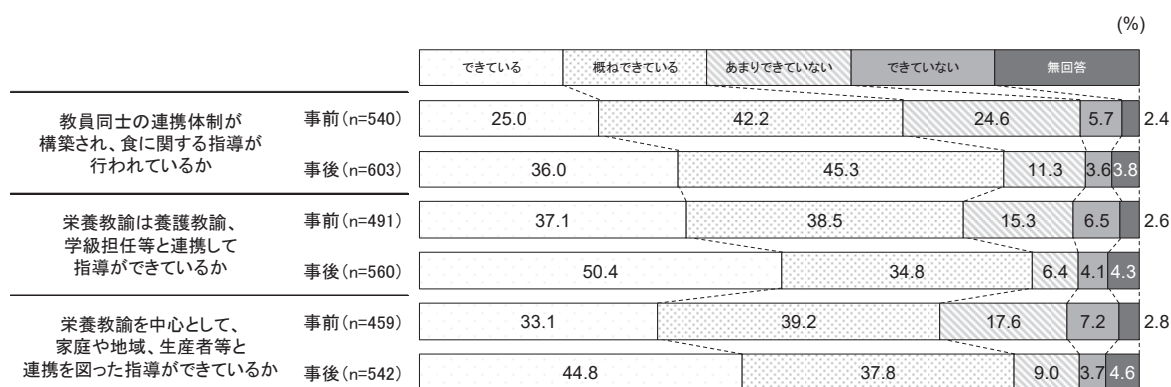
④ 連携・調整

● 食に関する指導

事前アンケート・事後アンケートとも、最も「できている」項目は、「栄養教諭は養護教諭、学級担任等と連携して指導ができているか」（事前アンケートでは 37.1%、事後アンケートでは 50.4%）である。

事前アンケートと事後アンケートを比較すると、いずれの項目も「できている」割合が 10 ポイント以上増えている。

図表 3-33 食に関する指導(単一回答)

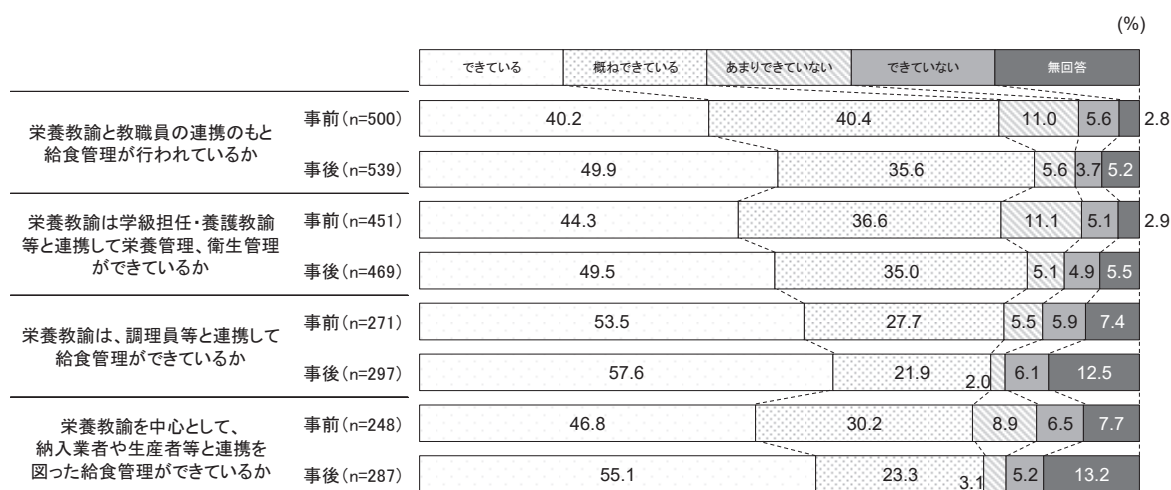


● 給食管理

いずれの項目も、「できている」が、事前アンケートでは半数以下となっているが、事後アンケートでは半数以上となっている。

事前アンケートと事後アンケートを比較すると、いずれの項目も「できている」割合が増えており、特に「栄養教諭と教職員の連携のもと給食管理が行われているか」が 9.7 ポイント、次いで「栄養教諭を中心として、納入業者や生産者等と連携を図った給食管理ができているか」が 8.3 ポイント増えている。

図表 3-34 給食管理(単一回答)



4. 調査票

4.1 事前・事後アンケート

(1) 児童生徒

じどうせいとう
児童生徒用

食育に関するアンケート

このアンケートは、文部科学省の「つながる食育推進事業」実施校の児童生徒を対象として実施するものです。
集計結果は今後の学校における食育推進の基礎資料とするものであり、個人を特定することはありませんので、ご協力をお願いいたします。
【小学校1・2年生の保護者の皆様へ】
少し難しい内容もありますので、お子様がわからない内容を御説明いただきながら、一緒に回答してください。

◆アンケートに回答した年月と学校名、学年を記入してください。

回答時期	学校名	学年
ねん 月	小学校（*1） 中学校（*2） 高等学校（*3）	ねんせい 年生

（*1）義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部を含む。

（*2）義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部を含む。

（*3）中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。

◆それぞれの設問について、あてはまるもの1つに○を付けてください。

【設問1】一日や一週間の栄養バランスを 考えて食事やおやつをとりますか。

（ア）はい （イ）どちらかといえばはい （ウ）どちらかといえばいいえ （エ）いいえ

【設問2】ゆっくりよくかんで食べますか。

（ア）はい （イ）どちらかといえばはい （ウ）どちらかといえばいいえ （エ）いいえ

【設問3】食事の際に*衛生的な行動をとりますか。

（ア）はい （イ）どちらかといえばはい （ウ）どちらかといえばいいえ （エ）いいえ

*食事の前の手洗い、清潔な食器の使用、清潔な場所での食事など。

【設問4】*食事マナーに気を付けていますか。

（ア）はい （イ）どちらかといえばはい （ウ）どちらかといえばいいえ （エ）いいえ

*はしの使い方、食器の並べ方、食べ方、話題の選び方など

うら つづく
裏へ続く

【設問5】 *¹ 伝統的な食文化や *² 行事食について関心がありますか。

(ア)はい (イ)どちらかといえばはい (ウ)どちらかといえばいいえ (エ)いいえ

*¹ 各地域等で、古くから大切に受け継がれてきた食にまつわる文化のこと。

*² 正月のおせち料理や桃の節句のちらし寿司など季節ごとの行事やお祝いの日に食べる特別な料理

【設問6】 朝食を毎日食べますか。

(ア)ほとんど毎日 (イ)週に4～5日 (ウ)週に2～3日
(エ)週に1日程度 (オ)ほとんどない

【設問7】 一緒に生活する人と一緒に朝食を食べますか。

(ア)ほとんど毎日 (イ)週に4～5日 (ウ)週に2～3日
(エ)週に1日程度 (オ)ほとんどない

【設問8】 一緒に生活する人と一緒に夕食を食べますか。

(ア)ほとんど毎日 (イ)週に4～5日 (ウ)週に2～3日
(エ)週に1日程度 (オ)ほとんどない

【設問9】 主食、主菜、副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上ありますか。
(学校給食も1回に数えます。)

(ア)ほとんど毎日 (イ)週に4～5日 (ウ)週に2～3日
(エ)週に1日程度 (オ)ほとんどない

《参考》

{	主食 (ごはん、パン、麺など)
	主菜 (肉、魚、卵、大豆製品などを使った料理)
	副菜 (野菜、きのこ、いも、海藻などを使った料理)

ご協力ありがとうございました。

(2) 保護者

保護者用

食育に関するアンケート

このアンケートは、文部科学省の「つながる食育推進事業」実施校の児童生徒の保護者を対象として実施するものです。

集計結果は今後の学校における食育推進の基礎資料とするものであり、個人を特定することはありませんので、ご協力をお願いいたします。

◆アンケートに回答した年月と学校名、学年を記入してください。

回答時期	学校名	学年
年 月	小学校（＊１） 中学校（＊２） 高等学校（＊３）	年生

（＊１）義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部を含む。

（＊２）義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部を含む。

（＊３）中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部を含む。

◆それぞれの設問について、お子様があてはまるもの１つに○を付けてください。

【設問１】一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとりますか。

(ア)はい (イ)どちらかといえばはい (ウ)どちらかといえばいいえ (エ)いいえ

【設問２】ゆっくりよくかんで食べますか。

(ア)はい (イ)どちらかといえばはい (ウ)どちらかといえばいいえ (エ)いいえ

【設問３】食事の際に*衛生的な行動をとりますか。

(ア)はい (イ)どちらかといえばはい (ウ)どちらかといえばいいえ (エ)いいえ

*食事の前の手洗い、清潔な食器具の使用、清潔な場所での食事など。

【設問４】*食事マナーに気をつけていますか。

(ア)はい (イ)どちらかといえばはい (ウ)どちらかといえばいいえ (エ)いいえ

*はしの使い方、食器の並べ方、食べ方、話題の選び方など

裏へ続く

【設問5】*¹伝統的な食文化や*²行事食について関心がありますか。

(ア)はい (イ)どちらかといえばはい (ウ)どちらかといえばいい (エ)いいえ

*¹各地域等で、古くから大切に受け継がれてきた食にまつわる文化のこと。

*²正月のおせち料理や桃の節句のちらし寿司など季節ごとの行事やお祝いの日に食べる特別な料理

【設問6】朝食を毎日食べますか。

(ア)ほとんど毎日 (イ)週に4～5日 (ウ)週に2～3日
(エ)週に1日程度 (オ)ほとんどない

【設問7】一緒に生活する人と一緒に朝食を食べますか。

(ア)ほとんど毎日 (イ)週に4～5日 (ウ)週に2～3日
(エ)週に1日程度 (オ)ほとんどない

【設問8】一緒に生活する人と一緒に夕食を食べますか。

(ア)ほとんど毎日 (イ)週に4～5日 (ウ)週に2～3日
(エ)週に1日程度 (オ)ほとんどない

【設問9】主食、主菜、副菜を3つそろえて食べることが1日に2回以上ありますか。

(学校給食も1回に数えます。)

(ア)ほとんど毎日 (イ)週に4～5日 (ウ)週に2～3日
(エ)週に1日程度 (オ)ほとんどない

《参考》
┌ 主食（ごはん、パン、麺など）
├ 主菜（肉、魚、卵、大豆製品などを使った料理）
└ 副菜（野菜、きのこ、いも、海藻などを使った料理）

ご協力ありがとうございました。

(3) 教師

教師用

食育の取組に関するアンケート

教師の皆様へ
このアンケートは、文部科学省の「つながる食育推進事業」実施校の教師の皆様を対象に御協力をお願いするものです。学校における食育の取組を踏まえて、御自身の取組に対する評価に○をつけてください。
(1:できている、2:概ねできている、3:あまりできていない、4:できていない)
御自身の職責や役割ではないと考える取組については、評価に○をつけず、職外に○をつけてください。なお、職外に○を付す箇所は、回答時期によって変動してもかまいません。

回答時期	学校名	職(一つに○)
年 月		<input type="checkbox"/> 校長 <input type="checkbox"/> 教頭、副校長 <input type="checkbox"/> 栄養教諭 <input type="checkbox"/> 学級担任(教諭) <input type="checkbox"/> 教科担任(教諭) <input type="checkbox"/> その他()

区 分		評 価 指 標	評 価	職外
食に 関する 指導	給食の時間における指導	<input type="checkbox"/> 給食の時間を活用した食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 学級担任による給食の時間における食に関する指導を計画どおり実施できているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 献立を通して、伝統的な食文化や、行事食、食品の産地や栄養的な特徴等を計画的に指導できているか。	1 2 3 4	
	教科等に関する指導	<input type="checkbox"/> 教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭が計画どおりに授業参画できているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等の目標に準じ授業を行い、評価規準により評価できているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができているか。	1 2 3 4	
	個別的な相談指導	<input type="checkbox"/> 偏食、肥満・痩身、食物アレルギー等に関する個別的な相談指導が行われ、機能しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 肥満傾向、過度の痩身、偏食傾向等の児童生徒に適切な指導ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 食物アレルギーを持つ児童生徒に適切な指導ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 運動部活動などでスポーツをする児童生徒に適切な指導ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭、学級担任、養護教諭、学校医などが連携を図り、指導ができているか。	1 2 3 4	

裏面に続く

区 分		評 価 指 標	評 価	職外
給 食 管 理	栄 養 管 理	<input type="checkbox"/> 「学校給食実施基準」を踏まえた給食が提供されているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 「学校給食摂取基準」を踏まえた、栄養管理及び栄養指導ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 「学校給食摂取基準」及び食品構成等に配慮した献立の作成、献立会議への参画・運営ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 食事状況調査、嗜好調査、残食量調査等が実施できているか。	1 2 3 4	
	衛 生 管 理	<input type="checkbox"/> 「学校給食衛生管理基準」を踏まえた衛生管理がなされているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 衛生管理を徹底し、食中毒の予防に取り組んでいるか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 調理過程から配膳までの手順や衛生管理を徹底し異物混入を予防できているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 国や学校等の対応方針に基づき、適切な食物アレルギー対応ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 検食を適切に実施し、記録を残しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 保存食を適切に採取・保存し、記録を残しているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 調理及び配食に関する指導は適切に行うことができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 物資選定委員会等への出席や食品購入に関する事務を適切に行うことができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 産地別使用量の記録や諸帳簿の記入、作成を適切に行うことができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 施設・設備の維持管理を適切に行うことができているか。	1 2 3 4	
連 携 ・ 調 整	食 に関 する 指 導	<input type="checkbox"/> 教員同士の連携体制が構築され、食に関する指導が行われているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は養護教諭、学級担任等と連携して指導ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭を中心として、家庭や地域、生産者等と連携を図った指導ができているか。	1 2 3 4	
	給 食 管 理	<input type="checkbox"/> 栄養教諭と教職員の連携のもと給食管理が行われているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は学級担任・養護教諭等と連携して栄養管理、衛生管理ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭は、調理員等と連携して給食管理ができているか。	1 2 3 4	
		<input type="checkbox"/> 栄養教諭を中心として、納入業者や生産者等と連携を図った給食管理ができているか。	1 2 3 4	

御協力ありがとうございました。

4.2 栄養教諭アンケート(第1回)

『つながる食育推進事業』に関する調査研究
～ アンケート調査ご協力のお願い ～

令和元年10月
株式会社 インテージリサーチ

本調査について

文部科学省では、本年度、「つながる食育推進事業」において貴校をはじめとする全国の21校を実施校に指定し、各校において、栄養教諭を中心に、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等と連携し、学校における実践的な食育や保護者を巻き込んだ取組が展開されています。

本調査研究は、各実施校の取組の成果を検証し、実効性のある取組を全国へ普及することを目的として、株式会社インテージリサーチが文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課より委託を受けて実施するものです。

ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力くださいますよう、お願いいたします。

ご回答に当たってのお願い

- ☐ 本調査は、「つながる食育推進事業」の実施校において取組の中心的役割を担っていらっしゃる栄養教諭のみなさまに、貴校における食育の推進に係る課題やモデル事業での取組の内容とポイント、期待する成果等についておたずねするものです。
- ☐ 栄養教諭のみなさまだけではご回答が難しい設問については、各学年担当の教職員など、関係する教職員の方々と適宜ご相談いただき、ご回答くださるようお願いいたします。
- ☐ 黄色又は水色のセルが回答欄です。各設問の指示にしたがってご回答ください。
 - ☐ 黄色のセルには**選択肢の番号**又は**該当する数字**を半角で入力してください
 - ☐ 水色のセルには、**文字・文章**を入力してください
- ☐ ご回答いただいたアンケート票(本エクセルファイル)及び**問12に関する関連資料**は、**令和元年11月11日(月)までに**、下記返信先まで電子メールにてご返信ください。

返信先メールアドレス	syokuiku-support@intage.co.jp
------------	-------------------------------

◆ この調査に関するご質問やご不明な点等がありましたら、下記までお問い合わせください。
(株)インテージリサーチ (担当: 秦(はた)・田守(たもり))
TEL: 03-5294-8325 FAX: 042-476-1388

ご回答者について

貴校及び本調査にご回答いただいた方のご所属、お名前、ご連絡先をご記入ください。

実施校について	都道府県			学校種	1 小学校 2 中学校 3 その他		
	学校名			立			
	住所	〒		住所			
	学校給食の調理方式	1 単独調理方式 2 共同調理方式 3 その他					
ご回答者について	役職名			氏名			
	職種等	1 栄養教諭 2 その他 → ()					
	連絡先	電話(実施校)			メールアドレス		
		※ふだん上記実施校以外の場所にいることが多い場合は、より連絡がつきやすい番号を以下にご記入ください。					
		電話			施設名等		
	他校等との兼務状況	あなたは上記実施校以外の学校等も担当していらっしゃいますか。 1 当校のみに勤務 2 他校も担当 3 共同調理場も担当					

【アンケート編】

1. 昨年度までの貴校の食育に関する状況や課題等についておうかがいします。

問1 貴校では、本年度「つながる食育推進事業」に取り組む以前の（昨年度までの）食育の取組の中で、児童生徒の食習慣や食生活においてどのような課題がみられていましたか。（あてはまる番号をすべて入力）

- 1 朝食欠食率が相対的に高い（改善しない・県平均より悪い，など）
- 2 家庭での孤食が増えている（共食の割合が向上しない・県平均より悪い，など）
- 3 栄養バランスのよい食事が取れていない子供が増えている
- 4 好き嫌いの多い子供が増えている（改善しない）
- 5 間食をとる子供が多い（増えている・減らない，など）
- 6 食事マナーが身についていない子供が多い（増えている・改善しない）
- 7 給食の食べ残しが増えている（減らない・県平均より多い，など）
- 8 ゆっくりよく噛んで食べるなど食に関する意識が低い（向上しない）
- 9 伝統的な食文化や行事食に対する関心が低い（向上しない）
- 10 体調不良を訴える子供が増えている
- 11 肥満傾向にある子供が増えている（出現率が改善しない・変動が大きい，など）
- 12 やせ傾向にある子供が増えている（出現率が改善しない・変動が大きい，など）
- 13 体力・運動能力が相対的に低い（体力・運動能力の向上に課題がある）
- 14 適度な運動を行っている子供が少ない（減っている）
- 15 睡眠時間が不足している子供が多い（増えている）
- 16 その他（ ）

回答欄

問2 貴校では、本年度「つながる食育推進事業」に取り組む以前の（昨年度までの）食育の取組の中で、保護者（家庭）における食育の推進に関して、どのような課題がみられていましたか。（あてはまる番号をすべて入力）

- 1 給食試食会や食育に関する講演会などへの参加率が低い
- 2 家庭における正しい食生活の実践に対する意識が低い（ばらつきが大きい）
- 3 栄養バランスを考えた食事など食事づくりに対する意識が低い（ばらつきが大きい）
- 4 家庭での共食回数が低い（ばらつきが大きい・改善しない，など）
- 5 その他（ ）
- 6 保護者（家庭）の食育に関する取組や意識は把握していない

回答欄

問3 給食を実施している学校におうかがいします。

給食に関する以下のデータの中で、貴校で把握しているものはありますか。（あてはまる番号をすべて入力）

※ 貴校を含む複数校に配食している共同調理場全体での地場産物活用率など、貴校のみのデータとしては把握していない場合も、貴校が含まれるものがあれば、把握しているものとしてご回答ください。

- 1 給食における市町村内産食材の使用割合
- 2 給食における都道府県内産食材の使用割合
- 3 給食における国産食材の使用割合
- 4 給食における郷土料理や地場産物を取り入れた料理の提供回数

回答欄

問4 問3で把握していると回答されたものについて、本年度「つながる食育推進事業」に取り組む以前の（昨年度までの）最新データとそのデータ時点、把握方法を以下にご回答ください。

	最新データ	データ時点	データ把握方法等
(記入例) 給食における市町村内産食材の使用割合	20.1%	平成28年度	6月と11月の各5日における全食材の重量ベースでの町内産食材の使用割合
1 給食における市町村内産食材の使用割合			
2 給食における都道府県内産食材の使用割合			
3 給食における国産食材の使用割合			
4 給食における郷土食の提供回数			

問5 貴校では、本年度「つながる食育推進事業」に取り組む以前の（昨年度までの）食に関する指導や食育活動において、どのような教材を使用されていましたか。（あてはまる番号をすべて入力）

		回答欄
1	文部科学省が作成・配布している食育教材	<input type="checkbox"/>
2	農林水産省が作成・配布している食育教材	<input type="checkbox"/>
3	都道府県教育委員会が作成・配布している食育教材	<input type="checkbox"/>
4	栄養士会等が作成・提供している食育教材	<input type="checkbox"/>
5	民間企業・協会等が作成・提供している食育教材	<input type="checkbox"/>
6	栄養教諭等が作成したオリジナルの教材	<input type="checkbox"/>
7	その他（ <input type="text"/> ）	<input type="checkbox"/>

2. 貴校における朝食摂取・欠食の状況等についておうかがいします。

問6 貴校の児童生徒において、朝食摂取率について課題と感ずることがありますか。（あてはまる番号をすべて入力）

		回答欄
1	児童生徒の起床時間が遅く、食べる時間がない	<input type="checkbox"/>
2	夕食が遅い・夜食を摂る等が原因で、児童生徒自身に朝起きた時の食欲がない	<input type="checkbox"/>
3	朝食を食べないことが習慣になっている	<input type="checkbox"/>
4	朝食を摂ることで、太ると考えている	<input type="checkbox"/>
5	保護者が朝食を食べる習慣がなく、児童生徒の朝食が用意されていない	<input type="checkbox"/>
6	保護者が忙しい等の理由で、児童生徒の朝食を用意する時間がない	<input type="checkbox"/>
7	その他（ <input type="text"/> ）	<input type="checkbox"/>

問7 貴校における朝食摂取への意識についてどう思いますか。児童生徒、保護者のそれぞれについてお答えください。（あてはまる番号を1つ入力）

	児童生徒	保護者	学校の教職員
1 重要だと思っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 まあ重要だと思っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 あまり重要と思っていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 まったく重要だと思っていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問8 朝食摂取についての具体的な取組内容と変化についてお知らせください。

(1)児童生徒の取組

--

(2)児童生徒の変化

--

(3)保護者の取組

--

(4)保護者の変化

--

問9 朝食摂取の取組について、近隣の学校と情報を共有していますか。また、朝食摂取以外の取組について情報を共有していますか。(あてはまる番号を1つ入力)

(1)朝食摂取の取組について

1 共有している
2 共有していない
3 その他()

回答欄

--

(2)朝食摂取以外の取組について

番号 具体的に情報共有している内容

番号	具体的に情報共有している内容

3. 本年度「つながる食育推進事業」に関する取組内容等についておうかがいします。

問10 あなたは、「つながる食育推進事業」の取組において、栄養教諭等として具体的にどのようなことに取り組んで(又は取り組む予定で)いますか。(あてはまる番号をすべて入力)

回答欄

- 1 「つながる食育推進事業」全体の事業計画の検討・計画づくり
- 2 教科等での食に関する指導の実施
- 3 学級担任等と連携した食に関する指導の実施
- 4 教科等で活用する食に関する指導教材の作成
- 5 給食の時間での食に関する指導の実施
- 6 郷土料理や地場産物を取り入れた給食の献立づくり
- 7 地場産物の調達や授業での連携のための地元生産者との連絡調整
- 8 食物アレルギーや肥満/やせ傾向のある子供や保護者等に対する個別指導の実施
- 9 保護者を対象とした食育教室(親子料理教室・給食試食会・講演会等)の企画・実施
- 10 教職員等を対象とした食育に係る教育内容や食事マナー等に関する指導
- 11 子供の食生活等の実態把握(アンケート等の作成・実施)
- 12 保護者の食育に関する意識等の実態把握(アンケート等の作成・実施)
- 13 食育推進啓発パンフレットや配布物等の企画・作成
- 14 校内や地域、生産者などを含む地域全体の食育推進体制の構築
- 15 学校と家族をつなぐ方策の企画、実施
- 16 学校と地域や生産者をつなぐ方策の企画、実施
- 17 その他()

問11 問10でご回答いただいた取組内容のうち、あなたがこれまでの食育に係る取組を踏まえ、「つながる食育推進事業」の取組において特に力を入れて取り組まれている、あるいは取り組もうとお考えになっている活動は何ですか。また、その理由は何ですか。あてはまる番号を問10の選択肢から1つ選んで、その具体的内容や理由をご回答ください。

回答欄

番号

取組の具体的内容や特に力を入れる理由

...

問12 文部科学省では、「つながる食育推進事業」の成果・効果を検証するため、各モデル校において、取組開始前(6月頃)と取組終了後(令和2年1月頃)に、児童生徒の食に対する意識や朝食摂取状況、家庭における共食の状況等を把握するアンケート調査を実施することをお願いしております。

貴校において、このアンケート調査の指標以外に、**本年度「つながる食育推進事業」に係る取組の成果・効果を検証するために独自の評価指標**を設定している場合は、その指標を以下にご回答いただき、かつ**その指標の調査項目や把握方法、本事業を実施する前の最新データ、及び本事業において設定している目標値がわかる資料を**、本ファイルとともにお送りください。

- ※ アンケート調査などで把握している指標・データの場合は、**調査票**もお送りください。また、それぞれの指標の**調査方法や調査時期がわかる資料**もあわせてお送りください。
- ※ なるべく既存資料を活用していただいて結構ですが、本事業を実施する前の最新データについては、可能な限り**学校全体及び男女別・学年別の数値**がわかる資料をお送りください。
- ※ 指標欄が足りない場合は、行をコピーして追加した上で、**設定している評価指標全て**をご回答ください。

(例) 家庭で食事の挨拶をいつもする児童の割合	
指標名	1
	2
	3
	4
	5
	6
	7
	8
	9
	10

4. 貴校における食に対する理解、望ましい食習慣の形成、健康状態の改善についておうかがいします。

問13 児童生徒の食に関する理解はどの程度と考えていますか。(あてはまる番号をそれぞれ1つ入力)

	栄養バ ランスを考 えた食 事・おや つの摂取	ゆっく りよくか んで食 べる	食事の 際の衛 生的な行 動	食事マ ナー	伝統的な 食文化 や行事 食
1 ほぼ理解できている					
2 まあ理解できている					
3 あまり理解できていない					
4 まったく理解できていない					
5 その他()					

問14 児童生徒の食習慣形成はどの程度と考えていますか。(あてはまる番号をそれぞれ1つ入力)

	朝食の 摂取	共食	主食・主 菜・副菜 を3つそ ろえて食 べるこ と
1 ほぼできている			
2 まあできている			
3 あまりできていない			
4 まったくできていない			
5 その他()			

※問 15 は学校別の具体的な取組を食に対する理解、望ましい食習慣の形成、健康状態の改善の
どれに該当するかを聴取した

問16 貴校における取組の中で、配慮していること・工夫等があれば、具体的にお答えください。

配慮・工夫点	食に対する理解	望ましい食習慣の形成	健康状態の改善
(1)保護者(家庭)とのつながり・校種間連携における配慮や工夫点			
(2)地域の生産者や地域組織とのつながり・校種間連携における配慮や工夫点			
(3)関係機関・団体等のつながり・連携における配慮や工夫点			
(4)その他、取組全体を通じた配慮や工夫点			
(5)取組を進める上で感じている課題や課題解決に必要な支援・工夫等			

問17 貴校における取組を通じた変化がありましたらお知らせください。

対象者	食に対する理解	望ましい食習慣の形成	健康状態の改善
(1)児童生徒			
(2)保護者			
(3)他の教職員や地域、関係機関等			

** 以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。 **

4.3 栄養教諭アンケート(第2回)

『つながる食育推進事業』に関する調査研究

～ アンケート調査ご協力のお願い ～

令和2年1月
株式会社 インテージリサーチ

本調査について

文部科学省では、本年度、「つながる食育推進事業」において貴校をはじめとする全国の21校を実施校に指定し、各校において、栄養教諭を中心に、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等と連携し、学校における実践的な食育や保護者を巻き込んだ取組が展開されています。

本調査研究は、各実施校の取組の成果を検証し、実効性のある取組を全国へ普及することを目的として、株式会社 インテージリサーチが文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課より委託を受けて実施するものです。

ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力くださいますよう、お願いいたします。

ご回答に当たってのお願い

- ☐ 本調査は、「つながる食育推進事業」の実施校において取組の中心的役割を担っていらっしゃる栄養教諭のみなさまに、貴校におけるモデル事業での成果等についておたずねするものです。(令和元年10月に実施した内容と異なります)
- ☐ 栄養教諭のみなさまだけではご回答が難しい設問については、各学年担当の教職員など、関係する教職員の方々と適宜ご相談いただき、ご回答くださるようお願いいたします。
- ☐ 黄色又は水色のセルが回答欄です。各設問の指示にしたがってご回答ください。
 - ☐ 黄色のセルには**選択肢の番号**又は**該当する数字を半角**で入力してください
 - ☐ 水色のセルには、**文字・文章**を入力してください
- ☐ ご回答いただいたアンケート票(本エクセルファイル)は、**令和2年1月17日(金)までに**、下記返信先まで電子メールにてご返信ください。

返信先メールアドレス

syokuiku-support@intage.co.jp

- ◆ この調査に関するご質問やご不明な点等がありましたら、下記までお問い合わせください。

(株)インテージリサーチ (担当: 秦(はた)・田守(たもり))

TEL: 03-5294-8325 FAX: 042-476-1388

ご回答者について

貴校及び本調査にご回答いただいた方のご所属、お名前、ご連絡先をご記入ください。

実施校	都道府県			学校種	1 小学校 2 中学校 3 その他		
	学校名	立					
ご回答者について	役職名			氏名			
	職種等	1 栄養教諭 2 その他 → ()					
	連絡先	電話 (実施校)			メールアドレス		
		※ふだん上記実施校以外の場所にいることが多い場合は、より連絡がつきやすい番号を以下にご記入ください。					
		電話			施設名等		
	他校等との兼務状況	あなたは上記実施校以外の学校等も担当していらっしゃいますか。					
				1 当校のみに勤務 2 他校も担当 3 共同調理場も担当			

【アンケート編】

1. 本年度「つながる食育推進事業」に関する取組内容等についておうかがいします。

問1 本年度の「つながる食育推進事業」に係る取組の中で、次のような内容は十分にできたと感じていますか。以下の選択肢からあてはまるものを選んで、その理由をご回答ください。

- 1 十分できた
- 2 ほぼできた
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりできなかった
- 5 できなかった
- 6 あらかじめ想定していない

(1) 保護者と子供と一緒に参加する機会を作ることができましたか

番号

その理由

...

(2) 現状や課題をデータで把握し、子供・家庭・学校が共有することができましたか

番号

その理由

...

(3) 学校と家庭の双方向での情報交換を図ることができましたか

番号

その理由

...

(4) 地域の生産者や食に関わる人々と子供が交流する機会を作ることができましたか

番号

その理由

...

(5) 学校種を超えた連携や地域の様々な世代との交流を図ることができましたか

番号

その理由

...

(6) 学校内の他の教職員と連携をとることができましたか

番号

その理由

...

問2 今回の「つながる食育推進事業」の取組を通じて、児童生徒や家庭、地域等との連携において、特にポイントとなると感じた点は何ですか。

(1) 子供とのつながり

(2) 家庭・保護者とのつながり

(3) 学校内の教職員とのつながり

(4) 地域とのつながり

(5) 栄養教諭自身に求められる資質

2. 貴校における朝食摂取・欠食の状況等についておうかがいします。

問3 現時点の貴校における朝食摂取への意識についてどう思いますか。児童生徒、保護者のそれぞれについてお答えください。(あてはまる番号を1つ入力)

	児童 生徒	保護者	学校の 教職員
1 重要だと思っている			
2 まあ重要だと思っている			
3 あまり重要とっていない			
4 まったく重要だと思っていない			

3. 貴校における食に対する理解、望ましい食習慣の形成、健康状態の改善についておうかがいします。

問4 現時点の児童生徒の食に関する理解はどの程度と考えていますか。(あてはまる番号をそれぞれ1つ入力)

	栄養バランスを考えた食事・おやつ の摂取	ゆっくりよくかんで食べる	食事の際の衛 生的な行 動	食事マ ナー	伝統的な 食文化 や行事 食
1 ほぼ理解できている					
2 まあ理解できている					
3 あまり理解できていない					
4 まったく理解できていない					
5 その他()					

問5 現時点の児童生徒の食習慣形成はどの程度と考えていますか。(あてはまる番号をそれぞれ1つ入力)

	朝食の 摂取	共食	主食・主 菜・副菜 を3つそ ろえて食 べるこ と
1 ほぼできている			
2 まあできている			
3 あまりできていない			
4 まったくできていない			
5 その他()			

問6 貴校における取組を通じた変化について、具体的にお答えください。

対象者	食に対する理解	望ましい食習慣の形成	健康状態の改善
(1)児童生徒			
(2)保護者			
(3)他の教職員			
(4)地域、関係機関等			

** 以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。 **

